

ISSN 1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

(平成24年度版)

No. 6

2014

沖縄県立博物館・美術館

序

博物館や美術館にたいする社会的・時代的ニーズが大きく変わりつつあります。

これまで、公立博物館・美術館活動の主な対象者は、地域の児童・生徒や大人でした。これが「健全な博物館活動」だと考えられてきましたが、この考え方は、博物館法が社会教育法の本質にもとづいて定められていることに由来しています。博物館法が制定された1951（昭和26）年という時代で見ると、当時の社会的、時代的ニーズを反映した法律だったと考えます。

しかし、観光が世界的な潮流になるなかで、観光客への対応が公立の博物館や美術館の大きな課題として浮上しています。とくに観光を基幹産業とする本県では、当館も観光客と無縁ではありません。国内外から沖縄を訪れる観光客（修学旅行生や米軍人を含め）に、沖縄を正しく理解してもらいたいという沖縄社会のニーズがあるからです。そして、当館が、沖縄の自然・歴史・文化・芸術の展示をとおして、私たちの沖縄をトータルに理解するうえで最も充実した施設でもあるからです。

地域の児童・生徒や大人という活動対象者に加えて、新たな活動対象者としての観光客にいかに対応するかが、当館が直面している大きな課題の一つではないかと感じています。法律の枠内に閉じこもらずに、社会と時代のニーズにいかに向き合い、柔軟に対応していくのが問われていると考えます。

さて、この年報には、2012年度における当館の活動実績が網羅されていますが、この資料は、当館がどの程度社会や時代のニーズに向き合ってきたのか、そして応えることができたのかを検証するデータでもあります。この年報の資料が分析されて、当館の今後の運営・活動に反映されることはもちろん、関係機関にも利活用されることを期待します。

2014（平成26）年3月

沖縄県立博物館・美術館
館長 安里 進

目 次

序

概要	1
----------	---

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

利用統計	21
------------	----

- I 入館者統計
 - 1. 総入館者集計
 - 2. 団体別入館者月別集計
 - 3. 展覧会別入館者集計
 - 4. 2012年度月間入館者数
 - 5. 年間入館者数の年次推移
 - 6. 減免申請集計
 - 7. 団体入館内訳
- II 施設利用者統計
 - 1. 月別施設利用集計
 - 2. 施設貸出内訳

博物館	51
-----------	----

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 博物館総合調査－鳩間島・黒島・新城島総合調査－
 - 3. 博物館共同研究事業－人類学調査－
 - 4. 調査・研究・講演・著作論文等
 - 5. 職員研修
- II 展示活動
 - 1. 展示活動概要
 - 2. 常設展
 - 3. 常設展展示替え
 - 4. 特別展「復帰40年記念『OKINAWAから沖縄へ』」
 - 5. 企画展「沖縄復帰40周年記念『紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち』」
 - 6. 企画展「新収蔵品展－平成23年度新収蔵品展－」
 - 7. 企画展「大嶺薫コレクション展」
 - 8. 企画展「大山盛保 生誕100年記念『発見への情熱』」
- III 教育普及活動
 - 1. 博物館教育普及活動の概要
 - 2. 学校連携事業
 - 3. 博物館体験学習教室
 - 4. 博物館文化講座
 - 5. 学芸員講座
 - 6. 展示解説会
 - 7. バックヤード・ツアー
 - 8. 夏休み！博物館学芸員教室
 - 9. 博物館ボランティア活動
 - 10. ふれあい体験室
 - 11. 企画展関連事業
 - 12. 常設展に関する取り組み
 - 13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
 - 14. 普及資料の貸出
- IV 資料収集・保存管理
 - 1. 収蔵資料現在高
 - 2. 2012（平成24）年度新収蔵資料高
 - 3. 2012（平成24）年度新収蔵資料目録
 - 4. 所蔵指定文化財
 - 5. 修理事業
 - 6. 資料収集事業
 - 7. 資料貸出
 - 8. 写真貸出

美術館	107
-----------	-----

- I 調査研究等の活動
 - 1. 調査研究の概要
 - 2. 調査・研究・講演・著作論文等
- II 展示公開活動
 - 1. 展示公開活動の概要
 - 2. コレクション展（常設展）
 - 3. 企画展「山田實展 人と時の往来」
 - 4. 復帰40周年記念 美術館企画展「アジアをつなぐー境界を生きる女たち 1984-2012」
- III 教育普及活動
 - 1. 美術館教育普及活動の概要
 - 2. 鑑賞活動支援
 - 3. バックヤード・ツアー
 - 4. 美術講座
 - 5. コレクション・企画展関連シンポジウム
 - 6. ワークショップ
 - 7. 美術館招待事業（美術館へ行こう）
 - 8. 図工・美術担当職員等講座
 - 9. 鑑賞用ワークシート作成

- 10. 団体鑑賞ツアーのパンフレット（美術館は教室だ）
- 11. 美術館監視ボランティア／鑑賞ボランティア対象事前展示説明会
- 12. 研修対応
- IV 資料収集・保存管理
 - 1. 収蔵作品現在高
 - 2. 2012（平成 24）年度新収蔵作品高
 - 3. 2012（平成 24）年度新収蔵作品目録
 - 4. 作品収集事業
 - 5. 保存管理事業
 - 6. 作品貸出

文化の杜共同企業体（指定管理者）…………… 135

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議
- V 展示活動
 - 1. 展示活動概要（美術館企画展）
 - (1) 本土復帰 40 周年記念「田中一村展～琉球弧で開花した美の世界～」
 - (2) 「土門拳の昭和と沖縄」
 - (3) 「旅する仮面」
 - 2. 自主企画事業「お化け屋敷で科学する展」
- VI 教育・イベント活動
 - 1. ワークショップ等
 - 2. 展示会等
 - 3. しまくとぅばプロジェクト
 - 4. 映画鑑賞会（おもしろ夜会）
 - 5. その他
- VII 広報・交流事業活動
 - 1. 広報事業
 - 2. 地域イベントへの参加
- VIII 調査研究等の活動
 - 1. 調査・研究等
- IX その他
 - 1. 職員研修
 - 2. 企画展・特別展研修
 - 3. 消防訓練等

全館共同事業…………… 161

- I 学芸員実習及び職場体験学習
 - 1. 博物館実習
 - 2. 美術館実習
 - 3. 職場体験受け入れ
- II 国際博物館の日
- III 移動展
- IV 燻蒸・消毒処理
- V 刊行物

その他の活動…………… 171

- I 沖縄県博物館協会
- II 全国組織との関わり
 - 1. 日本博物館協会
 - 2. 全国科学博物館協議会
 - 3. 九州博物館協議会
 - 4. 美術館連絡協議会
- III 沖縄博物館友の会
- IV happ（美術館友の会）

関係法規抄録…………… 179

- 博物館法
- 博物館法施行令
- 博物館法施行規則
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長職務規程
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

概 要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

I. 沿革

【前史】

1936年（昭和11）、旧首里城北殿に沖縄県教育会附設郷土博物館が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦後、米国海軍軍政府ウィラード・A・ハンナ少佐とJ・T・ワトキンス少佐が、アメリカに沖縄の歴史文化を紹介するために焦土の中から仏像や陶器などの文化財を収集し、1945年（昭和20）8月石川（現うるま市）東恩納に沖縄陳列館を創設した。

一方、首里城周辺では、廢墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）3月頃、首里市汀良に首里市立郷土博物館が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、東恩納博物館と改称した。また、1947年12月には、首里市立郷土博物館も沖縄民政府に移管され、首里博物館と改称した。

【発展】

1953年（昭和28）、東恩納博物館が移転して、首里博物館と合併した。5月には、龍潭池畔に赤瓦屋根の本館とペルリ記念館が建設され、落成式の当日、戦後アメリカに持ち去られていた「おもろさうし」等の文化財が返還された。

1955年（昭和30）9月、沖縄民政府立首里博物館から琉球政府立博物館に改称した。さらに、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。

1972年（昭和47）の日本復帰に伴い、名称を沖縄県立博物館と改め、1973年（昭和48）に2階部を増築し、展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。2004年（平成16）、那覇新都心（おもろまち）に新館の建設を着工した。首里在の博物館（旧博物館）は新館への移転準備のため、2006年（平成18）3月に閉館した。

2007年（平成19）11月1日、美術館を併設した沖縄県立博物館・美術館として開館した。

【あゆみ】

- | | | |
|------------|-----|--|
| 1946（昭和21） | 4月 | 沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（4月24日） |
| 1947（昭和22） | 12月 | 前年3月に首里汀良町に設立された「首里市立郷土博物館」が民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。 |
| 1953（昭和28） | 3月 | 「東恩納博物館」を「首里博物館」に移転合併する。 |
| | 5月 | 「首里博物館」は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、「ペルリ記念館」を附設して落成、贈呈される。落成当日、米国大統領から戦後にアメリカに渡っていた「おもろさうし」等文化財が返還された。（5月26日） |
| 1954（昭和29） | 8月 | ハワイから三線「江戸与那」が返還される。 |
| 1955（昭和30） | 9月 | 「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。 |
| 1963（昭和38） | 4月 | 米国民政府から河島コレクションが贈呈される。 |
| 1965（昭和40） | 9月 | 大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。 |
| 1966（昭和41） | 10月 | 米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。 |
| | 11月 | 新館開館記念「現代美術展」が開催され、同時に尚家所蔵文化財も特別陳列された。（11月3日） |
| 1968（昭和43） | 9月 | 太宰府天満宮から鄭元偉書「徳高」扁額が寄贈される。（9月30日） |
| 1970（昭和45） | 10月 | 沖縄タイムス社及びG.H. カー博士より前庭に花園を贈呈される。 |
| 1971（昭和46） | 2月 | 八重山出土の陶器類約500点、検察庁より譲渡される。 |
| 1972（昭和47） | 2月 | サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展が開催される。サントリー美術館寄贈の植樹造園譲与式が行われた。（2月27日） |
| | 5月 | 琉球切手原画及び切手類、郵政庁より譲渡される。（5月13日）日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」と改称する。 |
| 1973（昭和48） | 2月 | 国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設する。 |
| | 5月 | 「田名家文書」の寄託をうける。（5月9日） |
| | 7月 | 琉球切手原画が沖縄郵政管理事務所より譲渡される。（7月16日） |
| | 12月 | 琉球新報社から映画フィルム「沖縄」「海の民・沖縄島物語」「南の島・琉球」の3巻を寄贈される。（12月17日）多和田真淳氏考古資料の寄託をうける。（12月19日） |
| 1974（昭和49） | 11月 | 大阪天満宮から浦添王子朝熹書「徳馨」の寄託をうける。（11月27日）糸満市摩文仁の平昌博物館から全資料譲与される。 |

- 1976 (昭和51) 4月 創立30周年記念式典を行う。(4月24日)
7月 大英博物館から皇太子殿下に贈られた始祖鳥のレプリカ標本が寄贈される。
12月 『博物館30年の歩み展』開催。
- 1977 (昭和52) 9月 玉陵石獅子を玉陵へ移管。
11月 円覚寺の鐘、前庭に展示。
- 1978 (昭和53) 3月 G. H. カー博士より資料寄贈。
7月 円覚寺の鐘楼が前庭に完成。
- 1979 (昭和54) 2月 尚裕氏より玉陵石獅子レプリカ2体が寄贈される。
6月 特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催。
- 1980 (昭和55) 1月 特別展『日本の美—救世熱海美術館名品展—』及び『沖縄県立博物館名品展』開催
2月 「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する(2008年度からは「移動展」に改称)。
8月 特別展『琉球のシダ植物』開催。
11月 特別展『失われた生物たち—大恐竜展』開催
- 1981 (昭和56) 3月 博物館法に基づき「登録博物館」として登録される。(3月30日付け)
5月 仲嶺俊子氏より貝類標本約2,000点が寄贈される。
8月 G. H. カー博士より図書、写真等が寄贈される。
10月 特別展『沖縄の美—日本民芸館蔵—』及び『戦前の沖縄写真展』開催。
- 1982 (昭和57) 5月 新たに常設展として自然部門を設置。
7月 企画展『沖縄の昆虫』開催。
10月 特別展『熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化』開催。
- 1983 (昭和58) 5月 企画展『琉球の漆工芸』開催。
11月 特別展『沖縄県・熊本県交流展—沖縄の美風土と美術工芸』を熊本県立美術館にて開催。
- 1984 (昭和59) 6月 企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展—琉球芸能の世紀』開催。
7月 企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催。
10月 企画展『今帰仁グスク展』開催。
- 1985 (昭和60) 2月 企画展『紅型衣装と型紙展』開催。
3月 大嶺薫コレクションが贈呈される。
11月 特別展『グスク—グスクが語る古代琉球の歴史とロマン』開催。
- 1986 (昭和61) 2月 特別展『大嶺薫コレクション—美術工芸の美を求めて』開催。
12月 天野鉄夫コレクション1,588点の寄贈をうける。
- 1987 (昭和62) 7月 「旧大安禅寺の鐘」が米国より返納寄贈され、泊高校で贈呈式が行われる。
天野ハル氏より亡夫鉄夫氏収集コケ類1,562点が寄贈される。
10月 スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画—物故作家』開催。
12月 企画展『田名家収蔵品展—ある首里士族の400年』開催。
企画展『現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション』開催。
- 1988 (昭和63) 8月 特別展『ヤンバルの自然』開催。
11月 特別展『三線名器100挺展』開催。
- 1989 (平成元) 11月 特別展『岡田コレクション・インドネシア更紗展』開催。
12月 企画展『真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」』開催。
- 1990 (平成2) 1月 特別展『大アンデス文明展』開催。
6月 湧田窯搬入。
8月 企画展『沖縄の野鳥』開催。
11月 企画展『沖縄の祭り』開催。
- 1991 (平成3) 2月 企画展『技と美—大城志津子の世界—』開催。
8月 企画展『沖縄のチョウ展』開催。
9月 企画展『壺屋陶工遺作展』開催。
10月 特別展『アジアの祭りと芸能』開催。
- 1992 (平成4) 2月 企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催。
3月 仲嶺俊子氏より貝類コレクションを寄贈される。
4月 旧中城御殿の石牆整備工事に伴う第1次埋蔵文化財発掘調査開始(～7月3日)
6月 特別展『古代メキシコ至宝展』開催。
8月 特別展『沖縄の貝類—海からの贈りもの』開催。
10月 復帰20周年記念特別展『琉球王国—大交易時代とグスク』開催。
- 1993 (平成5) 1月 特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催。
2月 企画展『謝花雲石展』開催。
3月 ハワイ在住の伊福盛寿氏から50点余のコレクション寄贈された。
7月 旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査開始(～9月2日)

- 1993 (平成5) 7月 企画展『芭蕉布と平良敏子』開催。
8月 特別展『沖縄の川と生きもの』開催。
10月 企画展『刻まれた歴史ー沖縄の石碑と拓本』開催。
企画展『琉球王朝時代の楽器ー三線と御座楽』開催。
- 1994 (平成6) 7月 特別展『子どもの世界』開催。
旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査開始 (～8月20日)
- 1995 (平成7) 3月 横浜国立大学教授長谷川善和氏より鹿類の化石約25,000点が寄贈された。
6月 戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催。
- 1996 (平成8) 3月 栗田文子氏よりワラザン資料を寄贈される。
7月 特別展『大久米島展ーしぜん・ひと・もの』開催。
10月 『新収蔵品展・ワラザン展』開催。
福田経子氏より「フクダコレクション」贈呈
12月 企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
- 1997 (平成9) 4月 特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催。
- 1998 (平成10) 7月 企画展『琉球王国時代の植物標本ーペリーが持ち帰った植物たち』開催。
11月 特別展『包むこころ ふろしき』開催。
- 1999 (平成11) 8月 特別展『三線のひろがり可能性』開催。
10月 企画展『日本の技ー伝統のかたち』開催。
(第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展)
11月 ホノルル美術館から G. H. カー博士コレクション (考古資料6,000点余) 寄贈。
- 2000 (平成12) 2月 企画展『工芸王国ーきらめく手わざの世界を沖縄から』開催。
7月 サミット開催記念特別展『大琉球展』開催。
11月 ハワイ移民100周年記念特別展『日系移民1世紀展ーFrom Bento to Mixed Plate』開催。
- 2001 (平成13) 2月 企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催。
3月 企画展『工芸王国ー人・技・心』開催。
11月 特別展『かざりとかたち』開催。
- 2002 (平成14) 8月 特別展『港川人展』開催。
10月 企画展『沖縄の文化財展』開催。
- 2003 (平成15) 2月 企画展『おきなわナースものがたり』開催。
7月 企画展『旅する種子ー運ばれるための巧妙なしかけ』開催。
10月 企画展『あじまあ 沖縄の伝統とくらしー沖縄県立博物館収蔵資料展』を国立民族学博物館で開催。
特別企画展『沖縄織物へのメッセージー田中俊雄の研究』開催。
- 2004 (平成16) 2月 企画展『戦前・戦後の文化財保護ー仲座久雄の活動をとおして』開催。
3月 企画展『工芸王国ーてわざの今、そして未来へ』開催。
8月 企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』(沖縄コレクター友の会主催)開催。
11月 企画展『自然界のエイリアンー海をこえて持ちこまれた動物たち』開催。
- 2005 (平成17) 2月 特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会ー入江正彦 児童文化史コレクション』開催。
- 2006 (平成18) 2月 閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼ー柳宗悦の民藝と巨匠たち展』開催。
3月 『ありがとう・さよなら』キャンペーン (3月22日～3月31日 無料入館)
企画展『わたしの宝もの展』(博物館友の会主催)開催。
4月1日から博物館新館移転準備のため2007年(平成19)10月末まで休館する。
7月 博物館新館展示工事安全祈願祭 (於:波之上)
8月 鳥籠7点寄贈 (8月11日)
10月 尚順男爵関係資料寄贈 (10月19日)
謝花雲石書「萬國陽和」屏風の寄贈 (10月26日)
12月 稲嶺一郎関係資料寄贈 (12月26日)
- 2007 (平成19) 2月 坂口總之輔氏カメラ寄贈 (2月16日)
3月 新館へ事務所移転 (29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式 (30日) を行い、全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ (31日)。
新館での事務を開始する。(1日)
4月 沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として文化の杜共同企業体が指定を受ける。
7月 指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめめる。
8月 那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。(1日)
11月 同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅ー港川人の来た道ー』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡1872-2007』を開催する。

- 2008（平成20） 2月 博物館企画展『新収蔵品展－平成17・18年度収蔵資料』開催。
 3月 指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催。
 美術館常設展開会式（25日）
 5月 博物館企画展『新収蔵品展－平成19年度収蔵資料』開催。
 指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間で－無言館・沖縄・画家たちの表現』開催。
 美術館企画展『新収蔵品展 ポリエドールー沖縄・アジアの多様性』開催。
 7月 指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催。
 指定管理者企画展『哀愁と血の造形－嘉手川繁夫の世界－』開催。
 9月 指定管理者企画展『しまくとぅば－未来へつなぐアート展－』
 博物館企画展『ずしがめの世界』開催。
 開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催。
 11月 美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催。
- 2009（平成21） 1月 博物館企画展『発掘された日本列島2008』開催。
 博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催。
 美術館企画展『移動と表現－変容する身体・言語・文化』開催。
 4月 指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ in 沖縄』開催。
 5月 博物館企画展『新収蔵品展－平成20年度資料』開催。
 指定管理者自主事業『王昭展』開催。
 7月 指定管理者企画展『豊潤の美を求めて－金城安太郎と高島華宵』開催。
 指定管理者企画展『琉球絵画展』開催。
 9月 指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催。
 10月 博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く！』開催。
 美術館企画展『名渡山愛順展－名渡山愛順が見た沖縄』開催。
- 2010（平成22） 12月 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
 1月 美術館企画展『タカエトシコ展』開催。
 2月 博物館企画展『造礁サンゴ展－楽園をつくった偉大な建築家』開催。
 博物館企画展『ものづくり今昔』開催。
 4月 総務班が設置され、三班体制となる
 指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催。
 指定管理者自主事業『石川直樹写真展』開催。
 5月 博物館企画展『新収蔵品展－平成21年度収蔵資料』開催。
 指定管理者企画展『遠き道－はて無き精進の道程』開催。
 7月 指定管理者企画展『沖縄マンガ』展開催。
 9月 指定管理者企画展『風土と建築』開催。
 博物館特別展『海のクロスロード 八重山展』開催。
 11月 美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展開催。
 12月 博物館・指定管理者企画展『アイヌ－美を求める心』開催。
- 2011（平成23） 1月 美術館企画展『安谷屋正義』展開催。
 博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催。
 2月 博物館企画展『骨の科学』開催。
 3月 博物館企画展平成22年度『大嶺薫コレクション展』開催。
 4月 博物館企画展平成23年度『大嶺薫コレクション展』開催。
 指定管理者企画展『國吉清尚』展開催。
 5月 博物館企画展『新収蔵品展－平成22年度収蔵資料』開催。
 指定管理者企画展『生誕100年記念展 岡本太郎と沖縄－ここが世界の中心だ』
 開催。
 指定管理者企画展『ロボット展』開催。
 7月 指定管理者企画展『印象派の誕生』開催。
 美術館企画展『東松照明展<太陽へのラブレター>』開催。
 9月 博物館企画展『第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」』開催。
 10月 博物館企画展『沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年記念「工芸王国－受けつがれる琉球のわざと美」』開催。
 11月 博物館特別展『宇宙－遙かなるロマンを求めて』開催。
- 2012（平成24） 1月 博物館企画展『檀王法林寺開創400年記念「琉球と袋中上人－エイサーの起源をさぐる」』開催。
 美術館企画展『沖縄の美術シリーズ3 玉那覇正吉』開催。
 3月 指定管理者企画展『本土復帰40周年記念「田中一村展－琉球弧で開花した美の世界」』開催。
 4月 博物館企画展『沖縄復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」』
 開催。

- 2012（平成24） 5月 指定管理者企画展『土門拳の昭和と沖縄』開催。
 6月 博物館企画展『新収蔵品展－平成23年度収蔵資料』開催。
 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
 7月 指定管理者企画展『旅する仮面』開催。
 指定管理者自主企画展『お化け屋敷で科学する』開催。（沖縄テレビ共催）
 9月 美術館企画展『山田實展－人と時の往来』開催。
 博物館特別展『本土復帰40年記念「OKINAWA から沖縄へ」』開催。
 11月 美術館企画展『復帰40周年記念「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」』開催。
 12月 博物館企画展『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』開催。
 2013（平成25） 2月 指定管理者自主企画展『マリー・アントワネット物語』開催。（沖縄タイムス共催）
 指定管理者企画展『スタジオジブリ・レイアウト展』開催。

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺 薫（1946年4月～1953年3月）

首里博物館

豊平 良顕（1947年12月～1948年3月）

原田 貞吉（1948年8月～1953年3月）

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉（1953年3月～1955年5月）

琉球政府立博物館

山里 永吉（1955年5月～1958年8月）

金城増太郎（1958年9月～1961年12月）

大城 知善（1962年2月～1969年11月）

外間 正幸（1969年12月～1972年4月）

沖縄県立博物館

外間 正幸（1972年5月～1981年3月）

大城徳次郎（1981年4月～1983年3月）

大城 立裕（1983年4月～1986年3月）

大城 宗清（1986年4月～1992年3月）

宜保榮治郎（1992年4月～1994年3月）

糸数 兼治（1994年4月～1996年3月）

當間 一郎（1996年4月～1999年3月）

大城 将保（1999年4月～2000年3月）

平田 興進（2000年4月～2002年3月）

當眞 嗣一（2002年4月～2005年3月）

名嘉 政修（2005年4月～2006年3月）

宮城 清志（2006年4月～2007年3月）

新垣 隆雄（2007年4月～2007年10月）

沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆（2007年11月～2011年3月）

白保 台一（2011年4月～2013年2月）

II. 日誌抄（2012年4月1日～2013年3月31日）

2012年（平成24）

- 4月 2日 平田文化観光スポーツ部長来館／辞令交付・全体会（於：博物館講座室）
 3日 中日青年交流センター何傑部長来館
 11日 文化観光スポーツ部職員研修
 13日 うまんちゅ広場試写会（於：県庁広報課スタジオ）
 17日 平田部長意見交換会（博物館講座室）
 19日 国立科学博物館総合研究棟開所式（於：筑波、白保館長、千木良副館長、瑞慶覧班長参加）
 20日 文化関係施策推進会議
 22日 近藤文化庁長官来館
 24日 博物館企画展「B I N G A T A展」開会式
 26日 全国歴史民俗系博物館協議会発起人会（於：国立歴史民俗博物館、千木良副館長、崎原学芸員参加）
 27日 博物館ボランティア登録証交付式（継続者。於：美術館講座室）
 5月 8日 復帰40年特別展第2回検討委員会
 9日 公文書館館長表敬
 15日 美術館企画展「土門拳の昭和と沖縄展」開会式
 16日 平成24年度博物館ボランティア養成講座開講式
 17日 平成24年度第2回県議会企画委員会 博物館友の会総会（於：博物館講座室）

- 5月23日 九州博物館協議会総会・研修会（於：佐賀県立博物館・美術館、千木良副館長参加）
24日 沖縄県博物館協議会春季研修会（於：沖縄市郷土博物館）
- 6月 1日 博物館企画展「新収蔵品展」開会式
3日 日中ジャーナリスト会議参加者一向展示視察
6日 久米崇聖会来館
7日 美術館ボランティア養成講座開講式
長崎県知事来館
12日 前期学芸員実習開講式（於：博物館講座室）
日本博物館協会評議員会・理事会（於：東京、千木良副館長参加）
サントリー美術館「紅型展」内覧会（於：東京サントリー美術館）
- 13日 全国博物館長会議（於：文科省講堂、千木良副館長参加）
14日 全国歴史民俗系博物館協議会設立総会（於：江戸東京博物館、千木良副館長参加）
全国科学系博物館協議会総会（於：国立科学博物館、千木良副館長参加）
18日 全館燻蒸消毒説明会（於：博物館講座室）
20日 美術館作品寄贈記者会見（於：美術館講座室）
21日 学芸員実習展示開会式（於：エントランス）
22日 カンボジア平和博物館づくり協力事業締結（於：カンボジア、千木良副館長、園原主幹参加）
25日 前期学芸員実習閉講式（於：博物館講座室）
28日 第1回全館消毒（～7/3 臨時休館）
- 7月 6日 博物館ボランティア養成講座修了式（於：実習室）
9日 消防訓練
カンボジア平和博物館づくり協力事業報告（於：博物館講座室）
10日 博物館・美術館協議会（於：博物館講座室）
12日 「お化け屋敷で科学する」展のマスコミ向け内覧会
13日 「お化け屋敷で科学する」展開会式
復帰40年特別展第3回検討委員会
こどもの国企画展「恐竜展」開会式（於：こどもの国ワンダーランド、千木良副館長参加）
14日 企画展「旅する仮面展」開会式
19日 平田部長説明（カンボジア平和博物館づくり協力事業）
25日 JICA カンボジア帰国報告会（於：県庁）
文化関係施策推進会議（於：県立芸大）
31日 記者発表（カンボジア平和博物館づくり協力事業）
- 8月 1日 指定管理者制度運用委員会（於：博物館学芸員会議室）
14日 後期学芸員実習開講式（於：美術館講座室）
中学校文化連盟総合文化祭開会式参列（於：講堂）
22日 特別展関連「沖縄の現代生活」審査会（於：博物館研修室）
23日 「移動展 in 栗国」関係の栗国島表敬（千木良副館長、瑞慶山副館長、久場班長、片桐学芸員参加）
24日 美術館企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」関係者館長表敬
後期学芸員実習閉講式（於：博物館講座室）
- 9月 2日 民主党沖縄県総本部一行来館
11日 美術館企画展「山田實展」開会式
12日 JICA 堂道副理事長表敬
13日 中国第一歴史档案館職員表敬
19日 文化関係施策推進会議（於：県公文書館講堂）
25日 第1回博物館・美術館協議会ワーキング会議（於：博物館班会議室）
27日 日本赤十字理事・事務局長来館
復帰40年記念博物館特別展記者会見（特別展示室）
28日 復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」開会式
- 10月 3日 全国歴史民俗系博物館協議会幹事会（於：東京）
4日 沖縄県博物館協会秋季研修会（於：伊是名島）
中華民国101双十節（於：ハーバービューホテル）
9日 資料寄贈（高山家伝来衣装）の記者発表（於：応接室）
10日 平和祈念資料館企画展開会式（於：平和祈念資料館）
豊田市議会議員一行博物館視察

- 10月11日 「大哺乳類展」準備調整（於：博物館副館長室）
カンボジア平和博物館づくり協力事業研修開講式（於：博物館講座室）
- 16日 カンボジア協力事業研修員との交流会（於：博物館班会議室）
- 18日 練馬区区議会議員一行視察
- 19日 サキタリ洞調査関連記者発表（於：博物館講座室）
文部科学省青少年課長案内
博物館第5期ボランティア登録証交付式（於：博物館講座室）
- 23日 博物館企画展「大山盛保展」八重瀬会場開会式
齋藤用之助氏一行来館（寄贈資料視察と新たな資料の寄贈）
- 25日 全国博物館大会（於：秋田県）
- 30日 新米国総領事表敬及び館内案内
- 11月 1日 博物館・美術館5周年パネル展開催式（於：エントランスホール）
カンボジア協力事業研修員文化観光スポーツ部長表敬
- 5日 カンボジア協力事業研修員知事表敬
- 6日 「大哺乳類展」ロケハン（国立科博川田氏、田村氏来館）
- 8日 九州博物館協議会秋季研修会（於：博物館講座室）
カンボジア協力事業研修員交流写真展開会式（於：エントランスホール）
- 9日 カンボジア協力事業研修員研修発表会及び閉講式（於：博物館講座室）
- 14日 岡山市議会議員視察
- 16日 博物館・美術館移動展（於：粟国島）
- 22日 管理者意向調査ヒアリング
- 27日 美術館復帰40周年記念特別展「アジアをつなぐ展」開会式
- 30日 包括外部監査（於：県庁）
- 12月 7日 博物館企画展「大山盛保展」開会式
- 10日 第2回博物館・美術館協議会ワーキング会議（於：特別会議室）
- 12日 徳島県立博物館高島館長来館
- 2013年（平成25）
- 1月 4日 新年挨拶廻り（マスコミ各社等）
- 20日 第2回館内燻蒸・消毒（～23日 臨時休館）
- 23日 文部科学省表敬
- 24日 ドイツの博物館長（クラーク館長）来館
- 2月 1日 平良北京事務所長来館
高円宮妃殿下御視察
- 5日 資料寄贈「新参蔡姓家譜」の記者発表（於：応接室）
- 6日 齋藤用之助氏より記念誌贈呈
- 7日 第3回博物館・美術館協議会ワーキング会議（於：特別会議室）
- 8日 「マリーアントワネット物語展」開会式
- 18日 白保館長逝去
- 20日 定期監査
- 22日 美術館企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」開会式
文化の杜共同企業体経営診断報告会（於：実習室）
- 27日 全国科学博物館協議会研修会（於：愛媛県総合科学博物館、千木良副館長、瑞慶覧班長参加）
- 3月 4日 第2回沖縄県立博物館・美術館協議会（於：博物館講座室）
- 7日 資料寄贈「新作三線」記者発表（於：応接室）
- 8日 河合議員来館
外務委員長河井克行氏来館
- 9日 文科省初等中等教育局長布村氏来館
- 18日 H25当初予算特別委員会
- 21日 ハワイ連合会長バーテルズ・ジョージ・A. Jr 来館
- 22日 委員監査（於：特別会議室）

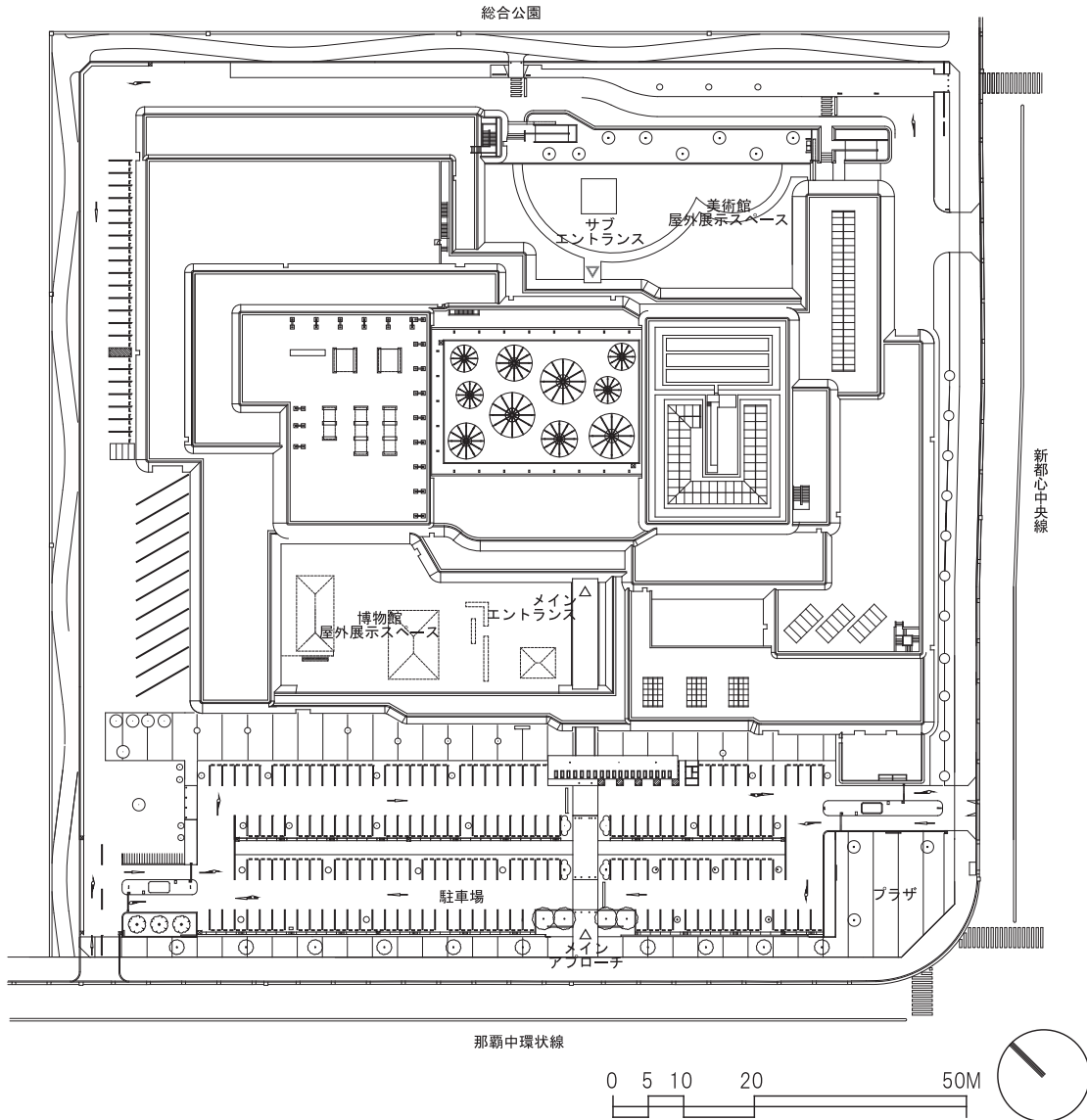


博物館特別展『復帰 40 年記念「OKINAWA から沖縄へ」』開会式



美術館企画展『復帰 40 周年記念「アジアをつなぐー境界を生きる女たち 1984-2012」』

Ⅲ. 施設・設備



建築概要

●敷地面積	31,287 m ²
●建築面積	13,452 m ²
●延床面積	23,721 m ²
博物館専有面積	10,478 m ²
美術館専有面積	7,537 m ²
共有面積	5,708 m ²
●高さ・最高高さ	GL + 21.8m
●駐車場	
一般駐車場	140 台
(うち身障者用 4 台)	
大型バス駐車場	10 台
駐輪場	25 台
関係者駐車場	22 台
供用施設	
●エントランスホール	724 m ²
●情報センター	217 m ²
●講堂 (212 席)	349 m ²

博物館の主たる施設

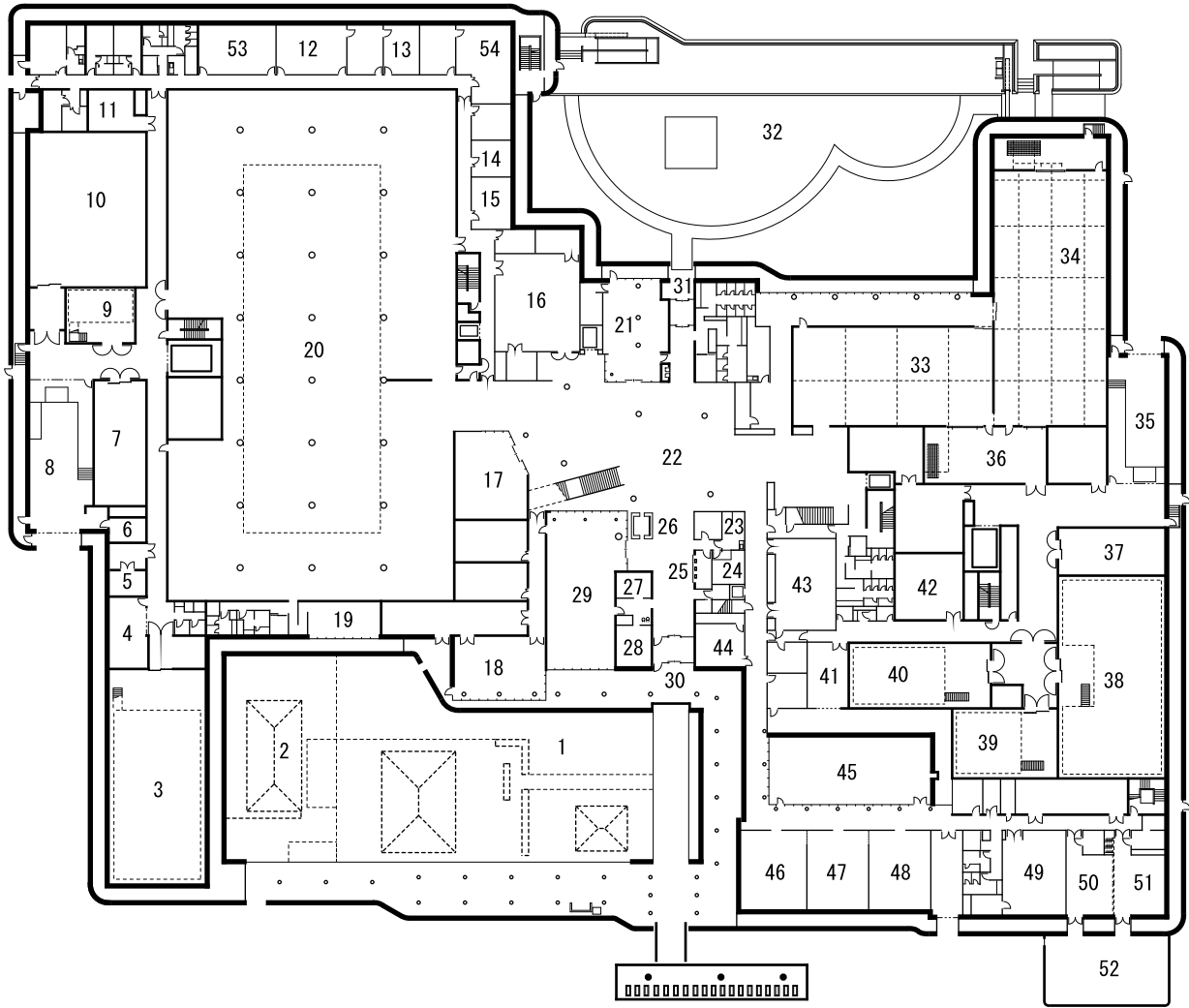
●展示施設	
総合展示室	1,252 m ²
部門展示室	1,344 m ²
自然史部門	360 m ²
考古部門	262 m ²
美術工芸部門	180 m ²
歴史部門	120 m ²
民俗部門	421 m ²
屋外展示場	1,425 m ²
企画展示室	351 m ²
特別展示室	459 m ²
●教育普及施設	
ふれあい体験室	110 m ²
博物館講座室	191 m ²
実習室	108 m ²

●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

自然史収蔵庫	417 m ²
化石収蔵庫	245 m ²
考古・陶磁器収蔵庫	613 m ²
特別収蔵庫	439 m ²
民俗収蔵庫	668 m ²
大型収蔵庫	358 m ²
液浸標本室	97 m ²
一時保管庫	119 m ²
●調査研究施設	
研究室	176 m ²
研究資料室	111 m ²
会議室	72 m ²

美術館の主たる施設

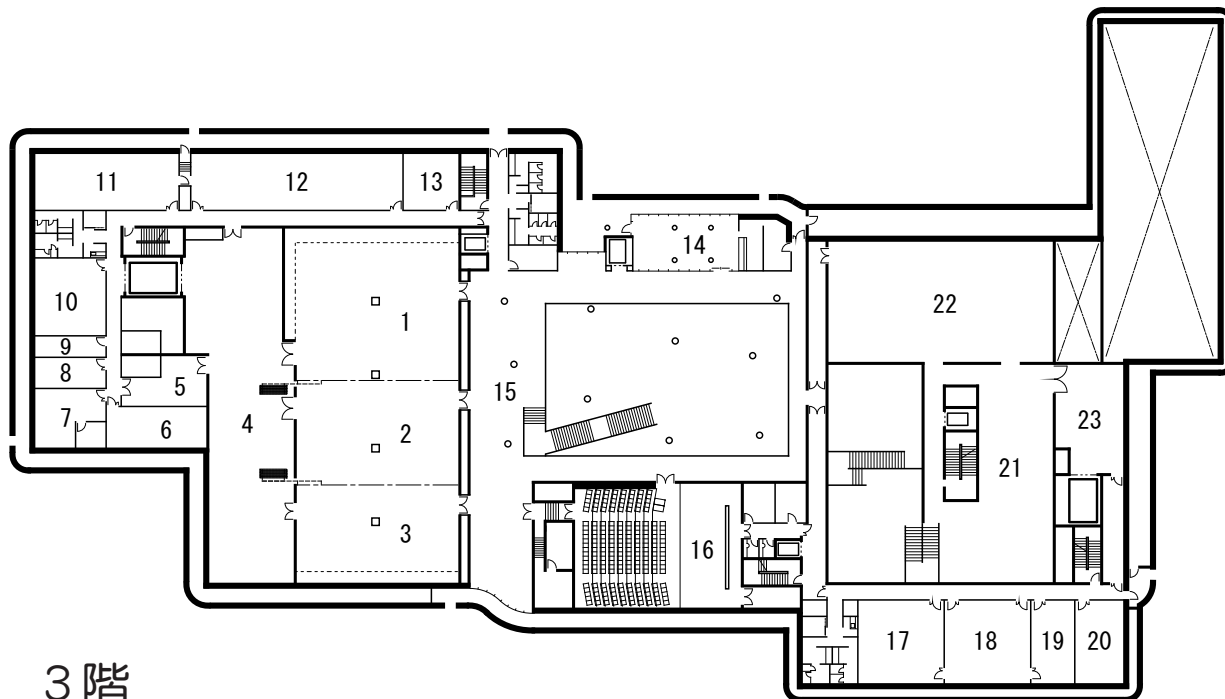
●展示施設	
企画ギャラリー1	394 m ²
企画ギャラリー2	490 m ²
コレクションギャラリー1	164 m ²
コレクションギャラリー2	284 m ²
コレクションギャラリー3	370 m ²
県民ギャラリー (1~3)	277 m ²
県民ギャラリー (スタジオ)	111 m ²
県民アトリエ	65 m ²
子どもアトリエ	70 m ²
屋外展示場	1,368 m ²
●教育普及施設	
美術館講座室	109 m ²
●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)	
収蔵庫A	683 m ²
収蔵庫B	248 m ²
収蔵庫C	204 m ²
●調査研究施設	
研究室	98 m ²
研究資料室	98 m ²
会議室	58 m ²



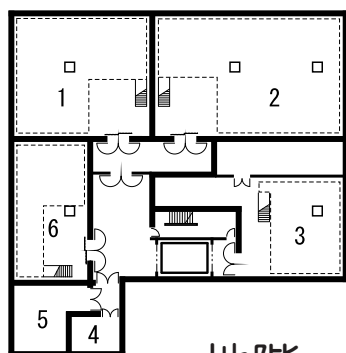
1階

1階

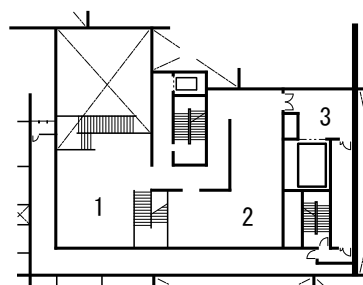
(博物館)	(共有)	(美術館)	(文化の杜共同企業体・指定管理者)
1 博物館野外展示	21 ミュージアムショップ	32 美術館野外展示	53 会議室
2 湧田古窯	22 エントランスホール	33 美術館企画ギャラリー1	54 事務室
3 民俗収蔵庫	23 授乳室	34 美術館企画ギャラリー2	55 展示交流員控室
4 写真撮影室	24 託児室	35 トラックヤード	
5 冷凍庫	25 券売	36 展示準備室	
6 石工室	26 総合案内	37 一時保管庫	
7 一時保管庫	27 救護室	38 収蔵庫A	
8 トラックヤード	28 コインロッカー	39 収蔵庫B	
9 液浸標本室	29 情報センター	40 収蔵庫C	
10 大型収蔵庫	30 メインエントランス	41 保存修復室	
11 修理修復室	31 サブエントランス	42 工作室	
12 博物館・美術館庶務室		43 美術館講座室	
13 館長室		44 美術館ボランティア室	
14 支援会室		45 中庭	
15 博物館ボランティア室		46 県民ギャラリー1	
16 博物館講座室		47 県民ギャラリー2	
17 博物館ふれあい体験室		48 県民ギャラリー3	
18 博物館実習室		49 県民ギャラリー (スタジオ)	
19 博物館常設展示休憩室		50 県民アトリエ	
20 博物館常設展示室		51 こどもアトリエ	
		52 屋外活動スペース	



3階



地階



2階

3階

(博物館)

- 1 企画展示室
- 2 特別展示室 1
- 3 特別展示室 2
- 4 展示準備室
- 5 工作室
- 6 自然史実験室
- 7 保存科学室
- 8 フィルム保管庫
- 9 映像編集室
- 10 学芸員会議室
- 11 研究資料室
- 12 学芸員研究室
- 13 研修室

(共有)

- 14 喫茶室
- 15 ホワイエ
- 16 講堂
- (美術館)
- 17 研究資料室
- 18 学芸員研究室
- 19 情報処理室
- 20 学芸員会議室
- 21 コレクションギャラリー 2
- 22 コレクションギャラリー 3
- 23 展示準備室

地階

(博物館)

- 1 特別収蔵庫
- 2 考古陶磁器収蔵庫
- 3 自然史収蔵庫
- 4 劣化フィルム収蔵庫
- 5 写真パネル収蔵庫
- 6 化石収蔵庫

2階

(美術館)

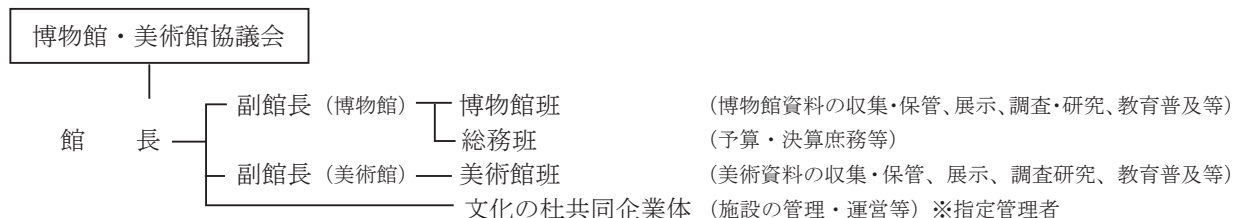
- 1 ホワイエ
- 2 コレクションギャラリー 1
- 3 展示準備室

IV. 組織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館は、首里に在った博物館に新たに美術館を併設し、2007年（平成19）11月1日、那覇市新都心（おもろまち）に移転・開館した。この新館開館を機に指定管理者制度も導入し、組織運営体制を一新した。

組織は、「総務班」「博物館班」「美術館班」「文化の杜（指定管理者）」の4つにより構成されている（総務班は平成22年度設置）。なお、文化の杜共同企業体に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】

2012年5月1日 現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	白保 台一	◎博物館・美術館業務の総括に関する事。
参 事 兼 博物館副館長	千木良芳範	◎博物館業務の統括に関する事。 ◎博物館・美術館の統括に関する事。
美術館副館長 兼 班 長	瑞慶山 昇	◎美術館業務の統括に関する事。

（総務班）

班 長	瑞慶覧勝利	◎博物館・美術館の事務の総括に関する事。 ◎予算・執行の総括に関する事。 ◎文書管理の総括に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎経営調整会議に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎九州博物館協議会に関する事。 ◎議会対応に関する事。 ◎視察対応に関する事。 ○広報宣伝に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。 ◎施設管理に関する事。 ◎施設管理にかかる指定管理者との調整業務に関する事。 ◎その他施設管理事務に関する事。
主 査	古我知 泉	◎施設・財産関連業務に関する事。 ◎予算の資料作成及び備品の登録業務に関する事。 ◎県債、建物及び使用料等歳入に関する事。 ◎博物館・美術館広報宣伝に関する事。 ○視察対応に関する事。 ◎情報管理（ホームページ等）に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎公用車の管理業務に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
主 査	幸地なつみ	◎博物館・美術館の庶務業務に関する事。 ◎出納業務に関する事。 ◎決算の資料作成に関する事。 ◎会計業務（負担行為、支出）に関する事。 ◎文書、公印の管理業務に関する事。 ◎職員の給与、福利、サービス及び研修業務に関する事。 ◎博物館・美術館の連絡調整に関する事。 ◎その他庶務事務に関する事。
事務補助員	仲村 希	○文書受付に関する事。 ○業務補助に関する事。

(博物館班 学芸員)

<p>博物館班長</p>	<p>久場 政彦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎博物館班の総括に関する事。 ◎博物館予算に関する事。 ◎沖縄県博物館協会に関する事。 ◎議会対応に関する事。 ◎視察対応に関する事。 ◎博物館資料の収集方針に関する事。 ◎博物館活動の計画に関する事。 ◎学芸員実習・教職員研修の受け入れに関する事。 ◎博物館特別展示室・企画展示室の運営・管理に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ○博物館友の会に関する事。 ◎学芸資料・博物館学の調査研究に関する事。 ○H24 年度緊急雇用事業・一括交付金関係事業に関する事。 ◎博物館班の研究機関認定に関する事
<p>主 幹 (美術工芸)</p>	<p>園原 謙</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（絵画・陶器・漆器）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎博物館総合・部門展示（美術工芸分野）及び特別展・企画展に関する事。 ◎大嶺薫コレクション展に関する事。 ◎博物館資料収集事業（基金）に関する事。 ◎博物館資料修理事業に関する事。 ◎保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関する事。 ○IPM 及び博物館資料の燻蒸・消毒に関する事。 ○写真資料の貸出、博物館資料の撮影等に関する事。 ◎写真資料等の整理に関する事。 ◎H25 年度企画展「三線展」に関する事。 ◎カンボジアとの連携事業に関する事。
<p>主任学芸員 (美術工芸)</p>	<p>與那嶺一子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術工芸資料（染色・書跡・彫刻）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎博物館総合・部門展示（美術工芸分野）及び特別展・企画展に関する事。 ○大嶺薫コレクション展に関する事。 ○博物館資料収集事業（基金）に関する事。 ○博物館資料修理事業に関する事。 ○ふれあい体験室の運営に関する事。 ◎班長の補佐に関する事。 ◎H24 年度企画展「紅型」に関する事。 ◎H27 年度企画展に関する事。
<p>主任学芸員 (自然史・生物)</p>	<p>山崎 仁也</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎博物館総合・部門展示（生物分野）に及び特別展・企画展に関する事。 ◎屋外展示（植生）に関する事。 ◎博物館総合調査に関する事。 ○博物館紀要の編集・発行に関する事。 ○学芸研究資料室の図書に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。 ○H25 年年度特別展「生物多様性ホットスポット JAPAN」に関する事。(主担当)
<p>主任学芸員 (自然史・地学)</p>	<p>仲里 健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎地質・化石資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎博物館総合・部門展示（地質化石等）及び特別展・企画展に関する事。 ◎化石資料整理事業に関する事。 ◎IPM 及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関する事。 ◎H27 年度企画展に関する事。 ○収蔵品データの総括管理（データベース、収蔵品台帳）に関する事。
<p>主任学芸員 (民 俗)</p>	<p>岸本 敬</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事。 ◎博物館総合・部門展示（民俗分野）及び特別展・企画展に関する事。 ◎屋外展示（民家・高倉）に関する事。 ◎収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関する事。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関する事。(副担当2) ○新収蔵品展に関する事。 ○文化財公開承認施設及び登録博物館に関する事。 ○沖縄県博物館協会に関する事。 ○H25 年度企画展「三線展」に関する事。 ○H27 年度特別展に関する事。

主任学芸員 (歴史)	岸本 弘人	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料（近現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示（歴史分野）及び特別展・企画展に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ○「国際博物館の日」関連事業に関すること。 ○『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ○保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること。 ◎H24年特別展復帰40年記念「Okinawa から沖縄へ」展に関すること。（主担当）
主任 (歴史)	崎原 恭子	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示（歴史分野）及び特別展・企画展に関すること。 ◎資料収集事業に関すること。 ◎常設総合展示室に関すること。 ◎「国際博物館の日」関連事業に関すること。 ○博物館資料修理事業に関すること。 ○収蔵品台帳に関すること。 ○沖縄県博物館協会に関すること。 ◎H26年度企画展「古地図から見る沖縄」に関すること。 ○H24年特別展復帰40年記念「Okinawa から沖縄へ」展に関すること。
主任 (考古)	片桐千亜紀	<ul style="list-style-type: none"> ◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示（考古分野）及び特別展・企画展に関すること。 ◎屋外展示（湧田窯）に関すること。 ◎考古資料の複製・修復に関すること。 ◎文化財公開承認施設及び登録博物館に関すること。 ◎移動展に関すること。 ○常設総合展示室に関すること。 ○情報センターの図書・データに関すること。 ◎H26年特別展に関すること。 ○カンボジアとの連携事業に関すること。
主任 (人類)	藤田 祐樹	<ul style="list-style-type: none"> ◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示（人類学分野）及び特別展・企画展に関すること。 ◎港川人骨の管理に関すること。 ○収蔵品データの総括管理（収蔵品台帳）に関すること。 ◎新収蔵品展に関すること。 ◎博物館紀要の編集・発行に関すること。 ◎共同研究事業に関すること。 ○博物館総合調査に関すること。 ○博物館ホームページに関すること。 ◎H24年度企画展「大山盛保展」に関すること。 ○一括交付金関係事業に関すること。
主任 (人類)	山崎 真治	<ul style="list-style-type: none"> ◎人類学資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること。 ◎博物館総合・部門展示（人類学分野）及び特別展・企画展に関すること。 ◎図書の受入・整理に関すること。 ◎博物館ホームページに関すること。 ○共同研究事業に関すること。 ○港川人骨の管理に関すること。 ○移動展に関すること。（副担当1） ◎H24年度企画展「大山盛保展」に関すること。 ○一括交付金関係事業に関すること。
嘱託員 (学芸補助)	早瀬 千明	<ul style="list-style-type: none"> ◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること。 ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等の受付に関すること。 ○写真資料等の整理に関すること。 ◎発送業務集約に関すること。 ◎展示公開事業の補佐に関すること。 ○学芸研究資料室の図書に関すること。 ◎学芸員の補佐に関すること。 ◎寄贈図書類の回覧に関すること。

(博物館班 教育普及)

<p>(教育普及)</p>	<p>池原 盛浩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育普及事業（ふれあい体験室、実習室、講座等）に関する事。 ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関する事。 ◎博物館学習等の調査研究に関する事。 ○視聴覚機器の整理・保管に関する事。 ◎博物館友の会に関する事。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事。 ◎ボランティア活動事業に関する事。 ◎体験学習教室の企画及び野外展示の活用に関する事。 ◎学校連携事業に関する事。(大学含む) ◎文化講座の企画等に関する事。 ○移動展に関する事。 ◎ふれあい体験室の運営に関する事。
<p>嘱託員 (教育普及)</p>	<p>久田 千春</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関する事。 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関する事。 ○博物館学習等の調査研究に関する事。 ◎視聴覚機器の整理・保管に関する事。 ○文化講座の企画等に関する事。 ○ふれあい体験室の運営に関する事。 ◎ボランティア活動の連絡調整に関する事。 ◎総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事。 ◎博物館学習への各種照会事項対応の補助に関する事。 ◎教育普及担当学芸員の補佐に関する事。

(美術館班)

<p>美術館副館長 兼美術館班長</p>	<p>瑞慶山 昇</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎美術館班総括に関する事。 ◎美術館予算に関する事。 ◎議会対応の総括に関する事。 ◎視察対応の総括に関する事。 ◎博物館・美術館協議会に関する事。 ◎美術館活動の計画に関する事。 ◎美術館の鍵の管理に関する事。 ◎指定管理者との調整に関する事。 ◎文化振興課との調整に関する事。 ◎経営者調整会議に関する事。 ◎美術館支援団体 h a p p に関する事。 ◎県芸術祭に関する事。 ○移動展に関する事。 ○I P M 会議に関する事。
<p>主任学芸員</p>	<p>仲里 安広</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎資料収集活動の総括に関する事。 ◎資料収集委員会に関する事。 ◎作品寄贈者表彰に関する事。 ◎コレクション展示室3に関する事。 ◎絵画、彫刻作品の調査研究に関する事。 ○県企画展1「山田實展」に関する事。 ○経営者調整会議に関する事。 ○移動展に関する事。 ○教育普及に関する事。
<p>主任学芸員</p>	<p>新里 義和</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎調査研究活動の総括に関する事。 ◎コレクション展示室1、2に関する事。 ◎美術館研究紀要に関する事。 ◎絵画、写真、映像作品の調査研究に関する事。 ◎機器類備品管理に関する事。 ○県企画展2「アジアをつなぐ展」に関する事。 ○展示公開活動の総括に関する事。
<p>主任学芸員</p>	<p>豊見山 愛</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎収蔵作品保存修復活動の総括に関する事。 ◎県企画展2「アジアをつなぐ展」に関する事。 ◎コレクション展示室2に関する事。 ◎絵画、デザイン作品の調査研究に関する事。 ◎I P M 及び美術館資料の燻蒸・消毒に関する事。 ○収蔵作品の貸出業務に関する事。 ○調査研究活動の総括に関する事。

主任学芸員	大城 仁美	◎展示公開活動の総括に関する事 ◎県企画展1「山田實展」に関する事 ◎写真、デザイン作品の調査研究に関する事 ◎コレクション展示室2に関する事 ◎展示関係備品管理に関する事 ○資料収集活動の総括に関する事
主任学芸員	大城 直也	◎美術館教育普及活動の総括に関する事 ◎学校団体見学対応に関する事 ◎学校との連携に関する事 ◎学芸員実習の受け入れに関する事 ◎コレクション展示室1に関する事 ◎ボランティアの指導育成に関する事 ◎「国際博物館の日」関連事業に関する事 ○移動展に関する事 ○保存管理活動の総括に関する事 ○沖縄県博物館協会に関する事 ○観賞学習支援教材貸出に関する事 ○美術館広報に関する事
主査(再任用)	翁長 直樹	◎県内作家の調査研究に関する事 ◎コレクション展示室1に関する事 ○県内作家データの整理、保管に関する事 ○資料収集活動の総括に関する事 ○収蔵作品保存修復活動の総括に関する事 ○調査研究活動の総括に関する事
嘱託員	齋 悠記	◎作品の調査に関する事 ◎収蔵品のデータベースに関する事 ◎収蔵品の画像管理に関する事 ◎作品画像貸出に関する事 ○収集委員会資料作成に関する事 ○情報センターのデータに関する事 ○美術館ホームページに関する事 ○展示会の補助に関する事
嘱託員	仲村美奈子	◎展示室等の環境点検管理に関する事 ◎収蔵庫の環境点検管理に関する事 ◎作品の保存管理に関する事 ◎作品の修復に関する事 ○作品貸出に関する事 ○IPMに関する事 ○展示会の補助に関する事
事務補助員	下地 千紘	◎文書の收受、発送に関する事 ◎図書の受付、整理に関する事 ○文書等の整理、保管に関する事 ○業務補助に関する事

※◎は主担当として行う業務、○は副担当として行う業務である。

【人事異動】

2012年5月1日 現在

	職名		氏名	摘要
転出	博物館班(総務) 博物館班(学芸)	主査 班長 主任	上原 善彦 濱口 寿夫 田中 聡	平和・男女共同参画課 教育庁文化財課 首里東高校
転入	博物館班(総務) 博物館班(学芸) 美術館班(学芸)	主査 事務補助員 班長 主任学芸員 嘱託員 嘱託員 主査 嘱託員 事務補助員	古我知 泉 仲村 希 久場 政彦 山崎 仁也 早瀬 千明 久田 千春 翁長 直樹 齋 悠記 下地 千紘	青少年・児童家庭課 採用 教育庁 教育庁 採用 採用(5月) 採用 採用 採用

	職名		氏名	摘要
退職	博物館班（総務）	主査	新里 勝	
		事務補助員	佐藤 麻穂	
	博物館班（学芸）	臨時任用職員	早瀬 千明	
		嘱託員	宮平 真由美	
		嘱託員	當眞 妃奈子	
	美術館班（学芸）	嘱託員	吉田 祥子	
		事務補助員	外間 敦子	

V. 沖縄県立博物館・美術館協議会

【第1回会議】

日時：2012年7月10日（火） 10：00～12：00

場所：博物館講座室

委嘱状交付式：委嘱状交付（新任の委員のみ）

会議

教育長あいさつ（浜口教育指導統括監）

報告事項

- ・2011年度事業実績報告
- ・2012年度事業説明

協議事項

- ・2013年度事業計画
- ・沖縄県立博物館・美術館協議会ワーキング会議委員の選任について

【第2回会議】

日時：2013年3月4日（月） 14：00～16：00

場所：博物館講座室

会議

報告事項

- ・2012年度事業経過説明

協議事項

- ・2013年度事業計画

沖縄県立博物館・美術館協議会委員名簿（任期：平成24年7月10日～平成26年7月9日）

分野		氏名	所属	職名
学識経験者	自然史	○新城 和治	元琉球大学	元教授
	歴史	高良 倉吉	琉球大学法文学部	教授
	考古	當眞 嗣一	元沖縄県立博物館	元館長
	民俗	稲福みき子	沖縄国際大学	教授
	人類	土肥 直美	琉球大学医学部	元准教授
	美術（画）	◎宮城 篤正	元沖縄県立芸術大学	元学長
	美術（立体）	西村 貞雄	元琉球大学	元教授
	美術（写真）	前原 基男	沖縄県写真連盟	会長
学校教育関係者	小学校教育	田端 一正	沖縄県小学校長会	総務部長
	中学校教育	川満 順二	沖縄県中学校長会	総務部長
	高校教育	真栄田義功	沖縄県高等学校長会	副会長
社会教育関係者	社会教育	森田 孟則	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会長
	P T A	仲西 春雅	沖縄県高等学校 PTA 連合会	副会長

（◎会長、○副会長 2013年3月31日現在）

VI. 予 算

2012 年度歳出状況（決算）

	博物館・美術館 管理運営費	博物館・美術館 指定管理費	博物館・美術館費	JICA 受託事業費	沖縄遺跡の ブランド 開発・発信事業	合 計
報酬	5,515,950		7,851,567			13,367,517
賃金			3,027,006			3,027,006
報償費			717,300			717,300
旅費			6,752,280	6,880	940,780	7,699,940
需用費			10,856,044		595,865	11,451,909
役務費			2,084,740			2,084,740
委託料		295,427,000	39,723,966	2,759,000	10,378,357	348,288,323
使用料及び賃借料			955,013		13,250	968,263
備品購入費			1,641,690		2,703,750	4,345,440
負担金補助及び交付金			14,100,316			14,100,316
繰出金						0
公課費			41,000			41,000
合 計	5,515,950	295,427,000	87,750,922	2,765,880	14,632,002	406,091,754

2012 年度歳入状況

	収入金額	説 明
土地使用料	25,864	自動販売機土地使用料
建物使用料	5,336,116	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料
雑 入	1,215,276	電気料金、雇用保険料等
展示会等助成金	1,300,000	芸術文化振興基金助成金（独立行政法人日本芸術文化振興会）
JICA 受託事業	2,765,880	JICA 受託事業（独立行政法人国際協力機構）
合 計	10,643,136	

VII. 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2013 年 3 月 31 日現在

	分 類	件 数	小 計
博 物 館	自 然 史	55,910	90,837
	人 類	79	
	美 術 工 芸	10,211	
	歴 史	11,795	
	考 古	6,671	
	民 俗	6,171	
美 術 館	平 面	1,627	4,364
	立 体	66	
	映 像	2,404	
	そ の 他	267	
総 計			95,201

利用統計

- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

I. 入館者統計

1. 総入館者集計

年	博物館												美術館												全体			総入館者	開館日数	入館者平均
	常設展				企画展				特別展				企画展				全体				展示室合計			展示以外(共有)						
	有料	無料	小計	合計	有料	無料	小計	合計	有料	無料	小計	合計	有料	無料	小計	合計	有料	無料	合計											
4	3,435	2,314	5,749	1,759	254	2,013	0	0	0	5,194	2,568	7,762	1,910	1,471	3,381	9,732	705	10,437	11,642	2,176	13,818	16,836	4,744	21,580	10,760	30,792	26	1,184		
5	3,810	3,432	7,242	6,191	1,018	7,209	0	0	0	10,001	4,450	14,451	1,254	1,794	3,048	6,755	655	7,410	8,009	2,449	10,458	18,010	6,899	24,909	9,436	32,702	27	1,211		
6	2,942	1,479	4,421	1,000	1,243	2,243	0	0	0	3,942	2,722	6,664	1,019	627	1,646	2,902	274	3,176	3,921	901	4,822	7,863	3,623	11,486	13,116	23,282	21	1,109		
7	3,811	2,863	6,674	0	0	0	0	0	0	3,811	2,863	6,674	1,202	782	1,984	1,264	384	1,648	2,466	1,166	3,632	6,277	4,029	10,306	16,565	45,609	24	1,900		
8	5,352	4,623	9,975	0	0	0	0	0	0	5,352	4,623	9,975	1,332	761	2,093	3,912	700	4,612	5,244	1,461	6,705	10,596	6,084	16,680	17,183	82,137	25	3,285		
9	3,004	2,070	5,074	0	0	0	0	142	59	3,146	2,129	5,275	756	536	1,292	1,638	364	2,002	2,394	900	3,294	5,540	3,029	8,569	16,979	44,242	24	1,843		
10	4,089	2,749	6,838	0	0	0	0	1,815	135	5,904	2,884	8,788	964	1,394	2,358	1,945	295	2,240	2,909	1,689	4,598	8,813	4,573	13,386	17,232	29,454	26	1,133		
11	4,368	6,911	11,279	0	0	0	0	2,570	219	6,938	7,130	14,068	925	2,094	3,019	968	223	1,191	1,893	2,317	4,210	8,831	9,447	18,278	19,213	36,396	26	1,400		
12	5,477	2,215	7,692	1,158	250	1,408	0	0	0	6,635	2,465	9,100	1,159	828	1,987	1,359	248	1,607	2,518	1,076	3,594	9,153	3,541	12,694	15,620	27,104	24	1,129		
平成	3,725	2,212	5,937	1,518	370	1,888	0	0	0	5,243	2,582	7,825	1,017	704	1,721	672	285	957	1,689	989	2,678	6,322	3,571	10,503	16,673	26,069	25	1,043		
成	3,479	3,899	7,378	0	0	0	0	0	0	3,479	3,899	7,378	888	938	1,826	0	0	888	938	1,826	3,657	4,367	8,824	9,204	19,197	41,545	24	1,731		
五	3,758	2,153	5,911	0	0	0	0	0	0	3,758	2,153	5,911	988	684	1,672	0	0	988	684	1,672	4,746	2,837	7,583	9,204	19,226	62,041	26	2,386		
年	47,250	36,920	84,170	11,626	3,135	14,761	4,527	413	4,940	63,403	40,468	103,871	13,414	12,613	26,027	31,147	4,133	35,280	44,561	16,746	61,307	107,964	57,214	165,178	191,200	481,373	298	19,355		
合計	77,077			3,705			15,783			96,565			19,480		41,945			61,425				157,990								
目標										65.66%			68.86%		74.26%			72.55%				68.34%								
達成率	61.30%			313.79%			28.68%			65.66%			68.86%		74.26%			72.55%				68.34%								

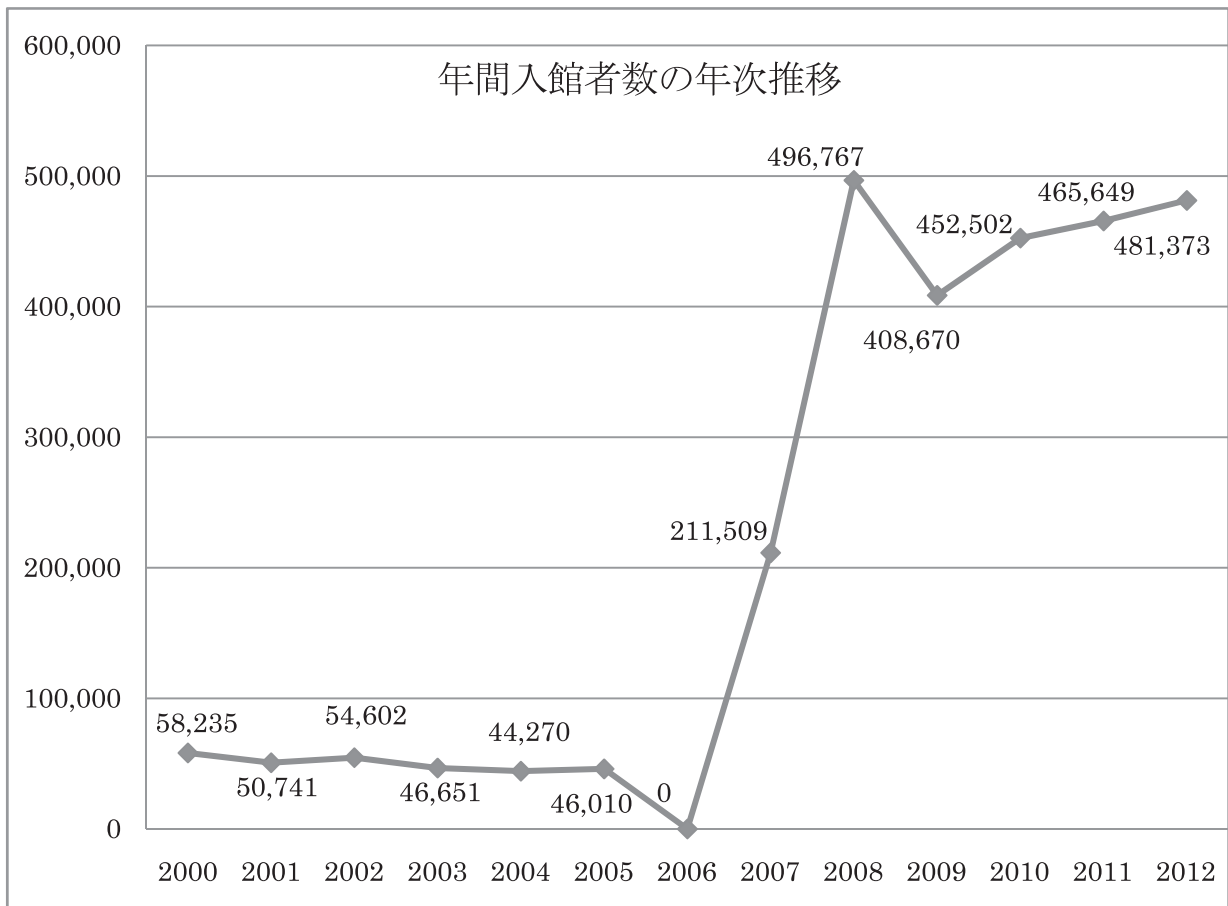
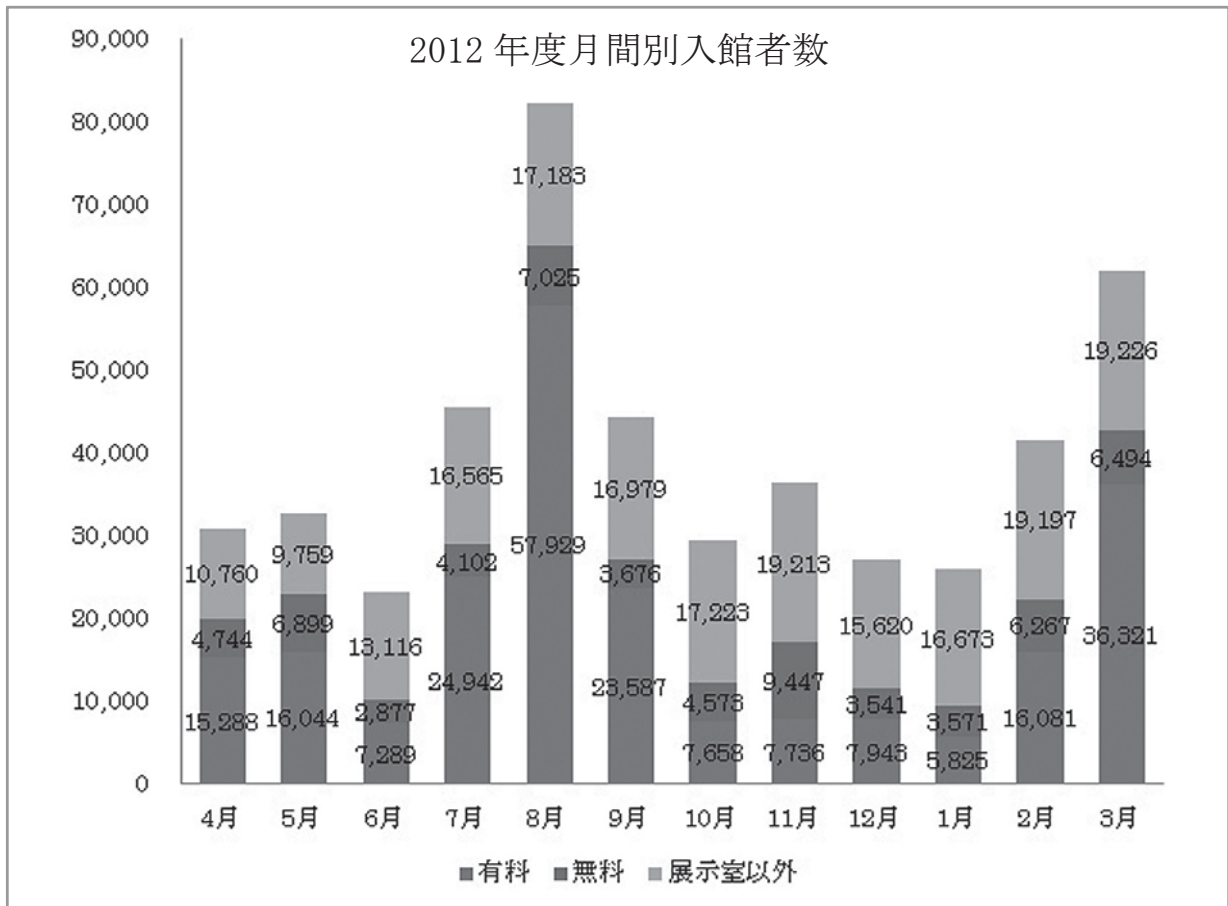
2. 団体入館者集計

項目	県内												県外												国外						合計	
	小中生			高大生			特別支援			その他			小計			小中生			高大生			特別支援			その他			小計				
	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数	割合	団体数	人数			
4月	5	339	5	552	1	54	0	0	11	945	0	0	2	213	0	0	1	9	3	222	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1,167		
5月	13	1,190	4	568	1	46	1	21	19	1,825	4	203	1	208	1	16	0	0	6	427	1	92	1	47	0	0	2	139	2,391			
6月	11	340	4	133	2	44	2	48	19	565	1	15	3	570	0	0	0	0	4	585	0	0	0	0	0	0	0	0	23	1,150		
7月	9	271	10	343	1	7	17	706	37	1,327	1	15	0	0	0	0	0	0	1	15	1	11	0	0	0	0	1	11	39	1,353		
8月	8	229	6	156	0	0	61	2,660	75	3,045	1	48	1	74	0	0	0	0	2	122	0	0	0	0	0	0	0	0	77	3,167		
9月	13	898	1	38	0	0	5	157	19	1,093	0	0	2	41	0	0	0	0	2	41	0	0	0	0	0	0	0	0	21	1,134		
10月	23	1,589	3	66	1	38	2	108	29	1,801	2	248	7	981	0	0	0	0	9	1,229	0	0	0	0	0	0	0	0	38	3,030		
11月	58	4,648	3	354	1	10	1	26	63	5,038	0	0	8	845	0	0	0	0	8	845	0	0	0	0	0	0	0	0	71	5,883		
12月	23	1,246	1	35	3	42	1	33	28	1,356	0	0	17	2,600	0	0	0	0	17	2,600	0	0	1	21	0	0	1	21	46	3,977		
1月	10	899	4	21	0	0	1	9	15	929	0	0	3	66	0	0	0	0	3	66	0	0	0	0	0	0	0	0	18	995		
2月	31	2,545	2	110	1	30	6	163	40	2,848	6	96	2	52	0	0	0	0	8	148	0	0	0	0	0	0	0	0	48	2,996		
3月	9	604	2	33	1	5	8	330	20	972	0	0	2	78	0	0	0	0	2	78	0	0	0	0	0	0	0	22	1,050			
合計	213	14,798	45	2,409	12	276	105	4,261	375	21,744	15	625	48	5,728	1	16	1	9	65	6,378	2	103	2	68	0	0	4	171	444	28,293		

3. 展覧会別入館者集計

単位：人

展覧会名	観覧者区分	当日券	団体券	前売券	1日利用券	年間パス	その他割引	優待(障害)	有料者合計	無料者数	総合計	
博物館	企画展「新収蔵品展」	一般	106	0	0	703	55	11	0	875	247	1,122
		高・大学生	5	0	0	54	0	5	0	64	0	64
		小・中学生	13	0	0	12	0	0	0	25	26	51
	企画展「大嶺薫コレクション展」	一般	0	0	0	0	36	0	0	36	763	799
		高・大学生	0	0	0	0	0	0	0	0	116	116
		小・中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	91	91
	企画展「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」	一般	4,434	6	0	1,402	284	1,157	0	7,283	1,084	8,367
		高・大学生	150	134	0	46	0	150	0	480	1	481
		小・中学生	132	0	0	29	0	26	0	187	187	374
	企画展「大山盛保生誕100年記念展」	一般	620	29	0	1,464	133	52	0	2,298	538	2,836
		高・大学生	102	4	0	101	0	3	0	210	1	211
		小・中学生	71	43	0	54	0	0	0	168	81	249
特別展「Okinawa から沖縄へ」	一般	1,420	42	322	1,583	160	100	106	3,733	347	4,080	
	高・大学生	140	21	50	142	0	7	3	363	0	363	
	小・中学生	360	0	39	21	0	5	6	431	66	497	
美術館	企画展「山田實展 人と時の往来」	一般	1,661	21	105	630	280	610	148	3,455	563	4,018
		高・大学生	106	32	2	59	0	8	0	207	0	207
		小・中学生	41	0	2	5	0	0	0	48	61	109
	企画展「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」	一般	891	0	17	682	296	20	44	1,950	549	2,499
		高・大学生	108	0	0	71	0	44	0	223	0	223
		小・中学生	46	0	0	7	0	1	2	56	75	131
指定管理者	企画展「田中一村展ー琉球弧で開花した美の世界ー」	一般	7,574	20	2,202	1,679	473	876	626	13,450	823	14,273
		高・大学生	243	24	31	55	0	61	48	462	0	462
		小・中学生	791	384	58	28	0	29	15	1,305	377	1,682
	企画展「土門拳の昭和と沖縄」	一般	2,376	19	249	794	345	79	101	3,963	359	4,322
		高・大学生	85	8	8	30	0	20	0	151	0	151
		小・中学生	48	0	5	2	0	0	3	58	75	133
企画展「旅する仮面」	一般	2,022	17	475	635	291	514	171	4,125	741	4,866	
	高・大学生	185	0	13	62	0	79	4	343	0	343	
	小・中学生	793	78	54	109	0	296	21	1,351	510	1,861	
合計	一般	21,104	154	3,370	9,572	2,353	3,419	1,196	41,168	6,014	47,182	
	高・大学生	1,124	223	104	620	0	377	55	2,503	118	2,621	
	小・中学生	2,295	505	158	267	0	357	47	3,629	1,549	5,178	



4. 減免申請集計

(単位：人)

項目		学校関係 (下見)		旅行社関係 (視察・引率)		マスコミ関係 (視察)		福祉関係 (引率)		博物館・美術館 関係者(視察)		その他		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
2012	4月	12	29	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13	30
	5月	4	9	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	11
	6月	7	46	2	4	0	0	1	4	0	0	0	0	10	54
	7月	12	38	1	3	0	0	0	0	0	0	1	40	14	81
	8月	45	134	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	46	143
	9月	6	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	7	19
	10月	12	34	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	13	35
	11月	11	42	2	5	0	0	1	1	0	0	2	11	16	59
	12月	11	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	27
2013	1月	13	68	0	0	0	0	0	0	0	0	1	27	14	95
	2月	21	92	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	22	95
	3月	5	11	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	7	14
合計		159	546	9	20	0	0	2	5	0	0	8	92	178	663

5. 団体入館内訳

県内 小学校

のべ189校 12,457人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	25	真嘉比小学校	45	32	9	6	豊崎小学校	103	63	10	26	西原東小学校	80
2		26	真地小学校	78	33			沖繩クリスチャンスクール	32	64		31	西原小学校	122
3			沖繩クリスチャン学園	15	34		7	西原小学校	78	65			佐敷小学校	67
4		27	大山小学校	187	35			屋良小学校	51	66		1	ニューライフアカデミー (小・中学校)	17
5	5	9	西辺小学校	15	36		11	東風平小学校	150	67			兼城小学校	120
6			城辺小学校	19	37		12	美東小学校	162	68			彩橋小学校	23
7		17	上野小学校	49	38			渡科敷小学校	6	69			具志川小学校	60
8		23	多良間小学校	30	39		13	宜野湾小学校	136	70			糸満小学校	79
9			西城小学校	20	40		14	具志頭小学校	60	71		2	安和小学校	18
10		24	北谷小学校	100	41		21	馬天小学校	58	72			光洋小学校	76
11		25	立東小学校	103	42		26	北大東中中学校	20	73			与那原小学校 3学年	133
12		30	阿波連小学校	4	43		28	本部小学校	9	74			中原小学校	123
13	6	1	北小学校	56	44		28	久米島小学校	33	75			白保小学校	20
14			カトリック学園 海星小学校	12	45	10	3	久高小中学校	9	76		6	天妃小学校	99
15		5	渡名喜小学校	6	46		4	屋我地小学校	18	77		7	船越小学校	43
16		6	狩俣小学校	4	47		5	伊野田小学校	7	78			大里南小学校 4年生	134
17		7	伊良部小学校	30	48		12	東小学校	11	79			伊江小学校	29
18		8	下地小学校	49	49			大北小学校	84	80	11		大里北小学校	27
19		15	久松小学校	43	50		16	オキナフインターナショナル ルスクール	14	81		8	中の町小学校	82
20			比屋定小学校	14	51		19	比屋根小学校	120	82			高嶺小学校	52
21			明石小学校	10	52		23	屋部小学校	82	83		9	坂田小学校	154
22		22	平良第一小学校	82	53		25	兼原小学校	112	84		13	小祿小学校	154
23	7	5	立砂川小学校	25	54			北美小学校	107	85		14	銘苅小学校	136
24		19	壺屋小学校	7	55			彩橋小学校	27	86			北中城小学校	139
25		27	古蔵小学校	23	56			吉原小学校	7	87		15	城東小学校	105
26		29	源河小学校	44	57			城前小学校	65	88			コザ小学校	68
27		31	西原小学校(教職員)	26	58			渡名喜小学校	8	89			名護小学校	129
28	8	4	南小学校 金管バンド部	33	59		26	津覇小学校	87	90			安慶田小学校	73
29			東村立中中学校	43	60			あげな小学校	54	91			仲里小学校	26
30			沖繩県小学校社会科研究会 (職員研修)	26	61			古堅南小学校	130	92		16	白浜・鳩間小・西表小学校 合同修学旅行	15
31		10	B u s y B e e S c h o o l	25	62			読谷小学校	124	93			辺土名小学校	33

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
94	11	16	天久小学校(北那覇法人会青年部)	69	126	12	11	城北小学校	148	158	2	8	瀬底小学校	14
95			立天底小学校	22	127		12	越来小学校	48	159			古蔵小学校	63
96			羽地小学校	64	128		13	座安小学校3年生	92	160			前田小学校	103
97			嘉芸小学校	29	129			美崎小学校	27	161		13	与儀小学校	76
98			知念小学校	46	130			嘉数小学校	151	162		14	銘苅小学校	139
99		20	与那原東小学校	87	131			具志頭小学校	5	163			金城小学校	128
100		21	浜川小学校	95	132			新城小学校	2	164			真嘉比小学校	53
101			恩納小学校	34	133			大宜味小学校	19	165		15	安謝小学校	104
102			北玉小学校	77	134			Busy Bee School	14	166		19	開南小学校	61
103		22	仲西小学校	134	135		14	今帰仁小学校	71	167			小禄小学校	71
104			西崎小学校	110	136			平久保小学校	8	168		20	石嶺小学校	148
105			宮里小学校 4年生	200	137			緑風学園久志小学校	24	169			真和志小学校	92
106			喜納小学校	90	138		16	真喜良小学校	62	170		21	潮平小学校	153
107			米須小学校 5年生	23	139		18	稲田小学校	58	171			天久小学校	103
108			米須小学校 3年生	23	140		20	志真志小学校4年	115	172		22	宜野座小学校	35
109			宮里小学校 5年生	175	141		21	兼次小学校	29	173			松川小学校	100
110		28	与那国小学校	19	142	1	9	識名小学校	127	174			さつき小学校	125
111		29	豊見城小学校	71	143		10	さつき小学校	103	175		26	大道小学校	65
112		30	上本部小学校	27	144			東江小学校	98	176			琉球大学附属小学校	43
113			大原小学校	9	145			牧港小学校	90	177			北谷小学校	88
114			本部小学校	78	146		11	天底小学校	61	178		28	稲田小学校	20
115			真喜屋小学校	33	147		30	宮城小学校	130	179			泊小学校	34
116			大宮小学校	163	148			上間小学校	116	180			壺屋小学校	26
117			辺土名小学校	36	149			内間小学校	105	181	3	1	立長嶺小学校	97
118			白川小学校	78	150		31	伊豆味小学校	39	182		5	久茂地小学校	37
119			清水小学校	35	151			伊平屋小学校・野甫小学校	30	183		6	港川小学校	155
120	12	6	天久小学校	4	152	2	1	松島小学校	124	184		7	泊小学校	33
121			崎枝小学校	5	153		5	城岳小学校	99	185			神森小学校	130
122		7	高原小学校	147	154			オキナワインターナショナルスクール(ふれあい)	24	186			稲田小学校	18
123			名蔵小学校	14	155		6	古蔵小学校	63	187		8	泊小学校	33
124		11	真喜屋小学校	39	156		7	仲井真小学校	113	188		13	泊小学校	62
125			宇栄原小学校	107	157			前島小学校	48	189		14	大名小学校	39

県内 中学校

のべ23校 2,327人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	
1	5	2	コザ中学校	195	9	7	25	普天間中学校	20	17	11	14	兼城中学校	103	
2			南星中学校	224	10		26	首里中学校	30	18		20	具志頭中学校	122	
3			仲泊中学校	91	11	8	1	西原中学校(教職員研修)	20	19		22	真和志中学校	102	
4			大里中学校	143	12		4	石嶺中学校美術部	25	20		30	真喜喜中学校	327	
5			与那原中学校	197	13		8	西原中学校	35	21	12	5	高嶺中学校	57	
6	6	22	久高中学校	34	14			小禄中学校美術部	22	22	2	26	安岡中学校	225	
7	7	4	那覇中学校	66	15	10	4	昭和薬科大学附属中学校	221	23		27	豊見城中学校	5	
8		20	昭和薬科中学校	30	16		31	立彩橋中学校	33						

県内 高校

のべ32校 2,064人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	
1	4	13	石川高校	200	12	7	6	美来工科高校	43	23	10	2	南部農林高校	35	
2		26	沖縄クリスチャン学園	5	13		11	那覇国際高校	10	24		24	水産高校	13	
3		27	首里高校	77	14		18	首里東高校	16	25	11	9	前原高校	299	
4			宜野湾高校	250	15			浦添工業高校	84	26	1	26	教育庁県立学校教育課 沖縄県高校生海外雄飛 プロジェクト	29	
5	5	12	コザ高校	420	16		20	沖縄尚学院高校	22	27		30	浦添高校	11	
6			沖縄工業高等専門学校	35	17		22	普天間高校 3年6組	26	28		31	北部農林高校	41	
7		20	宜野湾高校通信制課程	86	18	8	2	首里東高校	27	29	2	22	那覇工業高校	36	
8		23	南風原高校	27	19		8	美里高校	21	30		26	南部商業高校	74	
9	6	8	美里工業高等学校	39	20		22	北谷高校1年1組	35	31	3	15	那覇工業高校	29	
10		15	那覇工業高等学校 服飾デザイン科	28	21		28	南風原高校女子バレー部	20	32		19	真和志高校	4	
11	7	5	那覇国際高校	4	22	10	2	豊見城南高校	18						

県内 専門学校・大学

のべ13校 445人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	24	沖縄国際大学	20	5		6	沖縄看護専門学校	93	9	9	21	沖縄キリスト教学院大学	38
2	6	23	琉球大学	34	6	7	31	KBC学園IDA	24	10	11	4	沖縄国際大学	33
3		24	県立芸術大学	32	7	8	1	琉球大学留学生センター	33	11	11	14	沖縄国際大学南島歴史ゼミ	22
4	7	4	沖縄国際大学国際交流センター	21	8		21	沖縄大学	20	12	12	1	琉球大学教育学部	35

No.	月	日	学校名	人数
13	1	17	専修学校 沖縄ペットワールド専門学校	40

県内 特別支援学校

のべ12校 276人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	26	沖縄特別支援学校	54	5	7	12	森川特別支援学校 高等部	7	9	12	12	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 (ふれあいのみ)	7
2	5	22	鏡が丘特別支援学校	46	6	10	24	大平特別支援学校・中等部	38	10		18	中城村内3校 特別支援学級	28
3	6	8	沖縄県立那覇特別支援学校	35	7	11	24	大平特別支援学校 高等部 久米島高等学校分教室	10	11	2	5	鏡が丘特別支援学校小学部	30
4			沖縄県立森川特別支援学校	9	8	12	1	沖縄県立沖縄盲学校	7	12	3	13	沖縄県立沖縄ろう学校	5

県内 幼稚園・保育園・その他

のべ104団体 4,256人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	17	こざくら児童クラブ	21	36	8	8	浦城たいよう学童クラブ	33	71	8	21	ゆたか学童クラブ	56
2	6	12	エミール保育園	22	37			学童センターゆいむい	30	72			ともだちや学童	37
3		19	県教育庁県立学校教育科沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト	26	38			リズム	43	73		22	ネットワークそうせい	10
4	7	10	那覇市第2エミール保育園	23	39			なかよし学童クラブ	38	74		23	ネットワークそうせい	10
5		18	おろく保育園	82	40			竹の子学童クラブ	63	75		24	ピノキオ児童クラブ	56
6		24	沢岬学童クラブ	26	41			太陽の子学童クラブ	60	76			松川児童クラブ	57
7		25	ひだまり学童	57	42			木の国学童	125	77			翔南学童クラブ	48
8		25	しいの実学童クラブ	39	43			コロニー児童ディサービス まつもと	23	78		28	神森やまねこ学童クラブ	44
9		26	當間学童クラブ	37	44			北谷町青少年支援センター	21	79		29	沖縄中央育成園あさひ寮	15
10		26	ことぶき学童クラブ	47	45			よなは学童クラブ	47	80		30	泊幼稚園	118
11		27	泊キッズ児童クラブ	28	46			みらい保育園	32	81	9	6	天久保育所	30
12		27	まんまる学童	27	47		9	曙幼稚園	29	82		11	社会福祉法人わかめ福祉会 わかめ保育園	30
13		28	宮城学童クラブ	35	48			みどり町5・6丁目子ども会	27	83			Okinawa International School (幼稚園)	25
14		28	のびのび学園	48	49			平良川学童クラブ	26	84		13	オキナワ インターナショナル スクール(年少クラス)	37
15		28	北谷町上勢子ども会	43	50			にこにこ学童	30	85			さうんど保育園	35
16		31	大育学童クラブ	60	51		10	汀良学童クラブ	79	86	10	6	あさひヶ丘保育園・学童 クラブ	67
17		31	さくらんぼ学童園	42	52			なかきす児童センター	46	87		28	那覇市教育委員会 青少年 育成課	41
18		31	北谷児童館	47	53		11	高志保子供会	33	88	11	14	Okinawa International School	26
19		31	サウンド学童	20	54		14	當間学童児童クラブ	61	89	12	27	神森第二ヤマネコ学童	33
20		31	小祿南児童クラブ	45	55			OKC オキナワキッズクラブ	74	90	1	14	サポートセンターワークワク	9
21	8	1	さざなみ学童クラブ	57	56			沖縄コロニー児童ディサービス くわえ	28	91	2	2	あさひヶ丘学童クラブ	22
22		1	学童館	83	57			垣花児童クラブ	26	92		8	小祿南保育園	57
23		1	児童ディサービスのぼりかわ	22	58		15	学童クラブわらびんちゃ〜	34	93			緑学童	31
24		2	仲西にこにこ学童クラブ	27	59		16	沖縄アミックスインターナショナル アフタースクールプログラム 学童クラブ	69	94		22	わかば教室	10
25		2	宮城ヶ原児童センター	26	60			学童クラブわんぱく家	37	95		26	那覇市立南城幼稚園	41
26		2	若狭児童クラブ	47	61			愛心学園	33	96			テクノ保育園	22
27		2	金武町子ども会	44	62			城北児童クラブ	43	97	3	5	こがねの森保育園	49
28		2	めかるっ子児童クラブ	31	63			よなは学童	42	98			天久幼稚園	66
29		2	北園学園	31	64		17	太陽の子保育園	35	99		6	みらい保育園・学童	40
30		3	銘苅公民館	36	65			カトリック沖縄学園学童クラブ	69	100		16	北谷町立宮城児童館	45
31		3	のびのび学童クラブ	48	66			ひよこの家学童 CLUB	66	101		27	なかきす児童センター	53
32		7	海南児童クラブ	39	67			神森どんぐり学童クラブ	44	102			小祿南児童クラブ	30
33		7	西原児童館	26	68		19	太田子ども会	62	103		28	みはら保育園	25
34		7	学童 (とびこみ)	26	69		21	金武町子ども会育成連絡協 議会	25	104		29	宮城ヶ原児童センター	22
35		7	津嘉山学童クラブ	58	70			社会福祉法人わかめ福祉会 わかめ児童クラブ	50					

県外 小学校

のべ5校 261人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	9	伊仙町3校合同小学校	30	3	8	23	国土館大学キャンパススクール	48	5	2	5	横浜雙葉小学校 (神奈川県)	96
2	7	11	龍郷町立龍瀬小学校 (鹿児島県)	15	4	10	24	常葉学園大学教育学部附属 小学校 (静岡県)	72					

県外 中学校

のべ5校 364人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	9	岡山中央中学校 (岡山県)	30	3	5	30	東京韓国学校中等部 (東京都)	80	5	10	7	ラ・サール中学校 (鹿児島県)	176
2		11	河合第一中学校 (奈良県)	63	4	6	22	高島市立高島中学校 (滋賀県)	15					

県外 高校学校

のべ40校 5,456人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	6	土佐塾高校 (高知県)	131	15	11	16	習志野市立習志野高校 (千葉県)	30	29	12	14	富士宮東高校定時制 (静岡県)	14
2	5	24	愛知教育大学附属高校 (愛知県)	208	16		20	共栄学園高校 (東京都)	306	30			身延高校 (山梨県)	104
3	6	1	あいち造形デザイン専門学校 (高等課程)	97	17			笛吹高校 (山梨県)	42	31			武蔵野北高校 (東京都)	249
4		19	明法高等学校 (東京都)	140	18		21	甲府市立甲府商業高校 (山梨県)	37	32		15	吉井高校 (群馬県)	148
5		24	所沢西高等学校 (埼玉県)	333	19		28	東海大学菅生高校 (東京都)	33	33		18	屋代高校 (長野県)	124
6	10	2	学習院高等科 (東京都)	205	20		30	長野県松代高校 (長野県)	83	34		19	松阪高校 (三重県)	332
7			吉田高校 (山梨県)	41	21	12	4	宇都宮短期大学附属高校 (栃木県)	249	35			神奈川大学附属高校 (神奈川県)	28
8		10	土岐紅陵高校 (岐阜県)	114	22			宇都宮短期大学附属高校 (栃木県)	235	36	1	17	法政大学高校 (東京都)	8
9		13	聖隷クリストファー高校 (静岡県)	79	23		5	宇都宮短期大学附属高校 (栃木県)	260	37		31	西城高校 (大阪府)	33
10		24	石川県立工業高校デザイン科 (石川県)	42	24		6	小山高校2年1組 (静岡県)	43	38	2	6	新居高校 (静岡県)	28
11		25	横浜清風高校 (神奈川県)	444	25		7	三ヶ日高校 (静岡県)	61	39		8	中野工業高校 (東京都)	24
12		26	東日本国際大学附属昌平高校 (福島県)	56	26		11	甲府第一高校 (山梨県)	288	40	3	16	同志社国際高校 (京都府)	36
13	11	13	甲府昭和高校 (山梨県)	289	27			巨摩高校 (山梨県)	248					
14		15	木更津高校 (千葉県)	25	28		12	観音寺中央高校 (香川県)	209					

県外 専門学校・大学

のべ6校 247人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	22	昭和学院短期大学	82	3	9	1	東海大学	14	5	12	14	京都造形大学 (京都府)	8
2	8	30	福岡大学 歴史学科	74	4		14	同志社女子大学 日下ゼミ	27	6	3	1	DWCLA スクリングクラブ (同志社女子大学)	42

県外 特別支援学校

のべ1校 16人

No.	月	日	学校名	人数
1	5	9	秋田大学教育文化部附属特別支援学校高等部 (秋田県)	16

県外 幼稚園・保育園・その他

のべ1校 9人

No.	月	日	学校名	人数
1	4	30	NPO法人 ひかりの輪	9

県外 その他 (基地内含む)

のべ4団体 171人

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	5	22	嘉手納基地内アメリカンスクール	92	3	7	20	ステアラーハイツ小学校	11
2		30	Kadena High School	47	4	12	6	青年海外協力協会 絆プロジェクト	21

II 施設利用者統計

1. 月別施設利用集計

単位：件

項目	博物館				美術館				共有				その他				合計	
	特別展示室	企画展示室	博物館講座室	実習室	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	子供アトリエ	スタジオ	県民ギャラリー	講堂	エントランス	3階回廊	屋外展示場	中庭		
2012	4月	0	0	15	7	0	0	25	3	2	6	7	11	0	0	0	0	76
	5月	0	0	14	5	0	0	28	5	3	7	4	4	0	0	0	0	70
	6月	0	0	22	8	0	0	23	6	1	15	6	3	0	0	0	0	84
	7月	0	0	23	7	0	0	29	10	9	13	5	14	0	0	0	0	110
	8月	0	0	22	5	0	0	26	10	1	15	8	13	0	0	0	0	100
	9月	0	0	20	8	0	0	27	5	2	16	9	9	0	0	0	0	96
	10月	0	0	21	10	0	0	29	9	5	19	8	21	0	1	2	0	125
	11月	0	0	23	7	0	0	34	10	6	16	7	22	0	0	0	0	125
	12月	0	0	21	11	0	0	29	5	5	11	8	12	1	0	0	0	103
2013	1月	0	0	22	8	12	12	28	8	5	17	7	13	0	0	1	0	133
	2月	0	0	19	14	0	0	32	14	12	23	7	18	1	0	1	0	141
	3月	0	0	23	9	0	0	31	14	7	19	8	20	0	0	0	0	131
合計	0	0	245	99	12	12	341	99	58	177	84	160	2	1	4	0	1,294	

2. 施設貸出内訳

【2012年4月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	日	博物館講座室	宮城 美佐子 ロスコアカデミー	15	11	水	美術館講座室	オムファム(株) 第18期 経営計画発表会
2	1	日	スタジオ	宮城 美佐子 アロマ勉強会	16	11	水	講堂	沖縄タイムス 次世代広告セミナー「ハイブリット広告術」～Facebookと新聞広告で未来を切り拓く～
3	1	日	美術館講座室	ミキ・ワールド沖縄 食の勉強会	17	13	金	博物館実習室	アクサ生命保険(株) キャリアセッション
4	1	日	美術館講座室	世界平和海洋訓練教育協会 沖縄海洋趣味セミナー	18	13	金	博物館講座室	(株イーサー) 日本MySQLユーザー会沖縄支部第1回セミナー
5	1	日	講堂	平良音楽教室 発表会	19	13	金	スタジオ	沖縄起業倶楽部
6	5	木	博物館講座室	(株)オイドン・ジャパン 計算・管理システム説明会	20	13	金	美術館講座室	沖縄弁護士会 遺言で築こう家族の平和『無料相談会』
7	5	木	美術館講座室	(株)阪急交通社 沖縄支店 阪急トラピックス 海外旅行説明会	21	13	金	講堂	沖縄弁護士会 遺言で築こう家族の平和『講演会』
8	6	金	美術館講座室		22	14	土	博物館講座室	(株)日本脳力開発研究所 シニアと主婦のためのメンタルトレーニング講演会
9	6	金	博物館講座室	(株)エヌティエイチ クイーンズヘナ愛用者セミナー	23	17	火	博物館講座室	盛和塾沖縄キックオフ会
10	6	金	美術館講座室	(AIU)代理店会 総会	24	17	火	スタジオ	ローハスジャパン環境浄化の講演会
11	7	土	講堂	日高貞子 箏 KOTO コンサート	25	17	火	美術館講座室	ユニバーサルコンパス講演会
12	8	日	講堂	アステラス製薬(株) 排尿障害市民公開講座	26	17	火	美術館講座室	ユニバーサルコンパス化粧品ウソ?ホント?
13	10	火	美術館講座室	I.Eユニオン インテンションエネジー研修会	27	18	水	美術館講座室	タマホーム沖縄協力会工程会議
14	11	水	博物館講座室	沖縄県損害保険代理業協会 日本代協保大学校セミナー	28	18	水	講堂	(財)沖縄県労働者福祉基金協会 労福協フォーラム

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
29	19	木	博物館 講座室	盛和塾沖縄 定例会	49	26	木	博物館 講座室	グッジョブ推進事業局 4月度全体会議・研 修会
30	19	木	博物館 講座室	りゅうせき商事(株)会社説明会	50	27	金		
31	19	木	美術館 講座室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 「儲かる名刺」から考える個人ブランディ ングセミナー	51	27	金	講堂	情報労連沖縄協議会 平和学習会
32	20	金	博物館 実習室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会事務局	52	28	土	博物館 講座室	万国津梁機構 講演会
33	20	金	博物館 講座室	(社)次世代自動車振興センター 「環境対応車普及促進補助事業」応募説明会	53	28	土	スタジオ	シュッシュ事業説明会
34	20	金	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング(株) 安全大会	54	28	土	県民ア トリエ	(有)グローバル 面接会場
35	20	金	スタジオ	ビオ倶楽部 アミノ酸についての勉強会	55	28	土	子供ア トリエ	版の会 版画教室
36	20	金	美術館 講座室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会	56	28	土	講堂	ヤマハ音楽教室オリエンテーション& 入会おめでとうコンサート
37	20	金	講堂	のはら元気クリニック 第13回サイモントン講演会	57	29	日		
38	21	土	博物館 実習室	家庭倫理の会那覇市 支部長研修	58	29	日	美術館 講座室	ミキ・ワールド沖縄 食の勉強会
39	21	土	県民ア トリエ	(有)グローバル 面接会場	59	7・ 14・ 21・ 28	土	美術館 講座室	沖縄語普及協議会講師養成講座
40	21	土	子供ア トリエ	写真作家入門					
41	21	土	美術館 講座室	沖縄の教育を良くする会 生命の光					
42	21	土	講堂	映画ふじ制作委員会 映画「ふじ学徒隊試写会」	60	6~8	金	博物館 実習室	(株)ノエビア スキンケアアドバイザー研修
43	22	日	スタジオ	おきなわ水素研究会 日本メトロポリタン事業説明会			土		
44	22	日	美術館 講座室	(株)デグノ 野中博士講演会			日		
45	25	水	県民ア トリエ	写真展「眼の記憶」実行委員会 写真選定	61	4・ 22	水	美術館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座
46	25	水	美術館 講座室	大城マネジメント研究所			日		
47	25	水	美術館 講座室	G F I ハッピークラブ沖縄	62	5・ 24	木	美術館 講座室	ライフバンテージ 勉強会
48	25	水	博物館 講座室	グッジョブ推進事業局 4月度全体会議・研 修会			火		

【2012年5月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	3	木	県民ア トリエ	琉球 BellyDance Priscilla ダンスの練習	9	10	木	博物館 講座室	盛和塾 定例会
2	6	日	美術館 講座室	グループ遊雅コンベンション	10	10	木	博物館 講座室	全管協共済会説明会
3	8	火	スタジオ	なぜ?ビオ倶楽部説明会	11	11	金	美術館 講座室	地球温暖化とモア・プロジェクトジャパンの 活動報告
4	8	火	博物館 実習室	(株)エヌ・ティ・エイチ 愛用者セミナー	12	12	土	博物館 講座室	飛鳥昭雄ファンクラブ 失われた琉球民族沖縄のロゼッタストーンの 謎
5	8	火	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	13	12	土	スタジオ	ビオ倶楽部(株) メーカー講演会
6	9	水	博物館 実習室	ノエビア ビューティーカレッジ	14	12	土	県民ア トリエ	(有)グローバル 面接会場
7	9	水	博物館 講座室	(株)ジュン・プライド事業説明会	15	12	土	美術館 講座室	happ 理事会
8	9	水	美術館 講座室	ヒューマン&アソシエイツ 沖縄沖縄の社長TV初期研修	16	12	土	美術館 講座室	イプラスジム那覇 子どもの発達に役立つ ビジョントレーニング 講習会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
17	13	日	美術館 講座室	(有)ソーシャルライアンス琉球 南原竜樹 講演会	41	25	金	博物館 講座室	沖縄県文化協会 平成24年度沖縄県文化協会定例総会
18	15	火	博物館 実習室	沖縄復帰40周年記念イベント 「復帰っ子と語る沖縄のこれから」	42	25	金	美術館 講座室	(株)プリリアント上田 メイクアップフォーラム
19	15	火	美術館 講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議	43	26	土	博物館 講座室	Etsuko chidester doterra—アロマ講習会
20	16	水	博物館 講座室	阪急交通社海外旅行説明会	44	26	土	スタジオ	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
21	17	木	美術館 講座室	I.Eユニオン インテンションエネジー研修会	45	26	土	美術館 講座室	happ 理事会
22	17	木	美術館 講座室	沖縄美術 in New York 記者発表会	46	27	日	博物館 講座室	(株)デグノ 野中博士講演会
23	17	木	講堂	(株)琉球ファクトリー 立川直樹 講演会	47	27	日	博物館 講座室	コアの会沖縄 石川三知先生のスポーツ栄養 講演会
24	18	金	博物館 実習室	日本PAS協会 選択制確定拠出年金 研修会((アドバイザー 向け)	48	27	日	スタジオ	クラヴィスジャパン(株) マグネクラヴィス水 の勉強会
25	18	金	博物館 講座室	ピオ倶楽部(株) 呉崎医学博士講演会	49	27	日	県民ア トリエ	JAViTA ハーブコーヒーの勉強会
26	18	金	スタジオ	阪急交通社 海外旅行説明会	50	27	日	美術館 講座室	沖縄県美術家連盟 総会
27	18	金	美術館 講座室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC実践会	51	29	火	博物館 講座室	富士通エフ・オー・エム(株) 沖縄県電子札システム利用者説明会
28	18	金	美術館 講座室	沖縄県囲碁連盟 平成24年度総会	52	29	火	美術館 講座室	七田チャイルドアカデミー 保護者セミナー
29	19	土	スタジオ	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	53	29	火	美術館 講座室	協同組合沖縄産業計画 「多様な陶器生産システム構築事業」 平成24年度 第1回製品開発・情報発信部会
30	19	土	県民ア トリエ	アルゼンチンタンゴ&チャチャチャワークシ ョップ	54	30	水	博物館 講座室	レコ琉球 社員ミーティング
31	19	土	子供ア トリエ	版の会 版画教室	55	30	水	美術館 講座室	第80回 未来塾おきなわ 山田昭男塾長80 歳記念講演会 第2会場
32	20	日	県民ア トリエ	(株)石川クラブ IPS パタパタ会	56	30	水	講堂	第80回 未来塾おきなわ 山田昭男塾長80 歳記念講演会
33	20	日	美術館 講座室	(株)ハウ コーヒーエネマご愛好者フォローア ップ講習会	57	31	木	博物館 講座室	イオン琉球(株)2013年新卒採用選考筆記試験 第1会場
34	20	日	講堂	Life Career Up 入社3年目からのキャリア デザイン	58	31	木	美術館 講座室	イオン琉球(株)2013年新卒採用選考筆記試験 第2会場
35	22	火	美術館 講座室	ブライツコンサルティング 沖縄支社 採用 選考会	59	5・ 12・ 19・ 26	土	美術館 講座室	沖縄語普及協議会講師養成講座
36	23	水	スタジオ	(株)シーガル ミーティング					
37	23	水	美術館 講座室	(株)大城マネジメント 「成果主義給与体系&業績賞与の算出方法」	60	13・ 27	日	美術館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座
38	23	水	講堂	日本公文教育研究会 夏特コミュニケーション 講座					
39	24	木	博物館 講座室	協同組合沖縄産業計画 「多様な陶器生産システム構築事業」 平成24年度 第1回坯土生産技術開発部会	61	12・ 26	土	子供ア トリエ	光画文化研究所 写真作家入門
40	24	木	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会					

【2012年6月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	金	博物館 講座室	アールブランニング Creators Night vol.5 Adobe 次世代ツール セミナー	4	1	金	県民ア トリエ	NPO法人福祉総合評価機構 社会福祉簿記認定試験問題作成
2	1	金	美術館 講座室	阪急交通社 海外旅行説明会第1会場	5	2	土	県民ア トリエ	
3	1	金	スタジオ	阪急交通社 海外旅行説明会第2会場	6	2	土	美術館 講座室	瀬底正代 様 浦鉄平セミナー

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報 (申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報 (申込者)
7	3	日	博物館 講座室	日建学院 設計図講習会	34	12	火	美術館 講座室	㈱サンク複合決済端末事業説明会
8	3	日	博物館 講座室	(有) インプレスト 日中ジャーナリスト交流会議シンポジウム	35	13	水	博物館 講座室	盛和塾沖縄 定例会
9	3	日	美術館 講座室	ミキ・ワールド	36	13	水	スタジオ	カイアニジャパン研修会
10	3	日	講堂	ピアノハウス ジュスト HAPPY CONCERT ト	37	13	水	美術館 講座室	阪急交通社トラピックス 国内旅行説明会 ()
11	5	火	博物館 講座室	ウェイクアップジャパン ウェイクアップナウ特別講演会 ()	38	14	木	博物館 実習室	スマイル沖縄健康セミナー
12	6	水	博物館 講座室	㈱エヌ・ティ・エイチ クイーンズヘナ愛 用者セミナー	39	14	木	博物館 講座室	NTT 労組 西本部総対話
13	6	水	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉 強会	40	14	木	博物館 講座室	インヴェルジャパン セミナー
14	7	木	スタジオ	ローハスジャパン	41	14	木	美術館 講座室	沖縄県観光政策課 平成 24 年度 沖縄県観光関連事業説明会
15	7	木	博物館 講座室	一般社団法人次世代自動車振興センター 平成 24 年度「クリーンエネルギー自動車等 補助」説明会	42	15	金	博物館 講座室	のはら元氣クリニック 第 14 回サイモント療法 講演会
16	7	木	美術館 講座室	グッジョブ沖縄推進事業局 6 月度全体会議	43	15	金	博物館 講座室	りゅうせき商事(株) 平成 25 年度採用試験
17	7	木	講堂	沖縄総合事務局調査企画課 沖縄振興新制度説明会～沖縄力発掘～イノ ベーションの促進による新たなビジネスの 創造 ()	44	15	金	スタジオ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸事業説明会
18	8	金	博物館 実習室	ヒューマン&アソシエーション沖縄 2012 年度半期ミーティング	45	15	金	美術館 講座室	㈱アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会
19	8	金	スタジオ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸事業説明会	46	16	土	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇市 テキスト研修
20	8	金	県民ア トリエ	㈱ベニーノ ㈱ロアル事業説明会	47	16	土	スタジオ	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
21	8	金	美術館 講座室	ヒートポンプ蓄熱センター 平成 24 年度 電力負荷平準化・省エネ社会 実現セミナー	48	16	土	子供ア トリエ	版の会 版画教室
22	9	土	博物館 実習室	沖縄県明るい選挙推進青年会 VOTE これであなともツカミは OK ～選挙公報の読 み方～	49	16	土	美術館 講座室	琉球大学国際沖縄研究所国際シンポジウム
23	9	土	博物館 講座室	イオスコオペレーション 箕浦伸禎先生講演会 I N 沖縄	50	17	日	博物館 講座室	秘書クラブ 秘書技能検定試験
24	9	土	博物館 講座室	日本折紙協会琉球支部 琉球支部設立 5 周年記念おりがみ展ワーク ショップ	51	17	日	スタジオ	海氣コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座
25	9	土	県民ア トリエ		52	17	日	スタジオ	(有) デュオ English Camp グラム・セブ留 学説明会
26	9	土	美術館 講座室	インテンションエナジーユニオン インテンションエナジー研修	53	17	日	美術館 講座室	モアプロジェクト 地球温暖化とモアプロジェクトジャパンの活 動報告
27	9	土	美術館 講座室	琉球 Software ㈱ 琉球 Software 株式会社 採用試験	54	17	日	美術館 講座室	高橋信次ビデオ上映会
28	10	日	博物館 講座室	秘書クラブ サービス実検技能検定試験	55	19	火	博物館 実習室	アクサ生命(株) 社内研修
29	10	日	スタジオ	おきなわ水素研究会 日本メトロポリタン 事業説明会	56	19	火	博物館 講座室	公共建築協会 一新営予算単価と設計料算定—説明会
30	10	日	美術館 講座室	㈱日経フォーラム 全国学力カップ	57	19	火	県民ア トリエ	㈱ベニーノ 事業説明会
31	10	日	講堂 博物館	㈱日経フォーラム 全国で話題沸騰!あの パズル道場のノウハウ公開セミナー	58	19	火	美術館 講座室	盛和塾沖縄 キッフオフ会
32	12	火	博物館 実習室	アクサ生命(株) 社内研修	59	19	火	美術館 講座室	タマホーム沖縄 協力会業者工程会議
33	12	火	博物館 講座室	㈱ミロク情報サービス 平成 24 年度税制改正の概要	60	20	水	博物館 講座室	万国医療津梁協議会平成 24 年度総会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
61	21	木	美術館 講座室	福働会 定時総会・セミナー	70	19 ～ 24	火	スタジオ	(株)ダイアナ 3Dボディースキャナ体験 イベント
62	22	金	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会			水		
63	23	土	美術館 講座室	定時支部総会			木		
64	23	土	美術館 講座室	万国津梁機構 定例講演会			金		
65	23	土	博物館 講座室	沖縄県眼科医会 第110回 沖縄眼科集談会			土		
66	24	日	博物館 講座室	沖繩県眼科医会 第110回 沖繩眼科集談会	日				
67	24	日	博物館 講座室	(株)デグノ 野中博士講演会	71	6・ 9・ 16	土	博物館 実習室	沖繩語普及協議会 沖繩語講師養成講座
68	24	日	県民ア トリエ	(株)カードワン 事業説明会					
69	24	日	美術館 講座室	JAVITA ハーブコーヒーの勉強会					

【2012年7月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	4	水	博物館 講座室	求人おきなわ 2013年度新卒者採用試験	20	10	火	美術館 講座室	イオン琉球 SSM 同友店連合会知花支部結 成総会
2	4	水	スタジオ	おきなわ水素研究会 日本メトロポリタン 事業説明会	21	11	水	博物館 講座室	明治安田生命 会議
3	4	水	美術館 講座室	盛和塾沖縄 キッフオフ会	22	11	水	講堂	エキスパートアライアンス 一般社団法人チェンジメーカーズ会長中川 会長講演会
4	4	水	講堂	東進衛星予備校那覇安里校 公開授業	23	12	木	博物館 実習室	カイヤニジャパン研修会
5	5	木	スタジオ	(株)エヌ・ティ・エイチ クイーンヘナエヌ・ティ・エイチセミナー	24	12	木	美術館 講座室	阪急交通社 海外旅行説明会第1会場
6	5	木	美術館 講座室	イオン琉球(株) M3 筆記試験	25	12	木	スタジオ	
7	5	木	美術館 講座室	グローバルハイシティー事業説明会	26	12	木	県民ア トリエ	(株)カードワン 事業説明会
8	6	金		27	12	木	美術館 講座室	盛和塾沖縄 勉強会	
9	6	金	博物館 講座室	幸地啓子税理士事務所 社会福祉社会簿記「入門講座」	28	13	金	博物館 講座室	沖縄県高等学校校長協会 第3回定例研 究協議会
10	7	土	博物館 講座室	南九州大学 第3回沖縄教育講演会	29	13	金	スタジオ	インヴェル・ジャパン説明会
11	7	土	博物館 講座室	琉球大学国際沖縄研究所 琉球・沖縄研究フォーラム 「琉球・沖縄の文化・環境・生業・工芸」 (有) グローバル 面接会場	30	13	金	美術館 講座室	グジョブおきなわ推進事業局 沖縄県委託事業 沖縄型ジョブシャドウイン グ事業7月度全体会議
12	7	土	県民ア トリエ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	31	13	金	講堂 博物館	沖縄情報通信懇談会 デジタルコンテツ セミナー
13	7	土	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	32	14	土	実習室	(株)ジーエム 鉦山に関する事業説明会
14	7	土	美術館 講座室	(株)東恩納組 自分らしさを追及した家づくり基礎講座 住まいのお金	33	14	土	博物館 講座室	インテンションエネルギーユニオン インテンションエネルギー研修
15	7	土	講堂	障害者就業生活支援センター ディーダー& ティムティム ジョブコーチ実践フォーラム in 沖縄	34	14	土	スタジオ	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
16	8	日	博物館 講座室	(株)トリム・トリムフーズ飲食事業部 繁生集会 (総会)	35	14	土	県民ア トリエ	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
17	8	日	美術館 講座室	勉強会	36	14	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会「生命の光」上映 会
18	8	日	講堂	現代漢字成り立ち教育研究会 教育講演会「漢字っておもしろい」	37	15	日	博物館 講座室	日本瘦身医学協会 / 元氣堂 新都心店 日本瘦身医学協会 ハイサイセミナー
19	10	火	博物館 講座室	メイドインジャパンプロジェクト沖縄 産地の物が売れない時代に何をすべきか？	38	15	日	博物館 講座室	正法神理を学ぶ同好会 高橋信次ビデオ上 映会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
39	16	月	博物館講座室	平良睦子 JAVITA ハーブコーヒーの勉強会	66	22	日	美術館講座室	㈱ハウ コーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習 会
40	18	水	博物館実習室	インヴェルジャパン事業説明会	67	24	火	美術館講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会
41	18	水	博物館講座室	沖縄県労政能力開発課 平成24年度労働大学講座及び「勤労青少年 の日」記念講演会	68	24	火	スタジオ	㈱KIO 東洋医学健康セミナー
42	18	水	スタジオ	㈱東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	69	24	火	講堂	沖縄ゾントクラブ STAND 一立ち上がる選択 性暴力被害者の生きる姿
43	18	水	県民ア トリエ	イタリアントマト Cafe jr 沖縄エリア店長勉 強会	70	25	水	県民ア トリエ	特定非営利活動法人沖縄県工芸産業協働セン ター ジャパンブランド合同会議
44	18	水	美術館 講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議	71	25	水	子供ア トリエ	
45	18	水	美術館 講座室	秘書クラブ 面接試験対策講座	72	25	水	スタジオ	スマートインターナショナルビジネスジャパ ン GSS 事業説明会
46	19	木	博物館 実習室	スマイル沖縄 事業説明会	73	26	木	スタジオ	
47	19	木	博物館 講座室	沖縄県損害保険代理業協会 日本代協 認定保険代理士更新研修	74	26	木	県民ア トリエ	琉球 BellyDance Priscilla ダンス練習
48	19	木	県民ア トリエ	琉球 BellyDance Priscilla 発表に向けて の練習	75	26	木	子供ア トリエ	
49	19	木	子供ア トリエ		76	26	木	美術館 講座室	クラブロスコ勉強会
50	19	木	美術館 講座室	㈱アイエヌジーアットマーク沖縄 ライバルより一歩先行く集客できる！「イン タレストマッチ」	77	26	木	講堂	沖縄コンベンションビューロー 短編映画「ニービチの条件」優秀賞受賞記念 上映会
51	19	木	講堂	㈱アドスタッフ博報堂 元氣プロジェクト公 募説明会	78	27	金	県民ア トリエ	コープおきなわ すごい弁当力〜人と自分を大切に作る食〜
52	20	金	博物館 講座室	ヒートポンプ蓄熱センター 平成24年度 業務用ヒートポンプ給湯シス テム設計支援セミナー	79	27	金	子供ア トリエ	
53	20	金	スタジオ	琉球ファクトリー 新規学卒者パワフルサポートプログラムB グループ会議	80	27	金	講堂	
54	20	金	美術館 講座室	㈱アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会	81	27	金	美術館 講座室	フロム沖縄推進機構 第1回BPO人材育成協 議会
55	20	金	美術館 講座室	アールプランニング Creators Night vol.6 デジタルノイズセ ミナー	82	27	金	講堂	沖縄教育カレッジ夏季講習会
56	21	土	博物館 実習室	美術家連盟 会議	83	27	金	美術館 講座室	沖縄クラブロスコミーティング
57	21	土	博物館 講座室	NPO法人エクシード 沖縄建設マネジメントフォーラム	84	27	金	スタジオ	グローバルハイシティー 勉強会
58	21	土	美術館 講座室	happ 理事会	85	28	土	博物館 実習室	
59	21	土	講堂	第6回 ミュージックスクールグローリア 音楽発表会	86	28	土	博物館 講座室	万国津梁機構 万国津梁機構定例講演会
60	21	土	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇市 役職者テキスト研修	87	28	土	スタジオ	ビオ倶楽部㈱ メーカー講演会
61	22	日	博物館 講座室		88	28	土	スタジオ	㈱東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座
62	21	土	美術館 講座室	琉球環境文化史研究会 / 札幌大学 琉球環境文化史研究会	89	28	土	県民ア トリエ	アートキャンプ2001実行委員会 夏休みワークショップ「何でも材料、何でも 作ろう」
63	22	日	美術館 講座室		90	28	土	子供ア トリエ	
64	22	日	博物館 講座室	平成24年度 沖縄工業高等専門学校 説明会	91	28	土	美術館 講座室	㈱ミロス研究所 第7期ミロスリスト養成講座
65	22	日	子供ア トリエ	版の会 版画教室	92	29	日	博物館 講座室	

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
93	28	土	講堂	玉城流いずみ会 おもろまち支部道場 第3回学習発表会 リハーサル	98	31	火	講堂	沖縄防衛局 第17回 防衛セミナー
94	29	日	講堂	玉城流いずみ会 おもろまち支部道場 第3回学習発表会	99	7・14・21	土	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門
95	29	日	博物館実習室	玉城流いずみ会 おもろまち支部道場 第3回学習発表会 控室					
96	29	日	美術館講座室	加藤明医学博士による健康講座	100	24～27	火～金	博物館講座室	アメリカンホーム保険会社 社内研修会
97	31	火	県民アトリエ	琉球 BellyDance Priscilla ダンス練習					

【2012年8月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	水	講堂	県立総合保険福祉センター 平成24年度ゲートキーパー養成研修	23	9	木	スタジオ	(株)ビオ倶頼部 呉崎医学博士講演会
2	2	木	博物館講座室	インフォマティクス 空間情報シンポジウム2012 沖縄	24	9	木	美術館講座室	日本公文教育研究会 Ba b y kumon 開設後研修
3	2	木	県民アトリエ	琉球 Belly Dance Priscilla ダンス練習	25	9	木	美術館講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議
4	2	木	子供アトリエ		26	10	金	県民アトリエ	琉球 BellyDance Priscilla ダンスの練習
5	2	木	美術館講座室	協同組合沖縄産業計画 平成24年度「坏土生産技術開発部会」	27	10	金	県民アトリエ	ビオ倶頼部(株) ビデオ撮影
6	3	金	博物館講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	28	10	金	美術館講座室	グッジョブおきなわ推進事業局 沖縄県委託事業 沖縄型ジョブシャドウウィング事業 8月度全体会議
7	3	金	スタジオ	スターライズ 環境セミナー	29	10	金	美術館講座室	マカオンアール沖縄 パースデーカラー勉強会
8	3	金	美術館講座室	(社)沖縄県損害保険代理業協会 日本代協 認定保険代理士 認定試験	30	10	金	講堂	happ 音楽祭の作り方シンポジウム
9	4	土	博物館講座室	フロム沖縄推進機構 ET ロボコン2012 沖縄地区試走会1	31	11	土	スタジオ	ビオ倶頼部(株) ビデオ撮影
10	4	土	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	32	11	土	美術館講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
11	4	土	美術館講座室	正法神理を学ぶ同好会 高橋信次ビデオ上映会	33	11	土	講堂	琉球大学生涯学習研究センター 琉球大学公開講座「市民ランナーのためのマラソン・ランニング科学講座」
12	4	土	講堂	NPO 法人キャリアイト はたらくを考える講演会 ～ここから「就活」のヒントを見つけよう～	34	11	土	講堂	オスプレイの配備について考える県民有志の会 オスプレイについて知る集い
13	7	火	博物館講座室	りゅうせき商事(株) 住生活総合サポートセミナー	35	11	土	博物館講座室	琉球大学国際沖縄研究所 シンポジウム「<沖縄学>を問い直す一過去・現在・未来へ」
14	7	火	スタジオ	(株)ビオ倶頼部 呉崎医学博士講演会	36	12	日		
15	7	火	県民アトリエ	(株)ビオ倶頼部 呉崎医学博士講演会	37	12	日	県民アトリエ	(株)ベニーノ 事業説明会
16	7	火	講堂	沖縄総合事務局 第2回本土復帰40周年記念講演会「沖縄力発掘！」	38	12	日	美術館講座室	(株)七田チャイルドアカデミー 七田教育がよくわかるセミナー
17	8	水	博物館講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会	39	13	月	講堂	沖縄県特別支援学校中学部総合文化祭 準備
18	8	水	美術館講座室	(株)エヌティエイチ クイーンズヘナ愛用者セミナー	40	14	火	講堂	沖縄県特別支援学校中学部総合文化祭
19	8	水	美術館講座室	盛和塾沖縄 キックオフ会	41	14	火	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座
20	8	水	県民アトリエ	琉球 BellyDance Priscilla ダンスの練習	42	14	火	美術館講座室	(株)インヴェルジャパン インヴェル・ジャパン説明会
21	9	木			43	15	水	博物館実習室	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一EC実践会勉強会
22	9	木	博物館実習室	(株)カードダウン事業説明会	44	15	水	県民アトリエ	沖縄アールブリュット 定例会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
45	15	水	美術館 講座室	(株)健康広場 健康セミナー	68	24	金	美術館 講座室	(株)地域科学研究所 自治体経営セミナー
46	16	木	美術館 講座室	あいおいニッセイ同和労組 沖縄区会総会	69	25	土	博物館 講座室	万国津梁機構 万国津梁機構定例講演会
47	17	金	スタジオ	琉球ファクトリー 新規学卒者 パワフルサポートプログラム Bグループ会議	70	25	土	美術館 講座室	ロスコバランス 未来文明の愛で財の循環
48	17	金	美術館 講座室	(株)アイエスジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会	71	25	土	講堂	琉球大学 第5回 沖縄学生ビジネスアイデアテスト 最終発表会
49	17	金	美術館 講座室	ロスコバランス ミロス・ミーティング	72	28	火	博物館 講座室	盛和塾沖縄 勉強会
50	17	金	講堂	医療法人ミラゾルのはら元気クリニック / (株) 経営科学出版 断捨離 講演会	73	28	火	スタジオ	ビオ倶楽部(株) メーカー講演会
51	18	土	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	74	28	火	美術館 講座室	沖縄和僑会事務局 / 海邦総研 沖縄和僑会四火会セミナー
52	18	土	スタジオ	ビオ倶楽部(株) メーカー講演会	75	29	水	博物館 講座室	(株)求人おきなわ 人事労務管理制度・メンター制度導入セミナー
53	18	土	美術館 講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロリスト養成講 座	76	29	水	美術館 講座室	沖縄中小企業労働福祉協会 第37期定期総 会
54	18	土	美術館 講座室	NP0 法人日本ホリスティック医学協会沖縄事 務局 / のはら元気クリニック 統合医療フォーラム	77	29	水	美術館 講座室	一般社団法人沖縄観光の未来を考える会 アクション委員会 会議
55	18	土	講堂	琉球大学法文学部地域貢献フォーラム	78	29	水	講堂	日本公文教育研究会 社長講座
56	19	日	博物館 講座室	(株)ロスコバランス ロスコアカデミー	79	30	木	博物館 講座室	沖縄県労働者福祉基金 就職生活支援セミナー地域での精神医療の取 組みについて
57	19	日	講堂	武富共有会 世にもウムッサル話 2012 ～テイドゥムニに親しむ集い～	80	3～ 4	金 土	博物館 実習室	沖縄タイムス 夏休みものづくり教室 ロボットアカデミー
58	21	火	博物館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会	81	7～ 8	火 水	スタジオ スタジオ	沖縄 DFS (株) アプレンティストトレーニング 準備 沖縄 DFS (株) アプレンティストトレーニング
59	21	火	県民ア トリエ	happ 「夏休みねんどアニメ教室」	82	9～ 10	木 金	博物館 講座室	日本証券業協会 平成24年度 授業に役立つ金融経済セミナー
60	21	火	美術館 講座室	(株)大城マネジメント研究所 研修会	83	14 ～ 17	火 ～ 金	博物館 講座室	アメリカンホーム保険会社 社内研修会
61	22	水	博物館 講座室	日本公文教育研究会 Baby Kumon 開設後研 修	84	21 ～ 23	火 水 木	スタジオ	沖縄 DFS (株) SLE トレーニング
62	22	水	県民ア トリエ	沖縄結の会 / (株)イーエーシー 文化財発掘のための会議					
63	22	水	美術館 講座室	(株)シャイン総研 公的有志・補助金勉強会					
64	22	水	美術館 講座室	ほんとうの琉球の歴史研究会 「渡久地十美子」特別講演会					
65	23	木	博物館 実習室	アップリンクジャパン スマイル沖縄説明会					
66	23	木	博物館	(株)琉球銀行					
67	24	金	講座室	第10回 りゅうぎんキッズスクール					

【2012年9月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	2	日	スタジオ	琉球大学熱帯生物圏研究センター	5	4	火	博物館 講座室	玉城流琉装からじ結い研究所 くしの日 美ら姿 結い遊び
2	2	日	博物館 講座室	琉球大学熱帯生物圏研究センター	6	4	火	美術館 講座室	沖縄工業高等専門学校説明会
3	2	日	美術館 講座室	フリーベル天久新都心管理組合 定期総会	7	4	火	美術館 講座室	アディボネチタン研究会 勉強会
4	2	日	美術館 講座室	海気コーポレーション	8	4	火	美術館 講座室	グローバルハイシティー勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
9	5	水	博物館 実習室	グローバルハイシティー勉強会	38	11	火	美術館 講座室	タマホーム沖縄(株) 協力会工程会議
10	5	水	博物館 講座室	沖縄タイムス 第26回 沖縄県トータルリビングショウ説明会	39	11	火	美術館 講座室	(株)オーロマール 海外ビジネス勉強会
11	5	水	スタジオ	SK5株式会社 SK研修会	40	12	水	博物館 講座室	(株)地域科学研究所 第29回 MIA 固定資産土地評価全国実務研修会
12	5	水	美術館 講座室	インテンションエナジーユニオン インテンションエナジー研修	41	12	水	美術館 講座室	外間経営労務管理事務所 職場の人事労務と安全衛生の基本(労務管理 セミナー)
13	5	水	美術館 講座室	協同組合産業計画 多様な陶器生産システム構築事業製品開発企 画1	42	12	水	講堂	沖縄県産業廃棄物協会 産業廃棄物適正処理・優良化研修会
14	6	木	博物館 講座室	農村計画研究会 第34回 現地研修集会	43	13	木	博物館 実習室	(株)カードワン事業説明会
15	6	木	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	44	13	木	博物館 講座室	りゅうぎんビジネススクール 中堅社員向け実務セミナー
16	6	木	講堂	りゅうせき商事(株) しっかり運動・良い食事	45	13	木	スタジオ	アクサ生命保険(株) 社員研修
17	5	水	講堂	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会 準備	46	13	木	美術館 講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
18	6	木	講堂	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会	47	14	金	博物館 講座室	AIU 保険会社 オペレーション部門長会議
19	7	金	講堂	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会	48	14	金	スタジオ	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
20	7	金	博物館 実習室	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会 第4会場	49	14	金	県民ア トリエ	那覇商工会議所青年部 CAST 委員会 会議
21	7	金	博物館 講座室	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会 第2会場	50	14	金	美術館 講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
22	7	金	美術館 講座室	沖縄県健康増進課 沖縄県保健士研修会 第3会場	51	14	金	講堂	産業振興公社 国際コンテンツビジネスシンポジウム
23	7	金	スタジオ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会	52	14	金	県民ア トリエ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
24	8	土	博物館 実習室	(株)ノエビア カフェノエビアトレーニング研修会	53	15	土	スタジオ	
25	8	土	博物館 実習室	家庭倫理の会那覇市 安謝支部研修	54	15	土	博物館 実習室	シナリーアテンド シナリー化粧品ベーシックセミナー
26	8	土	博物館 講座室	フロム沖縄推進機構 ET ロボコン 2012 沖縄地区試走会 2	55	15	土	美術館 講座室	ノーブルメディカルセンター 希望のカタチ展III ノーブルメディカルセンタ ーで行う造形表現活動
27	8	土	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	56	15	土	美術館 講座室	ノーブルメディカルセンター 希望のカタチ展III 「沖縄の民族信仰と今日の ターミナル医療をめぐる」
28	8	土	子供ア トリエ	写真作家入門	57	17	月	美術館 講座室	ミロス研究所 アセンションの秘密
29	8	土	美術館 講座室	MSD 株式会社 うつ病ホンネで語れば Part3 第2会場	58	19	水	博物館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
30	8	土	講堂	MSD 株式会社 うつ病ホンネで語れば Part3	59	19	水	博物館 講座室	盛和塾沖縄 勉強会
31	9	日	博物館 講座室	三基商事(株) ミキ・グループ沖縄地区本社営業所会議	60	20	木	博物館 実習室	スマイル沖縄 説明会
32	9	日	博物館 講座室	沖縄県眼科医会 第111回 沖縄眼科集談会	61	20	木	県民ア トリエ	沖縄県高齢者協同組合 定例理事会(キャンセル100%)
33	9	日	スタジオ	牧野あずさ 陸域からの影響を考慮したサンゴ礁保全計画 ワークショップ	62	20	木	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
34	9	日	美術館 講座室	(株)クエスティー 社内研修	63	21	金	博物館 実習室	九州私立大学協会 九州支部事務局長会議
35	11	火	博物館 講座室	(株)シーガル シーガル健康セミナー	64	21	金	スタジオ	一般社団法人 沖縄県損害保険代理業協会セ ミナー
36	11	火	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	65	21	金	県民ア トリエ	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 EC 実践会
37	11	火	スタジオ	グローバル(株) GSS 事業説明会	66	21	金	美術館 講座室	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
67	22	土	スタジオ	(株)東恩納組 自分らしさを追及する基礎講座	78	26	水	美術館 講座室	ほんとうの琉球の歴史研究会 渡久地十美子 第2回講演会
68	22	土	博物館 講座室	TA0 Factory ウチナー文化未来塾 スーパー夏祭り IN 北京報告会	79	27	木	博物館 講座室	(株)求人おきなわ 人事労務管理制度・メンター制度導入セミナー
69	22	土	県民ア トリエ		80	27	木	博物館 講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
70	22	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	81	27	木	スタジオ	happ 会員向け講座
71	22	土	講堂	沖縄タイムス 沖縄子ども環境調査隊シンポジウム	82	28	金	博物館 講座室	協同組合沖縄産業計画 平成24年度 第2回「製品開発・情報発信 部会
72	22	土	講堂	立川直樹講演会実行委員会 立川直樹 沖縄を語る	83	30	日	博物館 講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロスリスト養成講座
73	23	日	博物館 講座室	那覇地方務局 「全国一斉！法務局休日相談所」	84	30	日	子供ア トリエ	版の会 版画教室
74	23	日	美術館 講座室	沖縄県県民生活センター 消費生活入門講座	85	30	日	美術館 講座室	ミキワールド沖縄 食の勉強会
75	25	火	美術館 講座室	(株)ハウ コーヒーエネまご愛好者フォローアップ講習 会	86	28・ 30	金	スタジオ	ノエビア スキンアドバイザー研修
76	25	火	美術館 講座室	盛和塾沖縄 キックオフ会			日	スタジオ	
77	26	水	美術館 講座室	(株)大城マネジメント研究所 労働契約法の改正に伴う今後の有期契約の実 務対応について					

【2012年10月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	2	火	美術館 講座室	沖縄県高等学校長協会 第4回総務委員会	14	4	木	美術館 講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会
2	2	火	博物館 実習室	グローバルハイシティ 研修会	15	4	木	講堂	第52回ミスインターナショナル世界大会 in 沖縄 若い女性の健康とエンパワーメント～先輩と してできる事
3	3	水	スタジオ		16	4	木	スタジオ	(株)地域科学研究所 公認会計士から見た地方公益企業会計法対応 の実務
4	3	水	講堂	日本公文教育研究会 2012年度 下半期ビジョン講座	17	5	金	美術館 講座室	沖縄県困基連盟 役員会議
5	3	水	博物館 講座室	沖縄税務経理学院 OA 経理事務科選考試験	18	5	金	美術館 講座室	公正取引委員会 業種別講習会
6	3	水	美術館 講座室	クオリサイトテクノロジーズ(株) 「Towers Company」～エデュメント型イン ターシップ(キャンセル100%)	19	5	金	講堂	沖縄県精神障害者福祉会連合会 沖福連 家族会 2012
7	3	水	講堂	(株)海邦総研 沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公 共交通システム導入可能性検討に向けた基礎 調査	20	5	金	講堂	沖縄の自由を守る会 事実を知ろう！パネルディスカッション
8	4	木	博物館 講座室	イオン琉球(株) J3 登用筆記試験	21	6	土	博物館 実習室	ソーシャルアライアンス(株) SA マスター倶楽部セミナー
9	4	木	美術館 講座室	イオン琉球(株) J3 登用筆記試験 (キャンセル100%)	22	6	土	博物館 講座室	国立有明工業高等専門学校 生き続ける琉球の村落—固有文化にみる沖縄 の環境観と空間形成技術
10	4	木	博物館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	23	6	土	博物館 講座室	NPO法人沖縄の教育を考える会 「家庭教育の再生—親守歌県大会の開催に向 け」第11回「親学」講演会
11	4	木	県民ア トリエ		24	6	土	美術館 講座室	正法神理を学ぶ同好会 高橋信次ビデオ上映会
12	4	木	美術館 講座室	那覇商工会議所 新入社員の為の話し方&ビジネスマナー講座	25	6	土	美術館 講座室	happ 理事会
13	4	木	博物館 実習室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会	26	7	日	博物館 講座室	ミロス研究所 勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
27	7	日	県民アトリエ	リカルド・フラメンコ&タンゴ・スタジオ フラメンコ&ラテンダンスワークショップ	53	14	日	博物館 講座室	モアプロジェクト 報告会(キャンセル100%)
28	7	日	美術館 講座室	海気コーポレーション 加藤博士の健康講演会	54	14	日	講堂	(株)海燕社 ドキュメンタリー映画 「ふじ学徒隊」 映文連アワード2012 文部科学 大臣賞受賞記念
29	7	日	講堂	沖縄県整形外科医会/エーザイ(株) 骨と関節の日 市民セミナー『ロコモティブ シンドロームと骨折』	55	16	火	美術館 講座室	(株)シーガル シーガル健康講演会
30	7	日	3階回廊	沖縄県整形外科医会/エーザイ(株) 骨と関節の日 市民セミナー 『ロコモティブシンドロームと骨折』	56	16	火	博物館 講座室	全管協契約書の逐条解説支部研修会
31	8	月	美術館 講座室	健康増進課/日本ビーシージー製造(株) 予防接種市民講座 託児所	57	17	水	博物館 講座室	(株)コンピュータシステム研究所 平成24年度 沖縄県総合評価方式セミナー
32	8	月	講堂	健康増進課/日本ビーシージー製造(株) 予防接種市民講座	58	17	水	美術館 講座室	(株)アイエヌジーアットマーク沖縄 ヴェブブランディングマーケティング講座 (キャンセル100%)
33	8	月	博物館 講座室	NPO 法人うていーらみや わらべうたフェスタ 2012 (一般向けわらべうた講座)	59	18	木	スタジオ	日本賃貸住宅管理協会 相続支援講習基礎コース
34	10	水	博物館 講座室	(株)琉球銀行 りゅうぎん介護経営セミナー	60	18	木	共有 講堂	沖縄総合事務局 第4回本土復帰40周年記念リレー講演会
35	10	水	美術館 講座室	(株)エヌ・ティ・エイチ クインズヘナ愛用者セミナー	61	19	金	スタジオ	(株)琉球ファクトリー 新規学卒者パワフルサポートプログラムBグ ループ会議
36	11	木	博物館 実習室	TS ネットワーク(株) 総会	62	19	金	県民アト リエ	ビオ倶頼部(株) アミノ酸についての勉強会
37	11	木	博物館 講座室	盛和塾沖縄 定例会	63	19	金	子供アト リエ	沖縄結い会 会議
38	11	木	県民アト リエ	(株)カードワン事業説明会	64	19	金	美術館 講座室	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一EC実践会勉強会
39	11	木	美術館 講座室	那覇商工会議所 新入社員のための話し方&ビジネスマナー講座	65	19	金	講堂	沖縄県社会福祉士会 龍尾和幸氏講演会「命から見つめる」 ～青少年自立援助ホーム東樹の実践から
40	11	木	講堂	(株)マーブルフィルム 映画「サンゴレンジャー」 試写会	66	20	土	博物館 実習室	JICA 沖縄国際センター JICA ボランティア体験説&説明会
41	12	金	博物館 講座室	大光電気(株) ライティングセミナー	67	20	土	スタジオ	沖縄税務経理学院 第109回 全国経理教育協会主催 電卓計算能力検定試験
42	12	金	美術館 講座室	明治安田生命(株) 11月チャレンジ月間進発研修会会議	68	20	土	子供アト リエ	版の会 版画教室
43	12	金	講堂	明治安田生命(株) 11月チャレンジ月間進発研修会	69	20	土	美術館 講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロスリスト養成講座
44	13	土	博物館 実習室	ティーダ企画 超ミネラルがあなたの健康を守る	70	21	日	博物館 講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロスリスト養成講座
45	13	土	博物館 講座室	沖縄対策本部 尖閣危機とオスプレイ配備を考える集会	71	21	日	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
46	13	土	スタジオ	東電原発事故の説明を求める会 東電原発事故説明を求める会集会	72	21	日	スタジオ	イスラン 東洋医学の健康セミナー
47	13	土	県民アト リエ	ジョイインターナショナル(株) 説明会	73	21	日	県民アト リエ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会
48	13	土	子供アト リエ	版の会 版画教室	74	21	日	子供アト リエ	ビオ倶頼部(株) 会社説明会
49	13	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	75	21	日	講堂	SINVI INTERNATIONAL (株) MENTALIST 響翔II 映画上映会
50	13	土	屋外 展示場	那覇商工会議所青年部 那覇商工会議所青年部10月度定例会	76	23	火	博物館 講座室	ラジカル沖縄 ルーキー Presents Rookie 採 用予定企業様 応援セミナー
51	13	土	講堂	SINVI INTERNATIONAL (株) MENTALIST 響翔II 映画上映会	77	23	火	美術館 講座室	ユニバーサルコンパス勉強会
52	14	日	スタジオ	ビオ倶頼部(株) アミノ酸についての勉強会	78	23	火	美術館 講座室	(有) ユニバーサルコンパス 化粧品のウソ?ホント?

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
79	23	火	講堂	(有) FEC オフィス 映画「NOTHING PARTS 71」完成披露試写会	95	27	土	美術館 講座室	沖縄少年会館を語る会 解体された少年会館を語る市民フォーラム
80	24	水	博物館 講座室	沖縄県社会保険労務士会 社労士会セミナー	96	27	土	講堂	沖縄県高等学校中国語研究会 第8回沖縄県高校生中国語発表大会
81	24	水	県民ア トリエ	ビオ倶楽部(株) 呉崎医学博士講演会	97	27	土	屋外 展示場	(株)サン・エージェンシー 沖縄まちなみミュージアム宣言シンポジウム
82	25	木	博物館 実習室	タマホーム沖縄 協力会工程会議	98	28	日	博物館 実習室	一般社団法人 IT 検証産業協会 IT 検証技術者認定試験
83	25	木	博物館 講座室	(株)求人おきなわ 人事労務管理制度・メンター制度導入セミナー	99	28	日	美術館 講座室	イプラスジム那覇 子どもの目の発達に役立つ講演会
84	25	木	美術館 講座室	盛和塾 沖縄 キックオフ会	100	28	日	美術館 講座室	フリーベル天久新都心管理組合 マンション管理組合総会
85	25	木	美術館 講座室	那覇商工会議所 新入社員の為の話し方 & ビジネスマナー講座	101	28	日	講堂	琉球大学法文学部地域貢献フォーラム
86	25	木	講堂	(株)沖縄タイムス 藤村正忠の次世代広告セミナー	102	30	火	博物館 実習室	(株)インスパイア 健康に関するセミナー
87	25	木	講堂	(株)アミューズ 映画「旅立ちの島唄」関係者試写会 1 回目	103	30	火	美術館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング(株) サンコム安全大会
88	25	木	講堂	(株)アミューズ 映画「旅立ちの島唄」関係者試写会 2 回目	104	30	火	県民ア トリエ	(株)エムエスアイ ビジョンミーティング
89	26	金	美術館 講座室	(株)日本スウェーデン福祉研究所 認知症緩和ケアとタクティールケア体験セミナー	105	30	火	美術館 講座室	公正取引委員会 業種別講習会
90	27	土	博物館 実習室	(株)サン・エージェンシー 沖縄まちなみミュージアム宣言シンポジウム	106	31	水	スタジオ	happ 会員向け学習会
91	27	土	博物館 講座室	万国津梁機構 講演会	107	31	水	美術館 講座室	インテンションエネルギー研修会
92	27	土	博物館 講座室	(社)日本糖尿病協会沖縄県支部 第48回 全国糖尿病週間 市民公開講座	108	31	水	講堂	(有)FEC オフィス 映画「NOTHING PARTS 71」完成披露試写会
93	27	土	県民ア トリエ	生活協同組合沖縄県高齢者協同組合 生活協同組合沖縄県高齢者協同組合定例理事 会	109	23 ~ 28	火 ~ 日	スタジオ	ダイアナ 3D ボディースキャナ体験イベント
94	27	土	子供ア トリエ	光画文化研究所 写真作家入門	110	5 ~ 7	金 ~ 日	スタジオ	那覇情報システム専門学校 N-CIS 作品展

【2012年11月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	木	博物館 講座室	沖縄県国民健康保険課 市町村国保担当職員研修会	10	4	日	博物館 実習室	クラヴィスジャパン(株) 水の勉強会
2	1	木	美術館 講座室	沖縄産業計画 平成24年度第3回「坏土生産技術開発部会」	11	4	日	博物館 講座室	環境省・自然環境研究センター 世界自然遺産シンポジウム in 那覇 奄美・琉球諸島世界自然遺産への道
3	2	金	県民ア トリエ	一般社団法人 TAO Factory TNT イベント 稽古	12	4	日	スタジオ	happ 理事会
4	2	金	美術館 講座室	一般社団法人沖縄県損害保険代理業協会 日本代協 保険大学校セミナー	13	4	日	県民ア トリエ	ミキワールド沖縄 食の勉強会
5	2	金	講堂	沖縄県国民健康保険団体連合会 沖縄県国保事業40周年記念事業 記念講演 会	14	4	日	美術館 講座室	家庭倫理の会那覇市 支部長・促進長研修
6	3	土	県民ア トリエ	リカルド・フラメンコ&タンゴ・スタジオ 異文化交流 アルゼンチンタンゴ&フラメン コ公演	15	4	日	講堂	琉球大学皮膚科 ひふの日 市民公開講座 見逃すな!身近に 潜む皮膚アレルギー
7	3	土	子供ア トリエ	異文化交流 アルゼンチンタンゴ&フラメン コ公演準備控室	16	6	火	美 術 館 講 座 室	'グローバルハイシティ 説明会
8	3	土	子供ア トリエ	リカルド・フラメンコ&タンゴ・スタジオ 異文化交流 アルゼンチンタンゴ&フラメン コ公演	17	7	水		
9	3	土	美術館 講座室	正法神理を学ぶ研究会 高橋信次ビデオ上映会	18	8	木	博物館 講座室	盛和塾 沖縄 定例会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
19	8	木	県民アトリエ	(株)カードワン事業説明会	47	15	木	美術館講座室	金城達也税理士事務所 TKC 経営支援セミナー 2012
20	8	木	講堂	いしかわ文明堂 日本を美しくする会「沖縄ブロック掃除に学ぶ会」	48	16	金	県民アトリエ	有明工業高等専門学校 沖縄の集落研究会
21	8	木	博物館実習室	九州博物館協議会 控室	49	16	金	美術館講座室	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一 E C 実践会勉強会
22	8	木	博物館講座室	九州博物館協議会 学芸員事務職員研修会	50	16	金	博物館講座室	沖縄税理士会 「税を考える週間」税に関する無料相談会
23	9	金	博物館実習室	(株)ノエビア 販売会社ビューティ・マスター合同研修	51	16	金	講堂	沖縄税理士会 「税を考える週間」税に関する講演会
24	9	金	美術館講座室	キャノンシステム&サポート ドリーム講習会 I N 沖縄	52	17	土	子供アトリエ	光画文化研究所 写真作家入門
25	9	金	スタジオ	一般社団法人沖縄県損害保険代理業協会 日本代協 新入会員オリエンテーション	53	17	土	美術館講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
26	9	金	スタジオ	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会	54	17	土	講堂	公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会 オーナーセミナー 2012
27	10	土	博物館実習室	(株)エヌ・ティー・エイチ リーダー研修	55	17	土	博物館講座室	札幌大学 琉球列島環境文化史研究会
28	10	土	博物館実習室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座	56	18	日	博物館講座室	
29	10	土	博物館講座室	干瀬の会～源氏物語を伝える～	57	18	日	博物館講座室	NPO 沖縄の教育を考える会 発達障害を考える講演会
30	10	土	県民アトリエ	沖縄県福祉ネットワーク協会 障害のある子供たちの為の臨床美術ワークショップ	58	18	日	県民アトリエ	沖縄県福祉ネットワーク協会 障害のある子供たちの為の臨床美術ワークショップ
31	10	土	子供アトリエ	版の会 版画教室	59	18	日	美術館講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会
32	10	土	美術館講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロソリスト養成	60	18	日	講堂	ハートフルオフィス 翻訳家山川紘矢・亜希子講演会
33	10	土	講堂	沖縄県漢詩連盟 石川忠久先生講演会漢詩創作のたのしみ	61	20	火	博物館講座室	盛和塾 沖縄 勉強会
34	11	日	博物館講座室	(株)ミロス研究所 第7期ミロソリスト養成	62	20	火	美術館講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議
35	11	日	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	63	20	火	美術館講座室	沖縄行政相談委員協議会 那覇地方法務局 出前講座 「法務局の業務内容について」
36	13	火	博物館講座室	沖縄県キャリアセンター / 沖縄県産業振興公社 Job チャンネル ()	64	20	火	スタジオ	アクサ生命保険(株) 社員研修 キャンセル 100%
37	13	火	博物館講座室	ラジカル沖縄 ルーキー Presents Rookie 採用予定企業様 応援セミナー	65	20	火	講堂	2012 アーロン&アッシュ スピーキングツアー in 沖縄
38	13	火	美術館講座室	沖縄産業計画 平成24年度第3回「陶器量産化技術開発部会」	66	20	火	講堂	リジョイス リハーサル
39	13	火	スタジオ	日本賃貸住宅管理協会 相続支援講習「基礎コース」 キャンセル 100%	67	21	水	博物館講座室	沖縄県キャリアセンター / 沖縄県産業振興公社 Job チャンネル
40	13	火	美術館講座室	ファイナンシャルリンク 勉強会	68	21	水	スタジオ	アクサ生命保険(株) 社員研修
41	13	火	美術館講座室	阪急交通社トラピックス 海外旅行説明会	69	21	水	美術館講座室	沖縄県高等学校長協会 第5回総務委員会
42	14	水	博物館講座室	パーソナルマネジメントサポート メンタルヘルス勉強会	70	21	水	講堂	沖縄県ビルメンテナンス協会 第9回環境衛生シンポジウム
43	14	水	美術館講座室	日本秘書クラブ沖縄支部 ビジネス文書筆記試験対策講座	71	22	木	博物館講座室	(株)求人おきなわ 人事労務管理制度・メンター制度導入セミナー
44	14	水	講堂	公共建築協会 BIM 建築設計、施工プロセスに与えるインパクトとその導入	72	22	木	県民アトリエ	インヴェルジャパン説明会
45	14	水	博物館講座室	トップツアーズ神戸支店 TOA 株式会社技術研修会	73	22	木	子供アトリエ	
46	15	木	博物館講座室		74	22	木	美術館講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
75	22	木	美術館 講座室	(株)琉球ファクトリー 新卒内定者に対する講習会	92	28	水	県民ア トリエ	(株)ジェネス アンチエイジングセミナー
76	22	木	講堂	リジョイス ピアノ調律	93	28	水	美術館 講座室	総合事務局 食品・環境課 平成24年度沖縄地区「バイオマス関連説明 会
77	23	金	博物館 講座室	医療法人ミラゾルのはら元氣クリニック 第15回 サイモントン療法講演会	94	28	水	講堂	那覇市役所 平成24年度 那覇市管理者特別 研修
78	23	金	講堂	リジョイス結成19周年記念コンサート	95	29	木	博物館 実習室	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
79	24	土	博物館 講座室	万国津梁機構	96	29	木	博物館 講座室	沖縄県キャリアセンター/沖縄県産業振興公 社 Jobチャンネル
80	24	土	スタジオ	ミロス研究所 アセンションの秘密	97	29	木	美術館 講座室	中小企業経営アドバイザー協会 経営者のための公的融資、補助金活用セミナ ー
81	24	土	県民ア トリエ	リカルドフラメンコ&タンゴスタジオ 異文化交流!フラメンコショー	98	29	木	美術館 講座室	沖縄クラブロスコ ミロスセミナー「一瞬で家族を愛せる奇跡」
82	24	土	子供ア トリエ	リカルドフラメンコ&タンゴスタジオ 異文化交流!フラメンコショー 控室	99	29	木	美術館 講座室	圓和会 幸福を呼ぶ祈願所講演会
83	24	土	美術館 講座室	(株)ブリリアント上田 健康フォーラム	100	29	木	講堂	沖縄県県民生活課 「犯罪被害者週間」広報 啓発事業 犯罪被害者週間講演会
84	24	土	講堂	早稲田大学アジア研究機構 第6回 アジア次世代研究国際大会	101	30	金	博物館 講座室	阪急交通社トラピックス 海外旅行説明会 第一会場
85	25	日	講堂		102	30	金	美術館 講座室	阪急交通社トラピックス 海外旅行説明会 第二会場
86	25	日	美術館 講座室	(株)ハウ コーヒーエネマゴ愛好者フォローアップ講習 会	103	30	金	美術館 講座室	沖縄クラブロスコ ミロスセミナー「会員限定勉強会」
87	27	火	博物館 実習室	赤嶺のり子様 講演会	104	30	金	講堂	沖縄税理士会北那覇支部 税理士会北那覇支部の年末調整研修会
88	27	火	美術館 講座室	比嘉孝明税理士事務所 年末調整研修	105	15 ~ 18	木 ~ 日	スタジオ	My piece Art project 「小さな絵本展 vol13」
89	27	火	美術館 講座室	(株)JTB 沖縄 平成24年度 世界に通用する観 光人材育成事業 第三回実施委員会	106	27 ~ 30	火 ~ 金	スタジオ	Photo is art Art is heart 展
90	28	水	美術館 講座室		107	20・ 22	火 木	講堂	久高良治 探求9 映像映像
91	28	水	博物館 講座室	沖縄県産業振興公社 中小企業の為のBCP(緊急時企業存続計画) 対策セミナー				講堂	

【2012年12月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	土	博物館 講座室	琉球大学教育学部 生活科教育研究博物館実 習	9	4	火	県民ア トリエ	(株)ベルシシステム 24 研修会
2	1	土	美術館 講座室	沖縄高等専門学校 第2回九州沖縄地区高専テクノセンター交流 会	10	4	火	美術館 講座室	インテンションエネルギー研修会
3	1	土	美術館 講座室	金秀グリーン(株) 「那覇市モノレール沿線ベランダ緑化促進事 業」緑化講習会	11	4	火	美術館 講座室	(有) ひかり 口ぐせ理論言葉にイメージの持つ力で人生を 開く
4	2	日	博物館 講座室	(株)ロスコバランス ROSSCO アカデミー	12	4	火	講堂	沖縄県警察本部 広報相談課 被害者を支える演奏と朗読会
5	2	日	美術館 講座室	沖縄税務経理学院 第8回社会福祉会計簿記 認定試験	13	5	水	博物館 講座室	(株)求人おきなわ Qナビ業界研究・就活セミ ナー
6	2	日	美術館 講座室	新沖縄子どもを守る会 総会	14	5	水	講堂	(株)求人おきなわ Qナビ業界研究・就活セミ ナー
7	2	日	講堂	文教楽器(株) 文教ミュージックサロン クリ スマス コンサート	15	5	水	講堂	NPO 法人首里まちづくり研究会 古都首里の風景のあるまちづくりシンポジウ ム
8	4	火	スタジオ	沖縄県立美術館支援会 happ 第3回 happ 会 員向け講座	16	6	木	博物館 講座室	沖縄タイムス/沖縄プロフェッショナルスク ール 本当のフェイクブック活用セミナー

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
17	6	木	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	43	12	水	美術館 講座室	ジュネスグローバル アンチエイジングの勉強会
18	7	金	博物館 実習室	(社) 沖縄県産業廃棄物協会青年部 平成24年度労働安全衛生大会	44	12	水	講堂	那覇市文化協会琉球王朝禮楽部会 王府おもろ伝承百年 講演と実演
19	7	金	博物館 講座室	那覇商工会議所 中小企業のための事業継続計画 (BCP) 策定セミナー入門編	45	13	木	博物館 講座室	平成24年度地域職業リハビリテーション推進フォーラム
20	7	金	スタジオ	日本賃貸住宅管理協会沖縄県支部	46	13	木	県民アトリエ	㈱カードワン事業説明会
21	7	金	美術館 講座室	金城一也税理士事務所 TKC 経営支援セミナー2012	47	13	木	美術館 講座室	ファミリーヒストリー 幸福を呼ぶ祈願書講演会パートII
22	7	金	講堂	沖縄県産業振興公社 万国津梁産業人財育成事業 万国人材ネットワーク設立記念シンポジウム	48	13	木	講堂	万国津梁会セミナー
23	7	金	美術館 講座室	豊見城キリスト教会 / ㈱アークシステム 講演会「聖書が語る未来」	49	14	金	博物館 講座室	キパワー(株) 「塩を変えれば、体は良くなる!？」出版記念講演会
24	8	土			50	14	金	スタジオ	阪急交通社 トラピックス 海外旅行説明会
25	8	土	博物館 講座室	シーガル(株)健康講演会	51	14	金	美術館 講座室	アイエスジーアットマーク沖縄 水上浩一 E C 実践会勉強会
26	8	土	博物館 講座室	沖縄県立中部病院 第4回 地域がん診療連携拠点病院 講演会「乳がん検診はどこで受けても一緒？」	52	14	金	美術館 講座室	NPO 沖縄平和協力センター 公開セミナー 北東アジア安全保障 沖縄と台湾
27	8	土	スタジオ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会	53	14	金	講堂	昭和(株) 地域公共交通を考えるシンポジウム(仮称)
28	8	土	子供アトリエ	版画工房コントロールボン ミニ銅版画(エッチング)ワークショップ	54	15	土	博物館 実習室	財産ドック沖縄(株) 長期入居者を獲得する満室大家さんの法則
29	8	土	美術館 講座室	方言文法研究会 会議 1日目	55	15	土	子供アトリエ	版の会 版画教室
30	9	日	博物館 実習室	方言文法研究会 会議 2日目	56	15	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
31	9	日	博物館 講座室	(有) 海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座	57	16	日	博物館 実習室	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
32	9	日	スタジオ	クラビスジャパン マグネクラヴィス水の勉強会	58	16	日	博物館 実習室	一般社団法人 沖縄県発明協会 第29回未来の科学の夢絵画展
33	9	日	美術館 講座室	ミキワールド沖縄 食の勉強会	59	16	日	エントランスホール	沖縄しまたて協会 第2回ふるさとづくり図画コンクール表彰式
34	11	火	博物館 実習室	グローバルハイシティ勉強会	60	16	日	博物館 実習室	㈱アイエスエイ 春休みホームステイ研修説明会 (キャンセル100%)
35	11	火	博物館 講座室	ラジカル沖縄 ルーキー Presents Rookie 採用予定企業様 応援セミナー	61	16	日	スタジオ	ライフバンテージ/U&TD アンチエイジングの勉強会
36	11	火	スタジオ	メットライクアリコ代理店制度説明会	62	18	火	博物館 講座室	盛和塾沖縄 定例会
37	11	火	美術館 講座室	沖縄総合事務局食品・環境課 農林漁業成長産業化ファンド座談会 1日目	63	18	火	博物館 講座室	一般社団法人 沖縄県損害保険代理業協会 沖縄県代協セミナー
38	11	火	講堂	沖縄情報通信懇談会 沖縄デジタル映像祭2012	64	18	火	美術館 講座室	沖縄産業計画 平成24年度 第3回 製品開発・情報発信部会
39	12	水	博物館 実習室	エッセンシャルオイル研究会 エッセンシャルアロマ講座	65	18	火	講堂	沖縄防衛局 第18回防衛セミナー
40	12	水	博物館 講座室	日本公文教育研究会 国語コンサルティング活動	66	19	水	博物館 講座室	沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会 平成24年度第27回社会科セミナー
41	12	水	スタジオ	沖縄税理士会 中小企業者のための研究開発税制セミナー	67	19	水	美術館 講座室	沖縄産業計画 平成24年度 第2回「陶器生産システム構築推進協議会」
42	12	水	美術館 講座室	沖縄総合事務局食品・環境課 農林漁業成長産業化ファンド座談会 2日目	68	20	木	博物館 実習室	タマホーム沖縄協会 工程会議

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
69	20	木	美術館 講座室	盛和塾フィロソフィー委員会	82	23	日	美術館 講座室	㈱ブリリアント上田 年末感謝祭
70	21	金	博物館 実習室	満喜㈱ 会議	83	24	月	博物館 講座室	JICA 沖縄国際センター 文化講座アルゼンチン野生動植物と自然景観
71	21	金	博物館 講座室	NPO 法人沖縄定期借地借家推進機構 定借アドバイザー講座	84	24	月	美術館 講座室	アトム 保険の勉強会
72	21	金	博物館 講座室	「ワントップ支援センター」設立を強く望む会	85	24	月	講堂	琉球大学教育学部 沖縄の服飾及び染織技術研究成果報告シンポジウム
73	21	金	美術館 講座室	平和教育会館圓和館 所願成就のための幸福を呼ぶ祈願書講演会	86	26	水	美術館 講座室	㈱求人おきなわグッジョブおきなわ推進事業 局 12月度 全体会議
74	22	土	博物館 講座室	㈱沖縄ドリームファクトリー FC琉球の 未来を考える会	87	1～ 2	土	スタジオ スタジオ	Photo is art Art is heart 展
75	22	土	美術館 講座室	琉球大学国際沖縄研究所 コンタクトゾーンとしての文学（仮称）			日		
76	22	土	講堂	琉球大学国際沖縄研究所 多様性が開く“島”の可能性～琉球の生物・ 言語・文化から～	88	1・ 8・ 15・ 22	土	県民ア トリエ	沖縄県立看護大学 ナーシングキャリアカフ ェ
77	22	土	県民ア トリエ	創元会沖縄支部 実技研修会			土	子供ア トリエ	
78	22	日					土	スタジオ	
79	22	土	子供ア トリエ	創元会沖縄支部 実技研修会			土	博物館 実習室	
80	23	日					土	博物館 実習室	
81	23	日	博物館 講座室	万国津梁機構	89	27 ～ 28	木 ～ 金	美術館 講座室	㈱シーアンドジェイセミナー

【2013年1月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	5	土	博物館 講座室	㈱ロスコバランス クラブスコアアテンダント用DVD上映会	15	10	木	講堂	2013年度イオン琉球㈱方針発表
2	6	日	博物館 講座室	株式会社トリムフーズ・株式会社トリム 飲食事業部 繁盛集会（総会）	16	11	金	博物館 講座室	エキスパートアライアンス 食育セミナー
3	6	日	美術館 講座室	㈱ロスコバランス RPSSCO バイブル	17	11	金	スタジオ	アトム 保険の勉強会
4	8	火	スタジオ	㈱シーアンドジェイセミナー	18	11	金	美術館 講座室	沖縄県建設技術センター 第4回「沖縄県におけるコンクリート耐久性」 に関する研修会
5	8	火	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジング勉強会	19	11	金	美術館 講座室	㈱インテンションエナジー研修会
6	9	水	博物館 講座室	㈱インスパイア関口会長講演	20	12	土	博物館 実習室	宮城浩子 ミネラルの勉強会
7	9	水	スタジオ	㈱シーアンドジェイセミナー	21	13	日	博物館 講座室	南西医療器㈱ 睡眠健康指導士初級講座
8	9	水	美術館 講座室	(有) 大徳商事 講演（断食・小食健康法）	22	13	日	県民ア トリエ	ミキワールド沖縄 食の勉強会
9	10	木	博物館 講座室	イオン琉球㈱取締役会	23	14	月	美術館 講座室	ミロスセミナー
10	10	木	博物館 講座室	(社) 農林水産・食品産業技術振興協会 アグリ技術シーズセミナー in 沖縄	24	16	水	博物館 実習室	グローバルハイシティ 勉強会
11	10	木	スタジオ	アトム 保険の勉強会	25	16	水	博物館 講座室	税理士会北那覇支部の確定申告研修会
12	10	木	県民ア トリエ	㈱日本メトロポリタン 水素についての勉 強会	26	16	水	スタジオ	アクサ生命㈱ 社員研修
13	10	木	美術館 講座室	シーガル㈱ 健康講座	27	16	水	美術館 講座室	秘書クラブ 秘書検定 11級面接対策講座
14	10	木	美術館 講座室	イオン琉球㈱ 店長会議	28	16	水	美術館 講座室	比嘉孝明税理士事務所 新春経営者セミナー

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
29	16	水	講堂	沖縄観光コンベンションビューロー 第4回 沖縄映像コンペティション短編映画 「愛と藍」関係者試写会	55	23	水	美術館 講座室	労働保険事務組合 福働会 新年講演会
30	17	木	博物館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会 1回目	56	23	水	美術館 講座室	ジュネス勉強会
31	17	木	美術館 講座室	沖縄中小企業労働福祉協会 産業保健セミナー「事業所におけるメンタル ヘルス対策ABC」	57	23	水	講堂	(公・財)日本交通公社 沖縄県戦略的リピーター創造事業シンポジウ ム
32	17	木	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会 2回目	58	24	木	博物館 実習室	タマホーム沖縄 協会の会工程会議
33	18	金	博物館 講座室	NTT 労働組合沖縄総支部 西本部総対話	59	24	木	スタジオ	沖縄産業計画 沖縄県委託事業「多様な陶器の製品開発情報 発信部会議」
34	18	金	スタジオ	㈱C&J 説明会1日目	60	24	木	県民ア トリエ	ジュネスグローバル ジュネスグローバル説 明会
35	18	金	美術館 講座室	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一EC実践会勉強会	61	24	木	子供ア トリエ	ひとひら 自救健康体操教室
36	18	金	美術館 講座室	圓和館 ファミリーストーリー幸福を呼ぶ祈願書講演会	62	24	木	博物館 講座室	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 1日目
37	18	金	美術館 講座室	テレビ「生命の光」を見る会	63	24	木	美術館 講座室	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 1日目
38	18	金	講堂	沖縄県消防長会 第10回全国消防長会九州支部 消防情報通 信シンポジウム	64	24	木	講堂	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 1日目
39	19	土	博物館 実習室	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会	65	25	金	博物館 講座室	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 2日目
40	19	土	博物館 講座室	海外ジョブチャレンジ事務局/沖縄ヒューマ ンキャピタル 海外短期インターシップ事前研修	66	25	金	美術館 講座室	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 2日目
41	19	土	県民ア トリエ	㈱C&J 説明会2日目	67	25	金	講堂	沖縄県衛生環境研究所 第26回 公衆衛生情報研究協議会総会・研 究会 2日目
42	19	土	子供ア トリエ	版の会 版画教室	68	25	金	博物館 実習室	㈱HLS 代理店勉強会
43	19	土	講堂	詩舞 親翠流緑翠会 おさらい会	69	25	金	スタジオ	協同組合沖縄産業計画 平成24年度 第4回「坏土生産技術開発部会」
44	20	日	スタジオ	琉球芸能大使館 組踊版 スイミー 作品上演 + ワークショッ プ	70	26	土	美術館 講座室	NPO法人おきなわCAPセンター 子どもたちに寄り添う〜いじめ・虐待・非行 の現場から〜
45	20	日	県民ア トリエ		71	26	土	講堂	
46	20	日	子供ア トリエ		72	26	土	美術館 講座室	沖縄県県立学校教育課 沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト(派遣) の事前学習
47	20	日	美術館 講座室	㈱アイエヌエイ 春休みホームステイ研修 説明会	73	26	土	講堂	沖縄ツーリスト 新春健康講演会新しい「がん治療」のかたち
48	20	日	博物館 講座室	沖縄DPN会 「ノニ」医師である私の命を救ってくれた植 物出版講演会	74	26	土	博物館 実習室	KG商事 手すき和紙体験型ワークショップ
49	20	日	講堂		75	27	日		
50	20	日	講堂	博物館友の会 文化講座「沖縄・中国・アジアの麺喰い尽くす」	76	27	日	博物館 講座室	琉球大学国際沖縄研究所 沖縄のこぼれとジェンダー：表象と意識・過 去から未来へ
51	20	日	屋外 展示場		77	27	日	博物館 講座室	沖縄ジュゴン環境アセスメント監視団 (シンポジウム) 辺野古アセス補正評価書・ 徹底検証！！
52	23	水	博物館 講座室	盛和塾沖縄 定例会	78	27	日	県民ア トリエ	泰成(株) 勉強会
53	23	水	博物館 講座室	沖縄県産業振興公社/沖縄県キャリアセンタ ー 定着に向けたエ・ト・セ・ト・ラ クロスト ーク de 事例紹介	79	27	日	美術館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座
54	23	水	スタジオ	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会	80	27	日	子供ア トリエ	HIV 人権ネットワーク沖縄 人権フォーラム in 那覇

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
81	27	日	講堂	HIV 人権ネットワーク沖縄 人権フォーラム in 那覇	90	26 ～ 31	土 ～ 木	スタジオ	光文堂コミュニケーションズ 沖縄の風景写真展
82	29	火	博物館実習室	中小企業経営アドバイザー協会 経営者のための公的融資補助金活用セミナー	91	15 ～ 28	火 ～ 月	企画ギャラリー 1、2	第4回 沖縄ねんりんピック かりゆし美術展
83	29	火	美術館講座室		92	17 ～ 18	木 ～ 金	博物館講座室	第4回 沖縄ねんりんピック かりゆし美術展
84	29	火	博物館講座室	(株)ラジカル沖縄 ルーキー採用予定企業様応援セミナー	93	5・ 12・ 19・ 26	土	美術館講座室	沖縄県立看護大学 ナーシングキャリアカフェ
85	29	火	美術館講座室	(株)ハウコーヒーエネマご愛用者フォローアップ講習会				スタジオ	
86	30	水	博物館講座室	(株)阪急交通社トラピックス 海外旅行説明会				スタジオ	
87	30	水	県民アトリエ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会				県民アトリエ	
88	31	木	美術館講座室	沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会 総会及び研修会				子供アトリエ	
89	31	木	講堂	(株)おきぎん経済研究所 平成24年度6次産業課総合推進委託事業 沖縄6次産業化推進セミナー					

【2013年2月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	金	美術館講座室	第35回沖縄県工芸公募展表彰式	16	6	水	博物館実習室	泰成(株) 勉強会
2	1	金	美術館講座室	(株)インスパイア事業説明会	17	6	水	博物館講座室	盛和塾沖縄 勉強会
3	1	金	講堂	万国津梁会	18	6	水	博物館講座室	協同組合沖縄産業計画 平成24年度第3回「陶器生産システム構築推進協議会事業」
4	2	土	博物館講座室	(株)学友館 第3回 田中博史先生の授業実践フォーラム in 沖縄	19	6	水	美術館講座室	タマホーム沖縄 協力会工程会議
5	2	土	子供アトリエ	版の会 版画教室	20	7	木	博物館講座室	沖縄県産業振興公社 / 沖縄県キャリアセンター 企業ソムリエが語る 人材を逃がさない経営術
6	2	土	美術館講座室	OCY 沖縄の広告クリエイターズ倶楽部PARTY 伊藤直樹さん わくわくワークショップ	21		木	美術館講座室	全国高等学校事務職員協会九州協議会 全国高等学校事務職員協会九州協議会第1回理事会
7	2	土	講堂	沖縄県栄養士会 牛乳を科学する 牛乳の魅力を再発見！牛乳を飲んで生活習慣病予防	22		金	美術館講座室	
8	2	土	エンタレンスホール	琉球フィルハーモニー管弦楽団 弦楽オーケストラによるコンサート	23	8	金	県民アトリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング会場
9	3	日	博物館講座室	三基商事(株)九州支店 ミキ・グループ沖縄地区本社営業所会議	24	8	金	美術館講座室	おきなわ証券(株) おきなわ証券 株式講演会
10	3	日	美術館講座室	劇団0.Z.E「飛べ！琉球島人」参加者DVD 観賞会	25	8	金	講堂	(株)海邦総研 沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査
11	3	日	講堂	琉球フィルハーモニー管弦楽団 琉球フィルスポリングコンサート	26	9	土	美術館講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会
12	5	火	博物館実習室	日本賃貸住宅管理協会沖縄県支部 賃貸管理研究会	27	9	土	美術館講座室	沖縄県三線制作事業協同組合 津軽、浜松 お伺い報告会
13	5	火	博物館講座室	沖縄県損害保険代理業協会 ハウスデポセミナー	28	9	土	県民アトリエ	HAT-Robics JAPAN認定地域指導者育成講
14	5	火	美術館講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強会	29	10	日	県民アトリエ	
15	5	火	講堂	(有)ジョイント企画 / 沖縄ハム総合食品(株) 快眠&Beautyトーク	30	10	日	子供アトリエ	エステティックちばな 女性企業説明会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
31	10	日	美術館 講座室	生活倫理相談士 筆記試験 キャンセル100%	59	17	日	美術館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座
32	10	日	講堂	第23回九州縄文研究会 沖縄大会「曹埴式土器とその前後を考える」	60	19	火	博物館 実習室	㈱K10・イスラン 東洋医学の勉強会と骨盤 調整
33	11	月	講堂		61	19	火	博物館 講座室	盛和塾沖縄 キックオフ会
34	13	水	県民ア トリエ	第5回 happ 会員向け講座	62	19	火	博物館 講座室	ラジカル沖縄 ルーキー採用予定企業様応援 セミナー
35	13	水	美術館 講座室	尚学院国際ビジネス工学院 S I B A公務員教養本科公務員研究卒業論文 発表会	63	19	火	美術館 講座室	レキオス倶楽部ビジネスネットワークセミナ ー
36	14	木	博物館 実習室	ビオ倶楽部(株) 呉崎医学博士講演会	64	19	火	美術館 講座室	㈱琉球ファクトリー 新卒者内定者に対する 講習会
37	14	木	子供ア トリエ	㈱琉球ファクトリー 新規学年者パワフルサポートプログラムBグ ループ会議	65	20	水	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉強 会
38	14	木	博物館 講座室	阪急交通社トラピックス海外旅行説明会	66	20	水	講堂	日本経済新聞/ビジネスラリアート(株) 新春座談会 日経シンポジウム
39	14	木	美術館 講座室		67	21	木	博物館 講座室	沖縄総合事務局企画振興課 第4回沖縄ウェルネス産業創出の実現に向け た産医学官懇話会
40	15	金	博物館 講座室		68	21	木	講堂	インテリア産業協会沖縄支部 「スキルアップセミナー」講演会
41	15	金	美術館 講座室		69	22	金	博物館 実習室	沖縄県立美術館支援会 happ 平成25年度 第6回 happ 理事会
42	15	金	博物館 実習室	70	22	金	博物館 講座室	バナホーム(株)沖縄支社 高齢者住宅セミナー	
43	15	金	県民ア トリエ	グローバルハイシティ 事業説明会	71	22	金	博物館 講座室	ロベール・ボワイエ講演会実行委員会 ロベール・ボワイエ講演会
44	15	金	子供ア トリエ		72	23	土	博物館 講座室	万国津梁機構 定例講演会
45	15	金	美術館 講座室	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一E C実践会勉強会	73	24	日	博物館 講座室	㈱沖縄銀行 おきざん投資環境セミナー
46	15	金	美術館 講座室	ロスコバランス クラブロスコセミナー(竹原妙子講師セミナ ー)	74	24	日	講堂	アジアと日本の平和と安全を守る沖縄フォー ラム
47	15	金	講堂	(有)神村浩造 営業力強化(自分ブランド力向上)による観 光人材育成講演会	75	26	火	博物館 実習室	上原労務管理事務所 人事・労務管理セミナ ー
48	15	金	講堂	沖縄食糧(株) 沖縄県の高カロリーな食事とタニタ食堂の取 組みについて	76	26	火	博物館 講座室	沖縄食品品質管理研究会/トロピカルセンタ ー 平成25年度 定期総会及び研修会
49	15	金	講堂	沖縄回復期リハビリテーション病棟連絡協議 会 研修会	77	26	火	県民ア トリエ	エステティックちばな 女性企業勉強会
50	16	土	博物館 実習室	トラムで未来をつくる会 未来をつくる公共交通を考える意見交流会	78	26	火	子供ア トリエ	ひとひら 自救健康教室
51	16	土	県民ア トリエ	沖縄県水泳連盟 平成24年度九州地区地域指導者委員会	79	26	火	子供ア トリエ	㈱ヘルシーライフサポート コタラヒムブツの有効性についての勉強会
52	16	土	子供ア トリエ	安積 陽子 パーソナルカラー講座	80	26	火	美術館 講座室	沖縄サロネーゼ勉強会・交流会
53	16	土	美術館 講座室	グローバルハイシティ 事業説明会	81	26	火	講堂	(社)沖縄県建築士会 平成24年度技術者育成事業 建築講演会なん じょうぼうぼう日記～境界形成私論～
54	16	土	講堂	沖縄県パーキンソン病 友の会/エフピー(株) パーキンソン病を勉強しよう。	82	27	水	県民ア トリエ	(社)中小企業経営アドバイザー協会 ホレボレ事業計画作成研修
55	17	日	講堂	沖縄県水泳連盟 平成24年度九州地区水泳指導者研修会	83	27	水	美術館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング(株) 現場代理人講習会1回目
56	17	日	スタジオ	日本整形淋巴医学研究所/ピュアクリスタル (株) リンパ予防医学講演会	84	27	水	講堂	ヒューマンアカデミー 松本梨香チャリティーアニソンライブ2013
57	17	日	県民ア トリエ	海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座	85	28	木	美術館 講座室	ヒューマンアカデミー 講師会議
58	17	日	美術館 講座室	NPO日本歯臓協会 噛み合わせ=神合わせ、歯は臓器だった	86	28	木	博物館 実習室	明治安田生命 子育て支援セミナー準備室

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
87	28	木	博物館実習室	泰成(株)	95	1~16	金~土	スタジオ	光文堂コミュニケーションズ 沖縄の風景写真展
88	28	木	博物館講座室	一般財団法人 平和・安全保障研究所 第2回 沖縄安全保障セミナー「沖縄と揺れる日米同盟」	96	21	木~日	県民アトリエ	インターナショナルデザインアカデミー修了制作デザイン展「Design Monsters」
89	28	木	博物館講座室	明治安田生命 子育て支援セミナー	97	21	木~日	子供アトリエ	インターナショナルデザインアカデミー修了制作デザイン展「Design Monsters」
90	28	木	県民アトリエ	(株)0.first ラポール倶楽部 新規事業説明会	98	21	木~日	スタジオ	インターナショナルデザインアカデミー修了制作デザイン展「Design Monsters」
91	28	木	子供アトリエ	(株)カードワン事業説明会	99	21	木~日	美術館講座室	インターナショナルデザインアカデミー修了制作デザイン展「Design Monsters」
92	28	木	美術館講座室	インテンションエナジー 研修会	100	22・24	金	講堂	インターナショナルデザインアカデミー修了制作デザイン展「Design Monsters」
93	28	木	講堂	沖縄県三線制作事業協同組合 シンポジウム「三線はどのようにして国際化を進めるか」			日	博物館実習室	
94	2・9・20・23	土	博物館実習室	沖縄県立看護大学 ナーシングキャリアカフェ 9回目			日	屋外展示場	
		土	博物館実習室				日	美術館講座室	
		土	博物館実習室						
		水	スタジオ						
					101	26~28	火~木	スタジオ	ヒューマンアカデミー那覇校 第5回卒業・修了展示会

【2013年3月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
1	1	金	美術館講座室	(株)レキサス 第1回地域イベント情報円卓会議	16	7	木	県民アトリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング
2	1	金	県民アトリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング	17	7	木	美術館講座室	大城マネジメント研究所 「キャリア段位制度」人事賃金制度構築への対応策
3	1	金	美術館講座室	昭和(株) 沖縄地方バリアフリー推進連絡会議	18	7	木	講堂	日本商工会議所青年部 / 那覇商工会議所青年部
4	1	金	美術館講座室	あいおいニッセイ同和労組沖縄区会 第7回沖縄区会総会	19	8	金	講堂	日本商工会議所青年部 第32回全国大会 第三分科会
5	2	土	美術館講座室	(株)スターライズ 新製品研修会	20	8	金	博物館実習室	サンクスアイ / 宮城浩子 ミネラルの勉強会
6	3	日	博物館講座室	MoseManagement LLC 大人のマネー勉強会	21	8	金	博物館講座室	照屋俊幸法律事務所法務セミナーVol.1 貴社を守る! 契約書作成法
7	3	日	美術館講座室	ミキワールド沖縄 食の勉強会	22	8	金	県民アトリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング
8	3	日	講堂	K's Lesson Studio ピアノコンサート	23	8	金	美術館講座室	ライフバンテージ
9	5	火	講堂	総合事務局金融監督課 地域密着型シンポジウム	24	8	金	講堂	(株)シュガートレイン 第5回 沖縄感性・文化産業シンポジウム
10	6	水	講堂		25	9	土	博物館実習室	(株)ノエビア カフェノエビア研修
11	6	水	博物館講座室	日本司法支援センター 沖縄地方事務局 法テラス沖縄 第7回地方協議会	26	9	土	県民アトリエ	ピオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会
12	6	水	博物館講座室	沖縄県商工振興課 / ゆいまーる沖縄(株) 沖縄県新ニーズモデル創出事業 県内展示発表・成果報告会	27	9	土	子供アトリエ	
13	6	水	美術館講座室	(株)エヌティエイチ 愛用者セミナー	28	10	日	博物館講座室	那覇市身体障害者福祉協会 平成24年度那覇市障害者美術展表彰式
14	7	木	博物館実習室	テクノロジーシードインキュベーション(株) 沖縄文化等コンテンツファンド組合員集会	29	10	日	博物館講座室	沖縄県自然保護課 / 環境科学センター 「めざせ! ちゅら海2013 - 島人が取り組むサンゴ礁の保全再生」
15	7	木	博物館講座室	圓和館 ファミリーヒストリー幸福を呼ぶ祈願書講演会	30	10	日	講堂	ピテエナ那覇ミュージアムシーズン ピテエナ・ピアノステップアップ那覇春季地区

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報(申込者)
31	11	月	スタジオ	那覇市身体障害者福祉協会 平成24年度那覇市障害者美術展 片づけ	59	19	火	博物館 講座室	パーソネルマネジメントサポート 勉強会
32	12	火	県民ア トリエ	エステティックちばな 女性企業勉強会	60	19	火	美術館 講座室	盛和塾沖縄 キックオフ会
33	12	火	美術館 講座室	沖縄県建築士会 1級建築士免許交付式	61	19	火	美術館 講座室	シナリアアテンド シナリービューティー セミナー
34	13	水	博物館 講座室	「戦争とその表象」を考える会 シンポジウム『戦争と文学—ドイツ、日本、 沖縄の眼差し』	62	20	水	美術館 講座室	IEグループ インテンションエナジー研修会
35	13	水	博物館 講座室	クオリティサイトテクノロジー(株)一次試験	63	20	水	講堂	琉球大学 シンポジウム「危機的な状況にある言語・ 方言・の保存・継承—琉球・奄美・八丈—」
36	13	水	美術館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング(株) 現場代理人講習会2回目	64	21	木	県民ア トリエ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての説明会
37	13	水	美術館 講座室	盛和塾沖縄 経営者勉強会	65	21	木	講堂	明治安田生命 4月チャレンジ月間新発研修 会
38	13	水	講堂	沖縄広告協会 / (株)ブレーン沖縄 中西元男氏 講演会	66	22	金	博物館 実習室	(株)求人おきなわ パワフルサポートCグループコーディネー ター報告会
39	14	木	博物館 実習室	きりわ会 社会保険に関する勉強会	67	22	金	博物館 講座室	社団法人日本建築家協会沖縄支部 15周年記 念「風土に生きる」講演会第二会場
40	14	木	スタジオ	(株)ヴィーダ ラポール倶楽部 新規事業説明 会	68	22	金	博物館 講座室	明治安田生命 子育て支援セミナー
41	14	木	県民ア トリエ	(社)中小企業経営アドバイザー協会 ホレボレ事業計画作成研修	69	22	金	県民ア トリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング
42	14	木	子供ア トリエ	アクサ生命保険(株)主任リーダー会議	70	22	金	子供ア トリエ	光画文化研究所 「フラグメンツ3」翼た ちの断章 説明会
43	14	木	美術館 講座室	タマホーム沖縄協力会工程会議	71	22	金	美術館 講座室	ライフバンテージ アンチエイジングの勉 強会
44	14	木	美術館 講座室	BUZZ 出版 デジタルブックの未来と可能性 について	72	22	金	講堂	社団法人日本建築家協会沖縄支部 15周年記 念「風土に生きる」建築文化講演会
45	14	木	講堂	総合研究大学院大学 公開シンポジウム「沖縄から世界を見る」	73	23	土	博物館 講座室	万国津梁機構 定例講演会
46	14	木	講堂	沖縄県建設技術センター ゆいぐる説明会	74	23	土	博物館 講座室	家庭倫理の会那覇市 沖縄県青年弁士予選 会
47	15	金	博物館 講座室	(株)ラジカル沖縄 ルーキー採用予定企業様 応援セミナー	75	23	土	県民ア トリエ	日本建築家協会沖縄支部 卒業設計作品選奨 公開審査会
48	15	金	スタジオ	アイエヌジーアットマーク沖縄 水上浩一EC実践会勉強会	76	23	土	子供ア トリエ	
49	15	金	県民ア トリエ	(社)中小企業経営アドバイザー協会 ホレボレ事業計画作成研修	77	23	土	美術館 講座室	沖縄語普及協会 幼児教育育成講座
50	15	金	子供ア トリエ	ユニチャームメンリッケ ミーティング	78	23	土	講堂	社団法人日本建築家協会沖縄支部 15周年記 念「風土に生きる」
51	15	金	美術館 講座室	グッジョブおきなわ推進事業局 沖縄県委託事業沖縄型ジョブシャドウイング 事業3月度全体会議	79	23	土	講堂	沖縄県リハビリテーション医学会協会 第12回沖縄県リハビリテーション医学会・ 協会研修会
52	15	金	美術館 講座室	圓和館 ファミリーヒストリー幸福を呼ぶ祈願書講演 会	80	24	日	博物館 実習室	家庭倫理の会那覇市 生活倫理相談士 面接 審査会場
53	16	土	博物館 講座室	(有)海気コーポレーション 加藤明医学博士による健康講座	81	24	日	博物館 講座室	日本人事(株) happy (ハッピー) 上映会
54	16	土	県民ア トリエ	ビオ倶楽部(株) アミノ酸についての勉強会	82	24	日	美術館 講座室	圓和館 ファミリーヒストリー幸福を呼ぶ祈願書講 演会2回目
55	16	土	子供ア トリエ	版の会 版画教室	83	24	日	講堂	岳原美加 音楽発表会
56	16	土	美術館 講座室	沖縄の教育を考える会 「生命の光」上映会	84	26	火	博物館 実習室	泰成(株)・悠々健美クラブ 事業説明会
57	17	日	県民ア トリエ	海気コーポレーション	85	26	火	博物館 講座室	総合事務局 地域経済課 技術開発支援事業 公募説明及び中小企業支 援施策等説明会
58	17	日	講堂	ピアノ教室「わ」発表会	86	26	火	子供ア トリエ	ひとひら 自救健康教室

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
87	26	火	講堂	沖縄コングレ 沖縄 MICE シンポジウム「MICE 市場の現状と 今後の沖縄 MICE の展開について」	100	31	日	博物館 講座室	グローバルハイシティ勉強会
88	27	水	博物館 講座室	㈱ジェイティビー沖縄国内商品事業部 JTB「Rika おきなわ」説明会	101	31	日	県民ア トリエ	ブルーローズリミテッド 女性企業家人生形 成セミナー
89	27	水	美術館 講座室	㈱ハウ コーヒーエネマご愛用者フォローア ップ講習会	102	31	日	美術館 講座室	ミキワールド沖縄 食の勉強会
90	28	木	博物館 実習室	㈱イスラン勉強会	103	31	日	講堂	Happy 音楽教室 ピアノ発表会
91	28	木	県民ア トリエ	ブルーローズリミテッド 女性企業家人生 形成セミナー	104	1～ 3	金 ～ 日	スタジオ	ヒューマンアカデミー那覇校 第5回卒業・ 修了展示会
92	28	木	美術館 講座室	㈱大城マネジメント研究所 改正労働者派遣法の実務（キャンセル100%）	105	5～ 10	火 ～ 日	スタジオ	那覇市身体障害者福祉協会 平成24年度那覇市障害者美術展
93	28	木	美術館 講座室	ル・レモインターナショナル㈱ 事業説明会	106	19 ～ 24	火 ～ 日	スタジオ	社団法人日本建築家協会沖縄支部 15周年記 念「風土に生きる」
94	29	金	博物館 講座室	(社)沖縄県建築士会 すべての建築士のた めの総合研修	107	2・ 9・ 16・ 23・ 30	土	美術館 講座室	沖縄県立看護大学 ナーシングキャリアカフ ェ
95	29	金	スタジオ	happ 理事会				美術館 講座室	
96	29	金	美術館 講座室	㈱琉球ファクトリー 新規卒者パワフルサポートプログラム B グループ会議				美術館 講座室	
97	30	土	美術館 講座室	沖縄語普及協会 幼児教育育成講座				美術館 講座室	
98	30	土	講堂	慶應義塾大学 公開シンポジウム「暮らしの 中のサンゴ礁」				博物館 実習室	
99	31	日	博物館 講座室	沖縄県眼科医会 第113回 沖縄眼科集談会					

博物館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、収集保管、企画展示、教育普及という4つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに関連しているが、調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。

当館における調査研究活動は、全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員それぞれによる個別の調査研究がある。

総合調査では、各島において自然、歴史、民俗、考古、美術工芸に関する基礎資料の掘り起こしと収集を行ってきた。久米島（1993・1994年度）を皮切りに、波照間島（1996・1997年度）、西表島（1998～2000年度）、小浜島（2001～2003年度）、与那国島（2004～2008年度）、竹富島（2009～2011年度）で調査を行った。2012～2015年度は鳩間島・新城島・黒島での調査を予定しており、今年度は鳩間島を中心に調査を実施している。

共同研究事業としては、国立科学博物館、東京大学と共同で、南城市玉城のハナシダガマ遺跡（2006・2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007～2010年度）、2011年度は武芸洞に加えて同敷地内のサキタリ洞を調査対象とした。2012年度は沖縄振興特別推進交付金対象事業「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」として位置づけ、2ヵ年計画でサキタリ洞遺跡の本調査を実施している。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形で活かされている。

以下、2012年度における調査研究等の活動状況を報告する。

（久場 政彦）

2. 博物館総合調査—鳩間島・新城島・黒島総合調査—

【趣旨】

総合調査事業は県内離島の自然・歴史・文化について、博物館各分野の学芸員が総合的に調査を実施し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の自然や文化を多くの県民に伝えることを目的としている。これまで、久米島、波照間島、西表島、小浜島、与那国島、竹富島について現地調査をおこない、それらの成果をもとに、1996年に久米島展、2010年に八重山展を実施した。2012年度から、鳩間島・新城島・黒島総合調査を4年計画で実施する。2012年度はおもに鳩間島を調査する予定である。総合調査の精度を高めるため、予算の範囲内で、館外の専門家を調査員として委嘱する。2015年度に報告書を刊行する。

【予算額】

668,000円

【組織】

各学芸員・調査員でテーマを設定し、適切な時期に調査を実施する。調査の際、テーマにそったデータの収集だけでなく、展示会を想定し、資料の収集（借用の可能性）や撮影にも努める。本調査の往路・復路も利用し、他館の収蔵資料の状況調査や展示が想定される写真撮影などにも努める。

【平成24年度調査実績】

山崎 仁也	2012年10月26～29日、2013年2月9～12日	（鳩間島）
加島 幹男	2013年2月9～12日	（鳩間島）
比嘉 清文	2013年1月9～12日	（鳩間島）
仲里 健	2012年12月12～14日（黒島）、2013年2月25～27日	（鳩間島）
岸本 弘人	2013年3月4～6日	（黒島）
片桐千亜紀	2013年3月26～28日	（鳩間島、石垣島）
岸本 敬	2013年3月26～28日	（鳩間島、石垣島）

（山崎 仁也）

3. 博物館共同研究事業

(1) 沖縄遺産のブランド開発・発信事業

【趣旨】

歴史的・地理的要因により日本本土と異なる発達をとげた本県は、固有の文化・歴史的資源を有しながらも、本県独自の歴史や文化（沖縄遺産）は県外にまだ十分に認知されていない。特に沖縄遺産の目玉となる旧石器人骨は、日本人のルーツを解明する重要な鍵となる資料であり、日本本土では1カ所（静岡；浜北人）のみのところ、本県からは港川人をはじめ数多く発見されている。本県が旧石器人骨の調査場所として圧倒的に有利な立場にあることは明らかである。そこで、本事業では沖縄県立博物館・美術館のこれまでの試掘調査結果に基づいて、沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡の発掘調査を行い、同遺跡の調査成果を利用した新たな観光資源の創出及び県立博物館の価値増大を図ることを目的とする。

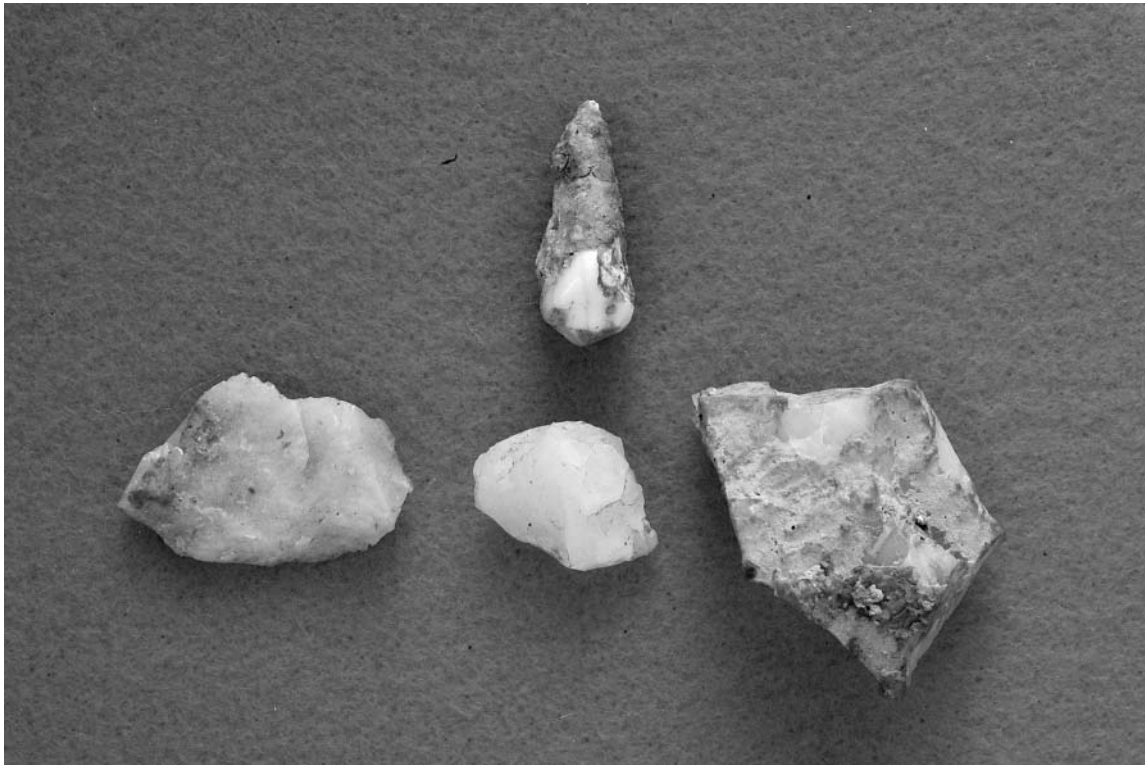
【事業概要】

沖縄県南城市のサキタリ洞遺跡にて、2カ所の調査区において発掘を進めた（Ⅰ区、Ⅱ区）。Ⅰ区では、約3万年前ごろまでさかのぼる良好な堆積層が確認されており、これまでの調査で発見していたⅠ層出土のヒト歯と石英製の石器の年代が1万2千年前であることを確認し、沖縄の旧石器人類の生活を解明する重要な手がかりを得た。この成果を学術論文として発表し、県内外のメディアにも大きく取り上げられた。同層順から小動物骨やマイマイ、カニ爪、炭化材など豊かな自然遺物を得ており、それらの遺物の整理作業を進めた。

サキタリ洞のⅡ区からは、グスク時代の岩陰囲込墓を発見したほか、その下層から縄文時代前期の土器や獣骨、海の貝などを発見した。



サキタリ洞Ⅰ区の調査風景



サキタリ洞 I 区から発見された 1 万 2 千年前のヒト歯と石英製石器

(2) JICA 草の根技術協力事業「沖縄・カンボジア平和文化創造の博物館づくり協力」

【経緯と目的】

2009年～2011年の3年間実施された JICA 草の根技術協力「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」(以下、「前プロジェクト」)においては、カンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館 (TSGM) の職員延べ11名が沖縄研修を体験するとともに、専門家の支援を得て個別のアクションプラン (AP) を実施し、「平和博物館」としての職員の技術、意識が向上した。

同館は、ポル・ポト政権時代の収容所が1979年に一般公開された博物館で、虐殺の凄惨さや歴史的事実を今日に伝えている。約200万人の犠牲者を数えた歴史的教訓を今日に伝えるため、「平和博物館」としてカンボジアの人々に愛され、世界に誇れる施設作りが求められている。そのための職員の技術や博物館運営能力の向上のために、同プロジェクトでは、平和教育の拠点として沖縄が培ってきた資料収集・保存、展示、教育普及活動に関わるノウハウを共有し、平和博物館づくりに協力してきた。とくに、最終年度の2012年3月には、合同企画展「TWO PEACE—二つの平和博物館の合同企画展」を TSGM で開催し、多くの来館者にカンボジアの歴史的悲劇をより深く理解させるとともに、このプロジェクト実施の主旨を理解させることができた。

今回、カンボジア側から TSGM のアクションプランの実績が評価され、前プロジェクトの成果を踏まえ、なお一層の平和文化創造に係る支援要望が求められたため、「平和文化」の創造、発信の拠点としての博物館の社会的役割を基底にしたプロジェクトを実施することとなった。また、実施体制として、従来の沖縄県平和祈念資料館 (OPMM) と TSGM の平和博物館の協力関係に加え、沖縄県立博物館・美術館 (OPMAM) とカンボジア国立博物館 (NMC) を加えた 2 プラス 2 の博物館間で事業を実施し、沖縄側のプロジェクト担当事務局を OPMM から OPMAM に移行し、2012年～2014年の3年間の事業を実施することとした。

【事業内容】

カンボジア国立博物館 (NMC)、トゥール・スレン虐殺博物館 (TSGM) との協議および視察を行い、本プロジェクトの概要について以下のとおり合意した。

<プロジェクト概要>

a) 上位目標：歴史的教訓や自文化の優位性を次代に継承し、恒久平和をめざすための「平和文化」を創造

する拠点として、国民に親しまれる博物館をめざす。

- b) プロジェクト目標：国民から愛される「平和文化」創造拠点としての博物館管理運営能力が強化される。
- c) 対象施設：カンボジア国立博物館（NMC）、トゥール・スレン虐殺博物館（TSGM）
- d) 事業期間：2012年7月～2015年3月（3年間）
- e) 期待される成果
 - ・「平和文化」創造拠点としての博物館の理念及び管理運営方法が理解され、市民、国民に愛される博物館づくりが実践される。
 - ・「平和文化」を醸成するために歴史的教訓を次代に発信するための活動が展開される。
 - ・「平和文化」の推進啓発のための施設・展示づくりが理解され、来館者満足度に留意した展示活動をはじめとする博物館活動が工夫される。
 - ・学校教育・社会教育における「平和文化」の創造推進拠点としての博物館活動が実践される。
- f) 活動内容：
 - ・毎年3～4名のカンボジアの両博物館のスタッフが、来沖して沖縄県立博物館・美術館を中心に約1ヶ月間（10月～11月）の研修を行う。
 - ・沖縄での研修においては、研修員は課題研究を持ち、研修を通じた学びを基に自国での活動（アクションプラン：AP）を計画し、実践する。

APの確実な履行のため、沖縄側から専門家4～5名を毎年約2週間（2月）、カンボジに派遣し、現地での活動を支援する。

【実施内容】

①プロジェクト実施の調印式（カンボジア）

本プロジェクトのカンボジア側との覚書確認のために、次の日程で職員をカンボジアに派遣した。なお、JICA職員が同席した。

沖縄県立博物館・美術館千木良芳範（参事兼博物館副館長）、園原謙（主幹）が6月22日～30日。JICA沖縄センター小幡俊弘（所長）・鳥居香代（企画役）が6月24日～30日。

②沖縄研修

沖縄で研修は2012年10月11日～11月9日まで、NMC2名（Mrs. Oun Sokunthavy、Mr. Hor Kosal）、TSGM（Mr. Keo Lundi、Mrs. Sdan Samrithpisey）が参加した。沖縄側は、1日の講義を午前、午後の各2時間の講義、延べ36コマを準備し、講義ごとに講義内容のレジュメや資料をクメール語に翻訳し、内容の理解に努めた。約4週間の研修内容の構成は次のとおりとした。

- a) 日本の博物館の概要や法規や規則を学ぶ。
- b) 博物館施設（沖縄県立博物館・美術館、沖縄県平和祈念資料館等）の機能と展示構成を学ぶ。
- c) 個々の課題研究に合わせた講義設定
- d) 国内博物館で最新鋭の非破壊分析装置や保存修復技術を有する九州国立博物館で研修する。
- e) カンボジアの歴史・文化の理解のために中学校・高校で出前講義を行う。
- f) カンボジアの歴史・文化の理解のために最終週に写真企画展「カンボジア王国の光と影」展を開催する。
- g) 研修員のアクションプランの発表会を研修前半と後半で各1回開催する。

③専門家派遣

研修員4名のAPの進捗状況並び指導及び2013年研修員予定者の確認、研修課題のためにカンボジアに職員を派遣した。派遣職員と派遣期間は次のとおり。

沖縄県立博物館・美術館	園原 謙・片桐千亜紀	2月10日（日）～23日（土）
沖縄県平和祈念資料館	宮城 哲夫	2月14日（木）～23日（土）
九州国立博物館	藤田 励夫	2月10日（日）～17日（日）

また、来年度研修予定者のヒアリングと研修課題を確認し、研修期間を2013年10月～11月間の3～4週間

程度とする。また、研修員には、沖縄の中高生徒に対して、カンボジアの歴史と文化に関する出前講義と写真企画展「カンボジアの光と影」展のデータ持参、企画製作を課すことを確認。研修予定者は次のとおり。

NMC

Mr. Tit Sokha (ソッカ 遺産課課員) 収蔵資料の保存について

Mr. Horl Sopheap (ソヒップ 保存課課員) 収蔵写真の保存について

TSGM

Mr. Keo Morniroth (モニロー 企画担当副課長) TSGM 新館構想について

Mr. Chhem Sokchamroeum (チョムラン ガイド担当課員) 写真撮影と情報発信について



アクションプランのヒアリングとワークノートづくりのワークショップ



第1年目の確認書署名式(次官出席)



2013年度研修予定者(左側2名がNMC、右側2名がTSGM)

4. 調査・研究・講演・著作論文等

久場 政彦(博物館班班長)

○調査・研究等

・郷土玩具の調査研究(2012年9月～2013年3月)

○講演等

・名称:琉球大学教育学部生活科教育研究 博物館実習(前期)

期日:2012年6月23日

依頼機関:琉球大学教育学部

・名称:夏休み!博物館学芸員教室 テーマ「沖縄の伝統的な民家を調査せよ!」

期日:2012年8月27日

・名称:那覇市首里公民館成人講座 おきなわ県民カレッジ連携講座

期 日：2012年9月8日

依頼機関：那覇市首里公民館

- ・名 称：平成24年度第3回JICA地域別研修（人材育成普及型）中南米地域 熱帯・亜熱帯地域エコツアーリズム企画運営

期 日：2012年10月3日

依頼機関：JICA沖縄国際センター

- ・名 称：2012年度JICA草の根技術協力「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」講義4「博物館の展示研究Ⅰ」、講義5「博物館の調査研究Ⅰ」

期 日：2012年10月12日・15日

依頼機関：JICA沖縄国際センター

- ・名 称：琉球大学教育学部生活科教育研究 博物館実習（後期）

期 日：2012年12月1日

依頼機関：琉球大学教育学部

- ・名 称：学芸員講座「日琉同祖論研究の現状 ー入門編ー」

期 日：2013年2月16日

- ・名 称：社会教育主事講習

期 日：2013年2月19日

依頼機関：県教育庁生涯学習推進課生涯学習センター

○著作論文

- ・「明治大正期の沖縄における木材利用の状況についてー『沖縄県森林視察復命書』の記述を中心にー」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

園原 謙（主幹）

○調査・研究等

- ・国頭村制施行100年記念事業『くんじゃん100年のあゆみ』（仮称）の編集（2012年4月～2013年3月（月1回） 依頼機関：国頭村役場
- ・2012年度沖縄県対米請求権事業協会研究助成事業「三線の型の正型と名器の音色分析」の研究（2012年4月～2013年2月）依頼機関：琉球三線楽器保存育成会
- ・2013年度企画展「三線のチカラ」展のためのハワイ在の三線調査（ハワイ州オアフ島）（2013年1月7日～13日）
- ・2013年度企画展「三線のチカラ」展のための楽器資料調査（埼玉、浜松市、名古屋市、佐賀市）（2013年3月11日～14日）
- ・近代の新聞記事調査（東京）（2013年3月25日～29日） 依頼機関：国頭村役場
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る専門家派遣（ニミッツ締結）について（カンボジア王国）（2012年6月22日～30日）
依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター
- ・2012年度沖縄県工芸産業振興審議会デザイン部会（2012年9月～2013年3月）
依頼機関：沖縄県商工振興課
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る現地研修の同行について（九州国立博物館）（2012年10月17日～19日）
依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る専門家派遣について（カンボジア王国）（2013年2月10日～23日）
依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター

○講演等

- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「自分の印鑑をつくってみよう」

- 期 日：2012年7月27日
- ・名 称：三線理解のための講話—三線からみる沖縄の歴史と文化—
- 期 日：2012年11月10日
- 場 所：てんぷす那覇
- 依頼機関：沖縄県三線製作事業協同組合
- ・名 称：名桜大学「国際学入門」沖縄から発信する「平和文化」草の根技術協力事業（地域提案型）
「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」事業の意義について
- 期 日：2012年12月20日
- 場 所：名桜大学
- 依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター
- ・名 称：学芸員講座「琉球王国時代の名器三線!!—甦る音と好きな音—」
- 期 日：2012年12月23日
- 場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- ・名 称：2012年度沖縄文化活性化・創造発信支援事業「琉球文化としての“三線文化”を世界へ」パ
ネリスト
- 期 日：2013年2月28日
- 場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
- 依頼機関：沖縄県三線製作事業協同組合

○著作論文等

- ・2012年度沖縄県対米請求権事業協会研究助成『三線の型の正型と名器の音色分析』琉球三線楽器保存育成会 2013年2月
- ・「三線受容の文化史」（沖縄県伝統工芸製品指定のための三線の歴史）沖縄県三線製作事業協同組合 2012年6月
- ・「三線の音へのアプローチⅠ—沖縄県指定有形文化財「三線盛嶋開鐘 附胴」の原音再生の試みを中心に—」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2012年3月

與那嶺 一子（主任学芸員 美術工芸）

○調査・研究等

- ・紅型（城間榮順作）の色調査（琉球大学資料館 風樹館）（2012年12月26日）
- ・ミミガイの利用状況調査（宮古苧麻績み保存会）（2013年2月3日）
- ・松坂屋コレクションの調査（一般財団法人J.フロント リテイリング史料館）（2013年2月26日）
依頼機関：NPO法人沖縄県工芸産業協働センター
- ・無形文化財（工芸技術）「読谷山花織」に関する調査（2013年3月12日）
依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

○講演等

- ・名 称：ワークショップ「千代紙で琉服をつくる」
期 日：2012年4月30日
- ・名 称：学芸員講座「ウチクイ ～風呂敷のこと、あれこれ～」
期 日：2012年5月26日
- ・名 称：法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄の染織—貢納布のはなし—」
期 日：2012年7月6日
依頼機関：法政大学沖縄文化研究所
- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「千代紙で琉服つくって、考える」
期 日：2012年7月27日
- ・名 称：紅型のいろとかたち
期 日：2012年9月16日
依頼機関：大阪市立美術館

- ・名 称：千代紙で琉服をつくろう in OSAKA
期 日：2012年9月17日
- ・名 称：文化財の活用－伊平屋阿母加那志衣裳を例に－
期 日：2012年10月4日
依頼機関：沖縄県博物館協会
- ・名 称：紅型
期 日：2012年12月15日
依頼機関：国立劇場おきなわ

○著作論文等

- ・「琉球の色」他『日本史色彩事典』吉川弘文館 2012年5月
- ・「紅型－多彩で華やかな夢のような世界」『沖縄復帰40周年記念 紅型 琉球王朝のいろとかたち』サン
トリー美術館 2012年4月
- ・與那嶺・小野まさ子・山田葉子「資料紹介 琉球国王尚家関係資料より『散形付并似例』」『沖縄県立博
物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

山崎 仁也（主任学芸員 自然史：生物）

○調査・研究等

- ・瀬長島におけるオカガニ生態予備調査（5月～12月）
- ・鳩間島のフロラ・ファウナ（総合調査10月、2月）

○講演等

- ・名 称：博物館ボランティア養成講座「沖縄の生態系の概要」
期 日：2012年6月8日
- ・名 称：昆虫標本づくり講習会 天久小学校
期 日：2012年7月26日
- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「自由研究のい・ろ・は」
期 日：2012年7月26日
- ・名 称：日本生物教育研究会北海道大会研究発表「安価にできる核酸の電気泳動」
期 日：2012年8月4日
- ・名 称：平成25年度生物多様性特別展プレイベント 壁画・絵本づくり活動①「生物多様性の話」
期 日：2012年9月16日
- ・名 称：ボランティア専門講座「常設展の生物展示と小学校教科書理科生物分野との関連」
期 日：2012年10月10日
- ・名 称：常設展展示解説会「生物分野のトピック」
期 日：2012年10月18日
- ・名 称：沖縄・カンボジア『平和博物館』協力「博物館の調査研究 総合調査とは」
期 日：2012年10月30日
- ・名 称：平成25年度生物多様性特別展プレイベント 壁画・絵本づくり活動③「クジラの話」
期 日：2012年12月16日
- ・名 称：平成25年度生物多様性特別展プレイベント 壁画・絵本づくり活動④「ヘビとカエルの話」
期 日：2013年1月13日
- ・名 称：平成25年度生物多様性特別展プレイベント 壁画・絵本づくり活動⑤「鳥の話」
期 日：2013年2月17日
- ・名 称：平成25年度生物多様性特別展プレイベント 壁画・絵本づくり活動④「無セキツイ動物の話」
期 日：2013年3月17日
- ・名 称：学芸員講座「カニの話はいかがかに？」
期 日：2013年3月23日

○著作論文等

- ・「豊見城市瀬長島におけるオカガニ *Discoplax hirtipes* の産卵生態（予備調査報告）」『沖縄県立博物

仲里 健（主任学芸員 自然史：地学）

○調査・研究等

- ・移動展事前調査（粟国島）（2012年10月25日～27日）
- ・博物館総合調査（黒島）（2012年12月12日～14日）
- ・博物館総合調査（鳩間島）（2013年2月25日～27日）

○講演等

- ・名 称：文化の杜（もぎり等）職員研修（I P M）
期 日：2012年5月21日、27日
依頼機関：文化の杜共同企業体（当館指定管理者）
- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「砂の中から、化石をさがそう!!」
期 日：2012年7月26日
- ・名 称：沖縄県地学教育研究会室内研究会 博物館バックヤードツアー
期 日：2012年8月20日
依頼機関：沖縄県地学教育研究会
- ・名 称：ボランティア学習会
期 日：2012年9月14日
- ・名 称：移動展（粟国島）講演会
期 日：2012年11月17日
- ・名 称：学芸員講座（嘉津宇岳ミニジオツアー）
期 日：2013年3月20日

○著作論文等

- ・「竹富島西海岸におけるビーチロック」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月
- ・「石垣島の地質」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月（遅沢壮一、田中浩紀、渡邊康志と共著）

岸本 敬（主任学芸員 民俗）

○調査・研究等

- ・国立民族学博物館「日本展示新構築（沖縄展示）」にかかる打ち合わせ（大阪府）（2012年5月11～13日）
依頼機関：国立民族学博物館
- ・平成25年度博物館企画展「三線展（仮称）」の事前調査（神奈川県）（2012年7月13～14日）
- ・多良間島「龕」調査（多良間村）（2012年11月15～16日）
- ・国立民族学博物館「日本展示新構築（沖縄展示）」にかかる打ち合わせ（大阪府）（2013年1月11～12日）
依頼機関：国立民族学博物館

○講演等

- ・名 称：「子どもと〈ユッカヌヒー〉ーヤカジ（中国風の魔除け）を作って子どもの成長を願おう！ー」
期 日：2012年6月16日
- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「博物館の庭の植物で〔おもちゃ〕をつくろう！」
期 日：2012年7月25日

○著作論文等

- ・「多良間島における〈龕〉の使用について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

岸本 弘人（主任学芸員 歴史：近現代）

○調査・研究等

- ・2012年度特別展「Okinawaから沖縄へ」関連資料調査
 - ① 内村氏宅瀬長亀次郎資料（首里）（2012年4月5日）
 - ② 石川・宮森630会（うるま市）（2012年5月19日、22日）

- ③ 沖縄県教職員組合（那覇）（2012年5月24日）
- ④ 読谷村立歴史民俗資料館（読谷）（2012年5月28日）
- ⑤ 若泉敬資料（福井・東京）（2012年6月11日～12日）
- ⑥ 沖縄県ロック協会（沖縄市）（2012年6月18日）
- ⑦ 沖縄県公文書館（南風原町）（2012年7月7日～24日）
- ⑧ 南風原文化センター（南風原町）（2012年7月20日）

○講演等

- ・名称：学芸員講座「小学生と中学生のための沖縄の歴史」
期日：2012年3月16日

○著作論文等

- ・「アメリカ統治下の出入管理と渡航制限」『復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」図録』2013年9月
- ・「沖縄の日本復帰に対するハワイ在住ウチナーンチュの意識調査」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月
- ・「展示会への観覧者参加の取り組み」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

片桐 千亜紀（主任 考古）

○調査・研究等

- ・久米島水中文化遺産調査（久米島町）（2012年4月6日～7日） 依頼機関：アジア水中考古学研究所
- ・大山盛保展に係る資料収集（山口県）（2012年7月3日～5日）
- ・第1次調査北海道水中文化遺産調査（北海道）（2012年7月14日～18日）
- ・第2次調査北海道水中文化遺産調査（北海道）（2012年9月13日～16日）
- ・大山盛保展に係る資料収集（長崎県）（2012年8月6日～8日）
- ・八重山水中文化遺産調査（石垣市・竹富町）（2012年11月4日～7日） 依頼機関：総合地球環境学研究所、東海大学
- ・第1回国立民族学博物館共同研究会（大阪府）（2012年11月11日～12日） 依頼機関：国立民族学博物館
- ・第2回国立民族学博物館共同研究会（大阪府）（2013年1月28日～30日） 依頼機関：国立民族学博物館
- ・移動展 in 栗国（栗国村）（2012年11月13日～19日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（宮古島の人類遺跡調査）（2012年12月10日～11日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡発掘調査支援（石垣市）（2012年12月18日～19日、2013年1月17日～18日、1月22日～23日、1月31日～2月1日、2月7日～8日、2月27日） 依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・中国古窯及び水中文化遺産調査（中華人民共和国）（2013年1月2日～10日）
- ・草の根技術協力事業（地域提案型）「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」に係る専門家派遣（カンボジア王国）（2013年2月10日～23日） 依頼機関：独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター
- ・第1回南城市史編集専門委員会グスク調査（南城市）（2013年1月31日） 依頼機関：南城市
- ・第2回南城市史編集専門委員会グスク調査（南城市）（2013年2月23日） 依頼機関：南城市
- ・第3回南城市史編集専門委員会グスク調査（南城市）（2013年3月15日） 依頼機関：南城市
- ・第4回南城市史編集専門委員会グスク調査（南城市）（2013年3月21日） 依頼機関：南城市
- ・島嶼考古学研究会（大阪府）（2013年3月4日～5日） 依頼機関：慶応大学
- ・与那国研究会（与那国町）（2013年3月9日～14日） 依頼機関：国立科学博物館
- ・沖縄県立博物館・美術館総合調査（鳩間島）（2013年3月26日～28日）

○講演・学会等

- ・名称：「沖縄における洞穴遺跡の空間利用と形成過程」（山崎真治・藤田祐樹と連名）
期日：2012年5月27日
学会名：日本考古学協会第78回総会
- ・名称：「先史具志川島人の墓と葬法」
期日：2012年7月1日

- 学会名：沖縄考古学2012年度総会並びに研究発表会
- ・名称：夏休み 博物館学芸員教室「神が宿る石 勾玉を削り出そう！」
期日：2012年7月25日
 - ・名称：名桜大学総合研究所公開講座・沖縄人のルーツを探る一骨からみえる沖縄人の歴史ー「先史
沖縄人の墓と生活」
期日：2012年7月28日
依頼機関：名桜大学総合研究所
 - ・名称：「竿根田原洞穴遺跡出土の人骨-出土状態から探る石垣島旧石器時代人の葬法」（土肥直
美・山崎真治・徳嶺里恵ほかと連名）
期日：2012年11月2～4日
 - 学会名：第66回日本人類学会大会
 - ・名称：「沖縄県北谷町平安山原A遺跡出土の鉄器の刺さった人骨について」（藤田祐樹・土肥直
美・松原哲志・山城安生と連名）
期日：2012年11月2～4日
 - 学会名：第66回日本人類学会大会
 - ・名称：「沖縄における更新世～完新世期の人類史と資源利用」
期日：2012年11月12日
 - 学会名：国立民族学博物館 共同研究『アジア・オセアニアにおける海域ネットワーク社会の人類史
的研究ー資源利用と物質文化の時空間比較ー』
 - ・名称：「沖縄更新世人骨出土地と白保竿根田原洞穴遺跡」
期間：2012年11月24日～5日
学会名：2012年度九州考古学会総会
 - ・名称：博物館学芸員講座「沖縄先史時代の崖墓」
期日：2012年12月22日
 - ・名称：久米島博物館文化講座「水中文化遺産の魅力」
期日：2013年2月2日～3日
依頼機関：久米島博物館
 - ・名称：「小さな島から見える南西諸島の先史時代」
期間：2013年3月5日
学会名：共同研究『島嶼考古学研究会』
 - ・名称：「八重山諸島の先史文化」
期間：2013年3月12日
学会名：共同研究『与那国研究会2012』
 - ・名称：新石垣空港開港記念特別展「白保竿根田原洞穴遺跡」ギャラリートーク
期日：2013年3月16日～17日
依頼機関：八重山博物館
- 著作論文等
- ・「日本の古人骨研究と更新世人類へのアプローチー古人骨と考古遺物に基づいて高精度な人類史復元に
向けてー」『旧石器研究』第8号 日本旧石器学会 2012年6月（山崎真治・藤田祐樹・土肥直美・米
田穰と連名）
 - ・「先史具志川人の墓と葬法」『先史時代の墓と葬制 沖縄考古学会2012年度研究発表会資料集』 沖
縄考古学会 2012年7月
 - ・「サキタリ洞の後期更新世堆積層中より出土した石英標本に関する考古学的研究」『日本考古学』34日
本考古学協会 2012年10月 71-85頁（山崎真治・西秋良宏・赤嶺信哉・仲里健・大城逸朗と共著）
 - ・『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』図録 沖縄県立博物館・美術館 2012年10月
 - ・「沖縄更新世人骨出土地と白保竿根田原洞穴遺跡」『平成24年度九州考古学会総会 資料集』九州考
古学会 2012年11月

- ・「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009～2011年）－沖縄諸島における新たな更新世人類遺跡－」 *Anthropological Science (Japanese Series)*120(2) 2012年12月（山崎真治・国木田大・松浦秀治・諏訪元・大城逸朗と共著）
- ・「八重山における水中文化遺産の現状と将来－石垣島・屋良部沖海底遺跡を中心に－」『八重山博物館紀要』第22号 八重山博物館 2013年3月（小野林太郎・坂上憲光・菅浩信・宮城弘樹・山本祐司と共著）
- ・「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の調査研究」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

藤田 祐樹（主任 自然史：人類）

○調査研究等

- ・大山盛保展に係る資料収集（山口県）（2012年7月3日～5日）
- ・仲宗根貝塚出土人骨調査（東京）（2012年7月11日～13日） 依頼期間：沖縄市立郷土博物館
- ・大山盛保展に係る資料収集（長崎県）（2012年8月6日～8日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る比較資料調査（東京）（2012年11月12日～14日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（宮古島の人類遺跡調査）（2012年12月10日～11日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（八丈島）（2013年1月7日～10日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（東京）（2013年1月29日～30日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡調査支援（2013年1月12日、20日、27日） 依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る比較資料調査（読谷、恩納、中城）（2013年2月15日～18日）

○講演・学会等

- ・名 称：夏休み 博物館学芸員教室「歯の研究－自分の歯を調べてみよう」
期 日：2012年7月26日
- ・名 称：名桜大学総合研究所公開講座・沖縄人のルーツを探る－骨からみえる沖縄人の歴史－「最初の琉球列島人」
期 日：2012年7月21日
依頼機関：名桜大学総合研究所
- ・名 称：「竿根田原洞穴遺跡出土の人骨-出土状態から探る石垣島旧石器時代人の葬法」（土肥直美・片桐千亜紀・山崎真治・徳嶺里恵ほかと連名）
期 日：2012年11月2～4日
学 会 名：第66回日本人類学会大会
- ・名 称：「沖縄県北谷町平安山原A遺跡出土の鉄器の刺さった人骨について」
期 日：2012年11月2～4日
学 会 名：第66回日本人類学会大会
- ・名 称：学芸員講座「沖縄にいたシカの話」
期 日：2013年1月12日

○著作論文等

- ・『Facial characteristics of the prehistoric and early-modern inhabitants of the Okinawa islands in comparison to the contemporary people of Honshu』*Anthropological Science* Vol.120 2012年4月発行 23-32頁（深瀬均ほか4名と連名）
- ・『Geographic variation in body form of prehistoric Jomon males in the Japanese archipelago: its ecogeographic implications』*American Journal of Physical Anthropology*Vol.149(1) 2012年9月発行 125-135頁（深瀬均ほか4名と連名）
- ・『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』図録 沖縄県立博物館・美術館 2012年10月
- ・大山盛保生誕100年記念誌『通いつづけた日々』（編著）大山盛保生誕100年記念誌刊行会 2012年10月
- ・「日本の古人骨研究と更新世人類へのアプローチ－古人骨と考古遺物に基づいて高精度な人類史復元に向けて－」『旧石器研究』第8号 日本旧石器学会 2012年6月（山崎真治・片桐千亜紀・土肥直美・米田穰と連名）

- ・「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009～2011年）－沖縄諸島における新たな更新世人類遺跡－」 Anthropological Science (Japanese Series)120(2) 2012年12月（山崎真治・片桐千亜紀・国木田 大・松浦秀治・諏訪 元・大城逸朗と共著）
- ・「運動学習教材 TESIMO」『博物館紀要』6 沖縄県立博物館・美術館 2013年 3月
- ・「東京大学総合研究博物館所蔵の仲宗根貝塚出土資料」紀要あやみや 第20号 沖縄市立郷土博物館 2013年 3月発行

山崎 真治（主任 自然史：人類）

○調査研究等

- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る発掘調査（南城市）（2012年8月～10月、2013年2月～3月）
- ・慶良間諸島（渡嘉敷島）の考古学的調査（2012年7月29日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡報告書作成に係る調整会議（埋蔵文化財センター）（2012年8月1日）
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・故友寄英一郎氏所蔵書籍資料調査（2012年10月13日）
- ・2012年度企画展大山盛保生誕100年記念「発見への情熱」にかかる資料調査等
 - ① 中城村教育委員会・北中城村教育委員会資料調査（2012年4月25日）
 - ② 宜野湾市教育委員会資料調査（2012年5月24日）
 - ③ バックナービルに関する聞き取り調査（2012年7月6日）
 - ④ 大城さとし氏・こども記者取材対応（2012年8月20日）
 - ⑤ 沖縄県公文書館資料調査（2012年8月21日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（宮古島の人類遺跡調査）（2012年11月29日～30日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（東京）（2012年12月11日～12日）
- ・沖縄遺産のブランド開発・発信事業に係る調査研究（八丈島）（2013年1月7日～10日）
- ・長崎県佐世保市福井洞窟遺跡発掘調査現地調査（2013年1月14日～16日）
- ・白保竿根田原洞穴遺跡調査支援（2013年1月17日、29日）
依頼機関：沖縄県立埋蔵文化財センター
- ・宮古島の考古遺跡調査（2013年3月26日）

○講演・学会等

- ・名 称：「石英の破片が語る琉球の地史」
期 日：2012年5月12日
依頼機関：おきなわ石の会
- ・名 称：「沖縄における洞穴遺跡の空間利用と形成過程」（藤田祐樹・片桐千亜紀と連名）
期 日：2012年5月27日
学 会 名：日本考古学協会第78回総会
- ・名 称：名桜大学総合研究所公開講座・沖縄人のルーツを探る一骨からみえる沖縄人の歴史－「沖縄の人類遺跡」
期 日：2012年7月14日
依頼機関：名桜大学総合研究所
- ・名 称：沖縄考古学会10月定例会「南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査」
期 日：2012年10月19日
学 会 名：沖縄考古学会
- ・名 称：大山盛保生誕100年記念シンポジウム・港川人研究と2万年前の沖縄「サキタリ洞遺跡の発掘調査と沖縄の旧石器時代」
期 日：2012年11月3日
依頼機関：八重瀬町教育委員会
- ・名 称：守礼大学講座「ガンガラーの谷と沖縄3万年の人類史」
期 日：2012年11月7日
依頼機関：那覇市首里公民館

- ・名 称：沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会講座「サキタリ洞遺跡の発掘と沖縄3万年の人類史」
期 日：2012年12月19日
依頼機関：沖縄県高等学校地理歴史科公民科教育研究会
- ・名 称：浦添文化講座「港川人から見える沖縄の歴史」
期 日：2013年1月13日
依頼機関：うらおそい歴史ガイド友の会
- ・名 称：博物館学芸員講座「沖縄化石研究のパイオニア・大山盛保と発見への情熱」
期 日：2013年1月19日
- ・名 称：「中琉球・南琉球の先土器－土器出現期について」
期 日：2013年1月26日
学 会 名：国立歴史民俗博物館 共同研究「先史時代における社会複雑化と地域多様化の研究」第3回研究会
- ・名 称：「瀬戸内地域の前期後葉の土器」
期 日：2013年2月11日
学 会 名：第23回九州縄文研究会沖縄大会「曾畑式土器とその前後を考える」
- ・名 称：学芸員講座「小学生と中学生のための沖縄の歴史」
期 日：2013年3月16日
- ・名 称：「港川人の発見者・大山盛保氏について」
期 日：2013年3月28日
依頼機関：歯立会

○著作論文等

- ・『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』図録（編著） 沖縄県立博物館・美術館 2012年10月
- ・大山盛保生誕100年記念誌『通いつづけた日々』（編著） 大山盛保生誕100年記念誌刊行会 2012年10月
- ・「日本旧石器学会研究グループ2011年度活動報告」『日本旧石器学会ニューズレター』第20号 日本旧石器学会 2012年4月
- ・「日本の古人骨研究と更新世人類へのアプローチ－古人骨と考古遺物に基づいて高精度な人類史復元に向けて－」『旧石器研究』第8号 日本旧石器学会 2012年6月（片桐千亜紀・藤田祐樹・土肥直美・米田穰と連名）
- ・「船元式土器の分類と変遷（I）」『関西縄文論集3 関西縄文時代研究の新展開－松尾洋次郎さん追悼論集』 関西縄文文化研究会 2012年6月
- ・「研究発表会『先史時代の墓と葬制』の開催にあたって」『先史時代の墓と葬制 沖縄考古学会2012年度研究発表会資料集』 沖縄考古学会 2012年7月（宮城弘樹と連名）
- ・「脊振南麓における縄文時代後晩期剥片石器群の研究」『古文化談叢』第68号 九州古文化研究会 2012年7月
- ・「サキタリ洞の後期更新世堆積層中より出土した石英標本に関する考古学的研究」『日本考古学』34 日本考古学協会 2012年10月（西秋良宏・赤嶺信哉・片桐千亜紀・仲里健・大城逸朗と共著）
- ・「沖縄県の動向」『九州旧石器』16 九州旧石器文化研究会 2012年11月
- ・「琉球列島の旧石器人と北上仮説」『九州旧石器』16 九州旧石器文化研究会 2012年11月
- ・「大山盛保さんと沖縄の化石研究」 大山盛保氏生誕の地記念碑建立記念誌 2012年12月
- ・「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009～2011年）－沖縄諸島における新たな更新世人類遺跡－」 Anthropological Science (Japanese Series)120(2) 2012年12月（藤田祐樹・片桐千亜紀・国木田 大・松浦秀治・諏訪 元・大城逸朗と共著）
- ・「沖縄・先島諸島の石器石材の流通とその評価」『考古学ジャーナル』634 北隆館 2013年2月
- ・「人物紹介 港川人の発見者 大山盛保の軌跡」『沖縄県立博物館・美術館博物館紀要』第6号 2013年3月

崎原 恭子（主任 歴史：古琉球・近世）

○講演等

- ・名称：夏休み 博物館学芸員教室「ぼく、わたしのルーツを調べよう」
期日：2012年7月25日
- ・名称：那覇市首里公民館成人講座 おきなわ県民カレッジ連携講座「琉球使節の旅ー江戸へ行く！」
期日：2012年9月15日
依頼機関：那覇市首里公民館
- ・名称：博物館学芸員講座「琉球王国時代の石碑ヒストリー～館収蔵の石碑を中心に～」
期日：2012年10月20日
- 著作論文等
 - ・「[資料紹介]『蔡姓家譜』について」(『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月 早瀬千明と共著)
 - ・「[琉球の土木石碑] ～石に刻まれた琉球土木史⑤～ 重修天女橋碑記」『建設情報誌 しまたてい』No.62 2012年9月
 - ・「[琉球の土木石碑] ～石に刻まれた琉球土木史⑥～ 真珠湊碑文」『建設情報誌 しまたてい』No.63 2013年1月

池原 盛浩（主任学芸員 教育普及）

- 著作論文等
 - ・「博物館ボランティア養成」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月

早瀬 千明（嘱託員 学芸）

- 調査・研究等
 - ・2012年度特別展「Okinawa から沖縄へ」関連資料調査・撮影
 - ① 内村氏宅瀬長亀次郎資料（首里）（2012年4月5日）
 - ② 石川・宮森630会（うるま市）（2012年5月19日、22日）
 - ③ 読谷村立歴史民俗資料館（読谷）（2012年5月28日）
 - ④ 沖縄県公文書館（南風原町）（2012年7月20日、24日）
 - ⑤ 沖縄ロック協会（沖縄市）（2012年7月25日）
 - ・2013年度企画展「三線のチカラ」展のための楽器資料調査（埼玉、浜松市、名古屋市、佐賀市）（2013年3月11日～14日）
- 著作論文等
 - ・「[資料紹介]『蔡姓家譜』について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第6号 2013年3月（崎原恭子と共著）

5. 職員研修

博物館法第4条の4において「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員に学問的専門性を要求している。また、博物館が独自の展示会や教育普及活動を行うためには、学芸員自身が調査研究を行い新たな知見を得ていく必要がある。そのため、学芸員は適宜研修を受講するとともに、2011年度から毎週「学芸員ゼミ」を開催して互いの研究について情報共有や意見交換を行っている。

【九州博物館協議会研修会】

- 秋の研修会・現地研修
 - 日時：2012年11月8日（木）13:15～17:45（研修会）、9日（金）8:30～15:30（現地研修）
 - 場所：沖縄県立博物館・美術館（総会・研修会）、南風原町立南風原文化センター他（現地研修）
 - 参加者：白保台一、千木良芳徳、瑞慶山昇、久場政彦、山崎仁也、仲里健、崎原恭子、岸本敬、新里義和、大城直也、豊見山愛、大城仁美、早瀬千明、久田千春

【沖縄県博物館協会研修会】

○総会・春の研修会

日 時：2012年5月24日（木）13:00～17:15（総会・研修会）、25日（金）9:30～12:30（現地研修）

場 所：沖縄市立郷土博物館（総会・研修会）、中の町小学校・越來小学校（現地研修）

参加者：白保台一、千木良芳範、久場政彦、岸本敬、仲里健、山崎仁也、池原盛浩、與那嶺一子、岸本弘人、片桐千亜紀、崎原恭子、藤田祐樹、山崎真治、早瀬千明、久田千春、瑞慶山昇、新里義和、大城仁美、仲里安広、大城直也、齋悠記、仲村美奈子

○秋の研修会

日 時：2012年10月4日（木）13:30～17:30（研修会）、5日（金）9:00～12:30（現地研修）

場 所：伊是名村産業支援センター

参加者：千木良芳範、久場政彦、與那嶺一子、岸本敬、山崎仁也、崎原恭子、大城直也

【2012年度 博物館ゼミ】 以下「回、期日、担当者、テーマ名」の順に記す（毎週月曜日に実施）

第1回	5月14日	藤田 祐樹	「旧石器人の気になる虫歯」
第2回	5月21日	山崎 真治	「島嶼考古学から見た曾畑文化の渡来・適応・変容—流求列島における事例研究—」
第3回	5月28日	山崎 仁也	「石垣島・宮城島におけるオカガニ調査 2008～2011」
第4回	6月4日	仲里 健	「竹富島ビーチロック調査報告」
第5回	6月11日	池原 盛浩	「博物館ボランティアについて」
第6回	6月18日	與那嶺一子	「BINGATA 再考—どのように研究していくか?—」
第7回	7月9日	園原 謙	「沖縄・カンボジア「平和文化」創造の博物館づくり協力」
第8回	7月23日	岸本 弘人	「復帰40年記念博物館特別展について」
第9回	7月30日	片桐千亜紀	「台湾原住民ブヌン族の人類学的調査—骨に刻まれた生活痕—」
第10回	8月6日	岸本 敬	「アメリカ文化との接触・受容 食文化の受容について」
第11回	8月13日	與那嶺一子	「展覧会の課題を分析する—BINGATA 展を終えて—」
第12回	8月20日	久田 千春	「沖縄芝居について—明治期を中心に—」
第13回	9月3日	崎原 恭子	「梵鐘について（紹介）～沖縄県立博物館・美術館所蔵資料の中心に～」
第14回	9月10日	藤田 祐樹	「新人の水産資源利用～近年の安定同位体分析研究を中心に～」
第15回	9月24日	山崎 真治	「発見への情熱」
第16回	10月1日	山崎 仁也	「ウミホテルとヤコウチュウ」
第17回	10月15日	仲里 健	「ザ・砂岩（への情熱）～The sandstone～」
第18回	10月29日	中村 愛	「文化の杜より ～教育普及活動に関する情報提供と提案～」
第19回	11月5日	園原 謙	「三線、SANSHIN 命!!—国指定への挑戦—」
第20回	11月12日	岸本 弘人	「沖縄の日本復帰に対するハワイ在住のウチナーンチュの意識調査」
第21回	11月26日	岸本 敬	「多良間島における『竈』の使用について」
第22回	12月3日	崎原 恭子	「琉球王国時代・歴史あれこれ ～歴史分野に届いた質問への回答を中心に～」
第23回	12月10日	早瀬 千明	「沖縄のガラス・玉調査報告 No.2」
第24回	12月17日	久場 政彦	「日琉同祖論研究の現状—『沖縄研究とナショナリズム』研究構築に向けて—」
第25回	1月28日	山崎 真治	「胎土分析からみた下田原式土器」
第26回	2月4日	仲里 健	「凝灰岩が語る粟国島の起源～トゥージに至るまで～」
第27回	2月18日	山崎 仁也	「へビの話」
第28回	2月25日	與那嶺一子	「<玉色>はどんな色?—色認識から琉球人の美意識を探る—」
第29回	3月4日	園原 謙	「三線名器の音色分析—結果と課題—」
第30回	3月18日	片桐千亜紀	「沖縄山原地域における山の生業～大保川上流域の生産遺跡群～」
第31回	3月25日	千木良芳範	「学芸員の皆さんへ—去りゆく副館長の世迷言—」

Ⅱ. 展示活動

1. 展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展1本、企画展2本、大嶺薫コレクション展及び新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」として2008年度からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して行われた日本本土や中国をはじめとするアジア諸国との交流により独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きる一豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2012年度は特別展「本土復帰40年記念 Okinawa から沖縄へ」、企画展「沖縄復帰40周年記念 紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」、企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」を実施した。

2. 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によって互いに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つひとつが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形成している。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中・戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる一豊かさ、美しさ、平和を求めて」とした。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がる珊瑚礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化を情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫」沖縄から発見された様々な化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海にくらした生き物をはじめ、日本人のルーツとされる1万8,000年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石がステージ上に展開している。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代、それぞれの地域に有力者が登場すると、防御などを目的とした様々なグスクが造られるようになる。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富を築いた。各地の勢力は、やがて北山・中山・南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り返した。しかし、15世紀はじめころに、これらの3つの勢力は尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史が始まる。

○王国の繁栄（古琉球）

尚巴志によって統一された琉球王国は国家として成立したが、国内の権力基盤は不安定な状態であった。そのため、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起きた。一方で、中国との冊封・進貢貿易によって富を蓄えた琉球王国は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を盛んに行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。この時代、琉球は東アジア有数の貿易国家として繁栄し、より強固な国家体制を造りあげていった。

○薩摩の琉球支配と王国（近世琉球期）

1609年薩摩島津氏による琉球侵攻後、琉球王国は江戸幕府の影響下に置かれるようになる。しかし、中国との冊封・進貢関係は維持され、他方で江戸への謝恩・慶賀使の派遣が義務づけられた。

近世琉球期は、王国の危機を向かえて、羽地朝秀・蔡温などの強力な政治家による王国の経営が行われ、琉球独自の文化が花開く時代でもある。江戸文化の影響を受け、組踊などの芸能が確立し、『中山世鑑』『球陽』等の歴史書が編纂され、首里王府内に多くの役職が確立した。さらに貝摺奉行所を中心に琉球漆器・紅型などの様々な工芸品が数多く製作された。

○王国の衰亡

19世紀頃には、欧米諸国の船舶がアジア進出を目指して琉球近海に頻繁に来航し、首里王府にも開国をせまってきた。一方で、中国・日本との関係を保ちながら体制を維持してきた琉球王国だが、農村の疲弊や災害などが原因で、王府の財政難は顕著となっていた。

○沖縄の近代

江戸幕府が崩壊し、明治政府が発足すると日本と琉球との関係性も変化した。1879年に明治政府は琉球藩を廃し、沖縄県を設置した（琉球処分）。琉球王国は消滅し、近代日本国家の一部としての沖縄県が誕生した。

政府は旧慣温存政策を実施したが、その結果沖縄県の土地所有権の確立や国政参加は大きく遅れ、教育制度の確立も大正期になってようやく整った。しかし、日本は次第に領土拡大と戦争へと突入していき、沖縄も戦争体制に組み込まれていった。1945年、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が展開され、24万人余りの尊い命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移譲され、27年間のアメリカ統治下に置かれた。アメリカは東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化を進めた。軍事優先の政策は、住民の生活を侵害し、米軍関係の事件・事故が多発したため、日本への復帰を望む運動が高まっていった。その結果、1972年に沖縄の施政権は日本に返還されたが、多くの基地が残されるなど未解決の問題が山積したままである。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄では大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機にリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化した。2000年には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、沖縄文化の優位性が広く認知されてきている。今日では観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピソードの「沖縄の現代生活」は、開館時に募集した写真作品で構成され、まさに「現代生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、沖縄の自然・文化・歴史・民俗の特徴をより深く理解していただくために、それぞれのテーマをより特化した形での展示している。部門展示で扱うテーマは可変性を持ち、頻繁に展示替えを行っている。

○自然史部門展示 「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示 「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○美術工芸部門展示 「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすい形で、1年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○歴史部門展示 「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを経験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介する。

○民俗部門展示 「沖縄の伝統と暮らし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

3. 常設展示展示替え

【美術工芸部門展示室】

沖縄は、湿潤亜熱帯の気候風土にあり、中国、朝鮮半島、日本、東南アジアの中継地点に位置し、独立した王国を営んできました。美術工芸部門展示室では、沖縄で育まれた琉球の美を紹介しています。展示は下記のテーマで展示替えを行いました。

○「平和文化（幸福を表わす、平和を愛でる表現）」

主 旨：JICA 連携事業の「沖縄・カンボジア『平和文化』創造の博物館づくり協力」事業を本年6月に締結しました。これに関連して、幸福と心の安らぎを表すモチーフや戦禍をくぐった文化財を紹介し、平和を愛する心、「平和文化」を展示で試みました。

展示資料：43件47点

泉川寛道「在番とうやあんま」・進貢船の図・比嘉盛清「達磨図」他／朱漆螺鈿緑石文庫・黒漆神仙花鳥螺鈿八角食籠・三線真壁型（銘安室）他／赤絵花鳥抱瓶・獅子・赤絵菊花文対瓶他／円覚寺十六羅漢像・木彫円覚寺白象／浦添朝熹和歌「面高にて十三夜の月をみて」・鄭元偉「近江八景より勢田夕照」・程順則「聖諭六言」他／苧麻紺地花文様幕・木綿浅地格子縞に経緯緋衣装（スディナ）・木綿紺地格子縞に経浮花織衣装他

展示期間：2012年7月31日（火）～11月19日（日）

○「平和文化のチカラ（幸福を表す、平和を愛でる表現）」

主 旨：JICA 連携事業に関連して、今回は「平和文化」パート2として、沖縄戦により破壊された円覚寺、龍王殿や天后宮にあった貴重な文化財を紹介しました。また、戦前に収集され、戦後沖縄へ戻ってきたコレクションの一部、さらに2013年の巳年にちなみ、蛇皮を用いた三線（県指定有形文化財）を展覧しました。特に戦災文化財は、博物館づくりの原点になったものです。これら資料を通して、平和文化の大切さを示しました。

展示資料：42件49点

孫億「牡丹小禽図」・座間味庸昌「竹の図」・鎌倉芳太郎「円覚寺金剛会図壁画」[模写]・「三味線（三線）を弾く琉球美人」（島尻博物館寄託資料）他／黒漆薔薇堆錦軸盆・黒漆葡萄栗鼠螺鈿食籠・沈金鳳凰丸盆他／三線 盛嶋開鐘 附胴・三線 江戸与那・三線 志多伯開鐘（寄託資料）・三線 久葉の骨型（寄託資料）・三線 真壁型 銘安室（寄託資料）／三島渡名喜瓶・色象嵌絵菊花皿・象嵌色差面取抱瓶他／円覚寺 鳳凰透彫引戸・龍透彫装飾・尚育「七言絶句」・伝鄭週 扁額「龍王殿」・徐葆光 聯他／苧麻白地色緋衣装・裂地帖・苧麻紺地牡丹模様紅型風呂敷・絹浅地手縞衣装他

展示期間：2012年11月27日（火）～2013年3月3日（日）

○「琉球文化の継承と近代化」

主 旨：琉球王国が崩壊した後、近代化の波のなかで、美術の表現や工芸のものづくりは、様々な模索を始めます。新たな展開をめざし制作された美術工芸品は、王国文化の継承と自らの文化への再認識の機会を得て、新たに時代に合うデザインを求めています。

変革の時代のうねりのなかで、作者の息づかいを感じる作品を紹介しました。

展示資料：52件52点

枯柳水禽之図（殷元良）・牡丹の図（査丕烈）・山水図（兼城昌興）・軍鶏之図（義村朝義）・琉球人男女之図（華山）他／尚慎の書「五言対句」・田名雪荘の書「七言絶句」山城正忠の書「前出師表」・尚順の書「瞻雲就日」・謝花雲石の書「七言対句」他／朱漆沈金牡丹巴紋食籠・黒漆左三ツ巴桜螺鈿文箱（亀島如翼）・朱漆藤に飛燕堆錦硯箱（米次漆器店）・黒塗海老絵堆錦菓子器（沖縄漆器）・朱漆草花螺沈金文箱（金城南海）・三線 盛嶋開鐘 附胴 他／赤枝梅竹文碗・抱瓶（金城次郎）・赤絵面取壺（新垣栄三郎）・雲龍貼付文壺（小橋川仁王・永昌）・鉄砂釉德利（浜田庄司）他／御絵図・久米島紬裂・

木綿浅地花松葉模様衣装（紅型）・苧麻紺地緋衣装（宮古上布）・絹焦茶地経縞に緋模様衣装（久米島紬）・絹白地沖繩風景模様帯・芭蕉緋模様型染衣装 ・絹草花模様プリント衣装

展示期間：2013年3月12日～7月



美工部門展示「琉球文化の継承と近代化」（平成25年3月）

（與那嶺一子・園原 謙）

【歴史部門展示室】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。ここでは、様々なテーマに沿った年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

歴史部門では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示を通年で展示し、2012年度は、「琉球王国の証－琉球の辞令書－」、「空手の心構え」、「地図は語る－琉球国惣絵図（間切集成図）－」の展示を部分的に行った。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

○「那覇港～往来する人とモノ～」

主 旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に uptake、3つのテーマに分けて紹介する。「1 王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2 往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「3 那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々の姿を示す。



那覇港の展示風景

展示資料：首里那覇港図屏風、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島並三十六島之図） 他

展示期間：通年展示

○「琉球王国の証—琉球の辞令書—」

主 旨： 辞令書とは、役職の任命などが記された文書のことであり、ある特定の組織や団体の内部で出される公文書を指す。約500年続いた琉球王国では、政治や祭祀を司る国王のもと職務を持った多くの役人や神女たちが働き、国王の名で役職等を与える証明の辞令書が発給された。ここでは、国王を中心とした琉球王国の組織体制や運営等を伝える琉球の辞令書を紹介し、王国体制の証を示す。

展示資料：【重要文化財】田名家文書（第1号）、【有形文化財】宮古島下地の首里大屋子への辞令書、今帰仁間切上運天里主所安堵辞令書（寄託資料） 他

展示期間：2012年9月11日（火）～2013年1月14日（月）



辞令書の展示風景

○「空手の心構え」

主 旨： 松村宗棍（まつむら・そうこん 1809-1896 ごろ）は、琉球王国時代の武術大家として名高い。武術（空手）の師匠は明らかではないが、幼少のころから武芸を好み、17,8歳のころには、すでに武術界にその名を知られていたといわれる。物理的な〈力〉のみを追求する武術に疑問を抱き、武道と平行して人間完成への道を儒教に求めた。

公職にあつては、尚灑・尚育・尚泰王の側役をつとめた。70歳のころに、賢弟桑江良正に伝書を書き与えた。そこには、武術に関する記述はないが、武芸全般にわたる心構えが述べられている。

空手家の手による墨書が現存していることは極めて希で、当該資料も存在は知られていたものの所在がはっきりしないものであった。このたび、所有者より寄託を受け一般公開することとなった。

展示資料：松村宗棍の伝書（寄託資料）

展示期間：2013年1月16日（火）～4月14日（日）



空手の心構えの展示風景

○「地図は語る—琉球国惣絵図（間切集成図）—」

主 旨： 琉球王国時代、首里王府主導のもと琉球国内の測量が行われ、様々な地図が作成された。琉球国惣絵図（間切集成図）は、琉球王国時代の行政単位である間切を色分し、河川・道路・集落などの情報や位置関係を示した手書きの絵地図である。これまでに7枚確認されているが、いずれも琉球の一部で、隣接するいくつかの間切や島がまとめて描かれている。



琉球国惣絵図（間切集成図）の展示風景

1737～50年に首里王府が実施した大御支配（おおごしはい：検地のこと）の測量データを基礎とし、描きこまれた内容から、18世紀後半以降に製作されたと考えられている。

当展示では、地図から読み取れる情報から、当時の琉球王国の特徴を示す。

展示資料：琉球国惣絵図（間切集成図）7枚

伊平屋（伊平屋島）、国頭間切、北谷間切・越来間切、中城間切・宜野湾間切他、首里・那覇・真和志間切他、大里間切・佐敷間切他、喜屋武間切・高嶺間切他

展示期間：2013年1月16日（火）～4月14日（日）

（岸本 弘人・崎原 恭子）

【民俗部門展示室】

○「諸職のワザ 泡盛づくり」

主 旨： 沖縄の伝統的な手仕事の文化は、その自然環境や歴史の中で生まれ、時代の移り変わりとともに発展してきた貴重な文化遺産である。しかし、戦後の高度経済成長の中で、これらの伝統技術や工芸品は、新しい技術や素材に置き換えられ、生活の急激な変化とともに失われようとしている。

「泡盛づくり」も他の沖縄の伝統的な手仕事と同様に、多くの工程で機械化が進み、生産効率や品質の向上が図られ、その甲斐あって、県内はもとより県外にも多くの愛飲家を獲得するに至っている。しかしそれはまた、昔ながらの手仕事の技術や道具が失われたことも意味する。その沖縄特産の泡盛の、首里三箇（崎山・赤田・鳥堀）をはじめ、各地で行われていた昔ながらの製造の様子や道具を紹介する。

展示期間：2012年10月30日（火）～2013年10月15日（火）

展示資料：「麴箱」、「ムルンガーミ（製造用壺）」、「ブイ（もろみ掻き棒）」、「もろみ汲み出し用桶（木製）」、「もろみ汲み出し用柄杓（金属製）」、「運搬用酒樽」、「漏斗（ブリキ製）」、「サキガーミ（貯蔵用甕）」



（岸本 敬）

4. 復帰40年記念博物館特別展『Okinawa から沖縄へ』

会 期：2012年9月28日（金）～11月25日（日）

会 場：沖縄県立博物館・美術館 特別展示室・企画展示室

観 覧 料：一般：800（640）円 高校・大学生：300（240）円 小・中学生：200（160）円

※（ ）内は、前売り及び20名以上の団体料金

観覧者数：5,000人

予 算 額：15,450,379円

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

共 催：ハワイ沖縄連合会

特別協力：琉球放送株式会社、NHK沖縄放送局

後 援：沖縄タイムス、琉球新報社、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、タイフーンfm、FMレキオ、沖縄ケーブルネットワーク株式会社

協 力：外務省大臣官房総務課外交記録・情報公開室、具志堅用高記念館、白井・具志堅スポーツジム、那覇市歴史博物館、りゅうぎん総合研究所、石川・宮森630会、沖縄県公文書館、南風原町立南風原文化センター、読谷村立歴史民俗資料館、読谷村史編集室、沖縄県平和祈念資料館、琉球放送、琉球新報社、沖縄タイムス社、琉球新報新聞博物館、沖縄県教職員組合、沖縄県立図書館、沖縄県ロック協会、沖縄水産高等学校、沖縄尚学高等学校、興南高等学校、美里高等学校、石川高等学校、ひめゆり平和祈念資料館、宜野湾市立博物館、共同通信社、ベースボールマガジン社、沖縄協会 津留健二、内村千尋、照屋林次郎、福地曠昭、具志堅勝也、鰐淵信一、東眞史、山岸豊治、崎原恒新、真栄里泰山、大城學、新城俊昭、鳥山淳、新城和博（順不同、敬称略）

【開催趣旨】

沖縄は今年で復帰40年を迎えた。50代以上の方々は復帰当時のエネルギーを肌で感じた世代で、本土復帰に対する思いを強く持っている。一方、現在の若い世代は当然のことながら復帰前後のことを知らない。当時10歳以下だった40代にしても、復帰の前後の違いについてはうろ覚えであるし、ましてや当時の社会状況や世の中の雰囲気は分からない場合が多い。復帰の実体験をもつ世代と、それ以下の世代の間には意識の差が少なからず存在するのはある意味当然である。

当展示会は、特に40代以下の若い世代に沖縄が日本ではなかった時代のことを知ってもらい、ウチナーンチュが本土復帰に求めたものは何だったのかを理解してもらいたい。さらに、復帰後の変化や様々な分野での躍進を示しながら、現在の沖縄の状況や立場を再確認し、今後の進むべき方向を考えるきっかけにしてもらうことを目的とする。

【展示内容】

プロローグ

沖縄戦からアメリカ世は始まり、天皇メッセージ、講和条約をへて特異な沖縄の状況が形づくられる。沖縄切り離しの前段階として扱う。

- ・壁面に1879～1952. 4. 28の略年表パネル（コラージュ写真含む）を設置
- ・【中心資料】①サンフランシスコ平和条約（認証謄本）

1) 「日本」ではなかった沖縄

1952年4月28日のサンフランシスコ平和条約によって沖縄は日本本土から切り離され、米軍の施政権下に置かれた。軍政府・民政府のもとで沖縄住民は不自由を余儀なくされ、様々な人権侵害や米軍による事件・事故に苦しめられた。ここではアメリカ統治下における沖縄の状況を示す。

(1) 銃剣とブルドーザー

米軍による土地接収の状況と島ぐるみ運動をパネル化（年表・写真・解説）

- ・【中心資料】①布令109号「土地収用令」 ②ブライス勧告

(2) 高等弁務官と琉球政府

絶大な権力を振るった高等弁務官を印象的に展示すると同時に琉球政府時代の関連資料を展示する。

- ・【中心資料】①高等弁務官旗（大） ②高等弁務官胸像 ③琉球船舶旗

(3) 人権抑圧

渡航制限や言論弾圧など沖縄がおかれていた厳しい状況を表現する

- ・【中心資料】①パスポート ②言論弾圧の資料（門奈コレクション） ③瀬長亀次郎関連資料

(4) 復帰前の事件・事故

宮森小学校ジェット機墜落事故、毒ガス移送、由美子ちゃん事件、コザ騒動について大きめのパネルを中心に展示する

- ・【中心資料】①石川・宮森630会所蔵資料 ②毒ガス移送取材用の防毒マスク

※ 沖縄タイムス連載記事「基地で働く」を冊子化して見られるようにする。

※ コザ騒動、毒ガス移送は琉球新報社のビジュアル版を利用する。

※ 石川高校・美里高校放送部制作ビデオを上映する。

(5) アメリカの経済・文化政策

基地機能の維持の為に住民との良好な関係を築こうとしたアメリカの諸政策を扱う。

- ・【中心資料】①琉球銀行設立当時の銀行章 ②USCARが所有した琉銀株券 ③語学センタープレート
④AKAR銅版

2) 祖国へのあこがれ

1960年には沖縄県祖国復帰協議会が結成され、1968年には主席公選によって屋良朝苗が当選した。沖縄の人々は、祖国復帰と同時に基地のない平和な沖縄の実現を求めたが、日米両政府による沖縄返還政策が明らかになると、その切なる願いはないがしろにされることが明らかになった。ここでは県内外の復帰運動に関する資料を展示する。また、ハワイ移民が沖縄の本土復帰をどのように見ていたのかについて、アンケート調査を行いその結果を展示する。

(1) 復帰運動のあゆみ

復帰運動について実物と解説・写真パネルで展示

- ・【中心資料】①復帰協の旗
②返還協定粉碎のゼッケン・クバ笠
③屋良朝苗日誌&関連資料
④沖縄返還協定文書

※「沖縄を返せ」の歌をヘッドフォンで聴けるようにする。



復帰運動のあゆみの展示

(2) 復帰の裏側

沖縄返還協定の裏側で交わされた核の再持込に関する密約について、実物とパネルで展示

- ・【中心資料】①合意議事録英文草案 ②若泉敬の歎願状

※ 沖縄返還25年RBC特番を上映する。

※ NHKきんくる屋良朝苗を上映する。

3) 復帰とその後の沖縄

復帰当日の様子と復帰後の沖縄の様々な変化を振り返る。また、講和条約から現在までの略年表を設置し、観覧者が簡易な操作を行うことで、自分の親が歩んだ時代に自らを重ね合わせられるようにする。

(1) 復帰あの日あの時

祝賀式典の一方で「基地つき返還に抗議する県民大会」、市内の様子、新聞記事など写真パネルを中心に展示

- ・【中心資料】① 復帰記念メダル（観覧者が触れるようにする）

(2) 復帰直後の巨大プロジェクト

ドル円切り替え（72）、若夏国体（73）、海洋博（75）、交通方法変更（78）に関連する資料を展示。

- ・【中心資料】① ゴム印の押されたドル紙幣 ② 交通方法案内標識・ポスター

(3) 様々な変化

復帰後の変化について解説・写真パネルを中心に展示

- ・観光客数の推移（グラフ）
- ・自然環境破壊の写真（写真）
- ・沖縄から東京までの所要時間の変化
- ・町の景観変化（写真）

4) アメリカ文化との接触・受容

外の文化を取り入れ、アレンジし、独自の文化を創造してきた沖縄。戦後も支配者文化を柔軟に取り込み、独自の文化を成長させていったウチナーンチュによる新たな文化創造（音楽関係や食文化関係）について展示する。

(1) オキナワンロック

- ・【中心資料】① 沖縄県ロック協会所蔵資料

(2) 食文化の受容

- ・【中心資料】① 現在でも食されているアメリカ製食品

5) ウチナーの再発見と自信の芽生え

ウチナーンチュが沖縄の良さに気付き、自信を持っていく過程を展示する。エイサーを始めとする伝統文化の再認識や芸能界、スポーツ界での活躍の様子を実物とパネルで展示する。

(1) 沖縄民謡

- ・【中心資料】① 照屋林助（てるりん）関連資料

(2) 伝統文化の復興と・隆盛 解説・写真パネル

(3) スポーツの隆盛

- ・【中心資料】① 具志堅用高のチャンピオンベルト・グローブ
② 沖水、沖尚、興南の甲子園出場資料

※ 記憶に残る試合を観覧者に投票してもらおう

6) 「沖縄の現代生活」

公募写真コンテスト「暮らしは歴史。」の応募作品を利用して、印象的なアートギャラリー空間をつくる。

7) 観覧者による展示参加

来館者が、沖縄についての様々な質問に対して答えることで展示が作り上げられていく空間とする。



スポーツの隆盛の展示



参加型展示（記憶に残る甲子園）

【関連事業】

(1) 文化講座「2つの復帰を経験して」

会 期：2012年5月12日（土）14:00～16:00

講 師：津留 健二（沖縄女子短期大学教育実践支援センター長）

会 場：講堂（200名定員）

(2) 文化講座「復帰40年に考える ～沖縄歴史はどのように継承されているか～」

会 期：2012年11月11日（日）14:00～16:00

講 師：新城俊昭（沖縄大学客員教授）

会 場：講堂（200名定員）

(3) シンポジウム「復帰後の文化・社会」

会 期：2012年10月13日（土）13:30～16:00

講 師：大城學（琉球大学教授）、新城和博（ボーダーインク）、柳卓（フリーアナウンサー）、諸見里杉子（フリーアナウンサー）

会 場：講堂（200名定員）

(4) 公 演（コント）「お笑い本土復帰」

会 期：2012年11月3日（土）1回目：13時～14時、2回目：16時～17時

実 施 者：(有) FEC オフィス

会 場：講堂（200名定員）

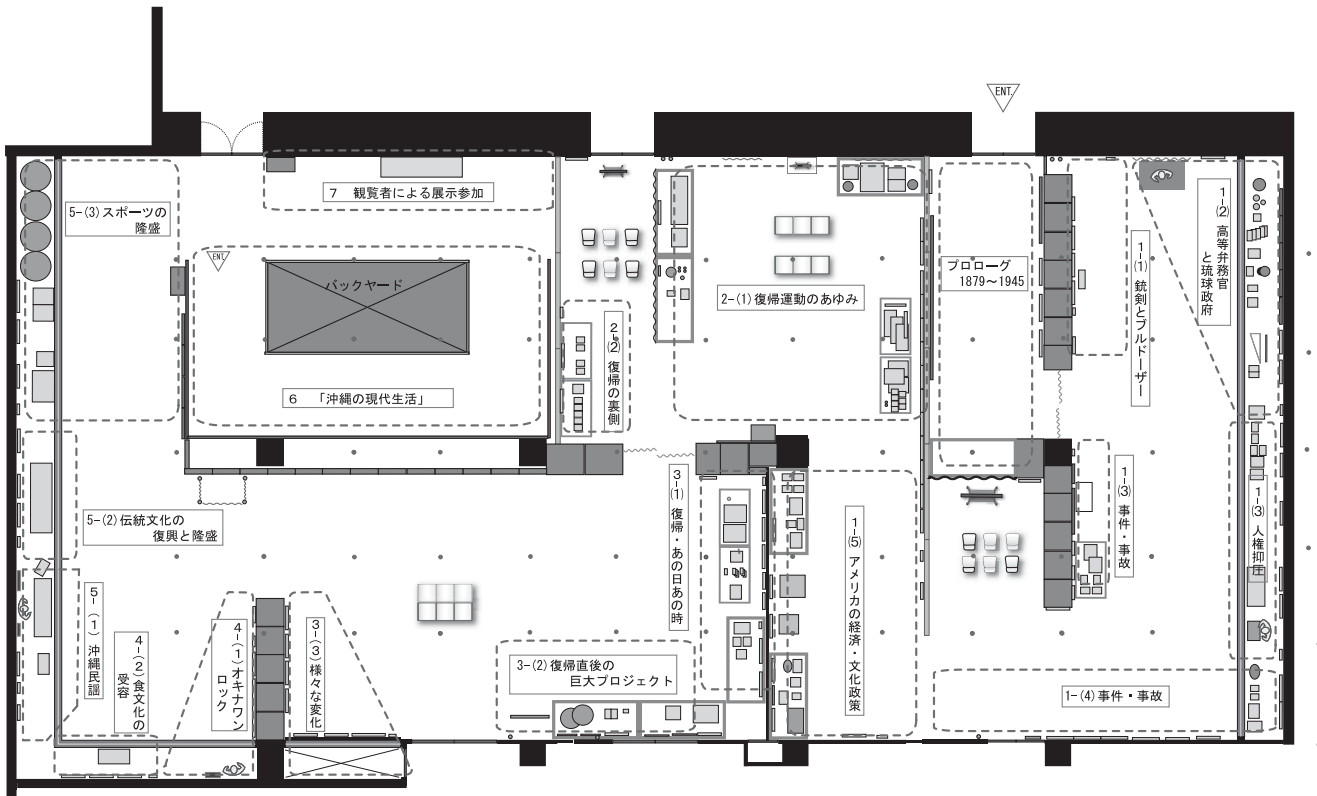
(5) 展示解説会（2回）

会 期：2012年10月6日（土）14:00～15:00、10月27日（土）14:00～15:00

講 師：岸本弘人（当館学芸員）

会 場：博物館特別展会場（各20名定員）

【展示平面図】



(岸本 弘人)

5. 企画展「大嶺薫コレクション」

会 期：2012年6月6日（水）～24日（日）

会 場：博物館特別展示室Ⅱ

【開催趣旨】

1985年（昭和60）3月に沖縄県立博物館に寄贈された大嶺薫美術館所蔵〔大嶺薫（1905-1970）が収集したコレクション〕の資料を紹介する。

【展示内容】

大嶺薫コレクションは故大嶺薫氏（1905-1970）が戦前・戦後を通して収集した資料である。大嶺の没後、その遺志を引き継いだ遺族によって、1971年（昭和46）に那覇市に沖縄初の私立の大嶺美術館が設立され、沖縄の美術工芸文化に貢献してきたが、1985年（昭和60）の閉館に伴い、3,550点の美術工芸資料が沖縄県立博物館へ寄贈された。同コレクションは美術工芸、歴史、考古、民俗の各分野にわたり、その収集範囲も沖縄を中心に、日本や中国、南方諸国はもとより、ヨーロッパやアメリカまで及んでいる。戦後、沖縄の多くの文化遺産が焼失あるいは海外へ散逸してしまった。大嶺はその文化財の流失を憂慮し、収集しており、その業績は高く評価されるものである。本展では、同氏の業績を顕彰するとともに、大嶺が求めた美の概要を紹介した。

【展示資料】

○絵 画：8点

- ①長沢蘆雪作 紙本淡彩箭馳之図、②華国作 絹本淡彩神農図、③絹本着色白澤之図、
- ④伝百穂作 絹本着色牛童子之図、⑤紙本着色手籠盛花図、⑥伝狩野主信作 絹本着色飛神濟度図、
- ⑦伝直入山人作 紙本墨画山水図、⑧伝椿椿山作 絹本着色草花図

○書 跡：5点

- ①鄭嘉訓書「七言絶句」、②毛維翰書「五言対句」、③毛維翰書「五言対句」、
- ④滄浪閣主人書「七言律詩」、⑤徳富蘇峰書「日々是好日」

○陶 磁 器：7点

- ①飴釉飛かんな渡名喜瓶、②コバルト草葉文徳利、③緑釉丁子風呂、④灰釉筒型花生、
- ⑤パナリ焼手焙、⑥隠れ切支丹大皿（染付大皿）、⑦赤絵菊絵対瓶

○漆 器：6点

- ①黒漆蓬莱文箔絵角東道盆、②朱漆沈金山水文湯庫、③朱漆巴紋入瓶子、④朱漆唐草巴紋入台付椀、
- ⑤黒漆花木小禽文螺鈿文箱、⑥黒漆鳳凰文螺鈿足付盆

○古 文 書：4冊

- ①法式、②地頭御方ニ難渋有之候、③書簡案文集、④いろは歌

○勾 玉：12点

- ①濃緑勾玉（大）（伝間得大君勾玉） 他

○装 身 具：4件50点

- ①今帰仁阿応理屋恵の玉草履の欠片1点、
- ②筭（こうがい）彫漆花文筭など10点、
- ③櫛黒漆流水楼閣草花文螺鈿象嵌蒔絵櫛など30点、
- ④簪べつ甲蒔絵丸玉付簪など9点

○貨 幣：13点

- ①明刀銭2点、②琉球通宝5点、
- ③古銭125点（一括）

○鏡：14点

- 「丹頂」字瑞雲双鶴文柄鏡など14点



展示風景写真

（園原 謙）

6. 企画展「新収蔵品展—平成23年度収蔵資料—」

会 期：2012年6月1日（金）～24日（日）

会 場：博物館企画展示室

【開催趣旨】

「新収蔵品展」は、博物館が過年度に寄贈・購入・移管等で受け入れた資料を一堂に展示・公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催するものである。

【事業内容】

平成23年度に寄贈・購入・収集された諸資料を自然、歴史、美工、民俗、考古、地学の各分野に分類し、さらに修理・修復した資料もあわせ、博物館3階企画展示室で展示・公開した。

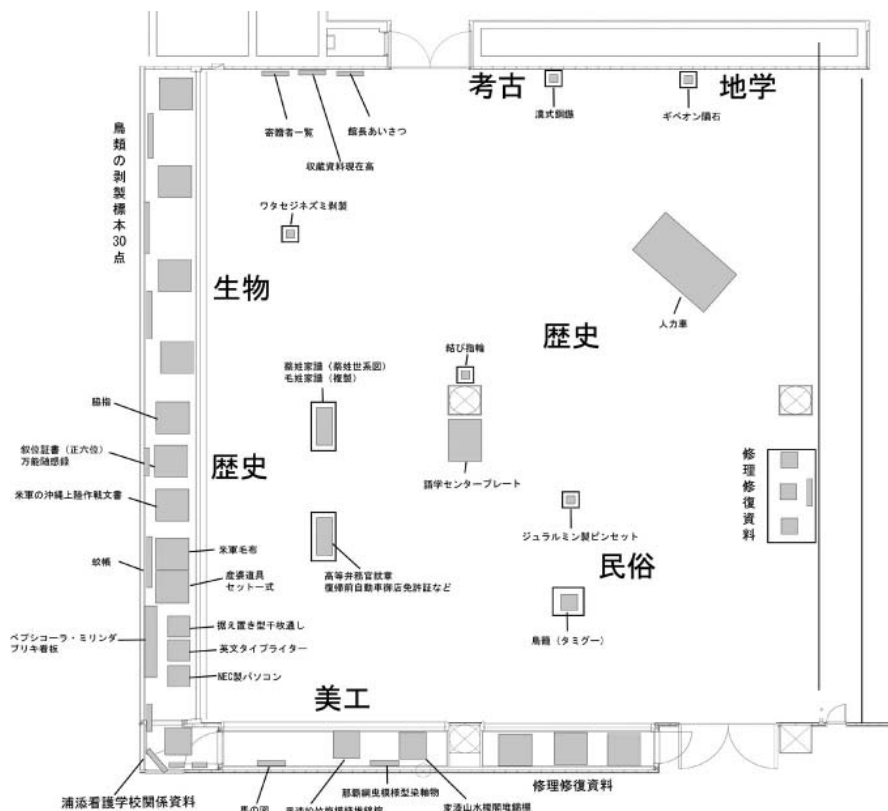
初日の開会式では、白保台一館長より寄贈者の皆様10名へ感謝状が贈呈され、これに続いて、寄贈者4名と白保台一館長によるテープカットが行われた。式典終了後、参観者は会場内を観覧し、約100点の展示品を興味深く鑑賞する姿が見られた。

【展示内容】

平成23年度は、国内の個人や機関等から多数の貴重な資料をご寄贈いただき、収集、購入したものも合わせて121点の資料を収蔵した。

主だったものとして、美術工芸分野では、琉球王朝末期を代表する絵師・佐渡山安健の描いた「馬の図」（別名「仲田青毛之図」）、民俗分野では、沖縄の伝統的な鳥籠（クー）製作の技術を継承する名工の一人である宮城宏友氏製作のメジロ籠（曲籠・タミグー）などがあげられる。また、歴史分野では、アメリカ統治時代の1963年に那覇市首里に建設された「語学センター」の壁面に埋め込まれていたプレートなどを収蔵した。自然史分野ではご寄贈いただいたアマサギやシメの遺体などから剥製を製作した。

【展示平面図】



(岸本 敬)

7. 企画展 沖縄復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」

会 期：2012年4月24日（火）～5月27日（日） ※30日間（休館日を除く）

会 場：博物館特別展示室・企画展示室

観 覧 料：一般：800（640）円 高校・大学生：500（400）円 小・中学生：300（240）円

※（ ）内は、20名以上の団体料金

観覧者数：9,222人（307人／日）※巡回展の観覧者総数：96,804人

予 算 額：6,514,000円

※ 平成24年度芸術文化振興基金助成金（地域文化施設公演・展示活動助成）を受けた（1,300,000円）

※ ポスター・チラシ・看板等の作成については琉球銀行の支援を受けた。

※ ワークショップ「みんなで紅型を染める」は琉球びんがた事業協同組合を通して伝統的工芸品産業振興協会の支援を受けた。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

共 催：琉球銀行

後 援：琉球びんがた事業協同組合／沖縄伝統びん型保存会／沖縄県教育委員会／那覇市教育委員会／
沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／琉球放送／
ラジオ沖縄／FM沖縄／FMレキオ／タイフーン fm／沖縄ケーブルネットワーク

【開催主旨】

琉球王国で育まれた紅型の衣装は、型染による表現の多様性において特質すべき染色品である。型紙を駆使して創り出された「かたち」と鮮やかな「いろ」には、琉球文化の独自性ととも、高い評価がある。

しかし、これらの紅型衣装は、廃藩置県後の王国の解体によって、その多くが収集家や研究者たちによってコレクションされ沖縄を離れていった。また、第二次大戦によって、かつての紅型を目にする機会は激減し、現在、沖縄では、紅型を知りたい、観覧したいと要望するニーズに必ずしも応えられていない現状がある。

今回の展覧では、王家に伝えられた作品（国宝）をはじめ、戦前に沖縄を離れ、守り伝えられた代表的な優品を紹介する。この展覧会は、復帰40周年を記念して、サントリー美術館と共同で企画するもので、洋画家岡田三郎助の蒐集した松坂屋コレクションの初公開作品を始め、旧鐘紡コレクション、柳宗悦、芹澤銈介ら民芸のコレクションなど100点近い紅型衣装が一堂に会することとなる。

これまで、この規模で紅型を紹介する展覧会は、開催されておらず、紅型の美を再認識する、またとない機会であるとともに、これからの紅型を考える機会とする。

なお、この展覧会は、下記の会場を巡回した。

- ・サントリー美術館（東京）：6月13日（水）～7月22日（日）（観覧者数：41,756人）
- ・大阪市立美術館（大阪）：9月11日（火）～10月21日（日）（観覧者数：25,995人）
- ・松坂屋美術館（名古屋）：11月3日（土）～11月25日（日）（観覧者数：19,831人）

【展示内容】

展示は、下記の日程で展示替えをおこなった。

第1期：4月24日（火）～5月6日（日）※展示日数：12日

第2期：5月8日（火）～5月13日（日）※展示日数：6日

第3期：5月15日（火）～5月27日（日）※展示日数：12日

プロローグ

琉球における染物を最初に記した文献「おもろさうし」、現存する描絵による染織品や型染の古作例や紺屋への発注書や染見本により、紅型の歴史的な側面を示した。また、染道具や染材などとともに工程のパネルを展示し、

紅型の技術的な概要を紹介した。

- ・重文「おもろさうし」(巻13) など 23点

特別出品 琉球国王尚家の紅型衣裳

琉球王家の紅型衣裳は、琉球内外の最良の布地や顔料・染料を素材として、貝摺奉行所の絵師の図案を王府の管理のもと、首里や那覇の紺屋が型紙を彫り、染められていた。王家のみに許された特別な模様をはじめ、紅型の多彩な意匠を紹介した。

- ・国宝「黄色地鳳凰蝙蝠宝尽くし青海立波模様衣裳」など 10領

1) 紅型の「いろ」と「かたち」

紅型の色彩は、舶載された顔料や染料に沖縄に産する藍や福木などの染料を加えて、琉球独自の色彩世界を創り出している。

紅型の模様は型紙を用いて表される。他国からもたらされた意匠と季節感を取り合わせに捉われず自由に構成、アレンジされた紅型の魅力あふれる「かたち」を「いろ」別に展示した。

- ・「黄色地牡丹雲に菊尾長鳥模様衣裳」など 150領

2) 筒描き—もうひとつの紅型

紅型には型紙を用いた型染めの他に、「筒描き」という技法がある。型染と筒描きの併用が多くみられ、フリーハンドで描かれた大らかな表現には、型染の型紙の描線につながるものがみられる。衣裳を染める表現とは異なる、もう一つの紅型の美の世界を紹介した。

- ・「浅地「永」字入牡丹模様風呂敷」など 6点

3) 初公開 松坂屋コレクションの紅型

1611(慶長16)年、名古屋創業の松坂屋は、長い歴史に培われた伝統に加え、新たなデザインの研究と開発を目的として、1931(昭和6)年、京都仕入店に染織参考館を設置した。

その蒐集品に、琉球の染織品も多数含まれており、今回、沖縄での初公開となる。これらの紅型は、1928(昭和3)年開催の「啓明會創立十年記念展覧会」に於いて、尚王家の紅型衣裳類などとともに岡田三郎助コレクションとして展示されていたもので、80年振りの公開となった。

- ・「白地雲に枝垂桜燕鳥に菊扇色紙短冊模様衣裳」など 45領

エピローグ 紅型 あらたなとりくみ

紅型は戦後、多くの関係者の尽力によって復興した。復帰から40年が経過し、紅型はまた、新たな岐路に立っている。蛍光X線による色料調査や赤外線撮影調査などや蒟蒻糊を用いた浦添型の復元も試みも新たな研究の一つである。琉球銀行が主催する「紅型デザインコンテスト」なども披露しながら、紅型をめぐる新たな動きを紹介した。

- ・「紅型デザインコンテスト大賞作品」他 29点

【関連事業】

(1) シンポジウム 「紅型からのメッセージを解く」

会 期：5月19日(土) 13:00～16:30

基調講演：長崎巖(共立女子大学教授) 「紅型と日本の染織」

パネリスト：伊差川洋子(染色家) 「浦添型 復元からみえてきたこと」

平田美奈子(染色研究家) 「紅型の色と模様」

名護朝和(県立芸術大学准教授) 「沖縄県立芸術大学での取り組み」

会 場：講堂

(2) 博物館体験教室「紅型にチャレンジ！」

会 期：4月28（土）・29（日） ※2日連続講座

講 師：城間栄市（染色家）

対 象：小4～中3（参加12名） 参加費：1,000円

(3) ワークショップ「千代紙で琉服をつくる」

会 期：4月30日（月）14:00～16:00

講 師：與那嶺一子

(4) ワークショップ「みんなで紅型を染める！」※伝統的工芸品産業振興協会の助成を受けた

会 期：5月5日（土）10:00～13:00

講 師：琉球びんがた事業協同組合

対 象：小学生～高校生（100名）

(5) 学芸員講座「ウチクイー風呂敷のこと、あれこれー」

会 期：5月26日（土）14:00～16:00

講 師：與那嶺一子

(6) 展示解説会

①紅型の歴史 4月29日（日）15:00～16:00

②紅型の技法と色 5月6日（日）15:00～16:00

③紅型の文様 5月20日（日）15:00～16:00

④紅型について 5月26日（土）16:00～16:30

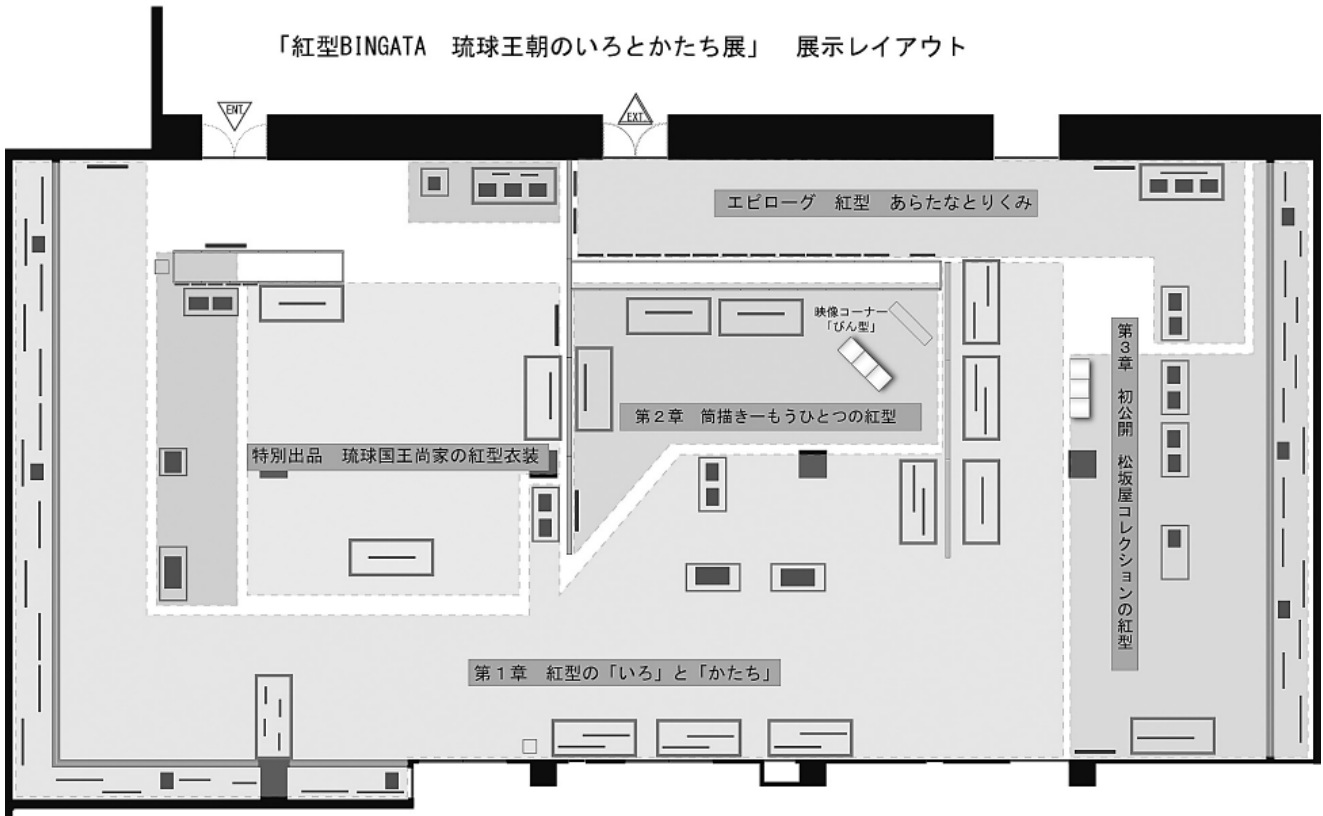


開会式



展示会様子

【展示平面図】



(與那嶺 一子)

8. 企画展 「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」
 沖縄県立博物館・美術館×八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館合同企画

会 期：(1)2012年10月23日（火）～2013年1月20日（日）

※八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館 会場

(2)2012年12月7日（金）～2013年1月20日（日）

※沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室 会場

会 場：(1) 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館

(2) 沖縄県立博物館・美術館 博物館企画展示室

観 覧 料：一般：300 (240) 円 高校・大学生：200 (160) 円 小・中学生：100 (80) 円

※（ ）内は、前売り及び20名以上の団体料金

観覧者数：県博会場3,296名 具志頭会場1,672名

予 算 額：1,850,000円

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館・八重瀬町教育委員会

共 催：八重瀬町 文化の杜共同企業体

後 援：南城市／日本人類学会／沖縄考古学会／沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ放送／琉球朝日放送／琉球放送／ラジオ沖縄／エフエム沖縄／タイフーン fm／FMレキオ／沖縄ケーブルネットワーク株式会社

協 力：OK運輸合資会社／国立科学博物館／東京大学総合研究博物館／株式会社南都（おきなわワールド、ガンガラーの谷）／沖縄県立埋蔵文化財センター／沖縄県公文書館／長崎大学医学部／土井ヶ浜遺跡

人類学ミュージアム／北谷町教育委員会／中城村教育委員会／南城市教育委員会／宜野湾市教育委員会／北中城村教育委員会／読谷村教育委員会／宮古島市教育委員会／浦添市教育委員会／石垣市教育委員会／伊仙町教育委員会／南種子町教育委員会／日本郵船歴史博物館／株式会社商船三井／横浜歴史資料室／株式会社パスコ／宇津波古自治会／砂辺戸主会／沖縄そば昭和空間 門の家／大山盛稔／大山盛正／大城さとし／橋本真紀夫／喜舎場豊／三嶋啓二／糠谷大介／伊藤慎二／諏訪元／金城達／知念勇／金武正紀／城間恒宏／萩尾俊章／山城光則／土肥直美／小田静夫／竹中正巳（順不同、敬称略）

【開催趣旨】

大山盛保氏は1912（大正元）年11月2日中城村（現 北中城村）に生まれ、幼くしてカナダに渡り、青少年期をカナダの大自然の中で過ごされた。戦後、沖縄に戻りアメリカ統治下で要職を歴任し、1950年にはOK運輸合資会社を創立し、社長として手腕を振るわれた。

大山盛保氏の経歴と業績は、それだけでも沖縄の戦後史を語る上で欠かすことのできないものであるが、大山氏の名は、余りにも有名な港川人の発見によって、学界においても長く記憶されるものとなった。

2012年は、大山盛保氏生誕100年にあたる記念すべき年である。この展覧会では、大山盛保氏の生い立ちから、戦後の経済人としての活躍、さらに港川人の発見に傾けられた大山氏の情熱と科学的精神を、沖縄の戦後史を物語る写真類・記録類や、大山氏ゆかりの品々から読み解き、大山氏の業績を顕彰するとともに、世界的に注目されている港川人研究の現在を俯瞰し、さらなる発見を求めて発掘が続けられている、ガンガラーの谷の先史遺跡における新たな成果も合わせて紹介する。本展覧会を通して、広く県民に、沖縄の古代史発見への情熱と科学的精神を普及・紹介することを目的とする。

【展示内容】

(1) 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館会場

プロローグ よみがえる港川人

(2) 沖縄県立博物館・美術館会場

I 大山盛保の軌跡

大山氏関係写真・履歴書・カナダ移民関係資料

沖縄で製作されたカメラ、双眼鏡、望遠鏡

護佐丸関係資料

II 港川人の発見

発掘当時の様子

港川人発見のようすと関連資料

東大調査団の調査研究

III 港川人研究の現在

港川フィッシャーの再調査

港川人復元像の変遷

研究の進展

IV さらなる発見をめざして

沖縄の先史人骨

空白は埋まるか？

ガンガラーの谷の先史遺跡調査

エピローグ 情熱は続く

発掘道具展示

発掘現場の紹介

【関連事業】

(1) 大山盛保生誕100年記念特別シンポジウム「港川人研究と2万年前の沖縄」

会 期：2012年11月3日（土）13：00～17：00

会 場：八重瀬町立中央公民館

参加者：250名

(2) 港川フィッシャー遺跡特別一般公開

会 期：2012年11月3日（土）13：00～17：00

会 場：八重瀬町港川フィッシャー遺跡

(3) 博物館特別文化講座「港川フィッシャーの動物の起源を考える」

講 師：長谷川 善和（群馬県立自然史博物館 名誉館長）

会 期：2012年12月8日（土）14：00～16：00

会 場：講堂

参加者：78名

(4) 博物館文化講座「港川人研究から見た東アジアの人類史」

講 師：海部 陽介（国立科学博物館 人類研究部 研究主幹）

会 期：2012年12月15日（土）14：00～16：00

会 場：講堂

参加者：120名

(5) 学芸員講座

講 師：片桐千亜紀（当館主任）

会 期：2012年12月22日（土）14：00～16：00

会 場：博物館講座室

参加者：48名

(6) 学芸員講座

講 師：藤田祐樹（当館主任）

会 期：2013年1月12日（土）14：00～16：00

会 場：博物館講座室

参加者：70名

(7) 学芸員講座

講 師：山崎真治（当館主任）

会 期：2013年1月19日（土）14：00～16：00

会 場：博物館講座室

参加者：86名

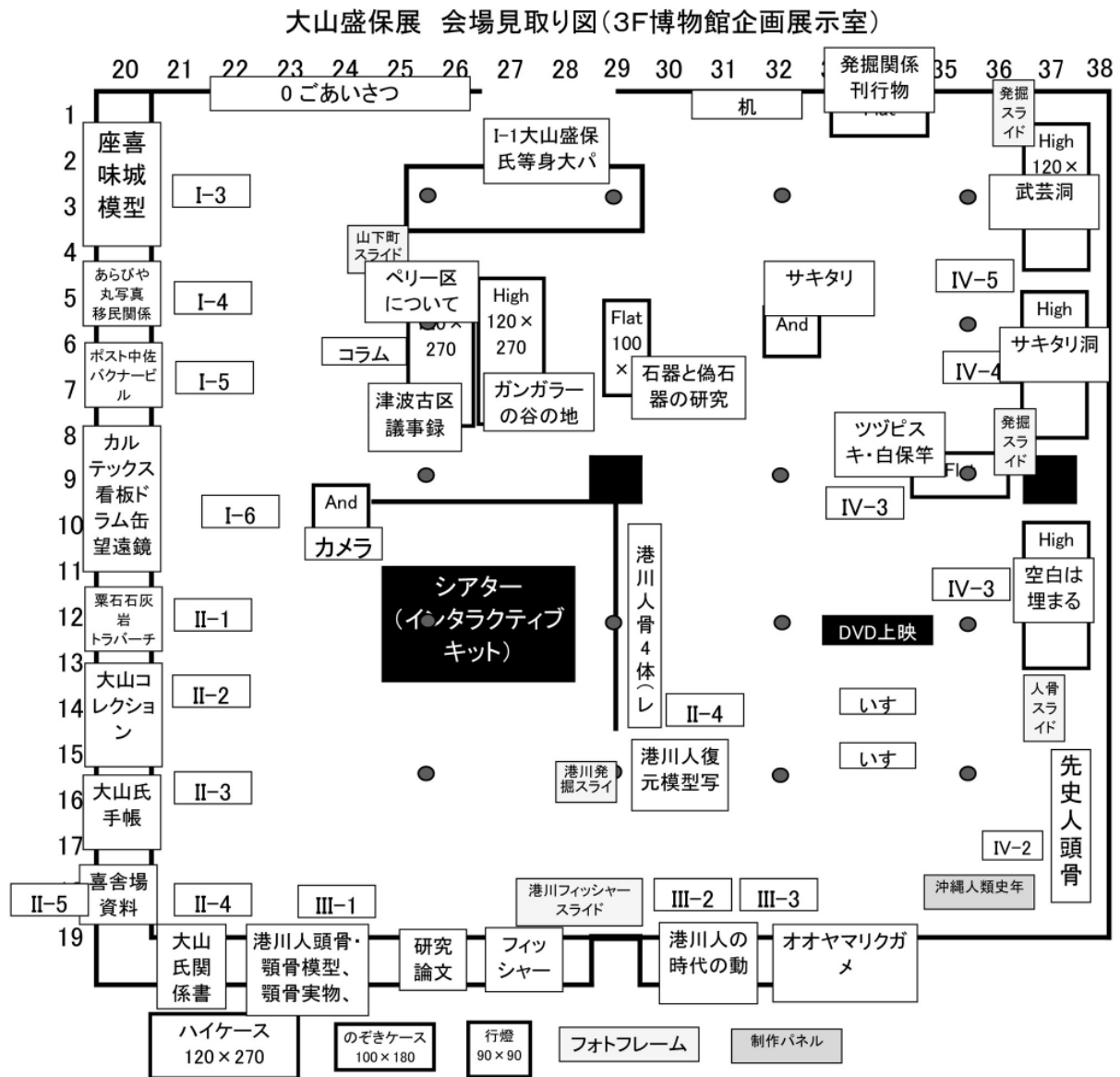


開会式の様子



展示会の様子

【展示平面図】



(山崎 真治)

9. ミニ企画展 「沖縄先史土器の黎明」

会 期：2013年2月5日（火）～2月11日（月）

会 場：美術館県民ギャラリー1・2（2室）

観 覧 料：無料

観覧者数：200人

【開催形式】

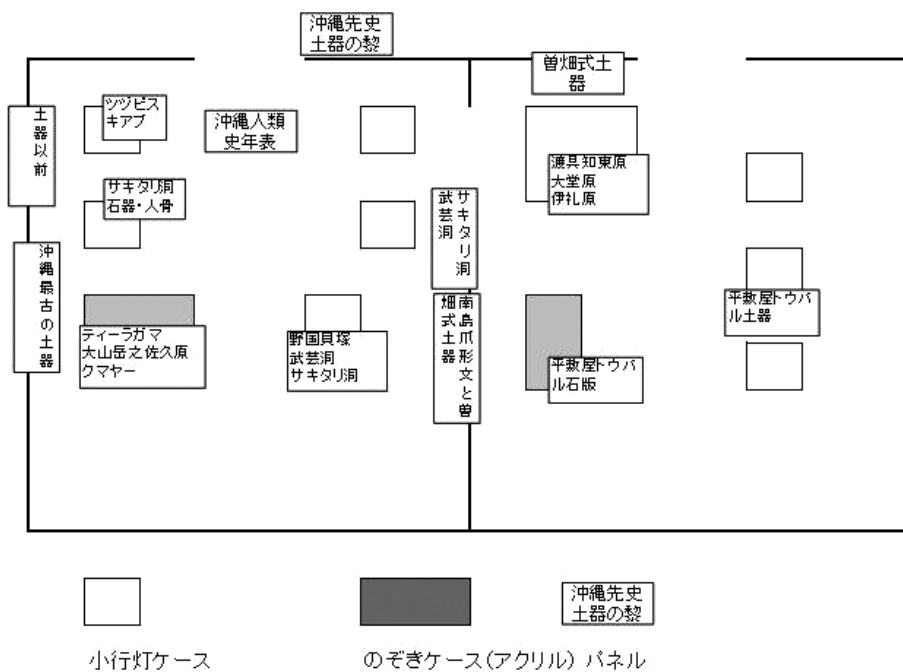
主 催：沖縄県立博物館・美術館

協 力：沖縄県立埋蔵文化財センター／南城市教育委員会／八重瀬町教育委員会／読谷村教育委員会／名護市教育委員会／北谷町教育委員会／うるま市教育委員会／宮古島市教育委員会

【開催趣旨】

2013年2月10日（日）、11日（月）に沖縄県立博物館・美術館を会場として開催される九州縄文研究会に合わせて、沖縄の縄文時代のようにその魅力を県内外の研究者に広く普及することを目的とする。

【展示平面図】



会場内のようす



県内の曾畑式土器展示

(山崎 真治)

Ⅲ 教育普及活動

1. 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中軸施設であることも求められている。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的をもって来館する。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度も多くの教育普及活動を実施してきた。

博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことの2本柱で推進してきた。学校連携事業では、学校団体受入の充実した態勢を図るため、ボランティアを活用した学校団体に対する支援体制の強化を推進し、サービスの向上を図ってきた。また、文化講座及び展示会関連講座はシンポジウム「語り始めた大地－本部半島でのジオパーク活動」を皮切りに総数12回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができた。その他にも、体験学習教室では「紅型にチャレンジ!」をはじめとする2種の体験学習教室の開催や13回の学芸員講座と11回の常設展示解説会、13回のバックヤードツアーを開催した。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行っている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

予 算：2012年度の教育普及事業予算総額 2,500,000円

参 加 者：2012年度における教育普及事業への参加総数：7,830名（自由見学の学校団体は含まない）

(池原 盛浩)

県内学校団体の博物館来館目的（教科内容・自由学習など） ※重複あり

項 目	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	合計	
下見（学習プログラム作成打合せ）	25	0	0	0	0	25	
ボランティア等による学習支援含む	民具体験（小学校3年社会科）	25	0	0	0	0	25
	教科（社会科、理科など）	0	0	0	0	0	0
	領域（道徳、特活、総学の時間）	0	0	0	0	0	0
ボランティアによる展示ガイド	民俗ガイド（小規模校対応）	12	1	0	0	0	13
ボランティア等支援無し	修学旅行など	37	1	0	0	1	39
	博物館活用学習（自由見学）	111	21	24	11	9	176
その他	1	0	2	0	0	3	
合 計	211	23	26	11	10	281	

2. 学校連携事業

学校連携事業は、大きく2つの事業を実施した。一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援で、館から提供できる支援内容の調整を行った。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮し、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成した。

2つめは、新規ボランティアの募集と養成をおこなった。博物館はこれまで4期までのボランティアを育成していたが、毎年様々な理由によりボランティアを辞退する者が出る。その空き定員を補うことと、県民の自己啓発と学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的としてボランティアを募集した。昨年度は新規募集を休止し、内部

修の充実の年であったが、今年度は新たに設置した「ふれあい体験室」専属のボランティア員9名、前半の「養成講座」後半の「専門講座」を経て31名、合計40名の第5期ボランティアの登録をおこなうことができた。

【学校団体受入れ】

毎年9月頃より2月にかけて、近隣の小学校から民具体験学習のために3年生が数多く来館する。この民具体験学習では、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来るようにした。さらに、支援に入るボランティアの在り方について、見直しをおこなってきた結果、学校と博物館が互いに協力した学習支援体制が整った。

教師が主体性を持ち、博物館を活用した授業展開の在り方が構築されたと考える。

(池原 盛浩)

3. 博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。今年度の総参加者数は、60名であった。

(池原 盛浩)



4. 博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。今年度の総受講者数は、1354名であった。

(池原 盛浩)

【文化講座一覧】

回	期日	演題 講師名	場所	参加者
419	2012. 4. 14 (土) 14:00 ~ 16:00	シンポジウム「語り始めた大地 - 本部半島でのジオパーク活動」 【講師】尾方隆幸(琉球大学教育学部講師)、渡久地健(琉球大学法文学部 人間科学科 准教授)、田代豊(名桜大学国際学群観光産業教育研究学系 准教授)、上江洲薫(沖縄国際大学経済学部地域環境政策科 准教授)、千村次生(中央開発株式会社 沖縄支店長)、伊藤田直史(日本洞穴学研究所)	講堂	69
「本部半島のジオパーク推進協議会」が立ち上がり、2013年度の日本ジオパーク認定をめざした活動が始まっている。ジオパークのあり方について、複数の講師の基調講演や事例報告などで話題の提供をおこない、参観者とともに考えることができた。				

420	2012.5.12(土) 14:00～16:00	「2つの復帰を経験して」 【講師】津留 健二(沖縄女子短期大学教育支援センター長)	講堂	66
講師が体験した2つの復帰。一つは北緯27度線を境界とした奄美の、もう一つは沖縄の本土復帰。これらをふり返るとすべての元凶は戦争に行きつく。歴史研究を通じた人材育成と、若者へ歴史を伝えていくことの必要性を訴えた講座であった。				
421	2012.5.19(土) 13:00～16:30	シンポジウム「紅型からのメッセージを解く」 【講師】長崎巖(共立女子大学教授)、伊差川洋子(古琉球紅型 浦添型研究所)、名護朝和(沖縄県立芸術大学 准教授)、平田美奈子(沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員)	講堂	235
紅型の文様は本土の染織意匠の影響を濃厚に受けている。それは、琉球王朝が当時の武家社会との文化的交流の中で、支配層における価値観の共有があったことが背景にある。3名の講師からは、それぞれの研究の立場から、紅型の魅力が語られた。				
422	2012.6.10(日) 14:00～15:30	「博物館と文化財の保存」 【講師】藤田 励夫(九州国立博物館 保存科学室長)	講堂	40
九国博における文化財の修復事例について、画像を通してわかりやすく説明がおこなわれた。素材ごとに異なる、時間をかけた、堅実な修復技術の説明は、西日本地区の文化財の保存修理を担う九博の役割とその重要性を知ることができた講座となった。				
423	2012.7.14(土) 14:00～16:00	「冊封使と琉球」 【講師】赤嶺 守(琉球大学教授)	講堂	223
琉球王国時代に、中国皇帝より使者が送られ冊封がおこなわれていた。彼らは帰国後に報告書を残しているが、本講座はそれら中国側の文献を読み解き、中国と日本本土との関係や、琉球の地理的・歴史的関係性を、冊封使に思いをはせ考えていった。				
424	2012.10.13(土) 13:30～16:00	シンポジウム「復帰後の文化社会」 【講師】大城學(琉球大学教授)、新城和博(ボーダーインク社)、柳卓(アナウンサー)、諸見里杉子(アナウンサー)	講堂	150
本土復帰時、3名の講師がそれぞれの立場で体験した事が紹介された。後半のディスカッションでは、芸能・言葉・風景のテーマで意見交換がおこなわれ、復帰後の沖縄の文化社会の変容について、参観者とともに考えることができた講座となった。				
425	2012.10.21(日) 14:00～16:00	「泡盛の世替り」 【講師】萩尾 俊章(沖縄県教育庁文化財課)	講堂	130
多くの県民に親しまれ、生活と切り離せない酒。沖縄戦で壊滅的な打撃を受けたが、関係者の地道な努力により復興を遂げた。戦争直後の生産再開から、現在に至るまでの泡盛の変遷が紹介された。泡盛の文化的価値を高めることを考える講座となった。				
426	2012.11.11(日) 14:00～16:00	「復帰40年に考える～沖縄歴史はどのように継承されているか～」 【講師】新城 俊昭(沖縄大学客員教授 沖縄歴史教育研究会顧問)	講堂	105
戦後米軍による支配時代から日本復帰にいたるまで、米国と日本政府の両方に翻弄され、様々な抑圧と人権を剥奪されてきた沖縄の姿が説明されていった。沖縄の歴史を認識し、学校・地域・社会で継承していくことの重要性を確認できた講座であった。				
427	2011.12.8(土) 14:00～16:00	「港川フィッシャーの動物の起源を考える」 【講師】長谷川 善和(群馬県立自然史博物館 名誉館長)	講堂	78
港川人発見当時、調査隊の一員として調査に関わったエピソードをはじめ、本館開館当時の展示資料づくりの裏話など、現在まで継続している動物化石の研究成果の数々が紹介された。企画展の関連催事として、展示資料の内容を深める講座にもなった。				
428	2011.12.15(土) 14:00～16:00	「港川人からみた東アジアの人類史」 【講師】海部 陽介(国立科学博物館 人類研究部主幹)	講堂	120
最新のCTスキャン撮影を活用したデジタル技術による人骨化石研究は、これまでできなかった多面的な分析と新たな研究の視点を持たせることができる。さらに地元で調査の拠点ができ、若手研究者が関係機関と連携していることの重要性が紹介された。				
429	2012.2.9(土) 14:00～16:00	「坂本龍馬と水中考古 -沈没船いろは丸の水中調査から-」 【講師】吉崎 伸((財)京都市埋蔵文化財研究所 調査課長)	講堂	68
広島県福山市沖の瀬戸内海に沈む一隻の沈没船が、水中考古学調査の結果、坂本龍馬率いる海援隊のチャーター船「いろは丸」であることが明らかになった。水中考古学の実態を垣間見、歴史の1ページを解き明かすロマンを感じさせる講演であった。				
430	2012.3.9(土) 14:00～16:00	「有名？無名？島の生き物たち」 【講師】伊澤 雅子(琉球大学理学部海洋自然科学科 教授)	講堂	70
沖縄に生息する3種の動物について、オムニバス形式で解説がおこなわれた。数多くの動植物を有する琉球列島に同じく生きるものとして、有名無名に関わらず、沖縄に生きる動物に関心を持ってもらうきっかけになった講座であった。				



港川人の最新の研究成果を紹介
『港川人が語る東アジアの人類史』



会場いっぱいの参観者
『紅型からのメッセージを解く』



冊封使の書いた古文書を解説
『冊封使と琉球』

5. 学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。総受講者数は、1284名だった。

(池原 盛浩)

【学芸員講座一覧】

	日程	分野	講師名	演題内容	定員	参加者
1	2012. 4. 7(土) 14:00～16:00	自然史 (生物)	千木良芳範	「クモの MIKATA ～ツシマトリノフンダマシがいっぱい～」 本島山間部での夜間観察調査から、クモにまつわる様々な解説がおこなわれた。専門的内容であるにも関わらず、分りやすく、楽しく参加者に聴き入れられた講座であった。	80	46
2	2012. 5. 26(土) 14:00～15:30	美術工芸	與那嶺一子	「くちくい」—風呂敷のこと、あれこれ 600枚の紅型の型紙整理と染織の調査研究から見てきたウチクイの、用途、素材、技法、模様、布のつなぎ方など様々な視点で解説がおこなわれた。開催中の展示会の関連催事として位置付けられた講座。	80	84
3	2012. 6. 16(土) 10:00～12:00	歴史	岸本 敬	「子どもと〈ユッカヌヒー〉～ヤカジ(中国風の魔除け)を作って子どもの成長を願おう!～」 旧暦5月4日の「ユッカヌヒー」に、家の柱にかけて出産祈願や除魔招福を祈った「ヤカジ」についての解説を最初におこない、後半は参加者が実際に製作をおこない、古来の年中行事を考える事ができた。	80	30
4	2012. 8. 18(土) 10:00～12:00 / 13:30～15:00	教育普及	池原盛浩	「博物館バックヤード探検隊」 夏休みの子どもの対象に、博物館の裏側を見てもらう体験講座。ミニカメラとメモ用紙を持ち、学芸員の案内で普段立ち入れない施設を巡った。探検後はミニ報告書を作成し、自身の言葉でまとめていった。	15	31
5	2012. 10. 20(土) 14:00～16:00	歴史	崎原恭子	「琉球王国時代の石碑ヒストリー ～館収蔵の石碑を中心に～」 琉球王国時代に制作された、石を素材とした記念碑や梵鐘等に刻まれた文字(金石文)を読み解くとともに、後半は展示室で資料の解説を加えながら、当時の歴史上の出来事や人々の姿に思いを巡らした。	80	62
6	2012. 12. 22(土) 14:00～16:00	考古	片桐千亜紀	「沖縄先史時代の ^{がいそうぼ} 崖葬墓」 沖縄の墓の形態と葬法について、3千年前からグスク時代にわたる墓制研究の数々が解説された。満席の参加者とともに、沖縄の人々の墓に対するアイデンティティーを考える講座となった。	80	98
7	2012. 12. 23(土) 14:00～16:00	美術工芸	園原 謙	「琉球王国時代の名器三線!!～甦る音、好きな音～」 三線の名器である「盛嶋開鐘」を、最新の機器を活用し調査研究をした。研究成果として制作された複製品と実物とに複数の組み合せを施し発音の実験を行った。データ収集と告知の意味を持つ体験講座。	200	149

8	2013. 1. 12(土) 14:00～16:00	人類	藤田祐樹	「沖縄にいたシカの話」 港川人とともに出土された数多くのシカの骨。何らかの理由で絶滅してしまったシカについての謎を、最新の研究成果に基づき解き明かす講座。今後他分野との連携し、シカの絶滅要因を検討する必要性有り。	80	70
9	2013. 1. 19(土) 14:00～16:00	人類	山崎真治	「沖縄化石研究のパイオニア 大山盛保と発見への情熱」 港川人発見をした「大山盛保 生誕100年記念展」を補完する講座となった。後半は、現在進行中の本島南部での発掘調査の成果が紹介され、大山氏の意志を引継ぐ形で進む今後の調査研究が期待される。	80	86
10	2013. 2. 16(土) 14:00～16:00	民俗	久場政彦	「日琉同祖論の研究の現状(入門編)」 「沖縄学の父」と称された伊波譜猷の、琉球人のアイデンティティ形成を探る研究の一つである「日琉同祖論」について解説された。情報の発信や参加者とともに考える場としての館の役割も考えた。	80	120
11	2013. 3. 16(土) 14:00～16:00	歴史	岸本弘人	「小学生と中学生のための沖縄の歴史講座」 参加対象を限定し、沖縄の歴史を博物館の展示資料とあわせて学んでもらう講座とした。日本本土の歴史区分と沖縄の歴史との比較をはじめ、後半は展示室を巡るポイントを押さえた解説がおこなわれた	80	17
12	2013. 3. 20(水) 10:00～12:00	自然史 (地学)	仲里 健	「嘉津宇岳ミニジオツアー」 ジオパーク登録(予定)を前に、本部半島の石灰岩とカルスト地形を観察するのに適した嘉津宇岳に登るミニジオツアーとした。参加者に現地集合をお願いしたが、申込者全員参加で魅力ある講座となった。	15	15
13	2013. 3. 23(土) 10:00～12:00	自然史 (生物)	山崎仁也	「蟹の話はいかがかに? ～オカガニの調査から見えてきたもの～」 日本に生息するカニの種類や生息環境をはじめ、石垣島や宮城島におけるオカガニの調査など、学芸員の巧みな話術でたっぷり2時間、カニ三昧の時間を過ごした講座となった。	80	30



『子どもとくユッカヌヒー)ヤカジ(中国風の魔除け)を作って子どもの成長を願おう!』



森での夜間の調査研究成果を紹介『クモのMIKATA～ツシマトリノフンダマシがいっぱい～』



博物館のバックヤードに潜入『博物館バックヤード探検隊』

6. 展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の50%を占め、その他年間パスポートや友の会会員等、リピーターの参加が定着している。また、個人のリピーターのみならず、病院や大学などの団体も連続して参加していた。常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回217名(定員なし、平均参加人数20名)の参加を集めた。

企画展・特別展における展示解説会では、全8回349名(定員なし、平均参加人数43名)の参加者があった。

企画展「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」では、学芸員による解説会(全4回255名/平均参加人数63名)を実施した。各回ごとに「歴史」「技法と色」「文様」とテーマを決めて解説したことでリピーターを集めることができた。また、企画展「復帰40年記念博物館特別展「Okinawaから沖縄へ」」では、全2回40名(定員なし、平均参加人数20名)、沖縄県立博物館・美術館×八重瀬町具志頭歴史民俗資料館合同企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」では、全2回64名(定員なし、平均参加人数32名)が参加した。(大濱・中村)

	日程	分野	講師名	参加者
1	4月19日(木)	民俗	久場 政彦	30
2	5月17日(木)	地学	仲里 健	11
3	6月21日(木)	美術工芸	園原 謙	26
4	7月19日(木)	美術工芸	與那嶺 一子	18
5	9月20日(木)	民俗	岸本 敬	25
6	10月18日(木)	生物	山崎 仁也	9
7	11月15日(木)	人類	藤田 祐樹	28
8	12月20日(木)	人類	山崎 真治	14
9	1月17日(木)	歴史	岸本 弘人	18
10	2月21日(木)	歴史	崎原 恭子	20
11	3月21日(木)	考古	片桐 千亜紀	18
合計人数				217

7. バックヤードツアー

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室(書庫)～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的病害虫管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行者を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全13回142名(定員12名、平均参加人数11名)の参加があった。

(大瀨・中村)

8. 夏休み!博物館学芸員教室

夏休み!博物館学芸員教室は、学芸員が夏休みの課題に取り組む子供たちに向けて、沖縄の自然・歴史・文化に関する自由研究のテーマを提供する場である。9名の学芸員がそれぞれ90分の教室を開講。1日3教室、全9回で110名の参加があった。



	日程	タイトル	担当学芸員	定員	参加者数
1	7/25 (水)	博物館の庭にある植物で昔あそび	岸本 敬	10組	7組
2		神が宿る石「勾玉」を削りだそう!	片桐 千亜紀	20人	20人
3		ぼく、わたしのルーツを調べよう	崎原 恭子	15組	7組
4	7/26 (木)	海の砂の中から宝を探せ	仲里 健	9組	9組
5		動物の歯と食べ物の関係を研究せよ	藤田 祐樹	20人	20人
6		生き物の自由研究い・ろ・は!	山崎 仁也	20人	19人
7	7/27 (金)	沖縄の伝統的な民家を調査せよ	久場 政彦	10人	8人
8		千代紙で琉服を作って、考える	與那嶺 一子	15人	11人
9		印じゃなーい?	園原 謙	10組	9組

9. 博物館ボランティア活動

当館では、県民の自己啓発や学習の発表する場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入している。この活動は、多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

今年度は、新規ボランティアの募集と養成をおこなった。博物館はこれまで4期までのボランティアを育成していたが、毎年様々な理由によりボランティアを辞退する者が出る。昨年度は新規募集を休止し、内部研修の充実の年であったが、今年度は新たに設置した「ふれあい体験室」専属のボランティア員9名、前半の「養成講座」後半の「専門講座」を経て31名、合計40名の第5期ボランティアの登録をおこなうことができた。

本年度の博物館ボランティアの総活動人数は約1,018人だった。

(池原 盛浩)

10. ふれあい体験室

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、46,873人（1日平均156人）。展覧会に訪れる来館者をはじめ、幼児から小学生の兄弟を伴った親子や友達同士で訪れるリピーターが定着している。

常設している27件の体験キットは種類が豊富なため、リピーターのこどもたちは成長に合わせ、楽しめる幅を広げて利用している。また、体験する毎にスタンプが集められるワークシート「ふれたいシート」（H23年度報告）の活用や毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ」が飽きさせない環境づくりになっている。開設から5年が経過したふれあい体験室は、来館者とスタッフが顔見知りになるなど、県民にとって交流の場となっている様子が伺える。

体験キットは、これまで、ふれあいスタッフやボランティアの支援のもと、大切に維持管理されてきたが、経年劣化が目立っている。今後は、既存の体験キットとの入れ替えや利用者や時代のニーズに合わせた、新しい体験キットの開発が課題である。

(渡部 貴子)

11. 企画展関連事業

(1) 復帰40周年記念「紅型 BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」

関連催事として、シンポジウム1回、学芸員講座1回、体験学習教室1回、展示解説会を4回、ワークショップを2回開催した。

①ワークショップ「千代紙で琉服をつくる」

日 時：2012年4月30日（月祝）14:00～15:30

参加者：14名（事前申込制／定員15名）（参加者内訳：小学生1名、大人13名）

講師：與那嶺 一子（美術工芸担当学芸員）

場 所：1階エントランス 対象：小4～大人

参加費：200円

前半は、着物はどんなふうになられているか、シャツやスカートと何が違うのか、実際にふれあい体験室の着衣体験用の琉装を参加者に試着させながら解説。後半は、きれいな千代紙を使ってミニ着物を作りながら、琉服の構造を学んだ。参加者以外にも、学ぶ機会を与えたいと考え、フリースペースであるエントランスで開催した。通りすがりの来館者も、與那嶺一子学芸員の解説に聞き入った。テレビ取材も入り、夕方のニュースで大きく取り上げられるなど、関心の高さを伺えた。

②ワークショップ「みんなで紅型を染める！」

日 時：2012年5月5日（土）10:00～、定員に達し次第終了（当日は14:30終了）

講 師：琉球びんがた事業協同組合 参加者：100名（当日先着／定員100名）

場 所：正面玄関外（雨天時は博物館実習室） 対象：小学生～高校生 参加費：無料

そ の 他：所要時間15分～30分

※ 一度に体験できる人数が限られています。体験までお待ちいただくことがあります。

※ 作品の持ち帰りはできません。

展覧会担当の與那嶺一子学芸員主導のもと、琉球びんがた事業協同組合と共同で開催した。組合に伝統工芸士の派遣、材料の準備を依頼し、文化の杜が事前調整、広報、当日の受付、記録を担った。布は、2009～10年に開催した、沖縄県地域文化芸術振興プラン「ものづくりの知恵を学ぶ体験プログラム」の中で苧麻から糸を繋ぎ、織り機で織った布を使用した（『沖縄県地域文化芸術振興プラン ものづくりの知恵を学ぶ体験プラン』2010）。約100名で染めた長さ10メートルの紅型作品は、2週間後に糊落としをした後、展覧会会場に展示した。展示をきっかけにこの取り組みを知る人も多く、ワークショップの意義を深めることができた。

2月23日（土）、3月3日（日）、3月20日（水祝）には、ボランティア有志を中心に、完成した紅型作品をスディナ（琉服）に仕立てるワークショップも開催し、72人の参加者を集めた。スディナ（琉服）は、ふれあい体験室で着衣体験ができる。

(2) 復帰40年記念 博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」

関連催事として、公演1回、シンポジウム1回、文化講座2回、展示解説会2回を開催した。また、展示の理解を深めるために配布資料を作成した。

①配布資料「あの日、あの時、あの場所で」

配布期間：会期中随時 配布場所：展示室入口

配布枚数：4,000枚

監 修：岸本 弘人（歴史担当学芸員）作成：中村 愛（文化の杜）、宜壽次 美智（フリーデザイナー）

作成協力：博物館ボランティア、展示交流員

本展覧会では、復帰前後を知る人にとって馴染みのある資料が数多く展示されていることから、通常の解説シートではなく、博物館ボランティアやスタッフの展示資料にまつわる思い出話をまとめた印刷物を配布した。来場者自身に語ってもらうことにより、他の来場者への興味づけや、展示をよく見てほしいという期待があった。「あなたのエピソード教えてください！」には、約20名の参加があり、記入したエピソードは会期中、展示室入口に掲示した。参加者には抽選の上、2組4名に次回展覧会の招待券をプレゼントした。

②「沖縄の現代生活」をテーマに写真募集

復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」関連事業として、一般県民より写真を公募した。教育普及は、その写真募集に係るチラシポスターの作成から7月末の応募受付までの業務を、教育普及班で担当した。

締切までに応募のあった224点は、博物館3階の講堂側通路に設置のパネルに掲示した。また、写真審査会を8月末に行い、表彰式を開催した。

・業務概要と取り組み期間

募集要項作成、ちらし・ポスター制作依頼：～平成23年3月末

告 知：2012年4月～

写真受付：2012年7月10日～31日

写真作品審査会：2012年8月22日（水）13:00～17:00 博物館会議室にて

表 彰 式：2012年10月27日（土）11:00～12:00

③公演「お笑い本土復帰」

日 時：2012年11月3日（土）2回公演 13:00～14:00 16:00～17:00

脚本／演出：小波津正光（まーちゃん）

出 演：山城智二・よっちゃん・まーちゃん・いさお名ゴ支部・知念だしんいちろう・パーラナイサーラナイ・
ゴリラコーポレーション・ニッキー・ドラゴンエマニエルしょうご

参加者：367名（1公演につき定員200名／自由席）

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

価 格：一般1,000円、高大600円、小中500円 ※展覧会前売券とのセット販売（当日券は200円増）

より広い世代に展覧会に興味を持ってもらうため、沖縄を風刺した笑いを展開する「お笑い団体F E C」が、復帰40年をテーマにコントを披露した。チケットは9月から当館ミュージアムショップ「ゆいむい」で販売し、公演前日に完売した。小さい子どもからデイサービスのお年寄りまで、皆声を出して笑ったり、沖縄が抱える諸問題に顔をしかめる様子が見られた。公演終了後は、3世代一緒に展覧会を見学する姿があった。

(3) 沖縄県立博物館・美術館×八重瀬町具志頭歴史民俗資料館合同企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」

関連催事として、文化講座2回、学芸員講座3回、展示解説会2回を開催した。また、マンガを活用した配布資料や、沖縄タイムス「ワラビー」での特集など、小中学生に興味を持ってもらうための働きかけをした。

①コラボ企画「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ 見ちゃいました」（全3回）

「パート1」 収蔵庫編 2012年5月1日発行 配布枚数：9500枚

「パート2」 港川フィッシャー編 2012年7月15日発行 配布枚数：9000枚

「パート3」 情熱は続く編 2012年10月25日発行 配布枚数：8800枚

沖縄タイムスで人気連載中の「おばあタイムス」「エイトマン 糸満市ヒーロー課」の作者である大城さとし氏に当館の活動取材の上、展覧会開催までの約半年の間にパート1～3まで3回に渡りマンガを描きおろしてもらった（A4サイズ1枚）。近年、他館においてもマンガを活用して博物館を紹介する事例が見られるが、かたい博物館の取り組みを、やわらかく表現してもらうことを期待した。マンガは展覧会の告知として、当館と八重瀬町具志頭歴史民俗資料館で配布した他、館周辺の小学校の児童生徒に配布した。

②特集記事 沖縄タイムス子ども新聞「ワラビー」

掲 載 日：2012年9月9日（日）1面・8面

内 容：「港川人の生活発掘調査だ」「沖縄化石がいっぱい」

そ の 他：11月25日（日）、12月9日（日）、12月16日（日）3面には、「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ 見ちゃいました」が掲載された。

沖縄タイムスから毎週日曜日に発行されている子ども新聞「ワラビー」において、現在当館の人類担当学芸員を中心に進められている南城市サキタリ洞の発掘調査の様子が特集された。取材当日は、山崎真治学芸員の案内のもと、ワラビーリポーターの小学生2名とマンガ家の大城さとし氏が発掘体験をした。紙面においては、「港川人の生活発掘調査だ！」と題し、発掘することの意味や面白さ、化石研究の現状や大山盛保氏について山崎真治学芸員のインタビューが掲載された。

また、「マンガ家大城さとしの博物館と発掘のウラ 見ちゃいました」もカラー化して紙面で連続掲載された。

（中村 愛）

12. 常設展に関する取り組み

博物館常設展の見学の手助けとして、2011年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、10,000枚を配布した。また、英語版「ここだけは見逃すな！」についても、800枚を配布した。

正月には昨年の「龍展」に引き続き「へび展」を開催した。2人の学芸員が、博物館常設展内において、新年の干支にちなみ「へび」に関係した資料を紹介。解説文（400～600文字程度）を展示した。新年の干支である「へび」を取り上げることにより、違った視点で展示を楽しんでもらうことを目的とした。

解説内容：三線／園原謙、自然史部門展示室のへび標本／山崎仁也

(中村 愛)

13. 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」を作成し、HPに掲載して、小・中学校へダウンロードと印刷・作成を呼びかけている。「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印する（サンプル：博物館・美術館作成）。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっている。利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴムなど）をプレゼントする。

14. 普及資料の貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等である。事前（1ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間である。2012年度の貸出団体数は6件であった。

2012年度 貸出一覧

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	城岳小学校	ちむドンドン	読み聞かせ	7月17日～20日
2	天久保育所	ちむドンドン	誕生会アトラクション	8月23日～24日
3	西原東小学校	骨スーツ	展示と説明（生徒による）を行い、①「骨格」について学ぶ、②動物と人間の体のちがいについて知る	10月19日～22日
4	当山小学校	むかしむん	社会科授業	2013年1月29日 ～2月1日
5	デイサービス ViVi まわし	うす、たる、豆腐木杵、 シンメー鍋、蓋、ハンマー、 一、布	眠っていた記憶を呼び覚ます「回想法」	2月18日～21日
6	松川小学校	洗濯キット・むかしむん	「やってみよう昔のせんたく」における、 実物体験教材資料として	2月27日～3月6日

IV. 資料の収集・保存管理

1. 収蔵資料現在高

2013年3月31日現在

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地 質	612	26,484	3,048	1	30,145	55,910
	動 物	1,506	18,669	528	141	20,844	
	植 物	202	4,716	0	0	4,918	
	菌 類	3	0	0	0	3	
人類資料		54	19	6	0	79	79
美術工芸	絵 画	97	549	2	4	652	10,211
	書 跡	180	453	49	6	688	
	彫 刻	6	115	136	7	264	
	陶磁器	431	3,376	465	538	4,810	
	漆 器	231	252	195	19	697	
	染 織	1,289	1,718	51	27	3,085	
	その他	13	2	0	0	15	
歴史資料		2,868	7,954	518	455	11,795	11,795
考古資料		301	3,549	2,821	0	6,671	6,671
民俗資料		623	4,339	1,072	137	6,171	6,171
総 計		8,416	72,195	8,891	1,335	90,837	90,837

2. 2012（平成24）年度新収蔵資料高

2012年4月1日～2013年3月31日

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地 質	0	1	0	0	1	26
	動 物	0	15	10	0	25	
	植 物	0	0	0	0	0	
	菌 類	0	0	0	0	0	
人類資料		0	0	0	0	0	0
美術工芸	絵 画	0	0	0	0	0	27
	書 跡	0	2	0	0	2	
	彫 刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	12	0	0	12	
	漆 器	0	8	0	0	8	
	染 織	0	5	0	0	5	
	その他	0	0	0	0	0	
歴史資料		18	41	0	0	59	59
考古資料		0	0	0	0	0	0
民俗資料		0	2	0	0	2	2
総 計		18	86	10	0	114	114

3. 2012（平成24）年度新収蔵資料目録

【購 入】

分 類	資 料 名	数 量	提 供 者 ・ 所 在 地	
歴 史	英字新聞 Daily News	1	特定非営利活動法人琉米歴史研究会	中城村
	英字新聞 Morning Star（復帰時の英字新聞）	2	特定非営利活動法人琉米歴史研究会	中城村
	西洋製作のアジア地図	15	（有）榕樹書林	宜野湾市

【寄 贈】

分類	資料名	数量	提供者名・所在地		
地 学	喜舎場朝敬氏収集化石資料等	1	喜舎場 豊	糸満市	
生 物	ケナガネズミ	1	川村	国頭村	
	カツオドリ	1	ながみね動物クリニック	金武町	
	ミサゴ	1	〃	浦添市	
	サシバ	1	蒲田 真	うるま市	
	コミミズク	1	NPO 法人どうぶつたちの病院	北谷町	
	リュウキュウコノハズク	1	〃	〃	
	キジバト	1	ながみね動物クリニック	那覇市	
	スズメ	1	〃	宜野湾市	
	メジロ	1	〃	沖縄市	
	ウグイス	1	NPO 法人どうぶつたちの病院	宜野湾市	
	イソヒヨドリ	1	ながみね動物クリニック	うるま市	
	バン	1	〃	沖縄市	
	キンクロハジロ	1	〃	恩納村	
	オオミズナギドリ	1	NPO 法人どうぶつたちの病院	沖縄市	
	サキシマスジオ	1	下地 由子	宮古島市	
歴 史	パラシュート生地で作ったおくるみ	1	嘉数 美奈子	豊見城市	
	琉球切手コレクションアルバム	4	福井 和雄	東京都	
	ガラス乾板（坂口總一郎撮影）	11	北原 正明	和歌山県	
	憲法小冊子	1	宮平 正輝	西原町	
	沖縄師範学校附属国民学校終了証書 他	17	中重 喜代子	東京都	
	軽便鉄道レール	2	金城 忠明	豊見城市	
	コザ騒動号外	2	崎原 恒新	沖縄市	
	新参蔡姓家譜	1	渡具知 清	南城市	
	向姓家譜（一～二）（複製）	2	向氏仁淵堂金武御殿門中会 事務局長 野村 朝生	那覇市	
美術工芸	漆 器	黒漆家紋入箔絵櫃	1	高山 和子・朝守	本部町
		三線盛嶋開鐘 棹複製品（黒木材）	1	琉球三線楽器保存育成会	那覇市
		三線盛嶋開鐘 棹複製品（縞黒材）	1	〃	〃
		三線盛嶋開鐘 棹複製品（ゆしぎ材）	1	〃	〃
		三線江戸与那 棹複製品（黒木材）	1	〃	〃
		三線久場春殿 棹複製品（黒木材）	1	〃	〃
		三線盛嶋開鐘附属の胴（凹凸型）複製品	1	〃	〃
		三線胴（扁平型）	1	〃	〃
	書 跡	佐竹道守書 行書「一期一會」	1	稲福 政斉	糸満市
		後藤敬臣書「七言絶句」	1	西 美知子	福岡県
	陶 器	黒釉嘉瓶	1	深堀 潤子	今帰仁村
		黒釉壺	1	〃	〃
		焼締壺	1	〃	〃
		褐釉掛分四耳壺	1	〃	〃
		黒釉嘉瓶	1	〃	〃
		黒釉嘉瓶	1	〃	〃
		焼締壺	1	〃	〃
		焼締丸印文壺	1	〃	〃
		褐釉四耳壺	1	〃	〃
黒釉厨子甕		1	〃	〃	
厨子甕		1	〃	〃	

分類	資料名	数量	提供者名・所在地
美術工芸	陶器	焼締三耳壺	1 深堀 潤子 今帰仁村
	染織	木綿紺地絰着物	1 山城 米子 うるま市
		スーツ（男性・夏用）	2 入松田 豊子 那覇市
		「首里花織 飾り布」	1 萩原 嘉信 静岡県
		紅型「花笠にあかばな一（芭蕉紙）」	1 〃 〃
民俗	工工四	1 中本 鉄治 浦添市	
	「野村流古典音楽（上巻・中巻・下巻・続巻・特集）カセットテープ（原本）」	1 大城 喜信 南風原町	

【収集】

分類	資料名	数量	提供者・所在地
自然史 生物	ジャコウネズミ	1	山崎 仁也 国頭村
	ズアカアオバト	1	田中 聡 那覇市
	エラブウミヘビ	1	山崎 仁也 石垣島
	ヒロオウミヘビ	2	〃 石垣島
	ハブ	1	〃 国頭村
	ヨナグニショウダ	1	〃
	サキシマヌマガエル	1	〃 西表島
	ハナサキガエル	1	〃 国頭村
	コガタハナサキガエル	1	〃 西表島

4. 所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】

2013年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
典籍	おもろさうし	22冊	昭48. 6. 6	沖縄県
〃	混効験集	2冊	〃	〃
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）	1口	昭53. 6. 15	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺殿中鐘）	〃	〃	〃
〃	梵鐘（旧円覚寺楼鐘）	〃	〃	〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1巻	平11. 6. 7	〃

【県指定文化財（有形文化財）】

2012年3月31日 現在

種別	名称	員数	指定年月日	所有者
絵画	絹本着色花鳥図（殷元良筆）	1幅	昭54. 4. 9	沖縄県
〃	紙本着色雪中雉子の図（殷元良筆）	〃	〃	〃
〃	紙本墨画竹の図（殷元良筆）	〃	昭57. 3. 4	〃
〃	紙本着色奉使琉球図（朱雀年筆）	1巻	〃	〃
〃	紙本着色冊封使行列図	〃	平15. 7. 11	〃
彫刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1軀1枚	昭31. 12. 14	〃
〃	世持橋勾欄羽目	1括	〃	〃
〃	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃
工芸品	三線江戸与那	1丁	昭31. 12. 14	〃
〃	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1本	〃	〃
〃	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1合	〃	〃
〃	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃
〃	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	1口	〃	〃
〃	枝梅竹文赤絵椀	〃	昭54. 9. 3	〃
〃	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃

【歴史】

ウィリアム・ボード墓碑（拓本）（1点）
方位石（拓本）（1点）
中国人墓碑（泊外人墓地内）（拓本）（6点）

【美術工芸（絵画）】

比嘉盛清 琉球男女之図（1幅）
慎思九 山水図（1幅）

【民俗】

三線久葉の骨（1挺）

修理内容：

漆器資料に関しては、経年の汚れ、乾燥による木地の収縮、内部や外部の漆塗膜の亀裂、剥離、劣化や損傷が多く見られる状況にあった。修理の記録を残すように心がけ、修理期間を2012年7月から2013年3月までの間で行った。具体的な作業工程は、修復前写真撮影、調査、クリーニング、漆固め、塗膜調整、塗膜接着、刻苧、防錆、摺漆、修理後写真撮影・報告書を作成した。特に硯屏は、これまでに修理が施された跡があり、腐食した釘を全て取り除き、土台をしっかりと固定し修理を施した。また、煙草入の蓋の一面が欠損したが、鑑賞の妨げにならないよう補材でつや消しの塗りで補足した。また、県指定有形文化財三線盛嶋開鐘附胴の蛇皮張りの修理届を提出し、戦前の蛇皮張りの方法でかつ一定の堅牢度を確保し修理した。

絵画資料・歴史資料も2012年7月～2013年3月まで実施。絵画資料の場合、本紙の素材に和紙が用いられるが、経年による汚れ、横折れ、亀裂、欠損などがあり、その改善を修理方針とした。具体的な修理は、修復前の写真撮影、墨・朱印の剥落止め、表具解体（本紙はがし）、旧肌裏紙の除去、汚れの除去、欠損・亀裂箇所の補絹（紙）、本紙の肌裏打ち、新調の表装裂、折れ伏せの補紙、中裏打ち作業、宇陀紙総裏打ち、鏝、軸首、上軸、中軸、掛け紐、桐太巻、桐印籠箱の新調を行った。

歴史資料の修理は、拓本資料の和紙で裏打ちを行い中性紙ボードでマウンティング台紙を製作し、展示物として有効に利用可能なようにした。

修理業者：美術工芸資料（漆器）・・・琉球漆工藝舎、三線蛇皮張り・・・外マ三線店、
美術工芸資料（絵画）・歴史資料・・・石川堂、民俗資料（三線）・・・新栄堂
予算執行額：2,243,000円

（園原 謙）



慎思九作 山水図

6. 資料収集事業

(1) 資料収集

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上で、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び歴史的価値の高い資料を計画的に収集し、展示や研究を深め、教育文化の振興や向上に資する事業を行っている。

平成24年度は、歴史資料の英字新聞3点及び西洋製作のアジア地図15枚を購入した。

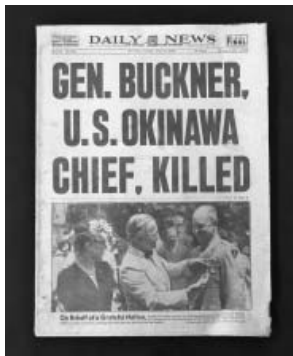
英字新聞「Daily News」は、1945年6月19日にアメリカのニューヨークで発行された新聞である。ここには、沖縄戦時に米軍側の最高指揮官であったバックナー中将が戦死した記事とともに、沖縄島南部の簡単な地図とバックナー中将が戦死した大まかな場所が示されている。英字新聞「Morning Star」は、アメリカ統治下の沖縄で発行さ

れた唯一の英文商業日刊紙であり、米軍人・軍属及びその家族を対象としたアメリカの沖縄統治政策を支持した新聞である。今回購入した新聞は、沖縄の日本への復帰前日及び当日に発行されたものである。

西洋製作のアジア地図は、18～19世紀にかけて西洋各国で製作されたアジアを主題とする地図群である。当資料群は、『青い目がみた大琉球』の編者の一人であるラブ・オーシュリ氏がアメリカを中心として精力的に収集したアジア地図コレクションの一部であり、琉球が掲載されるなど、そのすべてが琉球と関連している。今回は、アメリカやイギリス、フランス等で発行された地図15枚を購入した。

資料名：

- ・英字新聞「Daily News」(1945/ 6/19) 1点
- ・英字新聞「Morning Star」(1972/ 5/14及び1972/ 5/15) 2点
- ・西洋製作のアジア地図15枚



英字新聞「Daily News」(1945. 6. 19)



西洋製作のアジア地図(キャリー作)(1795年)

(2) 基金

【事業概要】

沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料は、沖縄の歴史・文化史を語るため後世に伝えるべき資料である。特に先の大戦で戦火を免れた琉球王国時代の資料は、文化的には勿論のこと歴史的な意味においても価値の高いものであり、当館ではこのような資料を収集し常設展や企画展を活性化させることにより、県民の資質の向上と先人の知恵を学ぶ場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

資料購入活動の一つである、沖縄県美術品等取得基金(以下「基金」という)は、貴重な琉球資料を購入し、流失させないことを目的の一つとしており、当館では、琉球史研究や展示の充実を図るために、沖縄の歴史文化の高さと豊かさをあらかず琉球資料を、基金により継続的に収集している。なお、収集にあたり外部の有識者による収集委員会を招集し、意見を求め、購入の可否を判断している。

【進捗状況】

2011年度は、当館の所管が文化観光スポーツ部へ移ったことに伴い、基金取扱い業務が沖縄県教育庁文化財課から文化観光スポーツ部の文化振興課へと変わった。今年度は、基金により取得した資料は95件である。2009年度に購入した資料の整理および基金への資金補填期間とし、美術品取得のための収集委員会は開催しなかった。

7. 資料貸出

○事業名：企画展「致元と八重山古典焼」

主催：那覇市立壺屋焼物博物館

会場：那覇市立壺屋焼物博物館

貸出期間：2012年6月14日(水)～9月1日(水)

貸出資料：色象嵌粟絵菊花皿、なまこ釉ひょうたん型酒入他(12件12点)

○事業名：平成24年度沖縄市子ども科学力向上事業科学企画展「恐竜のひみつ展」

主 催：公益財団法人 沖縄こどもの国

会 場：沖縄こどもの国・ワンダーミュージアム内

貸出期間：2012年7月10日（火）～9月18日（火）

貸出資料：サウロロフス、サウロロフスの皮膚化石、プロロケラトプス、プロロケラトプスの卵、アンモナイト、始祖鳥の化石、恐竜のツメ、他9件19点

○事業名：人間国宝 九州・沖縄の伝統工芸「技と美」

主 催：一般財団 熊本県伝統工芸館

会 場：熊本県伝統工芸館

貸出期間：2012年7月25日（水）～9月10日（月）

貸出資料：亀甲文嘉瓶、線彫魚文大皿、芭蕉蔓草文様両面紅型衣裳など10点

○事業名：都城島津伝承館特別企画展「都城と琉球王朝」

主 催：都城市教育委員会都城島津邸

会 場：都城島津邸

貸出期間：2012年9月13日（木）～12月14日（金）

貸出資料：印鑑「中山王府」、首里那覇港図屏風、琉球国之図屏風、マーラン船模型、守礼門模型他7点

○事業名：企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」

主 催：沖縄県立博物館・美術館、八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館

会 場：八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館

貸出期間：2012年10月23日（火）～2013年1月20日（日）

貸出資料：港川人3号、港川人4号、港川人復元模型、リュウキュウジカ全身骨格（オス）、リュウキュウムカシキョン全身骨格（オス）5点

○事業名：那覇市歴史博物館・那覇市教育委員会文化財課合同企画展

「那覇の神社・寺院～先祖が拝んだ神・仏～」

主 催：那覇市博物館

会 場：那覇市歴史博物館

貸出期間：2012年10月25日（木）～2013年1月10日（木）

貸出資料：円覚寺住職等辞令、龍蠟燭、鼎形香炉、三巴紋鼎形香炉、観音菩薩像他17件19点

○事業名：沖縄のへび全員集合

主 催：株式会社 南都

会 場：おきなわワールドハブ博物公園内ミュージアム

貸出期間：2012年12月20日（木）～2013年5月8日（水）

貸出資料：ハイ、クメジマハイ、イワサキワモンベニヘビ、ナミヘビ科他15点

○事業名：企画展「家譜でひも解く士族の世界」

主 催：那覇市博物館

会 場：那覇市歴史博物館

貸出期間：2013年2月6日（水）～5月2日（木）

貸出資料：鄭和橋肖像画、朱漆堆錦印籠、印鑑「国学之印」、大帯、孫氏家譜他16件23点

○事業名：企画展「切った貼ったで盛り上がり！漆の技—TSUIKIN—」

主 催：浦添市美術館

会 場：浦添市美術館

貸出期間：2013年2月4日（月）～3月22日（金）

貸出資料：堆黒唐人童子鶴模様硯屏、琉球堆黒四方盆他（6件6点）

8. 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、写真画像等の貸出を行っている。毎年多くの写真借用・資料撮影等の依頼があり、2012年度は博物館班に163件の依頼があった。利用目的では、書籍・冊子等の出版物への掲載、次いでテレビ放映が最も多く、従来よりもWEBやHPでの公開が増えている。

借用希望の多い資料は、例年通り「旧首里城正殿鐘」「進貢船図」「首里那覇港図屏風」「琉球国総絵図（間切集成図）」などである。2012年度は、海外からの資料借用の問い合わせもあったが、申請書の様式が英語で対応していないため、手続きの混乱もあった。今後は各国からの依頼に対応できるように様式も整えていく必要があるだろう。

（早瀬 千明）

美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I. 調査研究等の活動

1. 調査研究の概要

調査研究は美術館活動の、重要な柱の一つである。これまで本美術館では、収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点的に取り組んできた。2012年度は、本美術館活動のさらなる充実を目指し、各学芸員が調査研究に取り組んだ。調査研究の内容は、県内外の作家及び作品に関する調査研究、作品の保存修復に関する調査研究等で、成果についてはコレクション展及び企画展等で公開した他、美術館研究紀要第3号にまとめた。以下、2012年度（平成24年度）に当館及び学芸員が行った調査研究活動の状況を報告する。

【調査研究内容】

- ① 美術品の収集に関する調査研究
- ② 美術品の保存科学に関する調査研究
- ③ 美術品の修復に関する調査研究
- ④ 展示技術に関する調査研究
- ⑤ 教育普及に関する調査研究
- ⑥ 美術情報提供システムの活用に関する調査研究
- ⑦ ボランティア育成支援に関する調査研究
- ⑧ 美術館の振興に関する調査研究

【学芸員個人研究】

各学芸員が研究テーマを設定し、1年をかけて調査研究に取り組み研究紀要にまとめる。

No.	氏名	研究テーマ
1	瑞慶山 昇	宮古の美術同人「二季会」一画家、下地明増と本村恵清一
2	仲里 安広	安次嶺金正についての考察
3	新里 義和	東松照明 終の棲家としての沖縄
4	大城 直也	稲嶺成祚考
5	豊見山 愛	交差する表現ーアジア・沖縄の女性アーティスト

【調査研究体制】

調査研究活動は学芸員及び嘱託員で実施。画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存し、展示企画及び各事業に活用している。

(新里 義和)

2. 調査・研究・講演・著作論文等

瑞慶山 昇（美術館副館長）

○調査・研究

- ・画家「下地明増」に関する作品、及び二次資料等の研究（2012年4月～2013年2月）
調査地：宮古島市
- ・画家「本村恵清」に関する作品、及び二次資料等の研究（2012年4月～2013年2月）
調査地：宮古島市
- ・美術同人会「二季会」関係資料と関係者から聞き取り調査（2012年4月～2013年2月）
調査地：宮古島市
- ・画家「平野長伴」に関する二次資料調査（2012年10月～2012年11月）
調査地：那覇市

- ・「八重山美術会」資料調査（2012年6月）

調査地：石垣市

○著作論文等

- ・「宮古島の絵画同人『二季会』の画家 I 一下地明増と本村恵清」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要』第3号 2013年3月

仲里 安広（主任学芸員）

○調査・研究

- ・企画展「安次嶺金正展」に関する作品調査（那覇市、東京）（2012年8月23日、9月13日、2月7・8日）
- ・画家「宮城健盛」の作品調査（南風原町）（8月21日）
- ・画家「伊砂俊彦」の作品調査（県庁）（9月19日）
- ・画家「山里永吉」の作品調査（那覇市）（10月17日）
- ・画家「安次富長昭」の作品調査（那覇市）（10月18日）
- ・画家「高良憲義」の作品調査（那覇市）（10月18・22日）
- ・彫刻家「宮城哲雄」の作品調査（宜野湾市）（10月18日）
- ・彫刻家「上原隆昭」の作品調査（那覇市）（10月19日）
- ・彫刻家「富元明雄」の作品調査（那覇市・南城市）（10月19日）
- ・画家「榎本政治」の作品調査（宜野湾市）（10月20日）
- ・陶芸家「大嶺實清」の作品調査（読谷村）（10月20日）
- ・画家「平野長伴」の作品調査（那覇市）（10月22日）
- ・画家「当山進」の作品調査（南風原町）（10月22日）
- ・「石川文一作『護佐丸誠忠録』」の調査（うるま市）（10月24日）
- ・作家「和宇慶朝健」の作品調査（沖縄市）（10月24日）
- ・デザイナー「岸本一夫」の作品調査（北中城村）（10月25日）
- ・彫刻家「上條文穂」の作品調査（那覇市）（10月26日）

○著作・論文

- ・「安次嶺金正の軌跡と美術論について」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要』第3号 2013年3月

新里 義和（主任学芸員）

○調査・研究

- ・企画展「東松照明展」に関する研究（2012年4月－2013年3月）調査先：東松照明事務所（那覇市）
- ・コレクション展「新しい写真の展開展」のための作品調査（2012年4月16日－4月18日）調査先：宮本隆司氏事務所、ヒロミヨシイ六本木、タカ・イシイギャラリー、タローナスギャラリー他（東京）
- ・アジアの女性アーティスト「アジアをつなぐ」境界を生きる女たち1984-2012」展示調査（2012年9月12日－9月13日）調査先：福岡アジア美術館（福岡）
- ・作家調査及び展覧会開催調整（2012年9月26日－9月27日、2013年3月25日－3月27日）調査先：森山大道写真財団、日本カメラ博物館ライブラリー他（東京）
- ・作家調査及び次年度企画展調査（2013年1月17日－1月23日）調査先：Tate Modern 他（ロンドン）

○講演等

- ・名 称：受信環境クリーン図案コンクール審査
期 日：2012年9月11日
依頼機関：沖縄受信環境クリーン協議会
- ・名 称：第2回ふるさとづくり図画コンクール審査
期 日：2012年10月30日
依頼機関：一般社団法人沖縄しまたて協会
- ・名 称：砺波市美術館「東松照明の写真」展

記念講演会：東松照明写真考「写真とは」

期 日：2012年12月9日

依頼機関：砺波市美術館（富山）

・名 称：第5回おきでん「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト審査

期 日：2013年3月11日

依頼機関：沖縄電力株式会社

○著作・論文等

・「東松照明 沖縄との交感① - 豊かな精神に同化も -」沖縄タイムス 2013年1月

・「東松照明 終の棲家としての沖縄 - 太陽へのラブレター展から見えてくるもの -」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要』第3号 2013年3月

・「東松照明 戦後日本マンガラ」写真選者『現代思想』5月臨時増刊号（2013Vol.1, 41- 6）2013年4月

大城 直也（主任学芸員）

○調査・研究

・画家「稲嶺成祚」に関する作品、及び二次資料等の研究（2012年4月～2013年2月）

調査地：那覇市首里（作家自宅兼アトリエ）

○著作・論文等

・「稲嶺成祚絵画様式の変遷」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要』第3号 2013年3月

豊見山 愛（主任学芸員）

○調査・研究

・企画展関連調査と下記の成果発表を行った（2012年4月18日～2013年2月22日）

① 沖縄女流美術家協会会員への聞き取り調査【県内】（久場とよ、山元文子、仲座包子）

② 出品決定作家への聞きとり調査【県内】（石川真生、山城知佳子、阪田清子）

③ アメリカ在住アジア女性アーティスト調査【県外】（アルマ・キント、トリン・T・ミンハ、他）

④ アジア女性アーティストの調査【海外】（米国イリノイ州シカゴ 2013年1月21日～25日）

調査先：ローラ・キナ、エミリー・ハナコ・モモハラ（沖縄系ハワイ移民4世）、シカゴ文化センター、大学美術館、シカゴ美術館（沖縄女性アーティスト〈Art is My Life〉出品作品返却を兼ねて、沖縄系移民アーティストの調査）

・沖縄系アメリカ在住アーティストの調査

TAKESHI（金村健司・米国ロサンゼルス在）に関する調査【県内】2012年9月7～8日

○講演等

・名 称：<まなぶをまなぶ>第1回沖縄県立美術館を訪ねる（講師）

期 日：2012年12月28日

依頼機関：沖縄大学

・名 称：東アジア雑誌会議ワークショップでのレクチャー「アジア女性美術展と沖縄女性美術」

期 日：2013年1月26日

依頼機関：MAT（Modern Asian Thought、亜州現代思想計画）、沖縄大学

・名 称：「沖縄女性アーティストの現在地」

期 日：2013年2月22日（金）

依頼機関：ギャラリーKEN（栗津ケン主宰、東京都）

○著作論文等

・展評「沖縄を描いた画家たち展」（沖縄タイムス、2012年4月5日）

・「交差する表現—沖縄・アジアの女性アーティスト」『沖縄県立博物館・美術館 美術館研究紀要 第3号』2013年3月

大城 仁美（主任学芸員）

○調査・研究

- ・写真家・山田實氏の作品ネガ調査、及び聞き取り調査【県内】（4月中旬～8月、50数回）

○著作論文等

- ・「山田實 人と写真」展覧会図録『山田實展 人と時の往来』（沖縄県立博物館・美術館、2012.10.2）

齋 悠記（美術品調査嘱託員）

○調査・研究等

- ・大城皓也作品調査（那覇市）（2012.05.30、06.01）
- ・大嶺政寛作品調査（那覇市）（2012.07.01）
- ・宮城健盛作品調査（南風原町）（2012.08.21）
- ・安次嶺金正作品調査（那覇市）（2012.08.23、09.13）
- ・大嶺政寛、ほかの作品調査（那覇市）（2012.09.20）
- ・当山進作品調査（南風原町）（2012.11.02）
- ・平野長伴作品調査（那覇市）（2012.11.22）
- ・下地明増作品調査（宮古島市）（2013.01.18）
- ・宮良信成作品調査（石垣市）（2013.03.12～15）

Ⅲ. 展示活動

1. 展示活動概要

コレクション展は、作品保護の観点から年間3期に分けて展示替えを行い、収蔵作品及び寄託作品をテーマ展示の形式で公開。コレクションギャラリー1では小品の写真、版画、水彩画、エスキースを中心に。ギャラリー2では絵画や彫刻、大型の写真や現代美術等、ギャラリー3では沖縄の戦後美術を系統的に展示して紹介している。企画展では郷土の芸術家や、沖縄ゆかりの国内外の優れた芸術家について、学芸員の調査研究を基に、その成果を自主企画展という形で展示公開している。

2. コレクション展（常設展）

【コレクションギャラリー1】

①「大和コレクションV新しい写真の展開」【写真】※コレクションギャラリー1・2を会場に開催

開催期間：2012年5月12日（土）～9月16日（日）

内 容：1839年に写真というメディアが誕生し170年以上が経過した。現代を生きる我々にとって写真はもはや崇高な芸術表現ではない。現代社会に深く密着する写真をアートはどのように扱ってきたのか、大和コレクションの中から現代美術における写真の展開を展望した。

②豊栄コレクション「現代アジア作家一孫本長」展【絵画】

開催期間：2012年9月29日（土）～2013年1月14日（月）

内 容：著しい経済成長を遂げるアジア社会、芸術の世界でも新しい波が浸透している。中国の作家 孫本長の作品には、中国の黄土高原に広がる自然、そこに暮らす民の姿が描かれている。ゆるやかな線と温かい色調でありながら、力強さを感じさせる孫の作品を公開した。

③「コレクション選 安谷屋正義エスキース展 ーある風景ー」【水彩画・他】

開催期間：2013年1月20日（日）～5月12日（日）

内 容：画家にとってのエスキースとは、絵画活動の基本であり、表現の深化に迫る活動である。また、作品を生み出す泉ともなる。安谷屋正義は数千点のエスキースを残した。美術館企画展で紹介できなかった作品も数多い。今回は、その中から紹介し、他の画家のエスキースも含めて公開した。

【コレクションギャラリー2】

①「大和コレクションV 新しい写真の展開」【写真】※（1）コレクションギャラリー1-①を参照

②「私が”わたし”であるためにー共振の美学」【絵画・他】

開催期間：2012年9月29日（土）～2013年1月14日（月）

内 容：当館コレクションのなかから、ジャンルや世代を超えた女性アーティストの作品と、男性アーティストによる女性をテーマにした作品を紹介した。作品を通して、「描いた女性」と「描かれた女性」の違いを検証した。

③「大和コレクションVI 世界のとがかり」【現代美術】

開催期間：2013年1月20日（日）～5月12日（日）

内 容：大和コレクションより、世代も手法も異なる7名の日本の作家を紹介した。いずれの作品も、人類が近代化の過程で築いてきた規則や価値観、ものの見方などを主題に置く点に共通項を見出したセレクトで、観客の内にある既存の価値観や世界観をゆさぶり、世界の多様性を想起する切欠となる事を目指した。

【コレクションギャラリー3】

①沖縄美術の流れ「沖縄の美術がとらえた光と影」【絵画・他】

開催期間：2012年5月12日（土）～2013年5月12日（日）通年

内容：戦後沖縄の変遷と美術とは無関係ではない。豊かな亜熱帯の沖縄は文化的な様相をもちつつも、歴史の中では様々なかたちで翻弄されてきた。光と影が常に混交してきた歴史でもあった。このような沖縄を画家はどのように描いたのか。多角的な視点からみた沖縄美術を紹介した。

3. 企画展1 「山田實展 人と時の往来」

会期：2012年9月11日（火）～11月4日（日） ※9月16、29日は台風のため休館

会場：術館企画展示室11,2

観覧料：一般 800(640)円 高大生 500(400)円 小中生 300(240)円 ※（ ）内は前売り

※70歳以上の方に限り、当日券20%割引。身分証の提示が必要。

観覧者数：4,334人

予算額：10,833,098円

【開催趣旨】

山田實（やまだ・みのる、1918～）は、戦争の世紀とも言われる20世紀をくぐって、今日まで時代の隆盛を見つめ続けた写真家である。太平洋戦争では満州で召集されソ連軍と交戦し、敗戦後2年間のシベリア抑留から生還。1952年の帰郷後に写真機店を開業すると同時に、写真の撮影を始め、戦後復興期から現在まで沖縄を記録し続けている。初期には土門拳が先導した「リアリズム写真運動」の影響を受けながらも、その後は被写体に寄り添う独自の視点から、沖縄の風物や人物を撮影し、往時の沖縄の時代を生活者の視点から活写した。

また復興期に写真倶楽部を興し、二科展や沖展に関わるなど、戦後の沖縄写真界、芸術文化の黎明期を支えたほか、米軍統治時代には東松照明など日本本土の著名な写真家の身元引受人や案内人となるなど、間接的にせよ沖縄の写真界に多大な影響を与えた。

本展は、資料とともに山田實の写真と人物に迫りながら、山田の見た沖縄を俯瞰する企画である。すでに戦前の価値観や風景を知る人も少なくなってしまう今日、山田實の刻んできた記録から、私たちが汲みとるべきは何か。私たちが失ってきたもの、未来へ遺すべきものは何か、考える契機となることを目指した。

【開催形式】

主催：沖縄県立博物館・美術館

後援：沖縄県写真協会／沖縄写真連盟／ニコールクラブ沖縄支部／二科会沖縄支部／沖縄県文化協会／財団法人沖縄観光コンベンションビューロー／NHK 沖縄放送局／沖縄テレビ放送株式会社／琉球放送株式会社／琉球朝日放送株式会社／株式会社エフエム沖縄／株式会社ラジオ沖縄／沖縄タイムス社／琉球新報社／タイフーン fm

【展示内容】

①序章：青春と戦争 ー作品1点及び資料

山田實の少年期から青年期までを資料によってたどる。少年期を過ごした那覇市東町、久米界限の写真資料、また明治大学時代の写真アルバムや、編集員として携わった『駿台新報』を展示。そして山田が戦前にはじめて手にした「トウゴーカーメラ」と、同機で撮影・原像した密着焼きを紹介した。

②第1章：オキナワ 1954～1963 ー作品123点

山田は戦後1952年に帰郷し、戦争により焦土と化した沖縄を目の当たりにする。そして写真展の経営の傍らで、復興へと凄まじい速度で変容する沖縄の風景や人々の生活を記録した。この章では、山田實が作品として写真を撮り始めた最初期（1954～）から1963年までの作品を紹介。使用していたカメラなどの資料とともに展示した。

③第2章：こどもたちのオキナワ ー作品81点

山田實が最も多く撮影したのが、戦後復興期に生きる子どもたち姿である。過酷な戦争とシベリア抑留で死線にくぐった山田が子どもたちの姿に何を見たのか。写真に写りこんだ、山田の子どもたちへのまなざしから、山田が写真－記録に何を求めたのかの一端を探る章とした。

④第3章：人物群像

—作品28点

山田實は多くの著名人と交流し、またそれぞれを繋ぐキーマンとしても特筆すべき人物である。ここでは、山田實撮影した著名人の一部を紹介した。また、東郷青児が1966年に山田實の自宅で宮平敏子をスケッチしている写真とともに、その時に描かれた「沖縄の女」を借用・展示した。

⑤第4章：沖縄 1964～1978

—作品55点

米軍占領下にあつて、「東京オリンピック」の聖火縦断や、反戦平和運動、基地闘争などを背景に、沖縄の人々の中に「日本」「復帰」の意識が浮かび上がってくる。このような時代を背景に、山田實は報道によって創られる沖縄イメージに対して大きな抵抗感と危機感を抱き、沖縄の現実を伝えようと撮影を続けた。報道写真とは一線を画する山田の視点と、その視点で見た「沖縄」とその変化をたどる章とした。

⑥終章：自由の地平へ

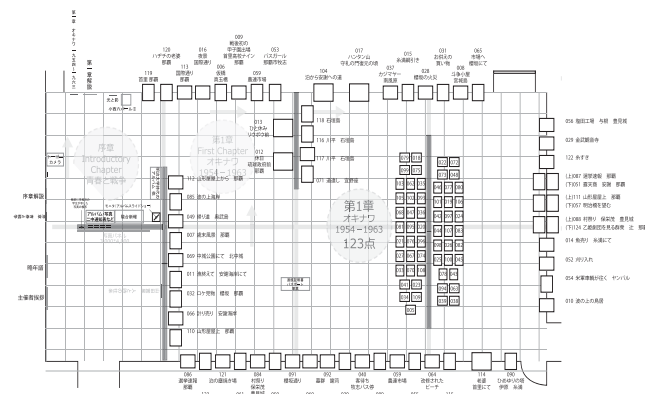
—作品16点

山田實は記録的な写真の一方で、独自の美意識をファインダーに反映させ、画面構成に大きく関心をほらった絵画的な表現を初期から現在に至るまで試みている。より自由に表現を楽しみ、記録とは違う境地で遊ぶ山田作品の一端を紹介して、展覧会を結んだ。

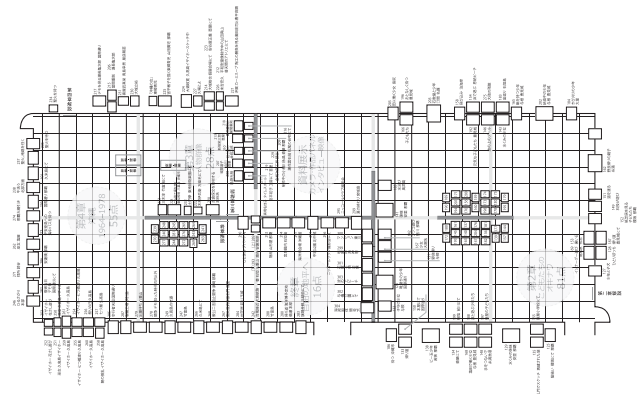
【開会式・内覧会】2012年9月11日（火）10:00～11:30 エントランスホール、企画ギャラリー1,2

【関連催事】※教育普及事業にて紹介する。

【展示平面図】



(左) 企画ギャラリー1



(右) 企画ギャラリー2

【会場風景】



会場入口 山田写真機店（2号店）のパネル前で



アーティスト・トークで熱心に解説する山田實氏



展示会場風景（企画ギャラリー1）



現在の山田写真機店内にある作品及び資料の展示

4. 復帰40周年記念 美術館企画展

（和名）アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012

（英名）Women In-Between:Asian Women Artists 1984-2012

会 期：2012年11月27日（火）～ 2013年1月6日（日）（33日間）

会 場：美術館企画ギャラリー1・2、エントランス、12月4日から博物館特別展示室（1月6日終了）

観 覧 料：大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円

観覧者数：3,328名

予 算 額：15,492,992円

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館／福岡アジア美術館／栃木県立美術館／三重県立美術館

後 援：沖縄県美術家連盟／沖縄県文化協会／沖縄女流美術家協会／独立行政法人国際協力機構沖縄国際センター／沖縄・ベトナム友好協会／NHK 沖縄放送局／沖縄テレビ放送株式会社／琉球放送株式会社／琉球朝日放送株式会社／株式会社エフエム沖縄／株式会社ラジオ沖縄／沖縄タイムス社／琉球新報社／タイフーン fm（順不同）

協 力：沖縄 NGO センター、オキナワスタディーズ107、沖縄キリスト教学院大学、琉球大学国際沖縄研究所（IIOS）、キャンプタルガニー、特活法人 ONE LOVE（順不同）

【展示内容】

沖縄県では、「沖縄21世紀ビジョン」を掲げ、世界を結ぶ架け橋となり、人・知識・文化の融和する「世界に開かれた島」を目指している。復帰40年の節目を記念した本展覧会は、琉球王国時代から芸術文化においても汎アジア的な要素が開花した沖縄ならではの内容となった。

アジア諸国の経済成長を背景に、近年、アジアの女性アーティストは、世界各国の大規模な国際展でも取り上げられている。そこで、海外と国内の優れた芸術表現の紹介に加えて、12月4日より、復帰後に活発化した郷土の女性アーティストに焦点をあてた展示も行なった。

【展示構成】

I 章 女性の身体—繁殖・増殖、魅惑と暴力の場

II 章 女性と社会 （1）女性／男性の役割—女同士の絆

（2）ディアスポラ（民族）、周縁化された人々（階級・セクシュアリティ）

III 章 女性と歴史—戦争・暴力・死・記憶

IV 章 女性の技法、素材—「美術」の周縁

V 章 女性の生活—ひとりからの出発

沖縄独自企画 アート・イズ・マイライフー 沖縄の女性アーティスト (博物館特別展示室)

出品総数：企画ギャラリー1 (80点) 企画ギャラリー2 (22点) 講堂での上映作品 (18点)

*12月4日より博物館特別展示室 (33点) 合計 約153点

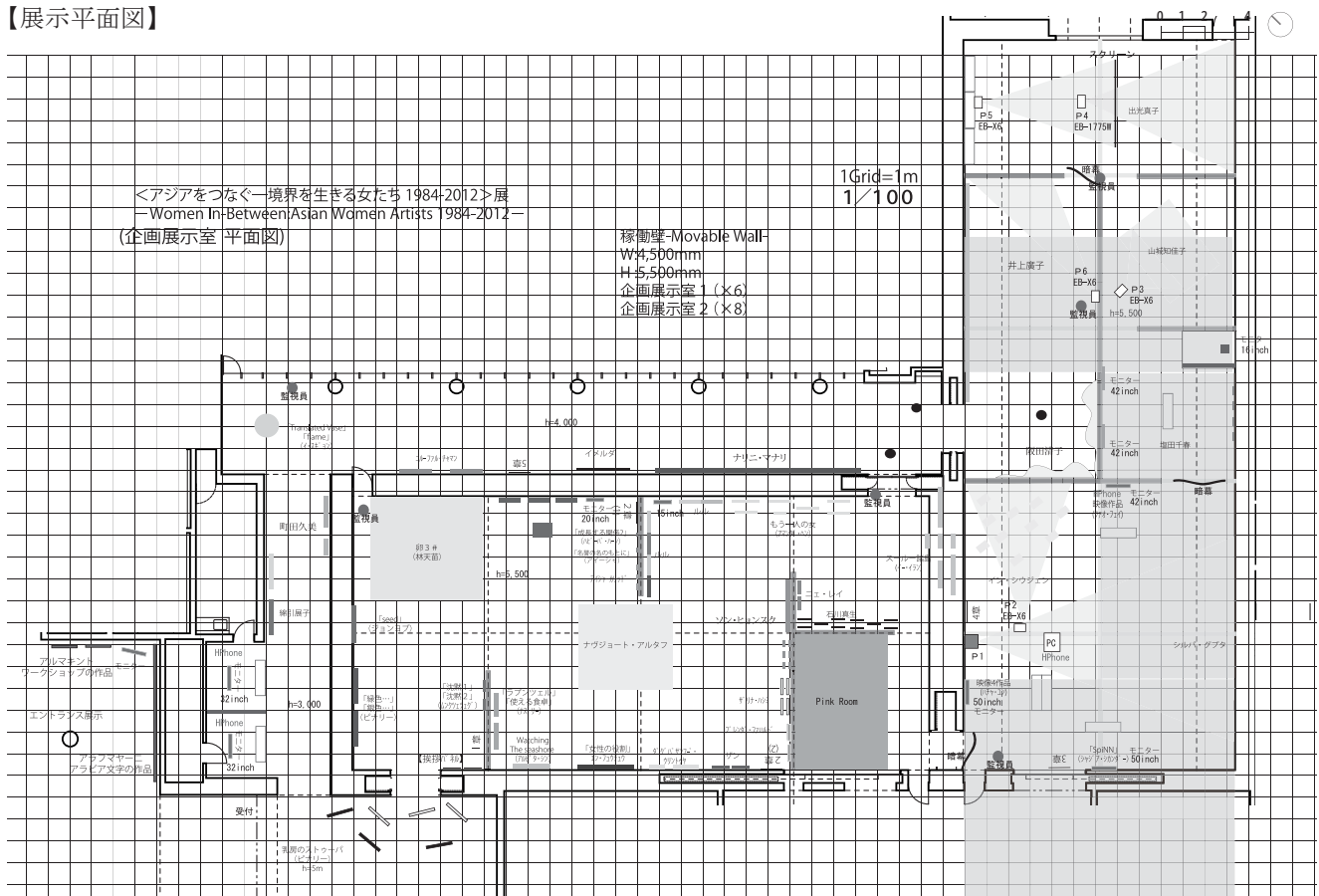
【出品作家】

アーイシャ・ハーリド/アルマ・キント/アマンダ・ヘン/アラフマヤーニ/アルピタ・シン/アスミナ・ラン
 ジット/アイーシャ・マリアム・ドゥラニ/ブレンダ・ファハルド/ツァオ・フェイ (曹斐) /ダグヴァサンブー・
 ウーリーンツヤ/エン・フェウチュウ/ハ・チャヨン/ハビーバ・ザマン・ハーン/ハン・ティファム/出光真子
 /イメルダ・カヒーペ =エンダーヤ/井上廣子/石川真生/イトー・ターリ/ジェーン・ジン・カイスン/ジョン・
 ジョンヨブ/キムスージャ/クム・ソニ (琴仙姫) /レー・ホアン・ビック・フオン/リン・ティエンミャオ (林
 天苗) /ホウ・ルル・シュウズ (侯淑姿) /町田久美/ムンフツェツェグ・ジャルハーザブ/ナリニ・マラニ/
 ナヴジョート・アルタフ/ナズリー・ライラ・モンスール/ニェ・レイ/グエン・ティ・チャウ・ザン/グエン・
 チン・ティ/ニルーファル・チャマン/ピナリー・サンピタック/阪田清子/シャージア・シカンダル/シルバ・
 グプタ/塩田千春/ソン・ヒョンスク/トリン・T・ミンハ/綿引展子/山城知佳子/ヤスミン・コビール/イー・
 イラン/イースギョン/イン・シウジェン (尹秀珍) /エン・ソクナム/ザリナ・ハシミ

・アート・イズ・マイライフー沖縄の女性アーティスト

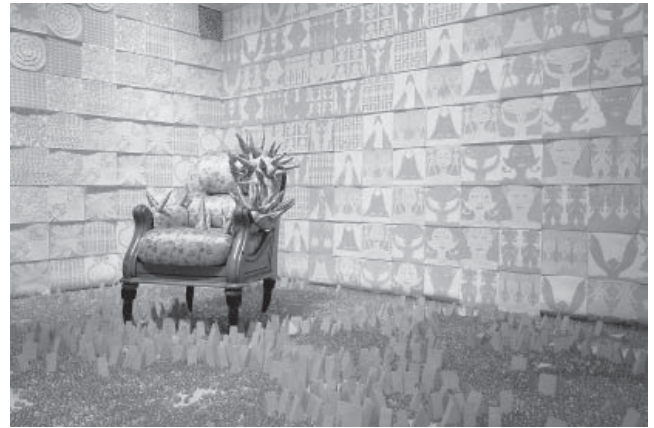
久場とよ/山元文子/宮良瑛子/中島イソ子/仲座包子/桃原須賀子/花城郁子/石垣克子/根間智子/山川さ
 やか/宜保朝子/上間彩花/ローラ・キナ

【展示平面図】

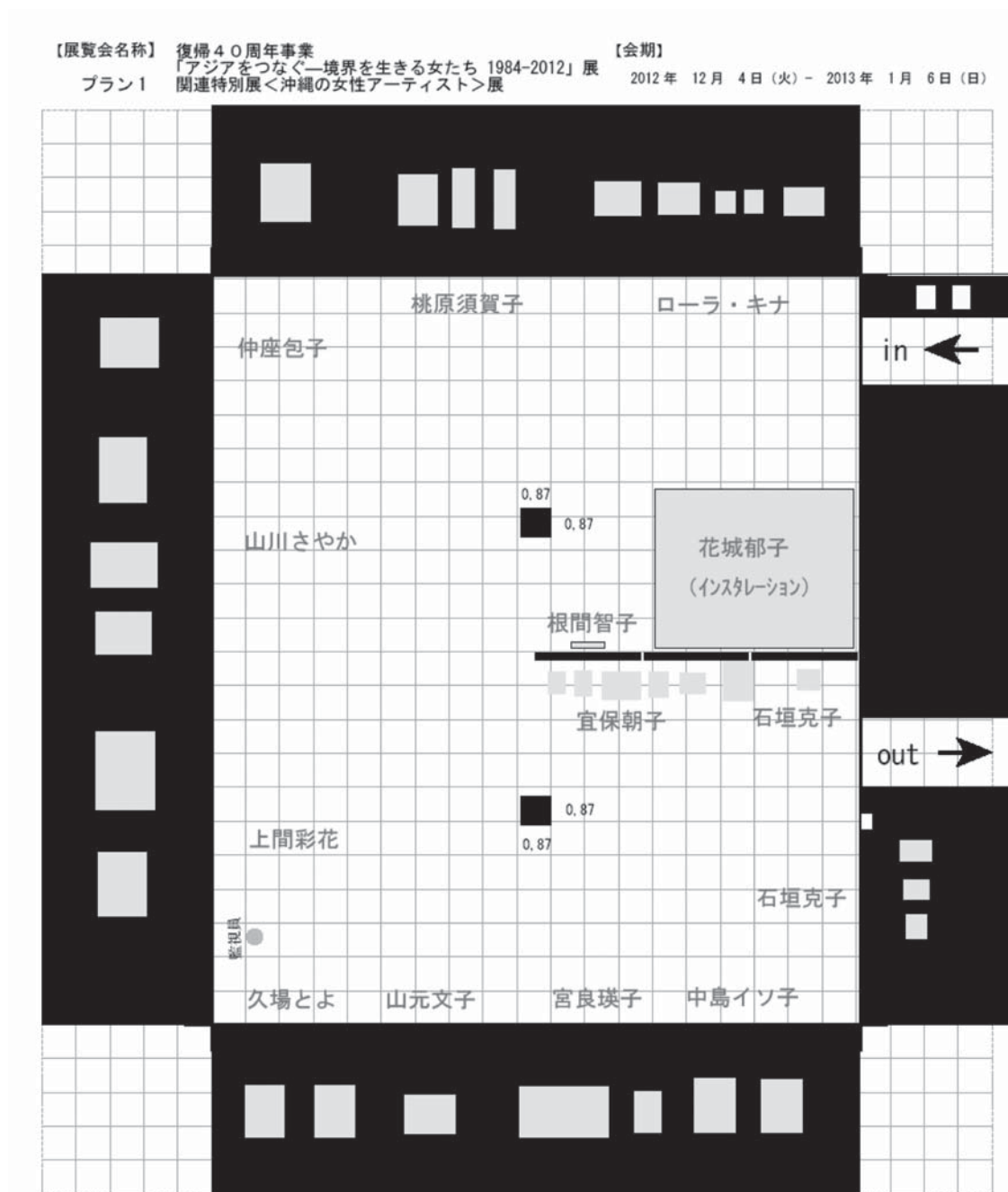




山城知佳子 / Yamashiro Chikako (1976年生、沖縄)
 壁面写真：コロスの唄, 2010, 東京都写真美術館所蔵
 床面映像：コロスの唄 - Life Field, 2012



ユン・ソクナム / Yun Suknam (b. 1939 / Korea)
 Pink Room 5 ピンク・ルーム 5, 1995-2012





アート・イズ・マイライフ会場風景・自作について語る、
中島イソ子氏



アート・イズ・マイライフ会場風景・自作について語る、
石垣克子氏

【関連催事】

今回の特別展の関連催事として以下の事業を行った。

○プレ・イベント・ワークショップ — アルマ・キント（フィリピン）文化の杜共同企業体との連携イベント

開催日時：2012年10月27日（土）～28日（日）

対象：沖縄県内のフィリピン人、または沖縄人の親子10組

内容：①人権的な問題をテーマにした、アルマキントのフィリピンでのアート活動についてお話を聞く。
②一緒に布を使った作品を作り、できた作品を展示する。

場所：キャンパタルガニー（糸満市米須）

協力：特活法人 ONE LOVE、キャンパタルガニー

○アーティストトーク・茶話会（開会式にあわせて）

開催日時：2012年11月27日（火） 午後1時半～午後3時半

場所：美術館企画ギャラリー、ミュージアムカフェ「茶花」（茶話会会場）

対象：招待客100名

参加アーティスト：ユン・ソクナム（韓国）、井上廣子（ドイツ）、阪田清子、石川真生、山城知佳子（沖縄）

茶話会協力：沖縄伝統ブクブク茶保存会

○アーティストトーク（沖縄女性アーティストオープニングイベント）

開催日時：2012年12月4日（火） 午後3時～午後4時

場所：博物館特別展示室内

アーティスト：ローラ・キナ（イリノイ州シカゴ在・沖縄系ハワイ移民4世）

鑑賞者数：40人

○公開パフォーマンス「ひとつの応答」

開催日時：2012年12月15日（土） 20:00～21:20

場所：沖縄県立博物館・美術館 エントランスホール

作品タイトル：「ひとつの応答」

出演：イトー・ターリ（パフォーマンス・アーティスト）

鑑賞者数：100人

○ギャラリートークリレー

開催日時：2012年12月15日（土） 午後4時～午後7時

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展示室

アーティスト：宮良瑛子、中島イソ子、石垣克子、仲座包子、桃原須賀子、山川さやか、花城郁子、
豊見山愛（司会）

来場者数：70人

○国際シンポジウム

開催日時：2012年12月16日（日） 午前10時～午後15時半

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

パネリスト：石川真生、イトー・ターリ、岩切滯、琴仙姫、小勝禮子、阪田清子、新城郁夫、候淑姿、
山城知佳子、頼瑛瑛、豊見山愛（司会）

来場者数：80人

○映像作品上映会の実施

- ・開催日時：2012年11月30日（金） 午後6時半～午後9時20分
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映内容：出光真子《Woman's House》、《主婦の一日》、《アニムスパート2》、《ざわめきの下で》、《洋二どうしたの？》、《清子の場合》、《おんなのさくひん》、《At Any Place 4》、《加恵、女の子でしょ！》
来場者数：15人
- ・開催日時：2012年12月7日（金） 午後6時半～午後8時55分
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映内容：ヤスミン・コビール《ある解放》、グエン・チン・ティ《再録画されたテープの編年史》、ソン・ヒョンスク《家は何処に》
来場者数：15人
- ・開催日時：2012年12月14日（金） 午後6時半～午後8時半
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映内容：琴仙姫《獣となりても》、《異郷の空》、山城知佳子《オキナワ TOURLIST》、《あなたの声は私の喉を通った》、《沈む声、赤い息》
来場者数：22人
- ・開催日時：2012年12月21日（金） 午後6時半～午後7時45分
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映内容：ジェーン・ジン・カイスン《女と孤児と虎》
来場者数：18人
- ・開催日時：2012年12月28日（金） 午後6時半～午後8時10分
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
上映内容：トリン・T・ミンハ《夜のうつろい》
来場者数：20人

○イベント〈アジアン・タイム〉

①「Asian time at Christmas」

- 開催日時：2012年12月23日（土）
午後12時半～午後3時半
場 所：正面玄関前軒下（市場）、古民家（ステージ）
来場者数：120人
内 容：12:30～15:30 市場（マチグワー）
13:00～13:30 ライブ1
ラ☆ソウダラ（インドネシア音楽）
13:35～14:05 ライブ2
首里フジコ& KINO（沖縄民謡 POPS アレン、ジャズ）
14:10～14:40 ライブ3
カオリ（モンゴル馬頭琴）
14:45～15:15 ライブ4
おばぁラッパーズ
（マチグワー HIP HOP）



おばぁラッパーズ@アジアンタイム

②「ひらけ、アジアのトビラ！」「民族衣装たいけん」

- 開催日時：2012年12月1日（土） 10時～12時
場 所：沖縄県立博物館・美術館 エントランス
共 催：NPO 法人 沖縄 NGO センター
来場者数：20人

③「民族衣装たいけん」、「民族楽器えんそうたいけん」、「もしアジアが100人の村だったらワークショップ」

- 開催日時：2013年1月5日（土） 10時～16時
場 所：沖縄県立博物館・美術館 エントランス、博物館実習室
共 催：NPO 法人 沖縄 NGO センター
来場者数：110人

（豊見山 愛）

Ⅲ. 教育普及活動

1. 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、ガイドボランティアによる「対話式鑑賞法」を展開し、学校団体へ対応した。また、団体鑑賞プログラムも次年度に向けて改善や変更を行った。

実技体験では、夏休み子どもフェスタで、多彩なプログラムで昨年度より多くの児童生徒が参加することができた。展示作品をより理解を深める機会として、学芸員によるキュレーター・トーク、作品制作者やその関係者によるアーティスト・トークなどを展示室で実施するとともに、美術講座なども実施した。

教育普及活動は、館内だけのプログラムではなく、県立という施設に鑑み、移動展（栗国島）も実施した。

2. 鑑賞活動支援

開館記念展より継続で、作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレーター・トークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティスト・トーク、ギャラリー・トークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。

【キュレーター・トーク】

ボランティアの方々や一般の方に対し、各展示会担当学芸員がその展示作品や作家、また展示内容について解説を行うことで、展示に対し関心や理解を深めるために講義を行う。



キュレーター・トークの様子

回	月日	曜	展示会名	担当	参加者
1	4月22日	土	大和コレクションⅣ「森山大道 何処かへの旅」	新里	22人
2	5月19日	土	コレクションギャラリー1・2・3展（博物館の日）	新里 / 仲里	30人
3	6月2日	土	大和コレクションⅤ「新しい写真の展開」	〃	9人
4	8月4日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	仲里	8人
5	9月22日	土	企画展「山田實展」	大城	18人
6	10月6日	土	私が”わたし”であるために—共振の美学	豊見山	6人
7	11月3日	土	豊栄コレクション「現代アジア作家 孫本長展」	直也	8人
8	12月1日	土	「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち1984-2012」	豊見山	15人
9	1月12日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	仲里	8人
10	2月2日	土	エスキース「ある風景展」	翁長	8人
11	3月2日	土	大和コレクションⅥ「現代美術」	大城	5人

【アーティスト（ギャラリー）・トーク】

ボランティアの方々及び一般の方に向け、常設展示室（コレクションギャラリー）や企画展示室の展示作家及び作品の理解を深めるための講座。展覧の展示作家やその関係者等を招き実施。



喜久村徳男氏のトーク風景

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
1	6月23日	土	大和コレクションV 「新しい写真の展開」	宮本隆司氏	52人
2	8月18日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	喜久村徳男氏	36人
3	9月22日	土	「山田實展」	山田 實氏	105人
4	9月21日	金	私が”わたし”であるために—共振の美学	布施英利氏	90人
5	11月10日	土	豊栄コレクション「現代アジア作家 孫本長展」	安永幸一氏	14人
6	12月15日	土	「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち1984-2012」	中島イソ子他	70人
7	2月16日	土	エスキース「ある風景展」	大浜英治氏	16人
8	3月16日	土	大和コレクションVI 「現代美術」	竹川宣彰氏	25人

【鑑賞ツアー】

鑑賞ボランティアが来館者に対し行う展示作品の鑑賞活動。案内役を中心に「対話式鑑賞法」による鑑賞の形をとり、作品に対する思いや感想などを伝え合い、共感する中で作品の理解や関心を深めていた。



鑑賞ツアーの様子

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	6月16日	土	大和コレクション 「新しい写真の展開」	4人
2	8月25日	土	「沖縄の美術がとらえた光と影」	台風のため中止
3	10月27日	土	私が”わたし”であるために—共振の美学	4人
4	11月24日	土	伊藤コレクション「現代アジア作家展」	8人
5	12月22日	土	「沖縄の美術」	11人
6	2月23日	土	「安谷屋正義 エスキース展」	3人
7	3月23日	土	大和コレクション 「現代美術」	4人

【学校団体対応】

学校団体に対して展示作品の鑑賞を支援するプログラムを行った。鑑賞ボランティア員が案内役となり、コレクション展の中から3作品をグループ別に「対話式鑑賞法」による鑑賞法でお互いに共感し合いながら作品理解を深めていった。に共感し合いながら作品理解を深めていった。



学校団体鑑賞の様子

回	月日	曜	学校名・学年	参加者
1	7月18日	水	沖縄県立浦添工業高等学校	80人
2	9月14日	金	同志社大学	27人
3	9月21日	金	南城市立馬天小学校	55人
4	10月26日	金	うるま市立あげな小学校	50人
5	11月7日	水	南城市立船越小学校	40人
6	12月14日	金	大宜味村立大宜味小学校	14人

3. バックヤード・ツアー

収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内する事業。学芸員の仕事や美術作品に対する保存、展示についても学ぶ機会となっている。



バックヤード・ツアーの様子

回	月日	担当	参加者
1	4月28日	大城直也	13人
2	5月19日	〃	7人
3	5月26日	〃	11人
4	6月16日	仲里安広	7人
5	7月28日	新里義和	10人
6	8月25日	豊見山愛	7人
7	9月22日	大城直也	1人

回	月日	担当	参加者
8	10月27日	大城仁美	2人
9	11月17日	仲里安広	3人
10	12月22日	新里義和	3人
11	1月19日	豊見山愛	5人
12	2月23日	大城仁美	5人
13	3月23日	大城直也	8人

4. 美術講座

美術史を学ぶ機会として、世界・日本・沖縄の美術の流れに関する一般向けの講座を開設した。ボランティア対象の講座としても位置づけており、美術史に関する基本的な内容の学ぶ機会となった。



美術講座の様子

回	月日	曜	名称	講師	参加者
1	6月15日	金	「絵画の見方① 名画に見る構図のいろいろ」	稲嶺成祚氏	48人
2	7月13日	金	「絵画の見方② 画家の視点から見た絵画史」	稲嶺成祚氏	60人
3	9月14日	金	「絵画の見方③ 平面から立体的表現」	西村貞雄氏	42人
4	10月12日	金	「絵画の見方④ 西洋と日本の絵画表現」	西村貞雄氏	48人

5. コレクション・企画展関連シンポジウム

- (1) 「山田 實展」関連シンポジウム 参加者102人
 ① 日 時：2012年10月6日（土）14:00～17:00
 ② 会 場：沖縄県博物館・美術館講堂
 ③ 内 容：山田實がとらえた沖縄とは
- (2) 「アジアをつなぐー境界で生きる女性たち1984-2012」関連シンポジウム 参加者90人
 ① 日 時：2012年12月16日（日）10:00～15:30
 ② 会 場：沖縄県博物館・美術館講堂
 ③ 内 容：アジアにおける女性アーティストの研究報告他

6. ワークショップ

- (1) 子どもワークショップ2012①「だだっこになろう」 参加者26人
 ① 日 時：2012年5月12日（土）、6月10日（日）、7月8日（日）10:30～12:00
 ② 内 容：子ども発達段階に応じた造形活動
 ③ 講 師：砂川恵光氏（沖縄旺玄会）
 ④ 対 象：5月12日（未就学児童）、6月10日（小学校高学年）、7月8日（小学校低学年）
 ⑤ 場 所：子どもアトリエ
- (2) 大人実技講座2012①「モノクロの写真の世界」 参加者11人
 ① 日 時：2012年5月19・26日（土）、6月9・16日（土）10:30～12:00
 ② 内 容：モノクロ写真の実技指導（印画紙プリント有り）
 ③ 講 師：國吉和夫氏（写真家）
 ④ 対 象：小学生（小3以下は保護者同伴）

- ⑤ 場 所：県民アトリエ、屋外撮影（市場）
- (3) 美術館夏休み子供ワークショップ2012①「写生会」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者24人
- ① 日 時：2012年8月18日（土）9:30～15:00
- ② 内 容：粘土で焼き物の風鈴をつくる
- ③ 講 師：沖縄美術家協会（屋良朝彦氏、大城譲氏、玉那覇英人氏、當間よしの氏）
- ④ 対 象：小学生（親子同伴）
- ⑤ 会 場：博物館・美術館周辺
- (4) 美術館夏休み子供ワークショップ2012②「中庭水族館」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者89人
- ① 日 時：2012年8月19日（日）9:30～12:00
- ② 内 容：ガラスに魚などを彩色して水族館にする
- ③ 講 師：大城直也（当館学芸員）
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：美術館中庭
- (5) 美術館夏休み子供ワークショップ2012③「巨大子ども基地づくり」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者39人
- ① 日 時：2012年8月19日（日）11:00～15:30
- ② 内 容：身近なものを利用して巨大な基地作りをする
- ③ 講 師：スタジオ解放区
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：子どもアトリエ、玄関周辺
- (6) 美術館夏休み子供ワークショップ2012④「おいしい美術」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者11組
- ① 日 時：2012年8月19日（日）9:30～12:00
- ② 内 容：お菓子などをアートにさせていただく
- ③ 講 師：ソベラボ氏
- ④ 対 象：未就学児童～小学生低学年（親子同伴）
- ⑤ 会 場：博物館実習室
- (7) 美術館夏休み子供ワークショップ2012⑤「キッズカメラマン」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者16組
- ① 日 時：2012年8月19日（日）15:30～17:00
- ② 内 容：カメラ実技指導と印刷
- ③ 講 師：仲本賢氏（県立芸大助教授）
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：エントランス
- (8) 美術館夏休み子供ワークショップ2012⑥「チェスをつくろう」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者16組
- ① 日 時：平成24年8月19日（日）13:30～15:30
- ② 内 容：身近かなものでチェスをつくりゲームをする
- ③ 講 師：小浜由子氏（県立芸大学生）
- ④ 対 象：小学生
- ⑤ 会 場：子どもアトリエ
- (9) 美術館夏休み子供ワークショップ2012⑦「イスさん美術館に行く」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者18人
- ① 日 時：2012年8月19日（日）13:30～15:30
- ② 内 容：イスをテーマに動画を撮影し公開する
- ③ 講 師：真喜屋力氏（映画監督）
- ④ 対 象：小学生～中学生
- ⑤ 会 場：館内（撮影）、県民アトリエ（編集）
- (10) 子どもの実技講座「工作」・・・・・・・・・・・・・・ 参加者13人
- ① 日 時：2012年9月～10月（土）10:30～12:00
- ② 内 容：身近にあるもので工作をつくろう

- ③ 講 師：山田義力氏、比嘉良徳氏、児玉美咲氏
- ④ 対 象：小学校（低学年・中学年・高学年）
- ⑤ 会 場：県民アトリエ

(11) 大人の実技講座「絵画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 参加者12人

- ① 日 時：2012年11月～12月 隔週土曜日 10:30～12:00（全4回）
- ② 内 容：アクションペインティング入門
- ③ 講 師：桃原寿賀子氏
- ④ 対 象：一般
- ⑤ 会 場：県民アトリエ

7. 美術館招待事業（美術館へ行こう）

(1) 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う・・・・・・・・・・・・・・・・ 参加者271人

- ① 対 象：県内小中学校 学年単位で5～7校程度
- ② 方 法：公募により学校を決定 10月から公募開始
- ③ 場 所：コレクション展示室
- ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月日	曜	学校名	見学者
1	12月11日	火	名護市立真喜屋小学校（5年）	37人
2	12月18日	火	名護市立稲田小学校（1～3年）	55人
3	1月10日	木	名護市立東江小学校（3年）	90人
4	1月11日	金	今帰仁村立天底小学校（4～5年）	58人
5	1月31日	木	本部村立伊豆味小学校（1～6年）	31人

8. 図工・美術担当教職員等講座

- ① 日 時：2013年3月15日（金）14:00～17:00・・・・・・・・・・・・・・・・ 参加者18人
- ② 会 場：沖縄県博物館・美術館講堂
- ③ 内 容：発達段階による幼児児童生徒の造形表現の変遷
学校と美術館との連携について
- ④ 講 師：西村貞雄氏、山水明氏、古波津崇氏、上場満美子氏

9. 鑑賞用ワークシート作成

- (1) 実 施：年1回 6月中構成、7月配布
- (2) 内 容：コレクションギャラリー3「沖縄の美術のとらえた光と影」の代表する10作品の補助質問及び解説。学生に向けたワークシートを作成し作品鑑賞の補助資料とする。
- (3) 部 数：6000部印刷（A4両面カラー印刷）

10. 団体鑑賞ツアーのパンフレット（美術館は教室だ）

- (1) 実 施：1月作成、3月県内小中学校へ配布
- (2) 内 容：コレクションギャラリーの団体鑑賞プログラムの紹介、申込用紙
- (3) 部 数：2000部印刷（A3両面カラー印刷 三つ折り）

11. 美術館監視ボランティア／鑑賞ボランティア対象事前展示説明会

コレクション展オープン前に、展示担当学芸員による展覧概要及び作家・作品の紹介を行う

回	月日	曜	時間	内 容	担当
1	5月11日	金	18:00	大和コレクションV 「新しい写真の展開」	新里
				「沖縄の美術のがとらえた光と影」	仲里
2	9月10日	月	18:00	「山田實展 人と時の往来」	大城
3	9月28日	金	18:00	豊栄コレクション「現代アジア作家 孫本長展」	直也
				「私が”わたし”であるために—共振の美学」	豊見山
4	11月26日	月	18:00	「アジアをつなぐ—境界を生きる女たち 1984-2012」	〃
5	1月19日	土	18:00	エスキース「ある風景展」	翁長
				大和コレクションVI 「現代美術」	大城

12. 研修対応

(1) 学芸員実習

- ① 期 間：2012年8月14日（火）～8月27日（月）10日間（土、日を除く）
- ② 参 加 者：4名（沖縄県立芸術大学）
- ③ 内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

(2) 職場体験

- ①期 間：2012年7月25日（水）1日間
- ②参 加 者：3名（糸満市立喜屋武小学校 4年生）
- ③内 容：職場見学

(3) ジョブシャドー（職場体験）

- ①期 間：2012年11月27日（火）午前10:00～12:00
- ②参 加 者：5名（那覇市立若狭小学校 6年生）

IV. 資料収集・保存管理

1. 収蔵作品現在高

2013年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	寄託	その他	総計
平面	326	958	51	290	2	1627
立体	28	36	0	0	2	66
映像	364	1332	0	708	0	2404
その他	15	162	1	80	9	267
総計	733	2488	52	1078	13	4364

2. 2012（平成24）年度 新収蔵作品高

2013年3月31日現在

分類	購入	寄贈	移管	寄託	総計
平面	7	10	0	0	17
立体	4	5	0	0	9
映像	0	0	0	0	0
その他	0	102	1	7	110
総計	11	117	1	7	136

3. 2012（平成24）年度 新収蔵作品目録

【購入】

2012年4月1日～2013年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	
平面	絵画	榎本 正治	てんとうむし	1960年	キャンバス 油彩	1
		榎本 正治	鳩と少女	1960年代	キャンバス 油彩	1
		安次富 長昭	民話に憑かれて (A)	1966年	キャンバス 油彩	1
		当山 進	日輪と望郷の兵士	1967年	キャンバス 油彩	1
		高良 憲義	ナンバープレート	1967年	パネル 石膏 ナンバープレート	1
		山里 永吉	虎頭山の朝	1967年	キャンバス 油彩	1
		平野 長伴	船とガジマル	1972年	キャンバス アクリル	1
立体	彫刻	宮城 哲雄	春望	1980年	樹脂	1
		上原 隆昭	T子の像	1960年代	石膏 着色	1
		富元 明雄	まぶいの彼方	2009年	鉄 メッキ	1
		上條 文穂	漆喰の扉よりー詩の柩ー	1997年	漆喰 木 紙 他	1

【寄贈】

2012年4月1日～2013年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者	
その他	工芸	鯉江 良二	黒陶	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	マンガン土	1968年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	マスク	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	はな	1971年	陶土	1	佐藤 辰美

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者	
その他	工芸	鯉江 良二	(オブジェ)	不明	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オブジェ)	不明	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ウチナルモノ	不明	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	No More- 磁場シリーズ	1986年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(チェルノブイリシリーズ)	1986年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(チェルノブイリシリーズ)	1989-94年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(チェルノブイリシリーズ)	1989-94年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(土の顔)	1986年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	土の顔	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	土の星座	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	土の星座	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	土の星座	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	土の星座	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(石文)	不明	石	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(石文)	不明	石	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(石文)	不明	石	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(石文)	不明	石	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	Mask	1990年	ガラス 土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(MASC OF OLOT)	1990年	ブロンズ	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(あかり)	1990年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(日本、あるいは鳥の嘴)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	俑	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	俑	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オブジェ)	不明	陶土 釉薬	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	スライラス	1987年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(白磁 石の船)	1992年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ALUMI-AKUOT	1998年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ALUMI-AKUOT	1998年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	楽	1998年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	スワガラス	不明	ガラス	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	スワガラス	不明	ガラス 土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	トンチンカンスワガラス	不明	ガラス 土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(陶板)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	白磁盤	1992年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	白磁盤	不明	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オリベ盤)	1989年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(盤)	1998年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	焼〆盤	1994年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	電車の皿	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	壺以前	1987年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	オリベ壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
鯉江 良二	(大壺)	1999年	陶土	1	佐藤 辰美		

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者	
その他	工芸	鯉江 良二	米国手壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	信楽手壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	信楽手壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	焼締メ大壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	引出し黒壺	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(VESSEL)	2006年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(VESSEL)	2006年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ガラス釉花器	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ガラス釉花器	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	花器	1960年	陶土 (赤土) 釉薬	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	花器	1968年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	自然釉天竺手花入	1979年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	おにのうで花入	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	重田良一絵付 九谷手鯉江良二	1991年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オリベ花入)	1995年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オリベ花入)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(オリベ花入)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	カタロニア花入	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	カタロニア花入	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(韓国手花入)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	焼ペ花入	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ころり	1980年代 初期	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(急須)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(YOKI)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	マンガン土灰器	1971年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	マンガン土ボール	1968年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(盆)	不明	木材 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ふと上を見ると / くもの巣に / ほこりたまるかな / トワレット	1990年	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	音は小さい程 / 内に / 行く / 壺	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	無	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	文	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	一文	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	三文	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	五文	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	六文	不明	和紙 墨	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	米国手水指	不明	陶土	1	佐藤 辰美
鯉江 良二	(茶盤)	不明	陶土	1	佐藤 辰美		
鯉江 良二	赤絵茶盤	不明	陶土	1	佐藤 辰美		

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者	
その他	工芸	鯉江 良二	(オリベ茶盃)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	貝釉茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	貝釉引出し Hikidashi	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	しの茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	しの茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	設楽手茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(白碗)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	韓国手茶盃	1996年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(chawan)	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	コルドバ PEP 茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	英国手茶盃	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	OHNO RAKU 茶盃	1999年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(茶盃)	2009年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	(茶盃)	2009年	磁土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	ブラボール	不明	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	鉄絵壺	不明	陶土 釉薬	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	天竺手花入	1975年	陶土	1	佐藤 辰美
		鯉江 良二	本来無一物 無一文	不明	和紙	1	佐藤 辰美
鯉江 良二	しの水指	1998年	陶土	1	佐藤 辰美		
平面	絵画	大嶺 實清	赤 否定・変革	1968年	パネル 漆喰 油彩 アクリル	1	大嶺 實清
		大嶺 政寛	不明 (デイゴと赤瓦)	1967年	キャンバス 油彩	1	ジブラルタ生命
		中島イソ子	凝視	1988年	キャンバス 油彩	1	中島 イソ子
		平野 長伴	大漁	1969年	キャンバス 油彩	1	平野 功
		安次嶺 金正	佗住	1958年	キャンバス 油彩	1	安次富 長昭
		大城 皓也	不明	1967年	キャンバスボード 油彩	1	山田 實
		大城 皓也	巴里の娘	1960年	キャンバス 油彩	1	山田 實
		平野 長伴	廃船	1981年	キャンバス ア クリル	1	平野 功
		平野 長伴	造船所風景	1982年	キャンバス ア クリル	1	平野 功
		田辺 竹次	沖縄	1988年	キャンバス 油彩	1	田辺 すゞ
立体	彫刻	富元 明雄	求心	1994年	樹脂 (FRP)	1	富元 明雄
		富元 明雄	呪縛	2008年	鉄板、メッキ	1	富元 明雄
		上條 文穂	陽の記	2001年	鉄、紙、木、鉛筆	1	上條 文穂
		上條 文穂	土の城	2001年	テラコッタ	1	上條 文穂
		儀保 克幸	うちあわせて	2007年	木 (楠)	1	久場 とよ

【寄託】

2012年4月1日～2013年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者	
その他	インスタレーション	照屋 勇賢	「cut up PRICE \$1NOTE」	2007年	米1ドル紙幣	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「Dawn (ピストル)」	2008年	インクジェットCプリント	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「Dawn (ハイヒール)」	2009-2011年	インクジェットCプリント	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「森 — 告知」	2009年	紙 (ゴディバの紙袋)	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「森 — 告知」	2009年	紙 (スターバックスの紙袋)	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「Heroes I」 (安室奈美恵)	2009年	布、染料	1	森根 聖美
		照屋 勇賢	「Heroes V」 (ウルトラマン)	2012年	布、染料	1	森根 聖美

【移管】

2012年4月1日～2013年3月31日

分類	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者	
その他	工芸	伊砂 利彦	沖縄戦で逝きし人々に捧げる鎮魂歌	1991年	和紙、染料	1	沖縄県秘書課

4. 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の芸術文化の拠点となると同時に芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

2012年度は2回の収集委員会を開催し、コレクションの核となる沖縄の著名な物故作家をはじめ、未だ収蔵していない県内作家の作品26点、日本を代表する現代陶芸家鯉江良二の作品102点など、寄託、移管を合わせて合計136点（購入11点、寄贈117点、寄託7点、移管1点）を収集した。いずれも、充実した展示活動を行う上で重要な作品である。

(仲里 安広)

5. 保存管理事業

(1) 保存環境の整備

沖縄県民の財産である収蔵美術作品の適切な保存を目的として、収蔵庫及び展示スペース内の温湿度が年間を通して一定に維持されるよう管理を徹底し、保存環境の整備を行う。具体的には、IPM管理の徹底による虫菌害予防（ペストコントロールを含む）が、まず挙げられる。収集等の際に、新たな美術作品を館に入れる前の消毒など、対策の強化を重点的に行っている。さらに収蔵美術作品においては、効率的な状態調査を計画し、実施することで、今後の修復計画をよりスムーズかつ安全に行うよう、配慮している。

室名	面積	高さ	環境設定	主な収蔵作品
絵画収蔵庫	574㎡ (282㎡)	5.7m	温度20±2℃ 湿度50±5%	油彩画 アクリル画
立体収蔵庫	202㎡ (65㎡)	5.0m	温度20±2℃ 湿度50±5%	彫刻 立体作品
写真収蔵庫	246㎡ (84㎡)	5.0m	温度18±2℃ 湿度40±10%	版画 写真 映像
前室	82㎡	5.0m		

※内、DDを含む (DD:ダブルデッキ)

(2) 収蔵作品の保存修復

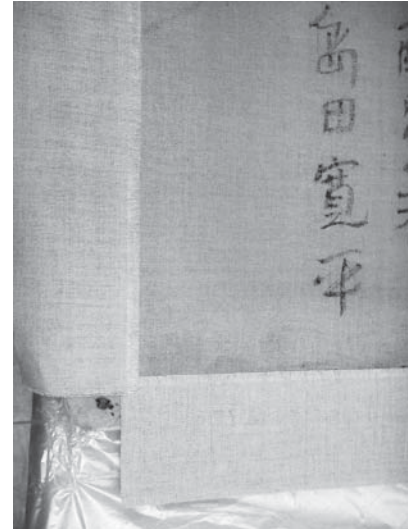
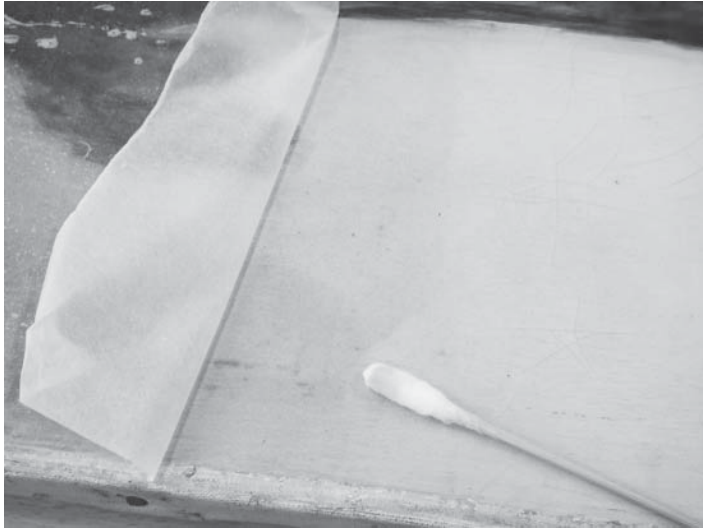
収蔵作品のコンディション調査を行い、生物劣化や物理劣化、化学劣化等に応じた修復計画を立てて、その作業内容に沿った修復家への依頼を、下記収蔵作品2点について行った。また、例年通り、企画及びコレクション展へ出品するための、作品への額装及び金具等整備作業を行った。保存修復内容の詳細は以下の通りである。

A. 保存管理

	種別	点数	コンディション	処置	備考
1	油彩画	51	絵具層の浮き上がり、剥落、欠損、スレ、引っかけ傷あり。シミ、カビ、埃、汚れ、付着物他。キャンバス地の劣化、裂け、破れ。水シミあり。タックス(釘)の錆。	キャンバス地を木枠から外す	大城皓也作品
2	紙本着彩	40	マウント(ブックマット)		安谷屋正義作品

B. 修復委託

	種別	点数	処置内容	備考
1	油彩画	1	①画面洗浄:埃の除去(乾式洗浄):ニス(精製水・アルコール系溶剤・石油系溶剤を使用) ②裏面清掃:裏面の経年の汚損を除去(乾式洗浄) ③浮き上がり接着:絵具層に生じている亀裂及び剥落部の接着 ④充填整形:絵画層の剥落部分及び亀裂開口部分の充填整形 ⑤補彩:充填部分の補彩色 ⑥ワニス塗布	島田寛平<南島の秋>(1948年油彩・キャンバス F30号) *依頼先 斎藤 敦(東京都)
2	油彩画	1	①画面洗浄:埃の除去(乾式洗浄:精製水による洗浄) ②裏面清掃:裏面の経年の汚損を除去(乾式洗浄) ③浮き上がり接着:絵具層に生じている亀裂及び剥落部の接着 ④充填整形:絵画層の剥落部分及び亀裂開口部分の充填整形 ⑤補彩:充填部分の補彩色 ⑥ルースライニング(木枠とキャンバスを外して張直し)	<古虚の一隅>(1961年、油彩・キャンバス 135×66.2cm) *依頼先 有限会社修復研究所 21(東京都)



画面のクリーニングと周辺の補強（修復家：齋藤敦氏）

(3) 収蔵作品の額装

館内コレクションギャラリーでの展示ならびに企画展覧会出品の作品のマウントのない作品のマットおよび額を新調した。

6. 作品貸出

2012年度は、下記のとおり5件の作品について展示目的とした貸出を館外（主に美術館）へ行った。なお美術館では、借用先のファシリティーズレポートの提出と、温湿度管理に関する情報提供を求めた後に、厳正な審査の下で可否を決定している。また、作品貸出及び返却作業には梱包の段階から立ち合いをしている。

①展覧会名：生きる場所 ボーダレスの空へ

展覧会場：熊本市現代美術館（熊本県）

貸出期間：2012年8月20日～2031年1月10日

貸出作品：照屋勇賢 <For the World to Come>（寄託作品）

②展覧会名：William Klein / Daido Moriyama

展覧会場：Tate Modern（イギリス）

貸出期間：2012年8月22日～2013年2月26日

貸出作品：森山大道写真作品< Platform >他、30点（寄託作品）

③展覧会名：DAIWA PRESS VIEWING ROOM vol.14

展覧会場：大和プレス ビューイングルーム（広島県）

貸出期間：2012年11月15日～2013年3月15日

貸出作品：宮本隆司< KOBE 1995 After the Earthquake >他、2点

村上 隆 < Signboard TAKASHI >

クリストファー・ウイリアムズ<1964 Renault Dauphine-Four R-1095…>

奈良美智・杉戸洋 < STUDY 1 >< STUDY 2 >

アントン・ヘニング< Stilleben mit Fruchten No. 41 >

ライアン・ガンダー< Somebody' s playing me 1998 -2008>他、4点（以上、寄託作品）

④展覧会名：切った貼ったで盛り上がり！漆の技 —TUSIKIN—

展覧会場：浦添市美術館（沖縄県浦添市）

貸出期間：2013年2月5日～3月22日

貸出作品：山田 真山〈堆錦観音像〉3点組

⑤展覧会名：LOVE: アートにみる愛のかたち

展覧会場：森美術館（東京都）

貸出期間：2013年3月13日～9月30日

貸出作品：ジャン・シャオガン〈血縁・大家族〉

（豊見山 愛・仲村 美奈子）

文化の杜共同企業体 (指定管理者)

- I 文化の杜共同企業体概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 文化の杜共同企業体・美術館
企画アドバイザー会議
- V 展示活動
- VI 教育・イベント活動
- VII 広報・交流事業
- VIII 調査・研究等の活動
- IX その他

I. 文化の杜共同企業体概要

沖縄県立博物館・美術館の管理・運営には、開館した2007年（平成19年）11月1日から指定管理者の文化の杜共同企業体（代表・平良知二、通称「文化の杜」）があたっている。

文化の杜共同企業体は、(株) 沖縄文化の杜（代表取締役社長・平良知二）、(株) 沖縄タイムス社（代表取締役社長・豊平良孝）、(株) 国際ビル産業（代表取締役社長・井上宏）の3社で構成。出資比率は代表者の(株) 沖縄文化の杜が8割、(株) 沖縄タイムス社と(株) 国際ビル産業がそれぞれ1割となっている。(株) 沖縄文化の杜は文化事業等を企画・展開し、シンクタンク的な役割も兼ねる会社として2007年1月に(株) 沖縄タイムス社の100%出資で設立した。(株) 沖縄タイムス社は新聞社として1948年7月の創立。常に県民の立場に立って沖縄の言論界をリードしつつ、戦後沖縄の文化振興の一翼を担ってきた。(株) 国際ビル産業は1966年に設立され、県内の文化施設やホテル、病院等の管理を行い、衛生・設備管理や警備などで実績がある。

この3社が連携して立ち上げた文化の杜共同企業体は、それぞれの得意分野を生かし、沖縄県立博物館・美術館の管理・運営にあたっている。指定管理の期間は、第一期が2007年11月1日から2011年3月31日までの3年5か月。第二期が2011年4月1日から2016年3月3日までの5年間

(上地 兼恵)

II. 運営方針

館の管理・運営にあたっては沖縄県立博物館・美術館の設置目的及び基本方針、管理規則等に基づき、博物館・美術館という複合施設としての利点を生かし、県民はもとより国内外からの来館者に満足していただくよう、公正・公平で開かれた館運営に努めている。

日本博物館協会は21世紀にふさわしい博物館の新しい理念として「対話と連携」を提唱し、これを管理・運営の中心に据えることが博物館の機能を向上させ、生涯学習時代の要請に応えていく道であるとしている。文化の杜においてもこのような精神に基づき、「県民主体」をモットーに、いつでも、誰でも気軽に利用できる施設を目指している。さらに県民が愛着の持てる、県民による県民のための博物館・美術館を目指している。

具体的には①沖縄の文化振興の拠点とする②創造力あふれる次世代人材育成の場とする③アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする④「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする⑤県民ぐるみの取り組み推進—の管理運営方針を掲げてきた。

2012年度は沖縄県立博物館・美術館の第二期目の指定管理者として2年目の年だった。過去の実績と蓄積したノウハウを存分に発揮し、県の博物館班や美術館班と緊密に連携し、文化の杜共同企業体が美術館企画ギャラリーで主催する年3つの企画展と、博物館班や美術館班が主催する企画展や特別展、沖縄県主催の沖縄県芸術文化祭等をスムーズに展開・運営する方針で臨み、成功を収めた。

沖縄の文化振興の拠点施設とする

沖縄県の芸術文化に関する最先端の情報が集積する場であり、その機能を最大限に生かして県内外に発信するとともに、県民が自らの歴史・文化に自信と誇りを持ち、学べる文化振興の拠点とする。

創造力あふれる次世代人材育成の場とする

新しい時代に向けた芸術・文化を担う人材育成に努める。IT関連によるCGデザインや音楽、建築、アーバンデザイン等の空間芸術も含め、全国的、世界的にも注目されるアーティストなどを輩出する場とする。2012年度から沖縄県立芸術大学が当館のキャンパス・メンバーズ第1号となった。2013年度からは沖縄国際大学も加わる。今後とも若い世代を博物館・美術館に呼び込んでいく。

アジアとの交流・連携、国際交流の拠点とする

沖縄は歴史的・文化的にアジア諸国との接点が多く、観光振興の面からもその利点を生かした交流・連携が求められる。2012年度はクルーズ船の乗客の誘致などに力を入れた。また各地で「世界のウチナーンチュ」が活躍して

いる。こうしたウチナーンチュとのネットワークもさらに広げる。

「沖縄ワールド」を世界に広げる場とする

沖縄の独自性、固有性を大事にしながら、同時に世界の歴史・文化に高い関心を寄せる県民と歩調を合わせ、その期待に応えられる企画やイベントを展開する。「特異性から普遍性へ」「地域性から世界性へ」へと昇華していく目と技を磨く場とする。

県民ぐるみの取り組み推進

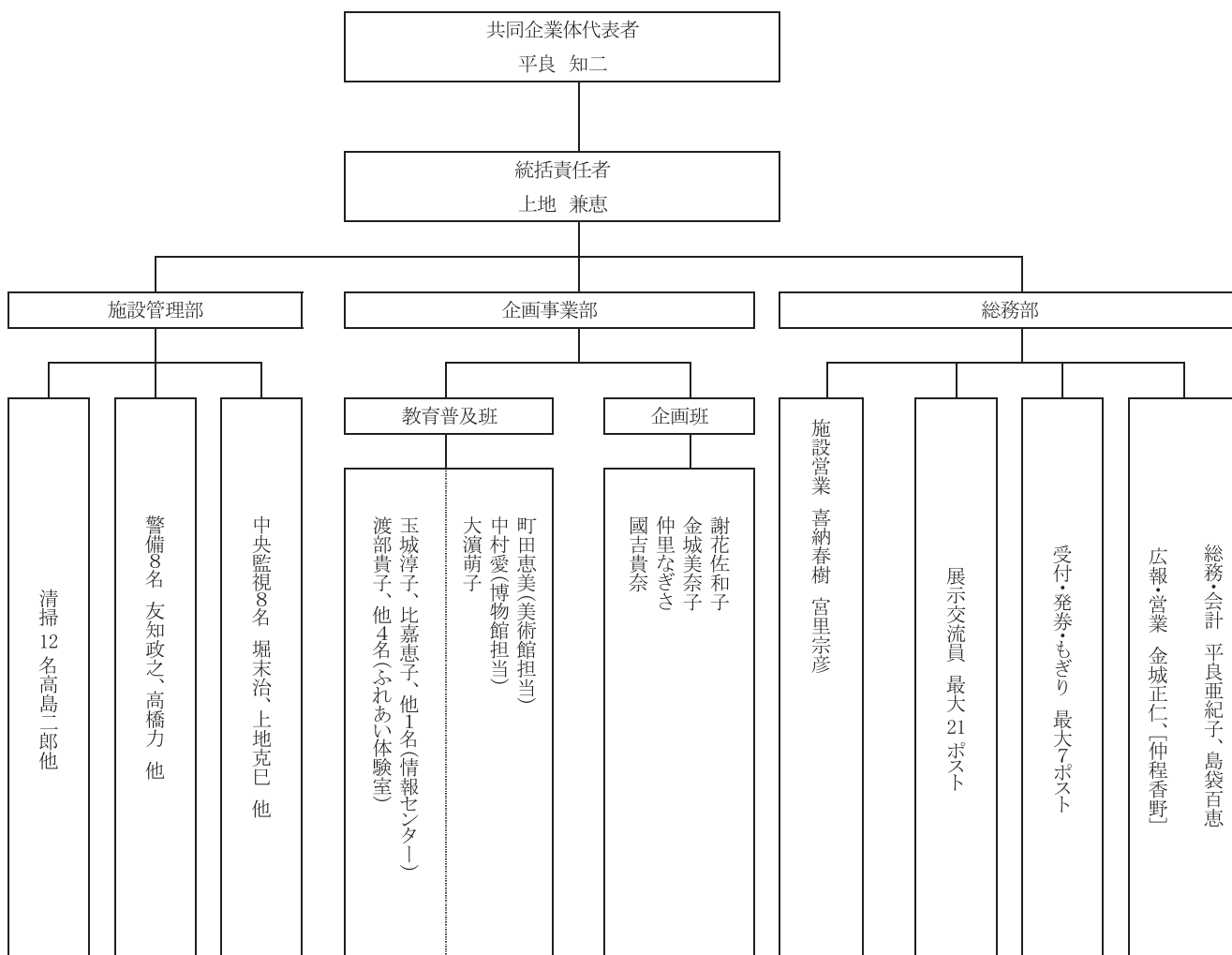
博物館・美術館の「教育普及事業」などを通して、県の学芸員とも協力して各種の講座、講演会、ワークショップなどを数多く開催し、県民のための博物館・美術館とする。また、展示会や出前講座などで積極的に館外にも飛出し、野外学習、フィールドワークなどを通して県民と館との結びつきを強め、次代を担う人材育成にも貢献する。

(上地 兼恵)

Ⅲ. 組織

文化の杜共同企業体は、代表を平良知二、現場責任者を上地兼恵とし、総務部、企画事業部（企画班、教育普及班で構成）、施設管理部（設備班、警備班、美装班で構成）で構成された体制で、当館を管理・運営している。

2007年の開館当初より、外部有識者による助言・意見交換の場としてアドバイザー会議を設置し、主に当企業体による美術企画展などの助言を受ける機会を月1回程度開催している。



※ミュージアムショップ 「ゆいむい」 (沖縄文化の杜運営：池宮城啓子、玉城照美、アルバイト5人)

※ミュージアムカフェ 「茶花」 (カフェワンオアエイトへ業務委託)

【職員構成】

2012年4月1日現在

班	氏名	担当業務
代表	平良知二	共同企業体の統括に関する事
統括	上地兼恵	指定管理業務の統括、総務全般、県や博物館・美術館との現場調整に関する事
総務班	平良亜紀子	共同企業体予算管理、人事管理（発券、総合案内、展示交流員等）に関する事
	島袋百恵	総務補助、クーポン券やその他総務全般に関する事
	金城正仁	営業、広報に関する事
	喜納春樹	企画、施設貸出に関する事
	宮里宗彦	施設管理、県民ギャラリーに関する事
教育普及班	中村愛	教育普及（博物館業務）に関する事
	町田恵美	教育普及（美術館業務）に関する事
	大瀨萌子	教育普及業務の補助
	玉城淳子	情報センターの管理・運営に関する事
	比嘉恵子	情報センター業務
	渡部貴子	ふれあい体験室、教育普及に関する事
企画事業班	謝花佐和子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	金城美奈子	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	仲里なぎさ	企画展、受託業務、自主事業に関する事
	國吉貴奈	企画展、受託業務、自主事業に関する事
施設管理班	堀末治	施設管理全般の統括に関する事
	友知政行	警備の統括に関する事
	上地克己	設備の統括に関する事
	高島二郎	清掃の統括に関する事
総合案内・発券・もぎり		来館者に対する諸対応、発券業務、観覧券のもぎりに関する事
展示交流員		展示室における監視業務、誘導、解説等に関する事
ふれあい体験室		ふれあい体験室での来館者諸対応に関する事

【人事異動】

2013年3月31日現在

部署	氏名	適用
転入		
施設管理	山川雄策	国際ビル（2012年9月1日）配置（中央監視）
転出		
施設管理	堀末治	国際ビル（平成25年3月31日付）移動
退職		
施設管理	上地克己	2012年3月31日付
教育普及	中村愛	2012年3月31日付

IV. 文化の杜共同企業体・美術館企画アドバイザー会議

指定管理者主催の美術館企画展及び自主企画事業などの展覧会運営についての助言や意見交換の場として、県内の有識者で構成された会議を月1回開催した。これまでのアドバイザーに加え、本年度からの新たに3名のアドバイザーに就任を依頼した。昨年度に引き続きオブザーバーとして、美術館副館長にも出席を依頼した。文化の杜共同企業体からは、代表、統括、企画班員、教育普及班員（美術館担当）が出席した。2012年度のアドバイザー及び開催状況は、次の通りである。

	氏名	所属	職名
学識経験者	栗国恭子	沖縄文化工芸研究所 主宰	大学非常勤講師
学識経験者	大城亘武	沖縄キリスト教学院大学 他	大学非常勤講師
学識経験者	西村貞雄	琉球大学	名誉教授
学識経験者	波照間永吉	沖縄県立芸術大学付属研究所	教授
オブザーバー	瑞慶山昇	沖縄県立博物館・美術館	副館長兼班長

開催状況

回	日時	場所	出席者
56	4月17日(火) 18:00～20:30	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
57	5月21日(水) 18:00～20:15	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
58	7月23日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
59	8月16日(木) 18:00～19:30	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
60	9月20日(木) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
61	10月23日(火) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
62	11月20日(火) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
63	12月18日(火) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
64	1月15日(火) 18:00～19:20	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
65	2月18日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉
66	3月18日(月) 18:00～20:00	特別会議室	栗国恭子、大城亘武、西村貞雄、波照間永吉

(以上、五十音順、敬称略)

V. 展示活動

1. 展示活動概要(美術館企画展)

指定管理2期目2年目で本土復帰40年の節目に当たる本年度は、「沖縄」、「奄美」、そして「民族芸術」をテーマにした展示会を企画した。日本画、写真、彫刻など多彩な作品を展示し、また様々な観覧者層を誘客できるような展示構成に配慮した。3展示会の観覧者数は28,831人、展示会予算は27,481,399円となった。

(1) 本土復帰40周年記念「田中一村展～琉球弧で開花した美の世界～」

会期：3月30日(金)～5月6日(日)(開催日数33日)

場所：美術館企画ギャラリー1、2

観覧料：一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生300円

観覧者数：17,155人(1日平均520人)

予算額：11,171,048円

担当学芸員：金城美奈子

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館

共 催：沖縄タイムス社／琉球放送

特別協力：田中一村記念美術館

後 援：鹿児島県／奄美市／奄美群島広域事務組合／NHK沖縄放送局／琉球朝日放送／沖縄ケーブルネット
ワーク／エフエム沖縄／ラジオ沖縄／タイフーン fm／FMよみたん

【開催趣旨】

50歳で奄美大島に渡り、亡くなるまで島の自然を描き続けた画家・田中一村（1908－1977）を紹介する展覧会。南画家として出発した初期作品から日本画へ転向した中期、そして晩年の奄美で描いた集大成を生み出すに至る全画業を、各時代の重要作品を交えて展示した。

本土復帰40周年記念と銘打った本企画では、地理的・文化的に同一の琉球弧という視座から奄美・沖縄本来の豊かさを再認識し、復帰後の沖縄について改めて考える機会とした。

【展示内容】

田中一村の画業を3期に分け、三章構成とした。第一章「若き天才画家・米邨1916-1930」では幼少期の色紙、水墨画、扁額、衝立などを展示。第二章「新しい表現を求めて～団体展への挑戦と挫折～ 1931-1957」では、千葉在住の頃の花鳥画、団体展出品作、九州・四国・紀州を描いた色紙、戦中時の観音像などを展示。第三章「一村が描いた奄美の自然1958-1977」では一村芸術の集大成となった日本画や写生、また一村自身が撮影した奄美の風景写真、遺品など合計104点の作品・資料を展示した。

【関連催事】

①イベント「画家・田中一村ゆかりの地を訪ねる 奄美大島ツアー」（2回実施）

日 時：3月9日（金）～11日（日）（2泊3日）

3月24日（土）～25日（日）（1泊2日）

内 容：田中一村記念美術館や田中一村終焉の家など、ゆかりの地を訪ねるツアー

参加者：1回目14人／2回目20人

協 力：奄美満喫ツアー実行委員会

②ギャラリートーク

日 時：3月30日（金）10：30～11：10

場 所：企画ギャラリー内

講 師：堀脇広樹氏（田中一村記念美術館学芸員）

内 容：田中一村記念美術館学芸員によるギャラリートーク。田中一村の生き様やその芸術について作品を見ながら解説を行った。

参加者：60人

③オープニングライブ「奄美の SHIMAUTA」

日 時：3月30日（金）スタート15：00／17：00（2回公演）

場 所：博物館・美術館エントランス

出 演：ジョイ洋子& TROPICALISM (Par. 宮田まこと& Bass. ドン久保田)、馬琴金 kaori

内 容：奄美の島唄をベースに、ジャズアレンジの楽曲を演奏した。

参加者：1回目70人、2回目40人

④講演会「奄美と一村」

日 時：3月31日（土）14：00～17：00

場 所：講堂

講 師：宮崎緑氏（田中一村記念美術館館長）

内 容：田中一村記念美術館館長の宮崎緑氏による講演会。奄美時代の一村のエピソードや、現在もなお多くの人を魅了する一村の魅力について講演した。

参加者：157人



⑤ギャラリートーク「一村の絵に見る琉球弧の自然」

日 時：4月8日（日）13：00～13：40 / 15：00～15：40（2回実施）

場 所：企画ギャラリー内

講 師：比嘉正一氏（元東南植物楽園学芸員、沖縄昆虫同好会会長）

内 容：田中一村の作品中に描かれている自然について、生物学の視点から解説した。

参 加 者：1回目45人、2回目34人

⑥「墨彩画」体験実習

日 時：4月14日（土）14：00～16：00

場 所：県民アトリエ

講 師：西村立子氏（沖縄県立芸術大学教授・画家）

内 容：日本画の技法を学ぶ初心者向けの体験実習。

材 料 費：500円

参 加 者：19人

⑦映画「アダン」上映会

日 時：4月15日（日）14：00～16：20

場 所：講堂

内 容：田中一村の生涯を描いた映画。（出演：榎木孝明、古手川祐子、監督：五十嵐匠、2005年制作◎映画『アダン』を作る会／協力：(株)DHC）

参 加 者：217人

⑧シンポジウム「琉球弧と田中一村」

日 時：4月21日（土）14：00～17：00

場 所：講堂

内 容：第一部 基調講演「奄美の自然感と田中一村」

講師：中山清美氏（奄美市立奄美博物館館長）

第二部 パネルディスカッション

コーディネーター：高良勉氏（詩人）

パネリスト：島尾伸三氏（写真家）、翁長直樹氏（美術評論家）、

中山清美氏（奄美市立奄美博物館館長）

参 加 者：150人

【展示平面図】



(2) 「土門拳の昭和と沖縄」

会 期：5月15日（火）～6月24日（日）（開催日数36日）
場 所：美術館企画ギャラリー1、2
観 覧 料：一般1000円、高校・大学生600円、小・中学生300円
観覧者数：4,606人（1日平均128人）
予 算 額：6,722,608円
担当学芸員：國吉貴奈

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
特別協力：財団法人土門拳記念館
企 画：株式会社クレヴィス
後 援：沖縄県写真協会／沖縄写真連盟／NHK 沖縄放送局／琉球放送／沖縄テレビ／琉球朝日放送／沖縄タイムス／琉球新報／エフエム沖縄／ラジオ沖縄／タイフーン fm / FM よみたん

【開催趣旨】

激動の昭和とともに歩み、日本写真史に巨歩をのし上げた土門拳（1909-1991）。重厚な肖像写真や迫力ある報道写真の数々で、今なお多くの人々を惹きつけてやまない写真家である。2009年の生誕100年を記念して企画された同展では、土門拳の足跡をたどる展示とした。

土門拳は昭和10年に日本工房に入社し、以降報道写真家としての道を歩み始めた。戦後は「絶対非演出の絶対スナップ」の言葉のもとリアリズム写真論を展開。戦後の写真界に一つの指標を示し、『ヒロシマ』、『筑豊のこどもたち』などリアリズム写真の極北ともいえる報道写真を発表した。他方で、著名人や日本の伝統文化の撮影にも取り組み、静的かつ堅固な画面作りによって事物の本質に迫った『風貌』や『古寺巡礼』の作品を生み出した。同展では、以上の初期から晩年までの作品296点を展示した。強い個性を通して見た日本の姿を鑑賞し、その表現を考えるものとした。加えて沖縄会場では、日本民藝協会の調査団として来沖した際に撮影した戦前の沖縄の写真も特別展示した。今年が復帰40年にあたる。報道写真家として日本を撮り続けた土門の目を通して、私たちの沖縄、そして日本が歩んだ昭和を考える機会とした。

【展示内容】

報道写真家として活動し始めた戦前の写真から、晩年の『古寺巡礼』シリーズまで、土門拳の全業績を通観する内容とし、日本写真界に多大な影響を与えた写真家の仕事を紹介する展覧会となった。土門の多様な写真を、時系列順に4つの章立てで展示した。

各章のタイトルは次のようであった。第1章「戦前・戦中の仕事」、第2章「戦後日本の歩みとともに」、第3章「風貌」、第4章「日本の美」。

沖縄会場では上の展示内容に加え、土門が昭和15年（1940年）に来沖した際に撮影した写真23点も展示した。内容に違和感のないように、第1章の「農村と沖縄」のカテゴリーに入れ、解説を追加して展示した。

展示作品：写真作品319点

【関連催事】

①ギャラリートーク

日 時：5月15日（火）10:30～11:00
場 所：企画ギャラリー内
講 師：池田真魚氏（土門拳記念館館長）
参 加 者：約40人

②講演会「弟子から見た写真界の巨人・土門拳」

日 時：6月2日（土）14:00～15:30
場 所：講堂
講 師：藤森武氏（写真家）



内 容：土門拳の弟子である藤森氏が、師事した時代に見た土門の撮影方法や、何にも全力投球だった人柄を紹介した。

参 加 者：122人

③講演会「土門拳をたずねて」

日 時：6月17日（日）14:00～16:00

場 所：講堂

講 師：酒井忠康氏（世田谷美術館館長）

内 容：多くの文章を残し、独自の芸術観を表現した土門拳。写真表現とともに、その特徴について語った。

参 加 者：61人



④ギャラリートーク

日 時：5月20日（土）15:00～16:00

場 所：企画ギャラリー

講 師：小橋川共男氏（写真家）

内 容：リアリズム写真集団に所属し、土門拳の撮影も見たことがあるという小橋川氏に、土門作品について語ってもらった。

参 加 者：34人

⑤ギャラリートーク

日 時：6月9日（日）15:00～16:00

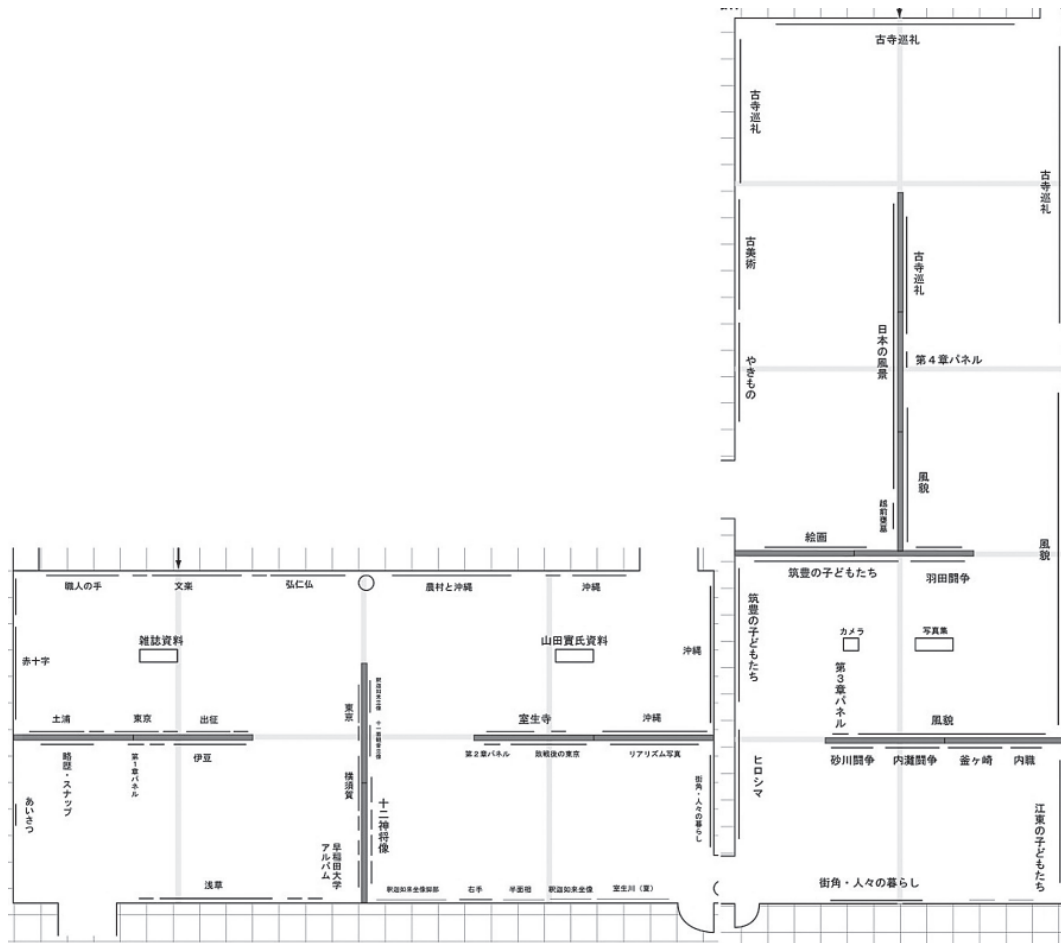
場 所：企画ギャラリー

講 師：土屋誠一氏（美術批評家、沖縄県立芸術大学講師）

内 容：写真史を踏まえた上で、戦前の即物主義的表現から戦後のリアリズム写真、そして古寺巡礼までの土門写真の表現の特徴について解説してもらった。

参 加 者：44人

【展示平面図】



(3)「旅する仮面」

会 期：7月14日（土）～9月2日（日）（開催日数43日）
場 所：美術館 企画ギャラリー1、2
観 覧 料：一般1,000円、大学・高校生600円、中学・小学生300円
観覧者数：7,070人（1日平均164人）
予 算 額：9,587,743円
担当学芸員：仲里なぎさ

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体／沖縄県立博物館・美術館
共 催：沖縄タイムス社
特別協力：国立民族学博物館
協 力：内閣府沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所／(財)海洋博覧会記念公園管理財団／
鹿児島県歴史資料センター黎明館／佐喜眞美術館
助 成：芸術文化振興基金
協 賛：沖縄ハム総合食品株式会社
後 援：NHK沖縄放送局／琉球放送／琉球朝日放送／沖縄テレビ／沖縄ケーブルネットワーク／ラジオ沖縄／
エフエム沖縄／タイフーン fm／FMよみたん

【開催趣旨】

世界各地に見られる仮面文化。なぜ、人間は時代や空間をこえて仮面をつくり続けてきたのか。時代や地域によって仮面の形がさまざまなのは、その誕生の背景や地域によって異なる考え方が表現されているからである。

沖縄には、決まった日に、私たちが住む世界とは異なる世界からやってくるミルクやアングマなどの仮面の神様がいます。また、広くみられる鬼や恐ろしい形相をした仮面には、悪霊から私たちを守ったり、諭すための意味を持つものもある。

「顔を隠す」「変身する」という機能をもつ仮面の神秘性と豊かな表現力を楽しみ、高揚感が感じられる展覧会を目指した。日本やアジア、オセアニア、アフリカなどのさまざまな仮面をとおして時空を旅し、造形の魅力と変身がもたらす「こころの変化（旅）」を楽しむ機会とした。

【展示内容】

28カ国の仮面168点、関連写真資料、映像資料を紹介した。仮面を通して感じる精神性に注目した構成にした。序章では、導入として沖縄の仮面神を象徴的に見せ、1章から4章は笑い、おそれ、異形、静寂な表情に分け、地域を超えて展示した。また事前公募の仮面デザインコンクール作品1,742点と、そのうちから選んだ5点の作品を県内作家3人が立体化し展示した。

【関連催事】

①プレイベント「仮面デザインコンクール」作品募集

募集期間：6月15日（金）～6月24日（日）

内 容：事前に公募した県内の小学生から高校生までのオリジナル仮面デザイン1,742点と、そのうち5点の選考作品を県内作家3人によって立体化して展示した。

応募総数：1,742点

②ギャラリートーク

日 時：7月14日（土） 10:30～11:30

場 所：企画ギャラリー内

案 内：仲里なぎさ

内 容：本展担当学芸員が展覧会の構成と仮面の特徴、背景、使用方法について解説した。

参 加 者：30人



③ギャラリートーク

日 時：7月21日（土）15：00～16：00

場 所：企画ギャラリー内

講 師：須藤義人氏（沖縄大学講師）

内 容：各地の祭りを調査し映像に収めている須藤義人氏が、仮面の魅力について解説した。

参加者：22人

④ワークショップ「仮面を盛る」

日 時：8月4日（土）14：00～16：00

場 所：県民アトリエ

講 師：比嘉ブラザーズ（人形アニメーション、特殊造形）

内 容：土台となる紙製の仮面の表面に粘土を盛りつけて、着色や装飾を施して仮面を立体的に制作した。

参加費：1,000円

参加者：14人



⑤講演会「沖縄の祭祀・芸能と仮面」（*台風11号接近のため中止）

日 時：8月5日（日）14：00～16：00

場 所：講堂

講 師：大城學氏（琉球大学教授）

⑥講演会「世界の仮面、仮面の世界」

日 時：8月12日（日）14：00～16：00

場 所：講堂

講 師：吉田憲司（国立民族学博物館教授）

内 容：アフリカを中心にフィールドワークを続ける文化人類学者であり、各地の仮面を調査し、仮面についての著書を多数出版している吉田憲司氏による講演。アフリカやニューギニア、日本での祭りや儀礼で登場する仮面や、物語やテレビのなかに生きるヒーローを挙げて紹介し、仮面の普遍性についてふれた。また、吉田氏自身が加入したザンビア・チェワの仮面結社「ニャウ」の儀礼を、映像を投影して報告した。

参加者：70人

⑦ワークショップ「張子のお面に絵付け体験」

日 時：8月18日（土）14：00～16：00

場 所：県民アトリエ

講 師：豊永盛人氏（琉球張子作家）

内 容：初心者や子どもでも気軽に参加できるように、張子の制作過程のなかでも絵付けと装飾を主体としたワークショップとした。

参加費：1,000円

参加者：14人

⑧仮面デザインコンクール表彰式

日 時：8月18日（土）17：00～17：30

場 所：企画ギャラリー入口

内 容：事前公募した仮面デザイン画のなかから立体化された作品を描いた児童5人を表彰した。

表彰者：5人

審査員：西村貞雄氏（彫刻家）、フリオ・ゴヤ氏（美術家）、豊永盛人氏（琉球張子作家）

⑨ギャラリートーク

日 時：8月19日（日）15：00～16：00

場 所：企画ギャラリー内

講 師：大眉鉄平氏（バリ舞踊家）

内 容：演ずる立場から見た仮面やインドネシアの芸能・文化について解説した。大眉氏所有の仮面を用い、役に応じた動きを実演し



て、違いを楽しんだ。

参加費：当日有効の観覧券

参加者：22人

⑩ワークショップ「ケチャ」

日時：8月19日（日）17：00～17：30

場所：エントランス入口

講師：與那城常和子氏（沖縄県立芸術大学バリガムランサークル「Kembangmas」）

内容：同日開催の仮面舞踊公演前に「ケチャ」のワークショップを行い、バリの音楽を体験する機会となった。

参加者：13人（定員なし）

⑪仮面舞踊公演「インドネシアのダンス」

日時：8月19日（日）18：00～19：00

場所：美術館屋外展示場

出演：大眉鉄平氏（バリ舞踊家）、沖縄県立芸術大学バリガムランサークル「Kembangmas」

内容：仮面を用いた芸能の公演。県立芸術大学バリガムランサークルとバリ舞踊家の大眉鉄平氏の協力で開催した。

参加者：約160人

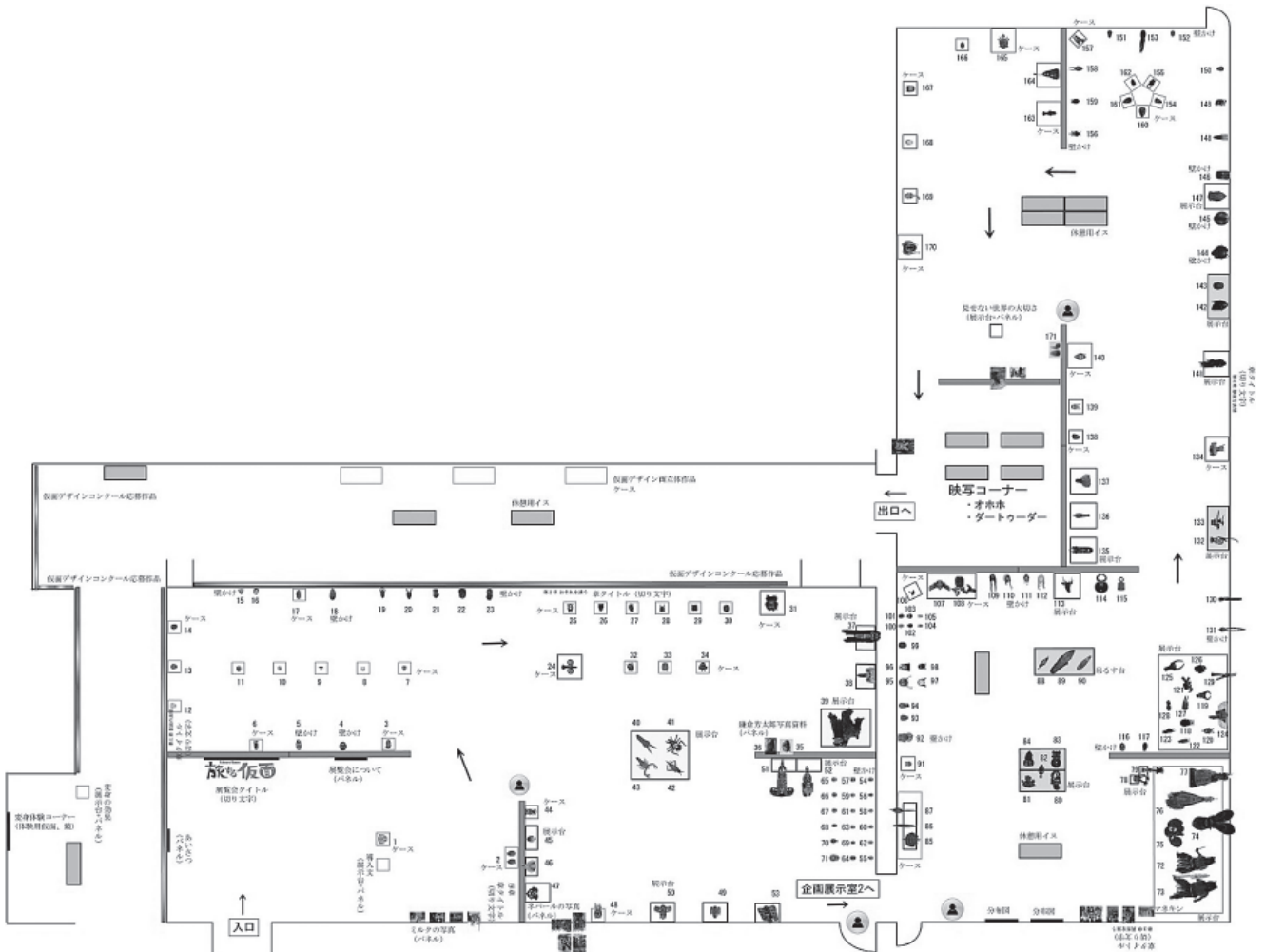
⑫ギャラリートーク（*台風15号接近のため中止）

日時：8月25日（土）15：00～16：00

場所：企画ギャラリー内

講師：久万田晋氏（沖縄県立芸術大学附属研究所教授）

【展示平面図】



2. 自主企画事業「お化け屋敷で科学する！ in 沖縄」

会 期：7月13日（金）～9月17日（月・祝）（開催日数56日）

観 覧 料：一般1,000円、高大学生700円、小中学生600円、3歳以上小学生未満300円

観覧者数：90,053人（1日平均1,608人）

予 算 額：17,819,576円

【開催形式】

主 催：文化の杜共同企業体

共 催：沖縄県立博物館・美術館／沖縄テレビ放送株式会社

後 援：沖縄県／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／琉球新報社／
NHK沖縄放送局／ラジオ沖縄／エフエム沖縄

企画制作：日本科学未来館／フジテレビジョン



【開催趣旨】

本展は人間が恐怖として感じるさまざまな怪奇現象を、物理学、化学、生物学などの視線で解き明かし、「恐怖」という感情を生み出す脳の仕組みに迫るものである。幽霊のいたずらとされてきたポルターガイスト現象やラップ音、人魂、幽体離脱などの不可解な現象はなぜ起こるのか？恐怖はどのように生まれ、私たちの記憶に刻まれるのか？現代の私たちが抱える怖れを、どうしたら克服できるのか？そもそも、私たちにとって恐怖とは何なのか？そうした問いに答え始めた先端科学に触れ、考えていく。

【展示構成】

会場は「体感」「学習」「観察」「体験」の4つのテーマのエリアで構成。はじめに「お化け屋敷エリア」で実際に恐怖を体感。続いて恐怖について科学的な視点で紹介、学習する「科学トピックスエリア」に進み、さらに、そこで学んだことを他者の行動で検証する「観察エリア」へ。最後は恐怖を引き起こす現象をあらためて疑似体験する「体験エリア」。知識を得るだけの展示ではなく、感覚にも訴えることにより、人間にとって根源的な感情のひとつである「恐怖」に迫る。

【関連催事】

○「大人のための怪談紙芝居」

日 時：8月10日（金）19：00～20：00

場 所：博物館屋外展示場民家

語 り：佐渡山安博氏

内 容：「真嘉比道の逆立ち幽霊」など2題を紙芝居で上演

参 加 者：約60人



○しまくとぅばっし ちちんじゃびら「沖縄の怪談」（しまくとぅばプロジェクト共催）

日 時：9月14日（金）19：00～20：30

場 所：博物館講座室

語 り：国吉朝政氏（首里ことばの集い） あらすじ解説：仲原穰氏（大学非常勤講師）

内 容：「沖縄の怪談」を“すいくとぅば”で読み聞く催事

演 題：「真嘉比道ぬ逆立ち幽霊」、「大道松原ぬ遺念火」、「くすくえーぬ由来記」

参 加 者：約80人

○来場者達成セレモニー

1万人達成セレモニー 実施日：7月25日（水）

2万人達成セレモニー 実施日：8月1日（水）

3万人達成セレモニー 実施日：8月8日（水）

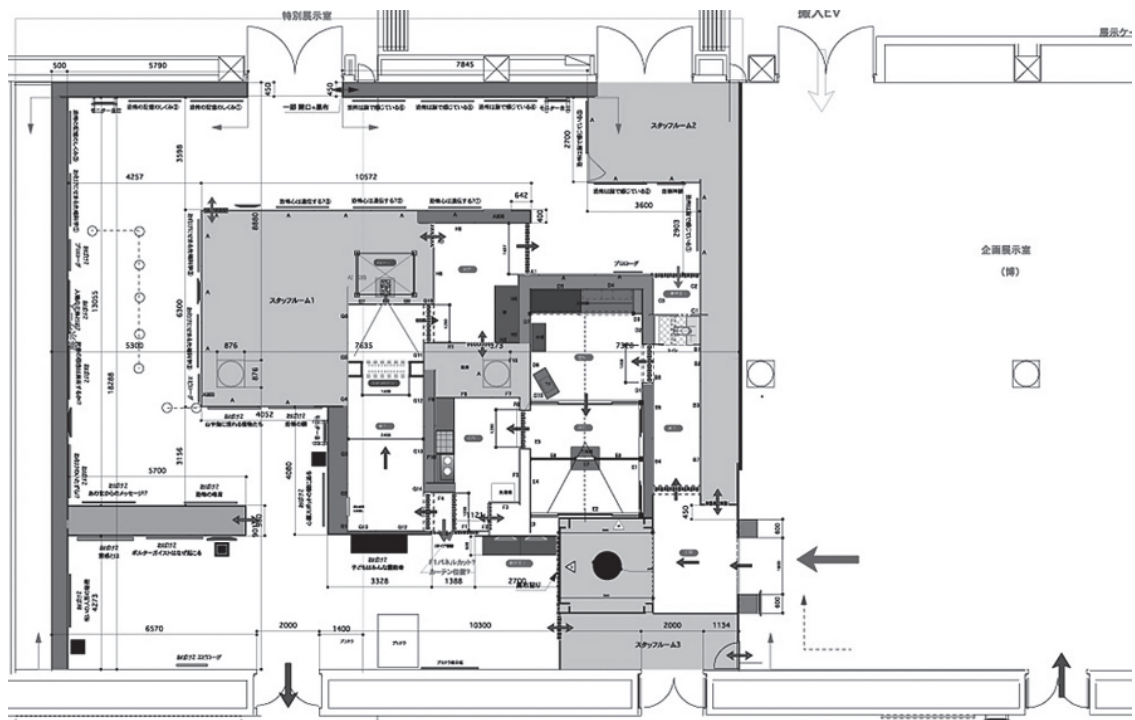
5. 5万人達成セレモニー 実施日：8月12日（日）

7万人達成セレモニー 実施日：9月1日（土）

8万人達成セレモニー 実施日：9月11日（火）



【展示平面図】



(謝花 佐和子、金城 正仁)

VI. 教育・イベント活動

当企業体の教育普及担当の企画立案によるプログラムで、博物館・美術館のファンの育成などを目的に気軽に足を運べるような参加しやすいプログラムを実施し、博物館・美術館班によるプログラムとの差別化を図り実施した。

1. ワークショップ等

(1) ふれあい体験室ワークショップ

ふれあい体験室における、体験キットの充実・発展を目的に、毎週土曜日に実施している親子対象のワークショップ。参加特典として、講座内容に関するこども向けひとくちコラムを掲載した「博士カード」の配布を行った。

4・5・6月 「ふれたい博士のてづくりおもちゃ
(風車・金魚・カエル・星っころ・ハブグワァー)」
開催日数12日 / 参加者188人
(内訳：4月75人、5月46人、6月67人)



7・8・9月 「ふれたい博士の葉脈標本」
開催日数13日 / 参加者324人
(内訳：7月89人、8月144人、9月91人)



10・11・12月 「ふれたい博士の小さな琉服づくり」
開催日数12日 参加者147人
(内訳：10月18人、11月61人、12月68人)

1・2・3月 「ふれたい博士のわら算づくり」
開催日数13日 / 参加者95人 (内訳：1月22人、2月20人、3月53人)
日 時：毎週土曜日 10:00、10:30、11:00、11:30 (1日4回実施)
※10～12月：10:00、10:45、11:30 (1日3回実施)

場 所：ふれあい体験室前エントランスホール
講 師：渡部貴子・ふれあい体験室スタッフ（文化の杜）
定 員：各回30～40人 参加費：100円

①出張開催ふれあい体験室ワークショップ「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

毎週土曜日に定期開催しているふれあい体験室ワークショップが浦添市子育て支援拠点事業「つどいのひろば」（ループル保育園内）から依頼を受け、昨年に続き2度目の出張開催をした。0～6才の親子を対象に沖縄の伝統玩具を紹介し、アダン葉細工の「風車、金魚、ほしっころ」をカラフルな色画用紙で作成した。アンケートからは当館へ訪れたことのない親子にも広く普及を図り、来館を促すきっかけづくりへ繋がった様子が伺えた。

日 時：8月22日（金）10：30～11：30
場 所：ループル保育園（浦添市港川2-21-1）
講 師：渡部貴子（文化の杜）
対 象：浦添市子育て支援拠点事業「つどいのひろば」に参加する0～6才児親子
参 加 者：12人
参 加 費：1人につき100円

②ふれあい体験室ワークショップ博物館ボランティア勉強会「ハブグワーツクリ」

ふれあい体験室ワークショップで4月から6月の毎週土曜日に開催したプログラムを、博物館ボランティア火曜班から勉強会での開催依頼を受け実施。アダン葉細工のハブグワーツクリを4色のソフトテープで作製した。

日 時：2月26日（火）13：00～13：45
場 所：博物館ボランティア室
講 師：渡部貴子（文化の杜）
参 加 者：博物館ボランティア火曜班 12人
参 加 費：100円

(2) ゴールデンウィークイベント「一村も描いた！ソテツであそぼう！」

「田中一村展」と「みどりの日」に因み、ソテツの葉を材料に「ネックレス」「めがね」「剣」を作成した。昔の子どもたちが使った遊びの知恵を学ぶと共に、展覧会から出題したクイズと、スケッチスペースを講座資料に掲載して、芸術鑑賞へ発展を促した。参加特典として同展2割引チケットを販売した。

日 時：5月3日（木祝）・4日（金祝）13：00～16：00
場 所：正面玄関前
参 加 者：3日33人、4日31人
参 加 費：100円

(3) 琉球舞踊「新春の舞」

毎年恒例の県立芸術大学芸能専攻学生有志による琉球舞踊を披露。会場には多くの観客が集まり、美しい演舞に歓声があがっていた。観客のなかには、県外からの来館者も多かった。

日 時：1月1日（火）14：00～14：40
場 所：エントランスホール
出 演：県立芸術大学芸能専攻学生有志
観 覧 料：無料
参 加 者：113人

(4) お正月工作教室「はぶぐわーツクリ」

已年にちなみ、アダン葉細工で知られる「はぶぐわーツクリ」をカラーテープで作製した。

日 時：1月2日（水）10：00～10：45、11：00～11：45、
14：00～14：45、15：00～15：45（1日4回実施）
場 所：エントランスホール



講師：渡部貴子、仲里なぎさ（文化の杜）

参加費：200円

参加者：47人

(5)お正月工作教室「にょろにょろ歩くへびのおもちゃづくり」

へびの干支をモチーフに、電気やバネを使わず、仕掛けでトコトコ坂道を歩く木製のおもちゃづくり。参加者は木製パーツをボンドとやすりを使い、組み立てて絵付けした。

日時：1月3日（木）10：00～10：45、11：00～11：45、
14：00～14：45、15：00～15：45（1日4回実施）

場所：正面玄関横

講師：上運天研成氏（おもちゃの会ピノキオ会長）、同会会員6人

参加費：500円

参加者：54人



(6)博物館で「巳（へび）」を探せ！

常設展示室を活用した取り組みとして、新年の干支にちなみ「へび」に関係した資料を紹介。自然史部門展示室では、毒蛇ランキングの他、美術工芸部門展示室では、県指定有形文化財に指定されている「盛嶋開鐘附胴」や「江戸与那」など三線名器5挺を展示した。

期間：1月1日（火）～31日（木）

場所：博物館常設展示室

参加費：当日入場券が必要

（中村 愛、町田 恵美、渡部 貴子、大瀨 萌子、仲里 なぎさ）

2. 展示会等

指定管理者業務として課せられている業務に加え、展覧会や時節に応じた催事等を独自に企画立案し実施した。夏休み向けの自主企画の展覧会や開館5周年を記念したパネル展の開催、また今年度から当館の様々な活動の周知・広報を目的に情報誌「はくび通信」を発行した。

1) 展覧会関連図書コーナー

期間：「田中一村展」（3月30日～5月6日、フォトフレーム）

「紅型 BINGATA ー琉球王朝のいろとかたちー」（4月24日～5月27日）

「土門拳の昭和と沖縄」（5月15日～6月24日）

「お化け屋敷で科学する！」（7月13日～9月17日）

「旅する仮面展」（7月14日～9月2日、フォトフレーム）

「OKINAWA から沖縄へ」（9月28日～11月25日）

「アジアをつなぐ境界を生きる女たち1984-2012」（11月27日～2013年1月6日）

「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」（12月7日～2013年1月20日）

「マリー・アントワネット物語展」（2月8日～4月14日）、

「スタジオジブリ・レイアウト展」（2月22日～5月6日）

場所：情報センター

【開催形式】

主催：文化の杜共同企業体

【展示内容】

展覧会に関連した図書を展覧会図録と一緒に設置。また一部の展覧会については、普段見ることのできない展覧会が出来上がるまでの様子をデジタルフォトフレームで展示した。

（玉城 淳子、比嘉 恵子）

2) ゴールデンウィーク閲覧コーナー

ゴールデンウィーク期間中（5月3・4・5日）に、こども用閲覧コーナーを設置。こども用図書や沖縄の歴史まんが・美術の絵本など専用テーブルを設置した。

（玉城 淳子、比嘉 恵子）

3) 国際博物館の日パネル展「博物館・美術館をもっと知ろう！」

会 期：5月2日（水）～20日（日）
場 所：1F エントランス
内 容：当館学芸員と指定管理者共同パネル展



4) 展覧会図録コーナー

会 期：5月2日（水）～20日（日）
場 所：情報センター
内 容：国際博物館の日に関連し、情報センターで過去の展覧会図録コーナーを設置した。琉球政府立博物館、沖縄県立博物館、現在の沖縄県立博物館・美術館の展示会図録、約130冊を年代順に並べ、過去の資料を閲覧できるように設置した。

（玉城 淳子、比嘉 恵子）



5) 写真展「定点慰霊の日」

会 期：6月19日（火）～6月24日（日）
場 所：情報センター内

【開催形式】

主催：文化の杜共同企業体、写真協力：沖縄タイムス社

【開催趣旨】

「慰霊の日」は、1961年に琉球立法院により制定され、1972年の施政権返還後の沖縄県になってから、県条例により1974年10月に制定された。制定されてから既に半世紀が経過した。「慰霊の日」は、この土地で生活するものに「平和とは何か」を考える定点を示している。「慰霊の日」に記録された写真を展示することにより、過去の記憶を未来へ伝える契機とする。

【展示内容】沖縄タイムス所蔵写真 ※1961～2011年各年の「慰霊の日」の様子が撮影された写真

（謝花 佐和子）

6) 沖縄マンガ展出張版

会 期：6月2日（土）、3日（日）9：00～19：00
場 所：むら咲むら（読谷村）ククル奏劇場
入 場 料：2,000円 ※小学生以下無料

【開催形式】

「MAG おきなわ EXPO JAPAN」

主 催：MAG おきなわ制作委員会

後 援：沖縄県／読谷村／内閣府沖縄総合事務局／読谷村商工会／沖縄テレビ放送／琉球放送／NHK沖縄放送局／FM沖縄／ラジオ沖縄／FMよみたん／琉球新報社／沖縄タイムス社／沖縄観光コンベンションビューロー／読谷村観光協会

協 力：社団法人日本マンガ家協会／京都国際マンガミュージアム／文化の杜共同企業体



【開催趣旨】

「沖縄マンガ展」（2010年開催）の出張版展示として、独自の歴史と文化を持つ沖縄で誕生したマンガ文化の系譜をパネルで紹介した。本展はマンガ、アニメ、ゲームなどの日本のメディアコンテンツをキーワードに、沖縄の企業やクリエイターが創出するコンテンツをPRすることを目的としたもので、イベント「MAG おきなわ EXPO JAPAN」に実行委員会の依頼を受けて出展した。

【展示内容】

沖縄マンガのはじまり／全国で活躍するマンガ家／沖縄で活躍するマンガ家／歴史を映すマンガ／先島マンガ／作品化された沖縄／沖縄マンガ略史（年譜）／「沖縄マンガ展」の紹介／「沖縄マンガ展」イベントの紹介／なかいま強インタビュー映像（DVD）

【実施状況】

観覧者数342人

（金城 美奈子）

7) 開館5周年記念展覧会図録コーナー

開館5周年記念パネル展関連として、情報センターで展覧会図録コーナーを設置した。開館以来、博物館・美術館で行われた展覧会、年報や紀要、調査報告書、情報センターで発行している「はくび通信」など、過去の資料を閲覧できるようにした。

期 間：11月1日（木）～11月4日（日）

場 所：情報センター

資 料 数：約65冊

（玉城 淳子、比嘉 恵子）



8) 「県立博物館・美術館開館5周年記念パネル展」

会 期：11月1日（木）～4日（日）

場 所：エントランスホール

【実施内容】

11月1日に県立博物館・美術館が開館5周年を迎えるにあたり、これを記念して「開館5周年記念パネル展」を実施した。開館から現在までの主な催事の写真や、博物館班、美術館班、文化の杜共同企業体のそれぞれの活動紹介を中心としたパネル展示。過去の展覧会の図録が閲覧できるコーナーも設置した。

初日は午前10時から、開催記念セレモニーを行い、館内関係者による記念テープカットを行った。

（金城 美奈子）



3. しまくとぅばプロジェクト

しまくとぅばの価値や重要性を認識し、活性化と可能性を広げる目的で開館年の2007年に立ち上げた「しまくとぅばプロジェクト」。2012年度は、前年度から継続している連続講座を行い、引き続き、しまくとぅばと琉球文化に親しむ機会を提供した。他方で、しまくとぅばで沖縄の怪談話を「聞く」公演会や、しまくとぅばで「話す」ワークショップを実施し、新しい試みも行った。シンポジウムとしては復帰40年という節目に注目し、復帰後の沖縄におけるしまくとぅばと文化について考える場を作った。

1) 連続講座「しまくとぅばを知る」第1回～12回

日 時：2012年4月15日、5月20日、6月10日、7月15日、
8月12日、9月9日、11月11日、12月16日、
2013年1月13日、2月17日、3月17日 14:00～15:50

場 所：美術館講座室

講 師：かりまたしげひさ氏（琉球大学）、西岡敏氏（沖縄国際大学）、
仲原穰氏（大学非常勤講師）

内 容：月に1回開催の連続講座。3人の大学研究者が、それぞれのテーマで言語としてのしまくとぅばの概説を行った。

参加費：300円

参加者：247人



2) 万国津梁の鐘の銘文を読む

日 時：4月22日、5月13日、6月3日、6月24日 14:00～16:00
場 所：博物館講座室および実習室
講 師：宮里朝光氏（沖縄語普及協議会）
内 容：「万国津梁の鐘」の歴史的背景や原文解読・解釈・通釈などの解説を座学中心に実施、第3回は博物館に常設展示されている「万国津梁の鐘」を観覧しながら講座を行った。
受 講 料：300円
参 加 者：107人

3) 「お化け屋敷で科学する！」関連「しまくとぅばっしちんじゃびら『沖縄の怪談』」

日 時：9月14日（金） 19:00～20:30
場 所：博物館講座室
語 り：国吉朝政氏（首里ことばの集い） あらすじ解説：仲原穰氏
内 容：日本語で表現された「沖縄の怪談」をすいくとぅばに訳し語り聞く内容で、怪談3題を取り上げた。
演 題：「真嘉比道ぬ逆立ち幽霊」、「大道松原ぬ遺念火」、「くすくえーぬ由来記」
参 加 者：80人

4) しまくとぅばの日特別企画シンポジウム「復帰40年しまくとぅばで沖縄を語る」

日 時：9月15日（土） 15:15～17:15
場 所：講堂
討 論 者：大城立裕氏（作家）、中里友豪氏（詩人）、幸喜良秀氏（演出家）、比嘉豊光氏（写真家）、上原美智子氏（かまどぅー一小的集い）
内 容：沖縄の文学、演劇をリードする三人を招き、「しまくとぅば」で復帰後の沖縄の文化、言葉について語ってもらった。公の場でしまくとぅばを使うことで、しまくとぅばの重要性を感じてもらえる機会となった。
資 料 代：500円
参 加 者：130人



5) 八重山民謡としまくとぅば2（フターズ）

日 時：10月28日（日） 14:00～15:30
場 所：屋外展示場民家
講 師：新城亘氏（沖縄三線音楽研究、芸術学博士）、入嵩西康文氏（八重山古謡民謡研究、京太郎芸能復元研究）、清村まり子氏（笛）、西岡敏氏（沖縄国際大学）
内 容：うたい継がれてきた八重山の歌のなかから、第1部ではアンガマが登場する石垣のお盆とうたを、第2部では竹富島に伝わるうた、第3部では情感豊かないろいろな八重山民謡を三線演奏者で研究者の新城亘氏と入嵩西康文氏がうたい、解説した。また西岡敏氏が、専門的な観点で八重山の言葉や意味を解説した。
資 料 代：100円
参 加 者：55人

6) 連続講座「八・八・八・六に思いをのせよう」

日 時：2012年9月17日、9月22日、10月14日、10月21日、
2013年2月10日、2月17日、2月24日、3月10日 14:00～16:00
場 所：博物館実習室
講 師：名嘉真恵美子氏（沖縄タイムス短歌時評担当、沖縄文学賞審査員、識名園歌会学生の部選者）
内 容：初心者を対象とした4回連続の琉歌教室。音律や発音など琉歌の基本から始め、琉歌の鑑賞、創作と、段階的に琉歌に親しめるような内容とした。
受 講 料：1000円（4回）
参 加 者：34人

7) 『方言札』 世代ぬハナシむぬ語り

日 時：3月13日（水） 14:00～16:00

場 所：博物館実習室

進 行：上原美智子氏、仲松玲子氏

内 容：抑圧されてきたしまくとうばを解き放ち、しまくとうばを継承する力を育てるための企画。お茶を飲みながら、参加者のしまくとうばに対する思いを語り合った。

お茶代：100円

参加者：12人

8) 2012年度しまくとうばプロジェクト活動報告および琉歌教室作品展示

日 時：3月24日～4月14日

場 所：情報センター

内 容：2012年度に行われたしまくとうばプロジェクトの企画について、A3サイズのパネル5枚にまとめ展示した。また、琉歌教室で創作された受講生の琉歌10点も展示した。

9) しまくとうば連続講座「池間・宮古方言教室」

池間、および宮古の言葉と文化について、古語や古文書を読みながら考える連続講座。夏、秋、冬の三期にわけて実施し、各期とも6回ずつの講座とした。文献購読の合間には、中学の英語教科書を使い、初歩的な池間方言についても習得した。

①「池間・宮古方言教室 夏期」

日 時：5月13日、5月27日、6月10日、6月17日、7月8日、
7月22日（いずれも日曜日）14:00～16:00 場所：博物館講座室、
美術館講座室、博物館実習室

講 師：仲間博之氏（岡山理科大学広報室参与）

受 講 料：1,000円

参加者：78人



②「池間・宮古方言教室 秋期」

日 時：9月2日、9月23日、10月7日、10月21日、11月4日、11月25日（いずれも日曜日）14:00～16:00

場 所：美術館講座室、博物館実習室

講 師：仲間博之氏（岡山理科大学広報室参与）

受 講 料：一般1,000円、学生500円

参加者：40人

③「池間・宮古方言教室 冬期」

日 時：2013年1月13日、1月27日、2月10日、2月24日、3月10日、3月24日（いずれも日曜日）
14:00～16:00

場 所：美術館講座室、博物館実習室

講 師：仲間博之氏（岡山理科大学広報室参与）

受 講 料：一般1000円、学生500円

参加者：58人

（國吉 貴奈）

4. 映画鑑賞会（おもしろ夜会）

おもしろ夜会 vol. 9 高嶺剛監督作品連続上映会

当館収蔵作家高嶺剛氏の連続上映会を開催。毎回アフタートークなどの付帯催事を設け、幅広い層が鑑賞した。

○オキナワン ドリーム ショー（113分）

日 時：2012年12月22日（土）18：45～20：20（上映）20：30～21：10（トーク）

ライブ演奏：大城美佐子氏 映写：具志堅剛氏

トークゲスト：高嶺剛氏（映画監督）、大城美佐子氏、進行：濱治佳氏（cimarcus）

入 場 者：106人（有料：96人、招待／関係者10人）

入 場 料：1200円（前売）、1500円（当日）

○WILD UUMAK OKINAWAN CONDITION GREEN 野性的でやんちゃなオキナワンロッカー（22分）、パラダイスビュー（113分）

日 時：2013年1月12日（土）17：00～19：15（上映）19：25～20：15（トーク）

ト ーク：真喜屋力氏（映画監督）、平良竜次氏（シネマラボ突貫小僧）

入 場 者：55人（内、招待／関係者10人）

入 場 料：1000円（前売）、1200円（当日）

○私的撮夢幻琉球 J・M（60分）、夢幻琉球・つるへんリー（90分）

日 時：2013年2月9日（土）17：00～19：30（上映）19：40～20：30（トーク）

トーク：新城郁夫氏（琉球大学教授）、田仲康博氏（国際基督教大学上級准教授）

入 場 者：58人（内、招待／関係者10人）

入 場 料：1000円（前売）、1200円（当日）

（町田 恵美）

5. その他

(1) 「はくび通信」の発行

2012年度から沖縄県立博物館・美術館の情報誌『はくび通信』を発行した。

【事業概要】

・博物館・美術館の展覧会情報をはじめ、学芸員コラム・イベントカレンダーなど、3ヶ月に一度、年4回発行。

・館内モノクロ印刷（発行部数：2000部）

（玉城 淳子、比嘉 恵子）

(2) 2012年「国際博物館の日」

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称 ICOM：イコム）によって「国際博物館の日」と定められている。当館では例年、この日に関連したイベントや展覧会の無料開放を実施している。HP や新聞催事面へ掲載をした。（当館実施期間：5月2～20日）

(3) 博物館常設展・美術館コレクション展無料開放

実 施 日：5月19日（土）

内 容：「国際博物館の日」のイベントのひとつとして、博物館常設展と美術館コレクション展を無料で開放した。

(4) アサヒ芸術文化財団助成事業 ワークショップ「The Philippines X Okinawa Day! @日本一小さな美術館」

展覧会「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」プレイベントとして同展出品作家アルマ・キント（フィリピン）を招聘してのワークショップを開催。地域や子どもから大人まで幅広い層の参加者、またワークショップ後、一枚の布に仕上げる一連の作業も含め多くの方に関わっていただいた。

日 時：10月27日（土）10:00～16:30

場 所：キャンプタルガニー

講 師：アルマ・キント（アーティスト）

内 容：ゲームや料理、お昼を挟んでリラックスした環境の中、端切れを用い自分の夢を表現するワークショップ「ハウスオブコンフォート」を実施。

参 加 者：子ども17人、大人22人（昼食代 大人500円、子ども300円）

（町田 恵美）



Ⅶ. 広報・交流事業活動

1. 広報事業

広報に関する業務として、当館の展覧会や事業・活動を県民や観光客に広くアピールしながら、博物館・美術館活動への理解を深めてもらうとともに一層の集客を図った。

当館で開催される展示会と関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリー等の催しについては前年度同様、「県立博物館・美術館 週間展示会・イベント情報」を作成し、県内の主な新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）やテレビ局（NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（琉球放送RBCiラジオ、NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM沖縄、FMレキオ、タイフーンfm）にFAXやメールでデータを送信し、県民への情報の告知や取材をお願いした。

さらに、当館主催の講座や講演会、展覧会に連動するシンポジウムやアーティストトーク、催しの告知・募集についても、募集期間前あるいは開催前にその都度、新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌社、イベント情報誌等に原稿や資料を送信し、掲載や取材・報道を要請した。県民ギャラリーの利用者や当館で展示会を予定している関係者には、県内マスコミを訪問して展示会をアピールするようアドバイスした。

沖縄タイムス紙面には朝刊情報面に「県立博物館・美術館催し」のコーナーを設けて、当日の情報を発信している（休館日を除く）。また、文化面、社会面等に、随時展覧会や講演会、県民ギャラリーの催事情報を掲載。琉球新報も情報面や文化面、社会面で展覧会や催事情報を載せてもらった。沖縄タイムスの副読誌「週刊ほーむぷらざ」や琉球新報の副読誌「週刊レキオ」、「かふう」のほか県内外で発行される観光・ガイド・情報関連誌も幅広く活用し、館情報の発信に努めた。

○年間行事案内・・・年度初めに展覧会の会期や内容、講座や解説会の日時など、年間の行事案内を掲載した「平成24年度 沖縄県立博物館・美術館 行事案内」（リーフレット、3万部）を作成し、県内外の文化・観光施設、ホテル、レンタカー会社、那覇空港案内所、旅行会社等へ配布、設置のお願いをし、年間の行事案内の配布に努めた。さらに沖縄県教職員互助会・退職互助部に依頼し会員個人々人に行き渡るようにした。

○チラシ、ポスター・・・県内の小・中・高校、図書館、文化施設、教育機関には展覧会ごとにチラシ、ポスターを配布し、展覧会の告知を行った。また、県内のコンビニ、文化・観光施設、レンタカー会社、那覇市内外の主要ホテル、県内書店、観光案内所、モノレール駅、那覇空港などにもチラシやポスターの設置協力を求めた。さらに、個人々人に行き渡るように新聞、コープ配達会員へのチラシ折込みを活用し、誘客に努めた。

○公共掲示板・・・那覇・浦添・西原・南部地区の公共掲示板約150カ所に、展覧会の度にポスターを張り出して展覧会の告知を行った。その内の30～40箇所にはラミネート加工をし短期間で剥がれないようにした。

○モノレール車両内広告・・・県民の足・沖縄都市モノレール（ゆいレール）の各車両の乗降口上にポスター（縦約26センチ×横約130センチ）を掲示、4月から1月上旬まで展覧会ごとに告知内容を張り替えて県民、観光客へ展覧会や館をアピールした。

○懸垂幕・・・館壁正面入り口側に2メートル×6メートルの大型懸垂幕を設置し、展覧会の告知を行った。主に博物館特別展や大型企画展、美術館企画展の際に実施。

○横断幕・・・「田中一村展」開催時に与儀交差点歩道橋、与儀交差点歩道橋終了後に那覇新都心おもろ花風橋に横断幕を移設し、展覧会の告知を行った。

○新聞紙面での記事や連載・・・取材や寄稿掲載の協力を積極的にお願いし、年間を通じて多数の記事で館情報を県民に広く伝えることができた。主な特集記事や連載に、3月～5月「田中一村展」の作品紹介を6回連載、寄稿3回掲載、5月～6月「土門拳の昭和と沖縄」作品紹介5回、寄稿3回、7月～9月「旅する仮面」作品紹介を6回連載、寄稿1回掲載、2013年2月～4月「マリー・アントワネット物語展」作品紹介を6回連載、2月～5月「スタジオジブリ・レイアウト展」作品紹介を5回連載（以上、沖縄タイムス）。

○新聞広告（有料）・・・沖縄タイムス、琉球新報の紙面に有料広告を掲載した。主な方法としては、全5段もしくは半5段サイズのカラー広告掲載や、テレビ面突出・番組下などの目立つ枠への掲載など目的・予算に応じて利用した。GWなどのイベント時には全館のイベント告知なども有料で実施した。さらに「田中一村展」、「旅する仮面」、「マリー・アントワネット物語展」では共催の沖縄タイムス社に依頼し全面特集記事（5段は展覧会広告）を掲載した。その他、沖縄タイムス副読誌「週刊ほーむぷらざ」や琉球新報副読誌「週刊レキオ」では「お化け

屋敷で科学する！ in 沖縄」の全面特集記事（3段は展覧会広告）を掲載した。

- テレビ（無料：ニュース、特集番組など）・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などをニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では、NHK「ミュージアム探訪」、RBC「ザ・ニュース」、QAB「ステーションQ」、OTV「お昼のニュース」、「FNNOTVスーパーニュース」、「ひーぷー☆ポップ」など。また、パブリシティでの無料告知枠を積極的に活用。NHK「りっかりっか沖縄」、RBC「マモデルの情報ポケット」、OTV「ひーぷー☆ポップ」など。番組での告知としては、「お化け屋敷で科学する！ in 沖縄」、「スタジオジブリ・レイアウト展」はOTVとの共催ということもあり「FNNOTVスーパーニュース」での会場特集やキャスターデスク上の告知板の設置によるPR、「ひーぷー☆ポップ」内での紹介等数多く共催者媒体（OTV）での広報ができた。
- ラジオ（無料：ニュース、特集番組など）・・・積極的に取材依頼を行い、イベントや展覧会の開幕の様子などもニュースとして報道してもらえるように努めた。今年度の実績では、NHKラジオ第一「お天気とイベント情報」、RBC i ラジオ「シャキッと i」、「シャキィ サタデー」、「ミュージックシャワー plus +」など。また、パブリシティ、ラジオカーでの取材などの無料告知枠を積極的に活用。RBC i ラジオ「シャキッと i」、「あまくま訪問」、に担当学芸員が出演し「OKINAWA から沖縄へ」、「アジアをつなぐ」を告知、タイフーン fm「ヒトワク」では展覧会告知のため担当学芸員が出演してPRした。その他コミュニティFMも積極的に活用し展覧会関係者が出演するなどの取り組みも実施した。
- テレビ・ラジオ広告（有料）・・・テレビ・ラジオといったマスメディアでのCM展開については、制作費・放映料共に経費がかかるが、効果も大きいので広告出稿を行った。テレビは3月～5月：「田中一村展」、4月～5月：「紅型展」、5月～6月：「土門拳の昭和と沖縄」、7月～9月：「お化け屋敷で科学する！ in 沖縄」、「旅する仮面」、9月～11月：「山田實展」、「OKINAWA から沖縄へ」、11月～1月「アジアをつなぐ」、2013年2月～4月「マリー・アントワネット物語展」、2月～5月「スタジオジブリ・レイアウト展」。ラジオ11月～1月「アジアをつなぐ」を出退勤の時間に合わせ放映した。その他、RBC、OTV、QABのお正月年賀テレビスポット（1月1日～1月5日）で、年始の営業日開館時間の案内、「アジアをつなぐ」、「大山盛保展」の告知を行った。文化の杜共同企業体主催の展覧会告知の際には、沖縄タイムスが琉球放送（RBC）や琉球朝日放送（QAB）のテレビ、RBC i ラジオ、FM沖縄に持っているCM放送枠を活用し、「田中一村展」、「土門拳の昭和と沖縄」、「旅する仮面」、「マリー・アントワネット物語展」のCMを放送し展覧会をPRした。沖縄タイムスおよびテレビ局へ協力依頼を行い、テレビやラジオでの広告放映については多額の経費が必要だが、この放送枠の活用により、テレビやラジオで広報を展開しながら他媒体等へ集中活用が可能になっている。
- 雑誌、機関紙・・・雑誌社や出版社の取材には積極的に応じ、様々な媒体への露出を高めるよう努力した。県民へのPRを目的として県内イベント情報誌「おきなわ倶楽部」、「オキナワグラフ」、「be-o」、「Chura +（ちゅらプラス）」、「ジェイウォーム」、「ジャパンアップデート」、「momoto」等で展覧会や催事を告知。県内の医療機関や病院に配布する沖縄県社会保険診療報酬支払基金の月刊誌「基金沖縄支部だより」には一年を通して毎月開催中の展覧会を表紙で紹介してもらった。観光客向けには、有料広告で「レンタカードライブマップ」、無料広告「沖縄タウンガイドYASA！」などでも年間を通じて全館、展覧会を告知。また、県外からの観光客などをターゲットにした全国版観光雑誌「沖縄の歩き方」、「沖縄レク情報」、「エースるるぶ沖縄」、「まっぷる」等では主に博物館常設展や美術館コレクション展を紹介した。修学旅行の団体をターゲットにした「沖縄修学旅行ナビ」では記事枠での紹介、さらに広告で全館の紹介をした。個別の展覧会の告知について今年度は、「新美術新聞」、「美術手帖」、「芸術新潮」などに掲載された。その他、JAL旅鶴プランと連動する会員季刊誌「旅鶴倶楽部」や、海外向けのPRとして沖縄観光WEBサイト「おきなわ物語英語版」、「ジャパンアップデート」、「Okinawa NightLile」などへ館の紹介を掲載した。
- 地域誌・・・那覇新都心通り会が発行する「新都心かわら板」に様々な展覧会や催しを告知。
- インターネット・・・無料で全国的に広く展覧会の告知を行えるイベント情報サイトを活用し、様々なサイトで告知活動を展開した。今年度の実績では、館全体のPRを目的としてYAHOO! JAPAN「地域情報」、「じゃらんnet」観光ガイド」、「JTBRるるぶインターネットサイト」、「自治体観光ガイド」など。個別の展覧会の告知を目的として「art scape」、「アートフラッシュニュース」、「ミュージアムカフェ」、「mixi」、「livedoor」、「@nifty」、「So-net」、「google ニュース」、「モバゲー」、「ケータイ livedoor」、「goo モバイル」、「日刊ウォーカー」など。その他動画共有サイト「YOUTUBE」に「お化け屋敷で科学する」、「アジアをつなぐ」のCMをアップロードし専用ページに貼付けしたおかげで、通常であればテレビCMでしか見ることの出来ないが、YOUTUBE にアップロードすることでいつでも見ることができるようになった。

- 携帯専用サイト改善、スマートフォン専用サイトの開設・・・館の情報がどこでも確認できるように携帯サイト、スマートフォン専用サイト改善をした。携帯専用サイトは通信料を安くするためできるだけ容量を減らしながらも見やすくするようにし、スマートフォン専用サイトはアイコンを大きくし、各企画展が目に残るようにした。
- 特設コーナー・・・今年度も館外での展覧会PR活動として、書店等の協力を得て、展覧会関連書籍の販売と併せて書店店頭で展覧会特設コーナーを設置してもらった。あわせて展覧会図録の販売や前売券の販売なども行った。実施した展覧会は「田中一村展」、「スタジオジブリ・レイアウト展」。協力書店はジュンク堂書店那覇店、沖縄教販5店舗、球陽堂書房2店舗。館外での誘客活動を通して新しい客層の獲得につなげることを目的とした。
- 沖展・・・毎年3万人を超える来場者を数える県内最大規模の総合美術展である沖展（主催：沖縄タイムス社）会場で、開催者の協力を得て、当館の行事案内等のチラシ配布をした。また即売会場では当館で開催した過去の展覧会図録の委託販売なども行い、美術ファン層に向けて館外でのPR活動を行った。
- プレイガイドの拡大・・・前売り券の販売およびチラシ・ポスターの設置場所としてプレイガイドの拡大・拡充を図った：ミュージアムショップゆいむい、リウボウサービスカウンター、コープあふれ、ファミリーマート各店、ローソン各店、ジュンク堂書店那覇店、ブックスきょうはん美浜店・一日橋店・とよみ店、安謝店、TSUTAYA那覇新都心店・首里店、球陽堂書房那覇メインプレイス店・西原シティ店。スタジオジブリ・レイアウト展では県内TSUTAYA離島を除く（スタジオジブリ・レイアウト展のみ）、どんぐりガーデン ジャスコ那覇店、どんぐりフォレスト 宜野湾コンベンションシティ店、プチ&ハイム サンエー那覇メインプレイス店、プチ&ハイム ジャスコ具志川店、プチ&ハイム サンエー具志川メインシティ、プチ&ハイム ジャスコ北谷店、プチ&ハイム ジャスコ名護店、OZ-MALL サンエー経塚シティ店。さらに、コープあふれ発行の「Aple」に前売り券販売をしている企画展の情報を無料で掲載し、前売り券の販売促進を行った。「お化け屋敷で科学する！ in 沖縄」、「スタジオジブリ・レイアウト展」では沖縄タイムス読者局にチケットの取りまとめを依頼し、読者への前売り券の販売協力をしてもらった。

（金城 正仁）

2. 地域イベントへの参加

那覇新都心通り会へ積極的に参加し、地域の活動に協力した。平成24年10月13日―14日には新都心公園を中心に博・美まつりが開催された。当館でも多彩なイベントが開かれた。また月に1回発行される「新都心かわら版」には、展覧会をはじめ各種の情報を発信、誘客に努めた。

（上地 兼恵）

VIII. 調査・研究等の活動

1. 調査・研究等

謝花佐和子

○調査・視察

- ・2013年度美術展覧会「スタジオジブリ・レイアウト展」に関する展覧会視察（秋田県立美術館／秋田県、2012年11月16日～17日）
- ・2013年度美術展覧会「スタジオジブリ・レイアウト展」に関する調整及び展覧会視察（三鷹の森ジブリ美術館／東京都、2012年12月19日～20日）
- ・片山春帆民俗芸能記録画帳研究会参加及び展示協力（国立劇場おきなわ／浦添市、2012年6月4日～12月20日）

金城美奈子

○調査・視察

- ・「田中一村展―琉球弧で開花した美の世界」に関する出張（田中一村記念美術館／鹿児島県奄美市／2012年3月18日～22日、5月14日～16日）
- ・「旅する仮面」展に関する出張（国立民族学博物館／大阪府、2012年7月1日～4日、9月10日～12日）
- ・2013年度自主企画展覧会「マリー・アントワネット物語展」のための展覧会視察（名古屋市博物館／愛知県、2012年8月9日～10日）

仲里なぎさ

○調査・視察

- ・「旅する仮面」展に関する調査（国立民族学博物館／大阪府、鹿児島県歴史資料センター黎明館／鹿児島県、2012年5月8日～10日）
- ・「旅する仮面」展に関する調査（国立民族学博物館／大阪府、2012年6月4日～5日）
- ・「旅する仮面」展に関する出張（国立民族学博物館／大阪府、鹿児島県歴史資料センター黎明館／鹿児島県、2012年7月1日～5日）
- ・「旅する仮面」展に関する出張（鹿児島県歴史資料センター黎明館／鹿児島県、2012年9月7日～8日）
- ・「旅する仮面」展に関する出張（国立民族学博物館／大阪府、2012年9月10日～12日）
- ・2013年度美術展覧会「スタジオジブリ・レイアウト展」のための展覧会視察（秋田県立美術館／秋田県、2012年11月16日～17日）
- ・2013年度美術展覧会「京都 清水寺」展に関する調整（文化庁／東京都、2012年12月25日～26日）

國吉貴奈

○調査・視察

- ・「平山郁夫展」に関する展覧会視察（秋田県立近代美術館／秋田県、2012年9月11日～12日）
- ・「平山郁夫展」に関する視察（薬師寺「大唐西域壁画」／奈良県、公益財団法人佐川美術館／滋賀県、2013年1月10日～11日）

町田恵美

○研修

- ・平成24年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修修了（国立西洋美術館／東京都、東京国立近代美術館／東京都、2012年7月30日～31日）
- ・第2回ミュージアム・エデュケーター研修修了（文化庁主催）
東京都美術館／東京都 前期／2012年9月26日～28日、東京都江戸東京博物館／東京都、後期／2013年2月7日～8日）

渡部貴子

○調査・視察

- ・博学連携教員研修ワークショップ（国立民族学博物館／大阪府、2012年8月7日）

Ⅸ. その他

1. 職員研修

①全体研修

日 時：5月21日（月）13：00～15：00、5月27日（日）17：00～21：00

場 所：博物館講座室、美術館企画ギャラリー

講 師：仲里健（地学担当学芸員）、堀末治（国際ビル）、中村愛（文化の杜）

参 加 者：150人（5月21日：110人、5月27日：40人）

対 象 者：総合案内、もぎり、展示交流員（企画展・特別展＝文化の杜、博物館常設展示室＝博物館友の会、美術館コレクションギャラリー＝happ）、ふれあい体験室スタッフ、情報センタースタッフ

※同じ内容で2回実施、どちらか1日には必ず出席、

②接遇研修

日 時：2月7日（木）16：00～17：30

場 所：博物館実習室

講 師：中村愛（文化の杜）

参加者：29人（所属：文化の杜12人・友の会6人・美術館 happ 5人・沖縄タイムス6人）

（中村 愛）

2. 企画展・特別展等研修

- ①博物館企画展「紅型 琉球王朝の色とかたち」
日 時：4月24日（火）18:15～19:15
場 所：博物館企画・特別展示室
講 師：與那嶺一子（美術工芸担当学芸員）、中村愛（文化の杜）
参 加 者：35人
- ②美術館企画展「土門拳 昭和と沖縄」
日 時：5月13日（日）18:15～19:15
場 所：美術館企画ギャラリー・博物館講座室
講 師：國吉貴奈、中村愛（文化の杜） 参加者：46人
- ③自主企画事業「お化け屋敷で科学する！ in 沖縄」、美術館企画展「旅する仮面」
日 時：7月12日（木）18:15～20:15
場 所：博物館講座室、博物館企画・特別展示室、美術館企画ギャラリー
講 師：謝花佐和子、仲里なぎさ、中村愛（文化の杜）
参 加 者：48人
- ④美術館企画展「山田實展 人と時の往来」
日 時：9月9日（日）18:15～19:45
場 所：博物館講座室、展覧会場
講 師：大城仁美（当館学芸員）、中村愛（文化の杜）
参 加 者：44人
- ⑤博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」
日 時：9月27日（木）18:15～19:45
場 所：美術館講座室、博物館企画・特別展示室
講 師：岸本弘人（歴史担当学芸員）、中村愛（文化の杜）
参 加 者：45人
- ⑥美術館企画展「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」
日 時：11月25日（日）18:15～19:45
場 所：博物館講座室、展覧会場
講 師：豊見山愛（当館学芸員）、中村愛（文化の杜）
参 加 者：47人
- ⑦博物館企画展「大山盛保生誕100年記念 発見への情熱」
日 時：12月6日（木）18:15～19:15
場 所：博物館講座室、展覧会場
講 師：山崎真治（人類担当学芸員）、中村愛（文化の杜）
参 加 者：38人
- ⑧自主事業「マリーアントワネット物語展」
日 時：2月7日（木）18:15～19:15
場 所：博物館講座室、展覧会場
講 師：金城美奈子、中村愛（文化の杜）
参 加 者：74人
- ⑨ 美術館企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」
日 時：2月21日（木）18:15～19:15
場 所：博物館講座室、展覧会場
講 師：謝花佐和子、中村愛（文化の杜）
参 加 者：65人



（中村 愛）

3. 消防訓練等

- ①消防（総合）訓練
日 時：7月9日 10:30～11:30
場 所：博物館 実習室
内 容：消火訓練、通報訓練、避難誘導、救護、消火器の操作要領習得（実火使用）
参 加 者：73人

全館共同事業

- I. 博物館・美術館実習
- II. 国際博物館の日
- III. 移動展
- IV. 燻蒸・消毒処理
- V. 刊行物
- VI. 展覧会一覧

I. 学芸員実習

1. 博物館実習

当館では、1969（昭和44）年に最初の実習生を受け入れてから、2006～2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年2回に集約して実施している。

2012年度の学芸員実習は前期（6月12日～25日）、後期（8月14日～27日）とも内容は下記のとおりである。

1. 実習内容と指導職員

講義・実習	指導者							
博物館施設・事業概要	久場							
美術館施設・事業概要	瑞慶山							
IPMへの取り組み	仲里							
博物館展示の実際	與那嶺							
課題研究 実習生は「自然史」、「木工・歴史」、「民俗・考古」の3班に分かれ、前期は特別展示室、後期はロビーでミニ企画展を実施した。 その過程には以下の作業が含まれる。 <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">展示企画立案</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">資料調査・選定・借受交渉</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">展示環境調査（木工・歴史班）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">パネル・キャプション作成</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">資料配置・撤収</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">展示解説、観覧者調査、総括発表</td> </tr> </table>	展示企画立案	資料調査・選定・借受交渉	展示環境調査（木工・歴史班）	パネル・キャプション作成	資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品	資料配置・撤収	展示解説、観覧者調査、総括発表	「自然史班」 仲里、山崎 藤田、山崎 「木工・歴史班」 與那嶺、園原 岸本（弘）、崎原 「民俗・考古班」 岸本（敬）、片桐 早瀬
展示企画立案								
資料調査・選定・借受交渉								
展示環境調査（木工・歴史班）								
パネル・キャプション作成								
資料移動・開梱・梱包、開梱・梱包に伴う検品								
資料配置・撤収								
展示解説、観覧者調査、総括発表								
教育普及実習	池原、久田							

2. 実習生

前 期			後 期			
1	入本 敦史	琉球大学	1	村上 由香	琉球大学	
2	遠山 和広		2	宮城 あい子		
3	林 洋之		3	小菅 智弘		
4	比嘉 万友美		4	森 愛		
5	川上 紗季		5	安慶名 健吾		
6	兼城 明奈	沖縄国際大学	6	東江 二衣那	沖縄国際大学	
7	上運天 ちさと		7	喜屋武 樹里		
8	宜保 はるな		8	又吉 幸嗣		高知大学
9	宮城 瞳		9	宮里 裕美		同志社大学
10	前田 勇樹	福岡大学	10	新垣 由季	京都光華大学	
11	親泊 陽子	東京女子大学				
12	砂守 かずら	武蔵野美術大学				

（久場 政彦）

2. 美術館実習

美術館では、県内大学や県出身者で県外の大学で学芸員資格所得を目指す実習生を対象に、2012年度は8月14日（火）～8月27日（月）10日間（8/27は暴風警報発令のため実習中止）の10日間、学芸員実習を下記の通り実施した。

1. 実習内容と指導職員

講義・実習	担当	講義・実習	担当
博物館活動概要及び施設・設備	久場（博）	I PMへの取り組み	仲里（博）
美術館業務の考え方と実際 I	瑞慶山	美術館業務の考え方と実際 II	直也
美術館活動概要及び施設・設備	直也	監視ボランティア体験	直也
常設展示の実際 I	新里	共通課題研究（ミニ企画展）	直也
資料の分類 I・II	齋	平面資料の取り扱い I・II（写真）	新里
教育普及事業 I・II・III	直也	常設展示の実際 II	仲里（美）
企画展の実際 I（東松照明展）	新里	資料の保存・修復の実際	仲村
立体資料の取り扱い（彫刻）	仲里（美）	資料の修復実習 I・II	仲村
調査研究概要	新里	収集事業概要	仲里（美）
資料に関する情報処理	齋	作品調査の方法	齋
企画展の実際 II（玉那覇正吉展）	仲里（美）	平面資料の取り扱い I（油彩画）	豊見山
平面資料の取扱い II（前半・後半）	豊見山		

2. 実習生

1	當間 芽	沖縄県立芸術大学
2	上杉千尋	
3	高岡秀樹	
4	大石桃子	

（大城 直也）

3. 職場体験の受け入れ

(1) 那覇市立松島中学校、那覇市立首里中学校、県立浦添工業高等学校

期 間：7月4～6日（3日間）※3校同時受け入れ、松島中学校は4、5日の2日間。

体験内容：ふれあい体験室、ショップ、もぎり、美装、博物館資料整理等

通常は接客を主に実施しているが、今回は博物館班の試みとして学芸業務（博物館資料整理）も体験した。学芸業務は博物館班山崎仁也学芸員が担当した。

参 加 者：7人（松島中2人、首里中3人、浦添工業高校2人）

(2) 那覇市立真和志小学校

期 間：8月8日（午前のみ）

体験内容：もぎりに配置。実際に業務を体験し、学校での課題（新聞づくり）のための情報収集をした。

参 加 者：2人

(3) 那覇市立鏡原中学校

期 間：9月4～6日（3日間）

体験内容：もぎり・ショップ・ふれあい体験室・山田實展展示交流員等の業務を体験した。

参加者：3人

(4) 沖縄県立開邦高等学校

期 間：9月26～28日（3日間）

体験内容：もぎり・ショップ・ふれあい体験室・山田實展展示交流員等の業務を体験した。

参加者：3人

(5) 沖縄県立那覇商業高等学校

期 間：10月17～19日（3日間）

体験内容：もぎり・ショップ・ふれあい体験室・山田實展展示交流員等の業務を体験した。

参加者：2人



(6) 那覇市立若狭小学校（ジョブシャドウイング：職場見学）

期 間：11月27日（午前）

体験内容：なはグッジョブ連携協議会主催で毎年行われている小学生の職場見学「ジョブシャドウイング」を本年も当館で受け入れた。指定管理者と博物館班、美術館班の学芸員（計5人）で対応にあたった。各職員で見学内容は異なるが、館内の説明・学芸業務の見学、総務の業務等を見学した。

担当職員：大城直也（美術館班）、藤田祐樹・山崎真治（博物館班）、大濱萌子・島袋百恵（文化の杜）

参加者：5人

(7) 那覇国際高等学校

期 間：12月12～14日（3日間）

体験内容：那覇国際高校の生徒3人をインターンシップで3日間受け入れた。教育普及班、現場スタッフの協力も得て、民具体験補助・ショップ・もぎり・ふれあい体験室・交流員等の業務を体験した。

担当職員：民具体験（博物館教育普及：文化の杜 中村愛、大濱萌子、博物館ボランティア）、ふれあい体験室（文化の杜 渡部貴子）、ショップ（文化の杜 池宮城啓子ほか）、もぎり、交流員（文化の杜交流員スタッフ）

参加者：3人

（島袋 百恵）

II. 国際博物館の日

名 称：5月18日「国際博物館の日」

会 期：2012年5月2日（水）～5月20日（日）（19日間）

内 容：パネル展、展覧会図録閲覧コーナー

＊5月19日（土）のみ：無料入館日の設定、バックヤードツアー、キュレータートーク、ワークショップ

会 場：エントランスホール、ふれあい体験室前等

【開催趣旨】

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称 ICOM：イコム）によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【実施内容】

博物館・美術館の活動を広く一般県民に伝えるために、エントランスホールにてパネル展を実施した。また、無料入館日の設定やバックヤードツアー、キュレータートーク、ワークショップ等を実施した。

○パネル展 5月2日（水）～5月20日（日）

パネル展の目的、ICOM・「国際博物館の日」の説明、今年度の行事や講座などの紹介、沖博協加盟館および「沖縄の博物館ガイド」の紹介、博物館・美術館の展示会の様子、学芸員の仕事、ボランティア・友の会・happ等の活動の様子、指定管理者の仕事、過去に実施した展覧会のチラシ展示

○無料入館日 5月19日（土）（博物館常設展示室および美術館コレクション展のみ）

○バックヤードツアー 5月19日（土）

時 間：第1回 博物館 9:30～10:30

第2回 美術館 11:00～12:00

受 付：9:00～ 総合案内にて

定 員：当日先着24名（各回とも12名まで）

参加料：無料

○キュレータートーク（美術館） 5月19日（土）

時 間：13:30～14:30 第1回 コレクションギャラリー1・2・3

15:00～16:00 第2回 コレクションギャラリー1・2・3

○ワークショップ 5月19日（土）

内 容：ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」（「風車ときんぎょ」など）

時 間：1回目10:00、2回目10:30、3回目11:00、4回目11:30

受 付：9:00～ ふれあい体験室にて

定 員：当日先着40名（各回10名まで）

参加料：各回100円

○展覧会図録閲覧コーナー 5月2日（水）～5月20日（日）

内 容：国際博物館の日に関連し、情報センターにて過去に開催した展覧会の図録コーナーを設置した。琉球政府立博物館、沖安和県立博物館、現在の沖縄県立博物館・美術館の展示会図録約130冊を年代順に並べ、閲覧できるようにした。

場 所：情報センター



パネル展風景



バックヤードツアー（事前説明）

（崎原 恭子）

Ⅲ. 移動展

名 称：第5回 沖縄県立博物館・美術館移動展 in 粟国
会 期：2012年11月16日（金）・17日（土） 9:00～17:00
開 催 地：総合センター 博物館展示
島あしび館 美術館展示
観覧料：無料
予算執行額：4,893,013円
入場者数：延べ470名（博物館229名、美術館196名）

【開催趣旨】

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが出来ない離島や遠隔地の方々に移動展として、当館の収蔵資料を見てもらうことによって、沖縄県の自然・歴史・文化の広域普及を図り、あわせて美術品を鑑賞する機会を提供する。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、粟国村、粟国村教育委員会、文化の杜共同企業体

【展示内容】

博物館資料：「世界の化石と輝く石」・・・恐竜の骨格標本、岩石、鉱物
「沖縄の自然、歴史、文化」・・・沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
美術館資料：「沖縄の美術」

【関連催事】

- ①名 称：野外観察会「粟国村に生息する光る生き物を探そう！」
学 芸 員：山崎仁也（生物）
会 場：野外
会 期：2012年11月16日（金）19:00～20:30
対 象：一般
参 加 料：無料
定 員：なし
参 加 者：24名



博物館展示風景

- ②名 称：学芸員講座「凝灰岩が語る粟国島の起源—トウージに至るまで—」
学 芸 員：仲里健（地学）
会 場：体験工房
会 期：2012年11月17日（土）10:30～12:00
対 象：一般
参 加 料：無料
定 員：なし
参 加 者：14名

- ③名 称：「ちむドンドン（紙芝居と琉球楽器）体験」
会 場：総合センター
会 期：2012年11月16日（金）・17日（土） 11:00、11:30 14:00 14:30
対 象：一般
参 加 料：無料
定 員：なし

- ④名 称：「骨スーツで遊ぼう」
 会 場：総合センター
 会 期：2012年11月16日（金）・17日（土） 9:00～17:00
 対 象：一般
 参 加 料：無料
 定 員：なし

- ⑤名 称：「美術館ギャラリートーク」
 学 芸 員：仲里安広
 会 場：島あしび館
 会 期：2012年11月17日（土）14:00～14:30
 対 象：一般
 参 加 料：無料
 定 員：なし
 参 加 者：4名



美術館展示風景

「沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 粟国」来館者数集計

博物館展示	274（内、団体66人）
美術館展示	196
延べ人数	470

1、博物館展示年齢層（団体含む）

	11月16日（金）	11月17日（土）	計
70才以上	13	12	25
一般	62	71	133
高大	0	2	2
小中	57	21	78
未就学児	27	9	36
計	159	115	274

団体：

①幼稚園	11
②小学校3・4年生	17
③小学校5・6年生	15
④保育園	11
⑤中学校1・2年生	12
	66

2、美術館展示年齢層

	11月16日（金）	11月17日（土）	計
70才以上	5	9	14
一般	40	64	104
高大	0	1	1
小中	16	44	60
未就学児	9	8	17
計	70	126	196

IV. 燻蒸・消毒処理

2012年度は、2007年度から実施している総合的防害虫管理（IPM）の運用を継続して行い、活動として、年2回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPM モニタリング等を行い、毎月1回のIPM全体会議にて連絡・報告などを行っている。その目的は、収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

1) 2012年度 全館燻蒸・消毒処理

第1回 全館燻蒸・消毒

期 間：2012年6月25日（月）～7月3日（火）9日間

消毒箇所：全館

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）

投 薬 量：0.7～7 g/m以下

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

第2回 燻蒸・消毒

期 間：2013年1月20日（日）（閉館後）～1月22日（火）3日間

消毒箇所：収蔵庫・バックヤード（美）・実習準備室

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ミラクンGX）

投 薬 量：0.7～7 g/m以下

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

2) 簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館3ヶ所、美術館2ヶ所、県民ギャラリー1ヶ所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）開閉する場所の害虫駆除に実施している。

又、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろう君」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里 宗彦）

V. 刊行物

(全体)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	沖縄県立博物館・美術館 年報5号	定 期	600	A 4 (200)	前年度の博物館・美術館活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館 行事案内 - 平成24年度 -	〃	30,000	A 3 (四折)	博物館・美術館行事案内
3	第5回移動展 リーフレット	〃	1,000	A 4	移動展リーフレット

(博物館班)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要第6号	定 期	600	A 4 (180)	博物館学芸員の調査研究報告書
2	平成24年度博物館教育普及活動	〃	1,000	A 4 (115)	博物館教育普及活動報告
3	新収蔵品展 - 平成23年度収蔵資料	〃	500	A 4 (12)	博物館企画展 図録
4	OKINAWA から沖縄へモノが語る激動の時代 1945 ~ 2012	不定期	1,000	A 4 (96)	博物館特別展 図録
5	〃 ポスター	〃	800	B 2	〃 告知ポスター
6	〃 チラシ	〃	20,000	A 4	〃 告知チラシ
7	紅型~琉球王朝のいとくたち	〃	100	B 5変形	博物館企画展 図録
8	〃 チラシ	〃	30,000	A 4	〃 告知チラシ
9	〃 ポスター	〃	1,000	A 2	〃 告知ポスター
10	大山盛保生誕100年記念 発見への情熱	〃	500	B 5	博物館企画展 図録
11	〃 ポスター	〃	1,000	B 2	〃 告知ポスター
12	〃 チラシ	〃	30,000	A 4	〃 告知チラシ
13	平成24年度 復帰40年関連講座等記録集	〃	1,000	A 4	復帰40年記念講座

(美術館班)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内 容
1	美術館教育普及報告書 平成24年度	定期	1,000	B 5 (32)	美術館教育普及活動報告
2	沖縄県立博物館・美術館 美術館紀要第3号	〃		A 4	学芸員の調査研究報告書
3	アジアをつなぐー境界を生きる女たち	不定期	400	A 4変形	美術館企画展 図録
4	〃 ポスター	〃	500	B 2	〃 告知ポスター
5	〃 リーフレット	〃	10,000	A 3	〃 告知チラシ
6	山田實展 - 人と時の往来	〃	800	A 4変形	美術館企画展 図録
7	〃 ポスター	〃	1,500	B 2	〃 告知ポスター
8	〃 チラシ	〃	50,000	A 4	〃 告知チラシ

(指定管理者)

	刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
1	田中一村展 図録	不定期	2,000	A 4 (110)	企画展 図録
2	〃 ポスター	〃	1,500	B 2	〃 告知ポスター
3	〃 チラシ	〃	105,000	A 4	〃 告知チラシ
4	土門拳の昭和と沖縄 図録	〃	253	B 5変形 (198)	企画展 図録 ※巡回展
5	〃 ポスター	〃	1,500	B 2	〃 告知ポスター
6	〃 チラシ	〃	50,000	A 4	〃 告知チラシ
7	旅する仮面 図録	〃	1,000	A 4 (112)	企画展 図録
8	〃 ポスター	〃	1,500	B 2	〃 告知ポスター
9	〃 チラシ	〃	80,000	A 4	〃 告知チラシ
10	〃 作品リスト	〃	2,000	A 3	〃 作品リスト
11	自主企画事業「お化け屋敷で科学する! in 沖縄」	〃	1,150	B 2	自主事業企画 告知ポスター
12	〃 チラシ	〃	150,000	A 4	〃 告知チラシ

VI. 展覧会一覧（2012年度）

	展覧会名	場所	主催	期間
1	本土復帰40周年記念 「田中一村展－琉球弧で開花した美の世界」	美術館企画ギャラリー 1・2	文化の杜共同企業体	3/30～5/6
2	沖縄復帰40周年記念 「紅型 BINGATA－琉球王朝のいろとかたち」	博物館企画展示室、特別展示室1・2	沖縄県立博物館・美術館	4/24～5/27
3	「土門拳の昭和と沖縄」	美術館企画ギャラリー 1・2	文化の杜共同企業体	5/15～6/24
4	新収蔵品展－平成23年度収蔵資料－	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	6/1～24
5	大嶺薫コレクション展	博物館特別展示室2	沖縄県立博物館・美術館	6/6～24
6	旅する仮面	美術館企画ギャラリー 1・2	文化の杜共同企業体	7/14～9/2
7	お化け屋敷で科学する！ In 沖縄	博物館企画展示室、特別展示室1・2	文化の杜共同企業体	7/13～9/17
8	山田實展	美術館企画ギャラリー 1・2	沖縄県立博物館・美術館	9/11～11/4
9	復帰40周年記念博物館特別展 「Okinawa から沖縄へ」	博物館企画展示室、特別展示室1・2	沖縄県立博物館・美術館	9/28～11/25
10	沖縄県芸術文化祭	美術館企画ギャラリー 1・2	沖縄県文化振興会	11/10～18
11	本土復帰40周年記念 「アジアをつなぐ～境界を生きる女たち 1984-2012」	美術館企画ギャラリー 1・2、博物館特別展示室1・2	沖縄県立博物館・美術館	11/27～1/6
12	大山盛保 生誕100周年記念展	博物館企画展示室	沖縄県立博物館・美術館	12/7～1/20
13	第4回 かりゆし美術展	美術館企画ギャラリー 1・2	沖縄県社会福祉協議会	1/18～27
14	沖縄タイムス創刊65周年記念・琉球銀行 創立65周年記念 「マリー・アントワネット物語展」	博物館企画展示室、特別展示室1・2	沖縄タイムス社／文化の杜共同企業体／東映	2/8～4/14

その他の活動

- I. 沖縄県博物館協会
- II. 全国組織との関わり
- III. 沖縄県博物館友の会
- IV. h a p p (美術館支援会)

I. 沖縄県博物館協会

当館からの参加者については「博物館 I. 調査研究等の活動 7. 職員研修」の項を参照のこと。

【総会・春の研修会】

期 日：2012年5月24日（木）・25日（金）

場 所：沖縄県立郷土博物館

総 会：議案第1号 平成23年度事業報告

議案第2号 平成23年度決算報告 会計監査結果報告

議案第3号 平成24年度事業計画案

議案第4号 平成24年度予算案

議案第5号 研修担当割当について

その他 (1) 沖博協研修担当割当について、(2) 「沖縄の博物館ガイド」 i-phone アプリについて

研 修：事例報告1：「宮古上布・琉球絣・久米島紬3館合同企画展報告」

平良次子（南風原文化センター）、宮良みゆき（久米島博物館）

事例報告2：「小規模館同士の連携」

川副裕一郎（沖縄市立郷土博物館）、前田一舟（うるま市立海の文化資料館）

事例報告3：「那覇市立壺屋焼物博物館と地域連携」

倉成多郎、比嘉立広（那覇市立壺屋焼物博物館）

事例報告4：「博物館の相互連携 何をどのようにつなぐのか？」

佐々木健志（琉球大学資料館風樹館）

現地研修：「小学校との連携事業—中の町小学校・越來小学校視察—」

解説：川副裕一郎（沖縄市立郷土博物館）

【秋の研修会】

期 日：2012年10月4日（木）・5日（金）

場 所：伊是名村産業支援センター

研 修：講 話：「琉球漆器の保存・修復—伊是名銘苺家旧蔵資料を中心に—」

土井菜々子（琉球漆工芸社）

事例発表：「文化財の活用—伊平屋阿母加那志衣裳を例に—」

與那嶺一子（沖縄県立博物館・美術館）

現地研修：みほそ所、伊是名玉御殿、伊是名城跡、アカラ御嶽の植物群落、銘苺家住宅、神アサギ

解説：中川貞允（伊是名村文化財保護審議委員会審議委員）

（久場 政彦）

II. 全国組織との関わり

1. 日本博物館協会

(1) 評議会

期 日：2012年6月12日（火）

場 所：尚友会館（東京）

参加者：千木良 芳範

(2) 全国博物館館長会議

期 日：2012年6月13日（水）

場 所：文部科学省講堂

参加者：千木良 芳範

2. 全国科学博物館協議会

(1) 第1回総会

期 日：2012年6月14日（木）

場 所：国立科学博物館

参加者：千木良 芳範

(2) 第2回総会

期 日：2013年2月28日（木）

場 所：愛媛県総合博物館

参加者：千木良 芳範

3. 九州博物館協議会

(1) 総会

期 日：2012年5月24日（木）

場 所：佐賀県立博物館・美術館

参加者：千木良 芳範

(2) 研修会

期 日：2012年11月8日（木）～9日（金）

場 所：沖縄県立博物館・美術館

参加者：白保 台一 他職員

（瑞慶覧 勝利）

4. 美術館連絡協議会

(1) 総会

期 日：2012年10月25日（木）～26日（金）

場 所：リーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区戸塚町）

参加者：瑞慶山 昇

（瑞慶山 昇）

Ⅲ. 沖縄博物館友の会

沖縄博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。本年度の会員の内訳は、普通会員279名、賛助会員5社、家族会員34家族（69名）となっております。

今年も博物館・美術館の諸事業に積極的に参加し、博物館ボランティア活動への支援、広く県民を対象とした文化講演会や会員を対象とした研修会の実施、博物館常設展示室への展示交流員配置事業を実施しております。

友の会の更なる活発化をめざし会員への情報提供を進めています。

2012年度（平成24年度）の活動内容と事業内容は次のとおりです。

【講演会】

○沖縄博物館友の会 文化講演会

『沖縄・中国・アジアの麺を喰い尽くす』

日 時：2013年1月20日（日）

内 容：沖縄そばは中国から渡来したと言われているが、いつ、誰によって持ち込まれたのか、その実態は未だ解明されていない。講話や映像等を通して、アジアの麺を食べ歩き、そして沖縄そばはどのような方向に向かうのかを一緒に考えるユニークな楽しい講演会でした。

講 師：平川 宗隆

参 加 者：200名余

○沖縄博物館友の会 文化講座

『王都首里散策5回シリーズ』

日 時：2012年6月25日（月）～2013年1月28日（月）

内 容：現在の街並みを見ながら古の風景を思い描きつつ王国時代の首里の史跡を徒歩で訪ねるという趣旨で5回実施した。資料作成とガイドは会員の高里盛国氏。

参 加 者：延べ137名



王都首里散策

【民族探訪】

○『多良間の八月踊り』見学会

日 時：2012年9月25日（火）～26日（水）

内 容：国指定重要無形民俗文化財「多良間の八月踊り」を見学。字仲筋、字塩川の王朝時代から守り伝えられたという組踊り、古典舞踊や衣装、手作りの小道具等村の人々のまつりとの関り方、100年余り絶やすことなく持ち続けてきた伝承文化の素晴らしさを学んだ。

参 加 者：20名



多良間の八月踊り

【体験学習】

○『親子うちなーすば体験学習』

日 時：2012年7月30日（月）

内 容：小麦粉の種類成分等ミニ講座に始まり、今から450年～500年前に中国から沖縄に麺類が伝えられた歴史、また「沖縄そば」としての承認のいきさつ等子供も大人も多くのことを学んだ。講座後親子でうちなーすばづくりに挑戦、試食後全員「講座終了証」をいただき終了。

参 加 者：28名



うちなーすば体験学習

【県内研修】 グスクサークルとの共催

○『グスク巡り』

日 時：2012年7月21日（土）

内 容：南山グスクと国吉グスク、関連する史跡を与儀達憲氏の解説で実施した。

参 加 者：20名

【県外研修】

○『北鎌倉・横浜の歴史を学ぶ旅』

日 時：2012年12月3日（月）～5日（水）

内 容：臨済宗大本山円覚寺、建長寺、横浜開港資料館、神奈川歴史博物館、JICA 横浜海外移住資料館、横浜赤レンガ倉庫パーク等を訪ねる旅

参 加 者：21名

【交流員研修】

○休館日を利用したの展示交流員館外研修

日 時：2013年3月11日（月）

内 容：友の会会員4名のガイドで首里城を視察研修し、琉球・沖縄の歴史を学び互いの親睦を図る。

参 加 者：55名

【会員への情報提供】

○博物館事業及び催し物の案内状発送

○友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

【サークル活動】

○家譜サークル（毎月1回勉強会実施）

○グスクサークル

○辺境と市場サークル

【博物館サポート】

○博物館特別展・企画展のポスター・図録等の発送作業

○博物館・美術館移動展への参加

○博物館ボランティア活動の支援

○「ボランティア通信」の印刷・発送業務

○博物館常設展示室展示交流員の配置業務

IV. happ (特定非営利活動法人 沖縄県立美術館支援会 happ)

Happとは2005年(平成17年)に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生した。その年の9月には、特定非営利法人としての認証を受けている。Happと、happyやhappenの起源となるスカンジナビア語の「happ(幸福)」からきている。h=happiness(しあわせ)・happening(できごと)、a=art(アート)、p=people(人々)、p=place(場所)の意味を込めている。アートを身近に感じ、アートを創造するような活動を通して、それぞれの「happ=しあわせ」を見つけられる場所を作っていきたいと考え、主に美術館の教育教育普及活動をサポートしていく。

(1) 2012年度 happ 主催事業

	事業名	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	地域連携部会事業	楽しい地域まつりの創り方 ～音楽祭の創り方シンポジウム～ 	2012年 8月15日	講堂	50名
2	ワーク・ショップ	夏休み粘土アニメ教室 	2012年 8月21日	県民アトリエ	15名
3	ワーク・ショップ	似顔絵教室 in 新都心まつり 	2012年 8月13日 8月14日	新都心公園	約300名
5	美術講座	happ 会員向け学習会ニシムイ美術村と戦後沖縄の美術(ニシムイ見学) 	2012年 9月27日 10月31日 12月4日 2013年 1月22日 2月13日 (全5回)	県民スタジオ、県民アトリエ、ニシムイ見学	62名
6	教育普及部会事業	秋の見学会 	2012年 10月29日	琉球大学資料館風樹館、ビオトーブ、佐喜真美術館、那覇市歴史博物館	23名
7	アクション部会	Art is... 美術館企画展関連展示会 	2012年 11月28日～ 2013年 1月6日	講堂付近、カフェ茶花内	
8	アクション部会	BIYOND THE PLACE 美術館企画展関連展示会 	2012年 11月27日～ 12月8日	沖縄コザアトリエ、よし乃屋、One's Room gallery & sutadio、ARCAD、Spase コザの窓	923名

	事業名	事業内容	日時	開催場所	参加人数
9	教育普及部会	春の見学会  	2013年 1月27日	名護博物館、八重岳、今帰仁歴史文化センター、今帰仁城跡	28名
10	アクション部会	39アートの日2013チャリティアート展 in ゆいむい 	2013年 3月8日～ 3月31日	ミュージアムショップ	
11	物品販売	ミュージアムショップ委託	2012年4月 ～ 2013年3月	ミュージアムショップ	
12	委託事業	展示交流員、展示監視業務	2012年4月 ～ 2013年3月	happ 事務所にて	
13	委託事業	美術館催事チラシデザイン	2012年4月 ～ 2013年3月	h app 事務局にて	
14	芸術文化発信事業	沖縄のアート情報 HP の運営	2012年4月 ～ 2013年3月	Web にて	

(2) 共催事業

	事業名	事業内容	日時	開催場所	参加人数
1	教育普及部会事業	夏休み子供フェスタ キッズカメラマン体験教室	2012年 8月19日	エントランスホール	約50名
2	教育普及部会事業	似顔絵を描こう！	2012年 11月11日	エントランスホール	約46名

関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行規則
- 沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程
- 美術品調査嘱託員設置規程
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領
- 博物館法施行令
- 博物館の登録に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館館長執務規程
- 博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程
- 美術品保存修復嘱託員設置規程

関係法規抄録

○博物館法

昭和26年12月1日 法律第285号
〔最終改正〕平成23年12月14日 法律第122号

第1章 総則

(この法律の目的)

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。）をいう。

(博物館の事業)

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
- (10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
- (11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

(館長、学芸員その他の職員)

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- (1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。
 - (2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの。
 - (3) 文部科学省大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学省大臣が指定するものを含むものとする。

(学芸員補の資格)

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

(学芸員及び学芸員補の研修)

第7条 文部科学大臣及び都道府県の教育委員会は、学芸員及び学芸員補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

(運営の状況に関する評価等)

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、次に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地

2 前項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
- (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款の写し又は当該宗教法人の規則の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消をしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消さなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参照するものとする。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したもののについては、第27条第2項の規定を準用する。

附則 (平成23年12月14日法律第122号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して2月を超えない範囲において政令で定める日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- 1 附則第6条、第8条、第9条、及び第13条の規定 公布の日

○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号
〔最近改正〕 昭和34年4月30日 政令第157号

(政令で定める法人)

第1条 博物館法(以下「法」という。)第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社
- 2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

附則 (昭和34年4月30日 政令第157号) 抄

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号
〔最終改正〕 平成24年6月29日 文部科学省令第24号

第1章 博物館に関する科目の単位

(博物館に関する科目の単位)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第5条第1項第1号に規定する博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3

2 博物館に関する科目の単位のうち、すでに大学において修得した科目の単位又は第6条第3項に規定する試験科目について合格点を
 得ている科目は、これをもって、前項の規定により修得すべき科目の単位に替えることができる。

(博物館実習)

第2条 前条に掲げる博物館実習は、博物館（法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文
 部科学大臣若しくは都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認められた施設を含む。）に
 おける実習により修得するものとする。

2 博物館実習には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

第2章 学芸員の資格認定

(資格認定)

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、こ
 の章に定める試験認定又は審査認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

(資格認定の施行期日等)

第4条 資格認定は、毎年少なくとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で公告する。ただし、特別の事情がある場合には、適宜な方法
 によつて公示するものとする。

(試験認定の受験資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、試験認定を受けることができる。

- (1) 学士の学位を有する者
- (2) 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者で2年以上学芸員補の職（法第5条第2項に規定する職を含む。以下同じ。）
 にあつた者
- (3) 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第2条第1項に規定する教育職員の普通免許状を有し、2年以上教育職員の職にあ
 つた者
- (4) 4年以上学芸員補の職にあつた者
- (5) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めたる者

(試験認定の方法及び試験科目)

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記の方法により行う。

2 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。

3 試験科目は、次表に定めるとおりとする。

試験科目		試験認定の必要科目
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目
	博物館概論	
	博物館経営論	
	博物館資料論	
	博物館資料保存論	
	博物館展示論	
	博物館教育論	
	博物館情報・メディア論	
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する2科目
	美術史	
	考古学	
	民俗学	
	自然科学史	
	物理	
	化学	
	生物学	
	地学	

(試験科目の免除)

第7条 大学において前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を修得した者又は文部科学大臣が別に定めるところにより前条に
 規定する試験科目に相当する学修を修了した者に対しては、その願出により、当該科目についての試験を免除する。

第8条 削除

(審査認定の受験資格)

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、審査認定を受けることができる。

- (1) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者であつて、2年以上学芸員補
 の職にあつた者
- (2) 大学において博物館に関する科目（生涯学習概論を除く。）に関し2年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者であつ
 て、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (3) 次のいずれかに該当する者であつて、都道府県の教育委員会の推薦する者
 - イ 学士の学位を有する者であつて、4年以上学芸員補の職にあつた者
 - ロ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者であつて、6年以上学芸員補の職にあつた者
 - ハ 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者であつて、8年以上学芸員補
 の職にあつた者
 - ニ その他11年以上学芸員補の職にあつた者
- (4) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めたる者

(審査認定の方法)

第10条 審査認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

(受験の手続)

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書(別記第1号様式により作成したもの)に次に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の7第3項の規定により同法第30条の5第1項に規定する本人確認情報の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- (1) 受験資格を証明する書類
- (2) 履歴書(別記第2号様式により作成したもの)
- (3) 戸籍抄本又は住民票の写し(いずれも出願前6月以内に交付を受けたもの)
- (4) 写真(出願前6月以内に撮影した無帽かつ正面上半身のもの)

2 前項に掲げる書類は、やむを得ない事由があると文部科学大臣が特に認めた場合においては、他の証明書をもって代えることができる。

3 第7条の規定に基づき試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類を提出しなければならない。

4 審査認定を願い出る者については、第1項各号に掲げるもののほか、次に掲げる資料又は書類を提出しなければならない。

- (1) 第9条第1号又は同条第2号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等
- (2) 第9条第3号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等又は博物館に関する顕著な実績を証明する書類
- (3) 第9条第4号により出願する者にあつては、前2号に準ずる資料又は書類

(試験認定合格者)

第12条 試験科目(試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。)の全部について合格点を得た者(試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。以下、「筆記試験合格者」という。)であつて、1年間学芸員補の職にあつた後に文部科学大臣が認定した者を試験認定合格者とする。

2 筆記試験合格者が試験認定合格者になるためには、試験認定合格申請書(別記第3号様式によるもの)を文部科学大臣に提出しなければならない。

(審査認定合格者)

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を審査認定合格者とする。

(合格証書の授与等)

第14条 試験認定合格者及び審査認定合格者に対しては、合格証書(別記第4号様式によるもの)を授与する。

2 筆記試験合格者に対しては、筆記試験合格証書(別記第5号様式によるもの)を授与する。

3 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

(合格証明書の交付等)

第15条 試験認定合格者又は審査認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書(別記第6号様式によるもの)を交付する。

2 筆記試験合格者が、その合格の証明を申請したときは、筆記試験合格証明書(別記第7号様式によるもの)を交付する。

3 1以上の試験科目について合格点を得た者(筆記試験合格者を除く。次条及び第17条において「筆記試験科目合格者」という。)がその科目合格の証明を願い出たときは、筆記試験科目合格証明書(別記第8号様式によるもの)を交付する。

(手数料)

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
2 審査認定を願い出る者	3,800円
3 試験認定の試験科目の全部について免除を願い出る者	800円
4 合格証書を書き換え又は再交付を願い出る者	700円
5 合格証明書の交付を願い出る者	700円
6 筆記試験合格証明書の交付を願い出る者	700円
7 筆記試験科目合格証明書を願い出る者	700円

2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律(平成14年法律第151号)第3条第1項の規定により申請等を行った場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3 納付した手数料は、これを返還しない。

(不正の行為を行つた者等に対する処分)

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2 試験認定合格者、審査認定合格者、筆記試験合格者又は筆記試験科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになったときは、その合格を無効にするとともに、既に授与し、又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3 前2項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第3章 博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たつて参酌すべき基準

第18条 法第22条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

第4章 博物館に相当する施設の指定

(申請の手続)

第19条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第9号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ提出しなければならない。

- (1) 当該施設の有する資料の目録
- (2) 直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- (3) 当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
- (4) 当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第20条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- (1) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- (2) 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- (3) 学芸員に相当する職員がいること。
- (4) 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- (5) 1年を通じて100日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第21条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県立の施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第20条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

（指定の取消）

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第5章 雑 則

（学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）

第25条 第5条第1号及び第9条第3号イに規定する学士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令（大正7年勅令第388号）による学士の称号を有する者
- (2) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第1項第2号から第8号までのいずれかに該当する者

（短期大学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）

第26条 第5条第2号及び第9条第3号ロに規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧大学令、旧高等学校令（大正7年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者
- (2) 学校教育法施行規則第155条第2項各号のいずれかに該当する者

（修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）

第27条 第9条第1号に規定する修士の学位を有する者には、学校教育法施行規則第156条各号のいずれかに該当する者を含むものとする。

（博士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）

第28条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

- (1) 旧学位令（大正9年勅令第200号）による博士の称号を有する者
- (2) 外国において博士の学位に相当する学位を授与された者

（専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）

第29条 第9条第1号に規定する専門職学位を有する者には、外国において専門職学位に相当する学位を授与された者を含むものとする。

附 則（平成24年6月29日文部科学省令第24号）

（施行期日）

1 この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律（平成21年法律第77号）の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律（平成21年法律第79号）の施行の日（平成24年7月9日）から施行する。

（経過措置）

2 この省令の施行の日から起算して6月を経過する日までの間における改正後の博物館法施行規則第11条第1項第3号の規定の適用については、同号中「住民票の写し」とあるのは、「住民票の写し（日本の国籍を有しない者にあつては、住民票の写し又は出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律第4条の規定による廃止前の外国人登録法（昭和27年法律第125号）に規定する登録原票の写し若しくは登録原票記載事項証明書）」とする。

○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号
〔最終改正〕平成6年3月31日 教育委員会規則第2号

(趣 旨)

第1条 この規則は、博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

(登録原簿等の様式)

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

(博物館登録申請書の添付書類)

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿(第4号様式)を添付するものとする。

(登録要件の審査)

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

(登録事項等の変更)

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書(第5号様式)によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

(博物館の廃止)

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届(第6号様式)により行うものとする。

(公 示)

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附 則

(平成6年3月31日教育委員会規則第2号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第1号様式
(第2条関係)

第2号様式
(第2条関係)

博物館登録申請書

No. _____

備考	所在地	名称	※の名称及び住所	事項	
				登録	
				記号番号	年月日
				年月日	年月日
				年月日	年月日
				年月日	年月日

(A4版)

(※公立の場合は設置者の名称のみ記入)

文書番号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

申請者 氏名 印

博物館法第11条第1項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

(A4版)

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

- (1) 公立博物館にあつては設置条例の写し、私立博物館にあつては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
- (2) 館則の写し
- (3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
- (4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあつては予算の歳出の見積り、私立博物館にあつては収支の見積りに関する書類
- (5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
- (6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第5号様式
(第5条関係)

博物館登録事項変更届出書

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名

印

博物館法第13条第1項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変 更 年 月 日	年 月 日
変 更 の 理 由	
変 更 事 項 の 種 類	
変更事項の内容	旧
	新

(A4版)

第6号様式
(第6条関係)

博物館廃止届

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名

印

博物館法第15条第1項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃 止 年 月 日	年 月 日
廃 止 し た 理 由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

(A4版)

○**沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則**
平成 23 年 3 月 31 日 教育委員会規則第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 180 条の 7 の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(委任)

第 2 条 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務のうち、次に掲げる事務以外の事務を沖縄県部等設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 32 号）第 2 条第 8 号の規定により設置される文化観光スポーツ部の長（以下「部長」という。）に委任する。ただし、沖縄県立博物館・美術館管理規則（平成 19 年沖縄県教育委員会規則第 1 号）第 2 条第 3 項ただし書の規定による認定に関する事務にあつては、知事が定める沖縄県立博物館・美術館の組織に関する規則の規定により設置される館長に委任する。

- (1) 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 18 年沖縄県条例第 72 号）及び沖縄県立博物館・美術館管理規則（以下「条例等」という。）の改正及び廃止に関すること。
- (2) 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 21 条及び沖縄県立博物館・美術館管理規則第 12 条第 1 項の規定による博物館・美術館協議会の委員の任免に関すること。

(合議等)

第 3 条 前条の規定により事務の委任を受ける者は、当該事務の執行について、この規則以外の教育委員会規則その他の規程により教育委員会又はその補助職員に対し、合議、協議、報告等（以下「合議等」という。）を要する定めのある事務については、合議等を行わなければならない。

2 前条の規定にかかわらず、委任された事務に関し、重要かつ異例の事態が生じたときは、あらかじめ、その処理方針について、教育委員会の承認を受けなければならない。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

○**沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則**

平成 23 年 3 月 31 日 規則第 8 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成 23 年沖縄県教育委員会規則第 2 号。以下「教育委員会事務委任規則」という。）第 2 条の規定により知事の補助職員に委任された沖縄県立博物館・美術館（沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成 19 年沖縄県条例第 72 号）で設置された沖縄県立博物館・美術館をいう。以下「博物館・美術館」という。）の管理に関する事務を執行するための組織その他必要な事項について定めるものとする。

(博物館・美術館の管理に関する事務の所掌)

第 2 条 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、教育委員会事務委任規則第 2 条本文の規定により文化観光スポーツ部の長（以下「文化観光スポーツ部長」という。）に委任された事務は、沖縄県行政組織規則（昭和 49 年沖縄県規則第 18 号。以下「行政組織規則」という。）第 76 条の規定により設置する文化観光スポーツ部文化振興課が所掌する。

2 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、前項に定める事務以外の事務は、博物館・美術館が所掌する。

(内部組織)

第 3 条 博物館・美術館に総務班、博物館班及び美術館班を置く。

(所掌事務)

第 4 条 総務班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の保管に関すること。
- (3) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (4) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (5) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (6) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

2 博物館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。)
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。)

3 美術館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

(7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。

(8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。

(職の設置)

第5条 博物館・美術館に、館長、副館長、班長、主査、主事及び学芸員を置く。

2 博物館・美術館に、特に必要と認められるときは、主任学芸員、主任専門員、主任、専門員及びその他の職員を置くことができる。

(職の職務内容)

第6条 前条に掲げる職の職務内容は、上司の命を受けて次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 館長は、博物館・美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(2) 副館長は、博物館・美術館の事務を整理し、館長を補佐する。

(3) 班長は、班の事務を処理する。

(4) 主査は、博物館・美術館の特定事務を分掌する。

(5) 主事は、一般的な事務を処理する。

(6) 学芸員は、学芸業務に従事する。

(7) 主任学芸員は、学芸業務を処理する。

(8) 主任専門員は、博物館・美術館の専門的業務を処理する。

(9) 主任は、一般的な事務を分掌する。

(10) 専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。

(その他組織に関する事項)

第7条 第3条から前条までに定めるもののほか、博物館・美術館の組織に関し必要な事項は、博物館・美術館を行政組織規則第5条に規定する公の施設とみなして、同規則の規定を適用する。

(委任された事務に係る決裁等)

第8条 教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により、文化観光スポーツ部長に委任された事務は、沖縄県事務決裁規程（昭和48年沖縄県訓令第89号）の規定の例により文化観光スポーツ部長が決裁するものとする。

2 教育委員会事務委任規則第2条ただし書の規定により、館長に委任された事務の決裁は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則（昭和53年沖縄県規則第67号）の規定（第3条、第5条及び第13条を除く。）を準用する。この場合において、同規則の規定中「知事」とあるのは「沖縄県教育委員会」と、「所長等」とあるのは「館長」と読み替えるものとする。

3 前2項に定めるもののほか、文化観光スポーツ部長及び館長は、教育委員会事務委任規則第2条の規定により委任された事務の執行に関し重大な疑義が生じたときは、沖縄県教育委員会に協議する等をして適正に事務を処理しなければならない。

4 館長は、前2項の規定又は教育委員会事務委任規則第3条の規定が適用される事務については、文化観光スポーツ部長を経由して同条に規定する手続きを講ずるものとする。

(委任された事務以外の事務の委任及び決裁)

第9条 博物館・美術館の管理に関する事務を執行する組織及び職員の管理その他必要な事務の処理は、館長を沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則第2条第1項第1号に規定する所長等とみなして、同規則の規定を適用する。この場合において、館長は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則の規定の適用に関し疑義が生じたときは、知事に協議しなければならない。

(委任)

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関する事務の執行に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長に委任された事務については文化観光スポーツ部長が、館長に委任された事務については館長がそれぞれ定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日 条例第72号
〔最終改正〕 平成24年3月30日 条例第46号

(設 置)

第1条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

(位置及び施設)

第2条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち3丁目1番1号とする。

2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもつて構成する。

(1) 博物館施設

(2) 美術館施設

(3) その他施設

(事 業)

第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館・美術館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館・美術館の施設の利用に関すること。
- (4) 博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること。
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(博物館・美術館の管理)

第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(指定管理者の業務)

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
- (2) 第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
- (3) 第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
- (4) 第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
- (5) 博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

(指定管理者の指定の申請)

第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会規則で定める書類(以下「事業計画書等」という。)を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

(指定管理者の指定)

第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- (1) 事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
- (2) 事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
- (3) 事業計画書に沿つた管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

(指定管理者の指定等の告示)

第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

(休館日)

第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日
- 2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例(昭和49年沖縄県条例第42号)第2条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

(開館時間)

第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時(金曜日及び土曜日にあつては、午後8時)までとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時に変更することができる。

(観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

- 2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,000円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。
- 4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。
- 6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。
- 7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

(観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。

(3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

(利用期間)

第15条 施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

(1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

(2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。

(3) 許可に付した条件に違反したとき。

(4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

(利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

(事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

(博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 第2項から前項までに定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

一部改正〔平成24年条例46号〕

(教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。
(平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行)

(準備行為)

2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

(沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

3 沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。

第1条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。

第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。

第8条中「、第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

(沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。

別表第1を削り、別表第2を別表とする。

附 則 (平成24年3月30日条例第46号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1 (第11条関係)

区分		基準額 (1人につき)	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	400円	320円
	大学生及び高校生	250円	200円
	中学生及び小学生	150円 (県外の中学生及び小学生に限る。)	120円 (県外の中学生及び小学生に限る。)
美術館施設	一般	300円	240円
	大学生及び高校生	200円	160円
	中学生及び小学生	100円 (県外の中学生及び小学生に限る。)	80円 (県外の中学生及び小学生に限る。)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者 (小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
- 「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

別表第2 (第11条関係)

区分		基準額 (1人につき)		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,200円	750円	450円 (県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展、企画展及び特別展	4,200円	2,600円	1,600円 (県内の中学生及び小学生にあつては、1,150円)
美術館施設	常設展	900円	600円	300円 (県外の中学生及び小学生に限る)
	常設展及び企画展	3,900円	2,600円	1,300円 (県内の中学生及び小学生にあつては、1,000円)

備考

- 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者 (小学校就学の始期に達するまでの者を除く。)をいう。
- 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
- 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

別表第3 (第14条、第19条関係)

1 施設利用料金

(1) 博物館施設利用料金

区分	基準額 (1日につき)	
企画展示室	入場料を徴収しない場合	29,100円
	入場料を徴収する場合	87,300円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	38,100円
	入場料を徴収する場合	114,300円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,000円
	入場料を徴収する場合	27,000円
講座室	入場料を徴収しない場合	15,900円
	入場料を徴収する場合	47,700円

(2) 美術館施設利用料金

区分	基準額 (1日につき)	
県民ギャラリー1	8,100円	
県民ギャラリー2	7,500円	
県民ギャラリー3	7,500円	
県民ギャラリースタジオ	8,200円	
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,000円
	入場料を徴収する場合	21,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,500円
	入場料を徴収する場合	22,500円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	32,800円
	入場料を徴収する場合	98,400円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	40,700円
	入場料を徴収する場合	122,100円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,100円
	入場料を徴収する場合	27,300円

(3) その他施設利用料金

区分		基準額（1時間につき）
講 堂	入場料を徴収しない場合	3,400円
	入場料を徴収する場合	10,200円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房設備	1時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
 - 午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあつては、午後8時）までの間は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
 - 午後6時（金曜日及び土曜日にあつては、午後8時）後は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号
〔最終改正〕平成24年2月21日 教育委員会規則第1号

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第1号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第1号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

- 受贈又は受託を決定したものは、博物館・美術館資料受贈受諾書（第3号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第4号様式）を交付するものとする。
- 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。
- 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
- 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

- 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第4条 条例第6条の規定で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第5号様式）によるものとする。

- 条例第6条の規定で定める書類は、次に掲げる書類とする。
 - 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
 - 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）
 - 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
 - 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録）
 - 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
 - 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

(観覧券の交付)

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示物を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の免除)

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第6号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

- 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。
 - 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
 - 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
 - 70歳以上の者が常設展を観覧する場合

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
- (5) 知的障害者で都道府県知事又は地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市の市長から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
- (6) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

(入館の禁止等)

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁止、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) その他指定管理者が適当でないと認める者

(施設利用の許可等)

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第7号様式）を提出しなければならない。

(利用期間)

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

- (1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月
- (2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の免除)

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

(事業報告書の内容等)

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
- (2) 業務に係る収支状況
- (3) 博物館・美術館の利用状況
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(博物館・美術館協議会の組織等)

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

- 2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。
- 8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。
- 9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。
- 10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(観覧料の割引)

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

(附属設備の利用料金の基準額)

第14条 条例別表第3第2項の表の教育委員会で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

(補 則)

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な申請書等)

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)

3 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）
- (2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

附 則（平成24年2月21日教育委員会規則第1号）

この規則は、公布の日から施行する。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1台	300円
	花台	1台	100円
	司会台	1台	150円
音響器具	メインスピーカー	1式	1,000円
	コンデンサーマイク	1本	300円
	ワイヤレスマイク	1本	600円
	ダイナミックマイク	1本	200円
	ビデオテープレコーダー	1台	700円
	DVDプレーヤー	1台	1,250円
	CD、MDプレーヤー	1台	400円
	HD/DVDレコーダー	1台	1,250円
照明器具	ボーダーライト	1列	300円
	サスペンションライト	1列	500円
	アッパーホリゾンライト	1列	700円
	シーリングライト	1列	600円
	センターピンスポットライト	1台	400円
その他	書画カメラ	1台	800円
	ビデオプロジェクター	1台	1,400円
	電動スクリーン	1式	1,100円
	35ミリフィルム映写機	1式	5,000円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

	区分	単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1時間までごとに	630円
	特別展示室	1時間までごとに	830円
	実習室	1時間までごとに	190円
	講座室	1時間までごとに	340円
美術館施設	県民ギャラリー1	1時間までごとに	170円
	県民ギャラリー2	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリー3	1時間までごとに	160円
	県民ギャラリースタジオ	1時間までごとに	180円
	県民アトリエ	1時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1時間までごとに	160円
	企画展示室1	1時間までごとに	710円
	企画展示室2	1時間までごとに	880円
	講座室	1時間までごとに	200円
その他施設	講堂	1時間までごとに	590円

第1号様式

(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申込者 住 所 氏 名		印
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。		
記		
1	種 別	
2	作 者 名	
3	作 品 名	
4	製作年月日	
5	附 属 品	
6	資料所在地	
7	時 価 見 積 額	
8	寄 贈 の 理 由	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第2号様式

(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館長 殿		
申請者 住 所 氏 名		印
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。		
記		
1	種 別	
2	作 者 名	
3	作 品 名	
4	製作年月日	
5	附 属 品	
6	資料所在地	
7	寄 託 期 間	年 月 日 から 年 月 日まで

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第3号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受贈受諾書	年 月 日
殿	
沖縄県立博物館・美術館長 印	
<p>年 月 日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第2条第4項の規定により返却されません。</p>	記
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 資料所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第4号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料受託承認書	年 月 日
殿	
沖縄県立博物館・美術館長 印	
<p>年 月 日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。</p>	記
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 受託期間	年 月 日 から 年 月 日まで
7 備 考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第5号様式
(第4条関係)

沖縄県教育委員会 殿 申請者 所在地 団体の名称 代表者の氏名 指定管理者指定申請書 沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第6条の規定により申請します。	年 月 日 印
添付書類 1 事業計画書 2 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書 3 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書(市区町村長が発行するものに限る) 4 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類 5 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類(申請の日に属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録) 6 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類 7 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第6号様式
(第6条関係)

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿 申請者 住所 氏名 電話 観覧料免除申請書 下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第6条第1項の規定に基づき申請します。	年 月 日 印
記 1 観覧者 団体名 引率者名 2 観覧者数 人 3 観覧日時 年 月 日 (曜日) 時～ 時 4 申請理由 承 認 証 殿 年 月 日付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。	年 月 日 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第7号様式
(第8条関係)

博物館・美術館施設利用許可申請書 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿	年 月 日 申請者 氏名 印 電 話
下記により貴館施設を利用したいので、申請します。	
記	
1 利用者 団体名	印
代表者名	職業 ()
住 所	電 話
2 利用目的	
3 利用する施設	
4 利用する日時及び期間	
自： 年 月 日 午 時 分	}
至： 年 月 日 午 時 分	
5 予定参加人数	人
..... 許 可 書	
年 月 日付け申請の () 使用の件、申請どおり許可します。	
年 月 日	沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 印

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第8号様式
(第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿	年 月 日 申請者 住 所 団 体 名 代 表 者 氏 名 電 話 番 号 印
沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願います。	
記	
1 催物の名称	
2 利用する日時及び期間	
自： 年 月 日 午 時 分	}
至： 年 月 日 午 時 分	
3 利用期間の変更を願う理由	
4 備考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第9号様式
(第10条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書		年 月 日
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 殿	申請者 住 所 団 体 名 代 表 者 氏 名 電 話 番 号	印
次のとおり利用料金の免除を申請します。		
記		
1 催物の名称		
2 利用目的		
3 催物の内容		
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 午 時 分	（ ）日間
	至： 年 月 日 午 時 分	
5 減額・免除を申請する理由		
6 備考		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第10号様式
(第10条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書		年 月 日
殿	沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	印
次のとおり利用料金の免除を承認します。		
記		
1 催物の名称		
2 利用目的		
3 催物の内容		
4 利用する日時及び期間	自： 年 月 日 午 時 分	（ ）日間
	至： 年 月 日 午 時 分	
5 利用料金免除額		
6 備考		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

○沖縄県立博物館・美術館館長執務規程

平成23年4月1日 訓令第103号
〔最終改正〕 平成25年3月30日 訓令第63号

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の館長（以下「館長」という。）を地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関しては、この訓令によるものとする。

(任命及び任期)

第2条 館長は、博物館・美術館の管理運営に関し識見及び能力を有する者のうちから知事が任命する。

- 2 館長の任期は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第3条 館長の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第4条 館長の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 館長の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、文化観光スポーツ部長が別に定める。
- 3 館長の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第5条 館長は、その職務の遂行に当たつて、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 館長は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 館長は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。
- 4 館長は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 任)

第6条 知事は、館長が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、任期内であつても解任することができる。

- (1) 館長の職務を怠つたとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 館長として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。
- (5) 任命の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第7条 この訓令に定めるもののほか、館長を非常勤の特別職とした場合における館長の執務等に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○博物館・美術館学芸業務嘱託員設置規程

平成23年4月1日 訓令第106号
〔最終改正〕 平成25年3月30日 訓令第63号

(設 置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の学芸業務を円滑に行うため、博物館・美術館に博物館・美術館学芸業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身 分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職 務)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の調査、収集及び整理に関すること。
- (2) 資料の保存、修復等に関すること。
- (3) 展示に関すること。
- (4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項に規定する学芸員となる資格を有する者
 - (2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。
 - 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たつて、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内であつても解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠つたとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不相当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○博物館・美術館教育普及業務嘱託員設置規程

平成23年4月1日 訓令第107号

〔最終改正〕平成25年3月30日 訓令第63号

(設 置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の教育普及業務を円滑に行うため、博物館・美術館に博物館・美術館教育普及業務嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身 分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職 務)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

(1) 教育普及プログラムの調査及び策定に関すること。

(2) 教育関係機関への学習支援に関すること。

(3) ボランティア活動に関すること。

(4) その他博物館・美術館の事業に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

(1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項に規定する学芸員となる資格を有する者

(2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者

2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。

3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たつて、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠つたとき。

(2) 前条の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不相当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○美術品調査嘱託員設置規程

平成23年4月1日 訓令第104号
〔最終改正〕 平成25年3月30日 訓令第63号

(設置)

第1条 県が収蔵する美術品等の調査業務を円滑に推進するため、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に美術品調査嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の調査に関すること。
- (2) 県が収蔵を予定している美術品の調査に関すること。
- (3) その他美術品の調査に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項に規定する学芸員となる資格を有する者
 - (2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則第111号）に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

- 2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。
- 3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例（昭和47年沖縄県条例第43号）の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たって、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

- 2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
- 3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。
- 4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内でも解嘱することができる。

- (1) 第3条に規定する職務を怠ったとき。
- (2) 前条の規定に違反したとき。
- (3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。
- (4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。
- (5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○美術品保存修復嘱託員設置規程

平成23年4月1日 訓令第105号
〔最終改正〕 平成25年3月30日 訓令第63号

(設置)

第1条 県が収蔵する美術品の保存修復業務を円滑に推進するため、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）に美術品保存修復嘱託員（以下「嘱託員」という。）を設置する。

(身分)

第2条 嘱託員は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(職務)

第3条 嘱託員は、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）の指揮監督を受けて、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県が収蔵する美術品の保存及び修復に関すること。
- (2) 県が収蔵する美術品の保存状態の調査及び管理に関すること。

(委嘱及び委嘱期間)

第4条 嘱託員は、次に掲げる者のうちから知事が委嘱する。

- (1) 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項に規定する学芸員となる資格を有する者
 - (2) 前号に規定する者と同等以上の能力を有すると認められる者
- 2 嘱託員の委嘱期間は、1年以内とし、2回に限り更新することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、2回を超えて更新する必要がある場合には、文化観光スポーツ部観光政策課長は、総務部行政管理課長と協議するものとする。

(報酬等)

第5条 嘱託員の報酬及び費用弁償の額は、沖縄県特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則（昭和47年沖縄県規則

第111号)に定めるところによる。

(勤務条件)

第6条 嘱託員の勤務場所は、博物館・美術館とする。

2 嘱託員の1月の勤務日数は、16日以内とし、勤務する日は、館長が別に定める。

3 嘱託員の勤務時間は、沖縄県職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する条例(昭和47年沖縄県条例第43号)の規定の適用を受ける職員の勤務時間に準ずるものとする。

(服 務)

第7条 嘱託員は、その職務の遂行に当たつて、法令、条例、規則等に従い、かつ、上司の職務上の命令に従わなければならない。

2 嘱託員は、その職務の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。

3 嘱託員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

4 嘱託員は、勤務時間中は職務に専念しなければならない。

(解 嘱)

第8条 知事は、嘱託員が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、委嘱期間内であっても解嘱することができる。

(1) 第3条に規定する職務を怠つたとき。

(2) 前の規定に違反したとき。

(3) 嘱託員として不適当と認められる行為をしたとき。

(4) 心身の故障その他の理由により職務を行うに適しなくなつたとき。

(5) 委嘱の必要がなくなつたとき。

(補 則)

第9条 この訓令に定めるもののほか、嘱託員に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成25年4月1日から施行する。

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年3月14日 教育長決裁

(目 的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料(以下「資料」という。)の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

(1) 展示会等における原資料等の借用。

(2) 同資料の撮影。

(3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。

(4) 撮影等による複製品の製作。

(5) 原資料等の閲覧。

(6) 教育普及資料の借用。

(許可の基準)

第3条 博物館長(以下「館長」という。)は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

(1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。

(2) 好ましくない用途に供されると認められる場合。

(3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合。

(4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。

(5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。

(6) その他、許可することが適当でないとして認められる場合。

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書(以下「申請書」という。)に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

(1) 原資料等の借用(第1号様式)

(2) 写真撮影、原板・印画の借用(第2号様式)

(3) 複製品の製作(第3号様式)

(4) 原資料等の閲覧(第4号様式)

(5) 教育普及資料の借用(第5号様式)

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があつた場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

(1) 事業の趣旨及び内容。

(2) 事業の主体者。

(3) 事業計画。

(4) その他必要な事項。

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行つたときは、次の各号により当該申請者に対し、別表のとおり条件を付した資料利用許可書(以下「許可書」という。)を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

(1) 原資料等の借用(第1-1号様式)

(2) 写真撮影、原板・印画の借用(第2-1号様式)

(3)複製品の製作（第3－1号様式）

(4)原資料等の閲覧（第4－1号様式）

(5)教育普及資料の借用（第5－1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

資料利用の許可条件	
利用申請の内容 (各申請様式)	個別条件
共通条件	
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ④借用によつて生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
原資料等の借用 (第1号様式)	①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
写真撮影、原板 ・印画の借用 (第2号様式)	①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑥資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作 (第3号様式)	①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。 ③閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
原資料等の閲覧 (第4号様式)	①貸与期間は1週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあつては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
教育普及資料 の借用 (第5号様式)	

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書 (原資料等の借用)	平成 年 月 日 印	
沖縄県立博物館・美術館長殿 申請者 団体名： (担当者氏名) 代表者名： 住所：〒 TEL： FAX：		
下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いいたします。		
記		
事業名	年月日～月日	
借用希望期間	年月日～月日	
目的		
展示等場所		
資料名		員数
1.		
2.		
3.		
4.		
※留意事項		備考
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。 ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ⑨借用によつて生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。		

第1-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書 (原資料等の借用)	博 美 第 号 平成 年 月 日	
殿 沖縄県立博物館・美術館長		
平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の館外利用については、下記により許可します。		
記		
事業名	年月日～月日	
借用希望期間	年月日～月日	
目的		
展示等場所		
資料名		員数
1.		
2.		
3.		
4.		
※許可条件		備考
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。 ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ⑨借用によつて生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。		

第2号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日 平成 年 月 日 印
 沖縄県立博物館・美術館長殿
 申請者 (担当者氏名)
 代表者名:
 団体名:
 住所:〒
 TEL:
 FAX:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 分 ~ 時 分	部 数	制作予定日	備考
目的	事項 出版 映画 テレビ DVD C D その他	名称			
資料名			数量	仕様	備考
1.					
2.					
3.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日 平成 年 月 日
 殿
 沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
日時・期間	年 月 日 ~ 年 月 日	時 分 ~ 時 分	部 数	制作予定日	備考
目的	事項 出版 映画 テレビ DVD C D その他	名称			
資料名			数量	仕様	備考
1.					
2.					
3.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じて「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式 (第4条関係)

資料利用申請書
(複製品の製作)

平成 年 月 日 印

沖縄県立博物館・美術館長殿

代表者名: _____

申請者 団体名: _____ (担当者氏名)

住 所: 〒 _____

TEL: _____

FAX: _____

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いいたします。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
希望日時・期間	年 月 日 ~ 月 日	時 ~ 時	時 ~ 時	
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格 円
資料名		数量	仕様	備考
1.				
2.				
3.				

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書
(複製品の製作)

博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む
日時・期間	年 月 日 ~ 月 日	時 ~ 時	時 ~ 時	
目的				
製作仕様				
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数	点	販売価格 円
資料名		数量	仕様	備考
1.				
2.				
3.				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式 (第4条関係)

資料利用申請書 (原資料等の閲覧)		平成 年 月 日 印
沖縄県立博物館・美術館長殿		
代表者名:		
申請者 団体名:	(担当者氏名)	
住所:	〒	
TEL:		
FAX:		
下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いいたします。		
記		
目的		
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員
資料名	員数	備考
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
※留意事項		
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。		
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。		
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。		
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。		
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。		
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。		
⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。		
⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。		
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。		

第4-1号様式 (第6条関係)

資料利用許可書 (原資料等の閲覧)		博 美 第 号 平成 年 月 日
殿		
沖縄県立博物館・美術館長		
平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の閲覧については、下記により許可します。		
記		
目的		
閲覧日時	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員
担当学芸員	員数	備考
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		
※許可条件		
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。		
②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。		
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。		
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。		
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。		
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。		
⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。		
⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。		
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。		

